

ヲ要ス、又候補者數中國人又ハ英國人各三名ニ滿タサル  
トキハ之ヲ當選ト認メ不足數ニツキテハ局長ニ於テ第十  
九條ノ手續ニ依リ大會投票權者中ヨリ選任シテ之ヲ補充  
シ、候補者數中國人又ハ英國人各三名ヲ超過シタルトキ  
ハ投票ヲ以テ之ヲ決定ス

第十九條 董事ノ任期ハ一年トシ常年大會開會ト同時ニ就  
任ス、董事中若シ就任ヲ欲セス若ハ就任不能ナルカ又ハ  
任期中辭任シ疾病アリ若ハ死亡シタルトキハ局長ハ前期  
大會ニ登錄ノ選舉資格者ニシテ漢口居住者ヲ以テ之ヲ補  
充スヘシ

董事缺員三人ヲ超過スルカ又ハ局長ノ選任シタル董事未  
タ其他ノ董事過半數ノ同意ヲ得サルカ又ハ前期大會登錄  
ノ選舉資格者ニシテ漢口居住者三分ノ一以上ノ抗議アリ  
タルトキハ局長ハ本章程第二十八條ノ規定ニ依リ特別大  
會ヲ召集シ董事ヲ補缺選舉スルコトヲ得、右補缺選舉ハ  
後局長ヨリ之ヲ國民政府外交部ニ報告スヘシ

第二十條 董事會開會ニ際シテハ局長兼董事長主席トナリ  
局長事故ニ因リ出席不能ノ場合ハ代表ヲ以テ主席タラシ  
ムルコトヲ得

第二十一條 董事會開會ニ際シテハ主任ハ局長兼董事長ノ

命ヲ受ケテ召集狀ヲ發送シ、召集狀ニハ付議事項ヲ明記  
スルコトヲ要ス、又董事二名ノ提議アリタル場合ハ局長  
兼董事長ハ會議ヲ召集スルコトヲ得

第二十二條 董事會ノ開會ハ董事長ヲ加ヘ最少五名ノ出席  
ヲ以テ定足數トナシ議案ハ過半數ヲ以テ決シ可否同數ナ  
ルトキハ董事長ノ決スルトコロニ依ル

第二十三條 董事會ハ管理區域ニ關スル一切ノ事項ヲ討論  
議決シ議決案ハ局長之ヲ執行ス若シ局長カ中國主權若ハ  
中國慣習ニ妨ケアリ又ハ本章程各項ノ規定ニ違反シ執行  
不能ト認メタルトキハ執行ヲ停止スル權アリ但シ此場合  
遲滯ナク當該議決案ヲ國民政府外交部ニ提出シ最終ノ決  
定ヲ受タヘシ、同時ニ外交部ハ最終決定ヲ爲ス以前董事  
會ニ相當ノ意見陳述ノ機會ヲ與ヘ其意見ヲ考慮ニ加フル  
コトヲ要ス

第二十四條 董事會董事ハ互選ヲ以テ財政、警察、工務、  
衛生、公益、水道ニ關スル事項ヲ分任シ改良方法ノ調査  
及研究ノ責任分擔ニ使ス

各董事ハ分任職務ノ範圍内ニ於テ局長ニ申請シテ委員ヲ  
任命シ委員會又ハ分委員會ヲ組織シテ事務ノ進行ヲ協助  
セシムルコトヲ得

第二十五條 董事會董事ハ本章程ニ依リ職權ヲ行使シ商人  
的責任ヲ負擔セス

第四章 常年及特別大會

第二十六條 市政局局长ハ後出章程ノ定ムルトコロニ依リ  
毎年三月常年大會ヲ召集シ開會一週間以前ニ大會付議事  
項ヲ各選舉人ニ通知ス

納税人ハ常年大會ニ議案ヲ建議スル權ヲ有ス、但シ此場  
合會期三日以前ニ建議者ノ署名並ニ賛成者ノ副署アル書  
面ヲ市政局主任ニ提出スルコトヲ要ス但シ署名者及副署  
者ハ投票權者(選舉人名簿登錄者)ニ限ル

第二十七條 常年大會ハ一切ノ提出議案ニ付キ討論及議決  
ヲナス權アリ、但シ此場合選舉人三分ノ一ノ出席ヲ以テ  
定足數トス

第二十八條 特別大會ハ局長必妥ト認メタル場合隨時召集  
スルコトヲ得、但シ局長ハ董事二名ノ請求若ハ前期大會  
登錄ノ選舉人ニシテ漢口居住者三分ノ一以上ノ請求ニ因  
リ臨時召集スルコトアルヘシ、其開會期日及議事日程ハ  
開會十四日以前ニ通知シ開會ニ際シテハ局長又ハ之カ代  
表主席ト爲ル

第二十九條 特別大會ハ前期大會登錄ノ選舉人ニシテ漢口

漢口第三特別區市政局章程

居住者過半數以上ノ出席ヲ以テ定足數トス、若シ常年又  
ハ特別大會カ定足數ニ滿タサル爲メ開會不能ナルトキハ  
局長ハ一週間以内ニ更メテ第二次大會ヲ召集シ出席人數  
ノ多寡ニ拘ラス會議ヲ有效トス

第三十條 常年大會ハ(一)市政局前年度會計ヲ討論及可決  
シ(二)各種捐稅ヲ議決及變更シ(三)本區名義ニ依ル抵當  
起債行爲ヲ承認シ(四)區内市政及公共衛生並ニ本區行政  
上ノ其他ノ事項ノ整頓ニ關シ計畫及決定シ(五)新年度收  
支豫算ヲ協贊シ(六)董事會董事六人ヲ選出スル權ヲ有ス

第三十一條 大會議案ハ第三十二條ノ規定ニ依ル場合ヲ除  
キ過半數ヲ以テ決シ可否同數ナルトキハ主席ノ決スルト  
コロニ依ル

第三十二條 不動産ノ買入、收支豫算、起債、擔保ニ關ス  
ル議案ハ出席者三分ノ二ノ同意ヲ得ルニ非サレハ議決ス  
ルコトヲ得ス

第三十三條 常年大會又ハ特別大會ノ議決案ハ市政局之ヲ  
執行シ其中外條約ニ關係アルモノニ付キテハ湖北交涉署  
ニ之カ寫ヲ送付ス、此場合交涉署ニ於テ中國及友邦間ノ  
條約ニ違背シ中國法律慣習ニ妨ケアリ及中國主權ヲ侵害  
スルモノアリト認メタルトキハ交渉員ヲ派シテ特別市政



局長ニ執行ノ延期ヲ請求スルト同時ニ國民政府外交部ニ報告シ最終決定ヲ受ク

第五章 選 舉

第三十四條 中國人民及條約國人民並ニ會社、團體、公司、本區土地所有者又ハ永租借人又ハ居住者ニシテ毎年各種租稅(地稅及家屋稅)二十五兩以上ヲ納付シタル者ハ選舉權ヲ有ス

第三十五條 未成年者ハ監護人又ハ保佐人代表シテ選舉ヲ行フ

第三十六條 會社、團體、公司ハ全權委任ニ依リ代表者ヲシテ會ニ參加セシムルコトヲ得但シ委任狀ハ市政局ノ審查承認ヲ受クルコトヲ要ス

第三十七條 大會開會ニ際シ選舉人漢口ニ在ラサルカ又ハ病氣ニ因リ出席不能ナルトキハ委任狀ヲ以テ全權ヲ委任シ代表者ヲシテ選舉ヲ行ハシムルコトヲ得但シ此場合大會章程ニ依ルヲ要シ且ツ代表者氏名ハ少クトモ會期三日以前ニ本局ニ報告シ審查承認ヲ受クヘシ

第三十八條 大會ニ參加スル選舉人ノ投票權左ノ如シ  
本區ニ登錄シタル地主又ハ永租借人ニシテ投票前ニ於ケル地所家屋ノ評價ニ依リ毎月地稅家屋稅二十五兩以上ヲ

納付スル者ハ投票權一票ヲ有シ百五十兩以上ノ者ハ二票ヲ有シ百五十兩ヲ超ユルコト七十五兩毎ニ一票ヲ増加ス但シ多クモ十二票ヲ超ユルコトヲ得ス

地主又ハ永租借人ニ非スト雖モ選舉人名簿登錄以前ヨリ本區ニ居住スルコト一年以上ニシテ前項ノ地主又ハ永租借人納稅價額ニ等シキ家屋稅ヲ納付スル者ハ同等ノ投票權ヲ有ス

數人同居シ前項ノ規定ニ依リ家屋稅ヲ納付スル場合ハ内一人ヲ限リ選舉人名簿ニ登錄ヲ許可ス但シ此場合同居許可證ノ檢査ヲ受タルコトヲ要ス

第三十九條 何人タルヲ問ハス他人ヨリ委任セラレタル投票權ヲ加フルモ十二票以上ノ投票權ヲ行使スルコトヲ得ス(第三十五條乃至第三十七條參照)

第四十條 左ニ掲ケタル者ハ選舉人名簿ニ登錄スルコトヲ得ス

(一) 公的機關ニ服務スル者

(二) 市政警察署ニ服務スル者

(三) 法律上瘋狂騷擾ト認メラレ又ハ其本國法ニ依リ選舉權ナシト認メラレタル者

第四十一條 左ニ掲ケタル者ハ常年大會ニ於テ選舉投票權

ヲ喪失ス

(一) 刑事事件ヲ以テ法廷ニ告訴サレ而モ該事件カ實證サレ法廷ニ於テ公權ノ全部又ハ一部ヲ剝奪サレタル者

(二) 刑事犯ノ判決ヲ受ケ處罰執行中ナル者ハ處罰執行滿期後三年以内選舉權ヲ有セス

(三) 本市政局捐稅ヲ滯納シ未ダ完納セサル者

(四) 破産ノ宣告ヲ受ケ未ダ其債務ヲ完済セサル者

第四十二條 市政局ハ毎年十二月十五日以前三日間本埠中英新聞ヲ以テ本章程第三十八條ノ規定ニ依リ登錄ヲ希望シタル本區選舉權者ニ對シ十二月三十一日迄ニ市政局ヨリ志願書ヲ領取シ必要事項記入ノ上市政局主任ニ提出シ市政局ノ審查ヲ受クヘキコトヲ廣告スヘシ而シテ市政局審查ノ結果不合格ト認メタルトキハ理由ヲ明記シタル書面ヲ以テ本人ニ通知ス

本區地主及永租借人ハ選舉資格本章程ト完全ニ符合スル場合ハ市政局ハ其氏名ヲ選舉人名簿ニ記入シ別ニ志願書ノ提出ヲ要セス

大會ニ於テ選舉權ヲ有スヘキ者ハ毎年一月十五日以前名簿及其選舉權票數ヲ市政局ノ門前ニ掲示スルト同時ニ夫

々各選舉人ニ送付ス

第四十三條 選舉人名簿ニ對シ異議アル場合ハ二月一日以前ニ書面ヲ以テ市政局局長ニ申立ツヘシ、此ニ對シ局長ハ調査ヲナシ二月十五日以前ニ最終決定ヲ與フルト同時ニ市政局ヨリ當該選舉人ニ通知ス

第四十四條 選舉人名簿更正後ハ増加ヲ許サス大會開會以前ニ選舉權ヲ喪失シタル者ハ大會ニ參加スルコトヲ得ス

第六章 細 則

第四十五條 市政局ハ各種管轄事務ノ範圍内ニ於テ本章程ノ目的ヲ達スル爲メ各種細則ヲ規定シ本章程第四十六條ニ依リ公布實施スル權アリ、若シ違背シタル者アル場合ハ本區警務處ヨリ又ハ管轄領事ニ申請シテ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前英國工部局章程ハ第二十五、第四十八、第四十九、第五十二及第五十四ノ各條ヲ除キ繼續有效トス、但シ該章程ハ本章程ニ依リ改正セラレタルトキハ其效力ヲ失フ

第四十六條 市政局起草ノ各種細則ハ大會ニ提出シ其通過ヲ經タル上市政局長ヨリ國民政府外交部ニ提出シ其承認ヲ得テ施行スヘシ

第四十七條 市政局ハ建築細則ヲ施行スル見地ヨリ建築及



修繕ヲ申請スル者アル場合ハ其圖面ヲ提出セシムヘシ、  
此場合市政局ニ於テ本章程及建築細則ニ違背スルモノト  
認メタルトキハ既成又ハ未成ノ建築物ヲ移轉、改造又ハ  
取毀シテサシムルコトヲ得

第四十八條 本局公用文字ハ中英文ニ依ル

第七章 附 則

第四十九條 本章程ニシテ不備ノ點アル場合ハ常年大會出  
席者三分ノ二ノ提議ニ依リ修正ノ上國民政府ノ許可ヲ受  
クヘシ

第五十條 本章程ハ 日ヨリ施行ス

### 九江英租界還附協定並 附屬公文

千九百二十七年二月二十日締結

漢口英租界ニ關シテ締結セシ協定ハ即時同様ニ九江租界ニ  
適用ス、最近ノ九江騷擾中ニ在ツテ英國居留民カ若シ直接  
損失ヲ受ケソレカ國民政府官吏ノ行動或ハ重大ナル粗忽ニ  
由ルモノハ國民政府ハ賠償ノ責任ヲ負フヘシ

覺書全文 (一)

二月二十日ニ締結サレタル九江英租界ニ關スル協定ノ履行  
ニツキ我等ノ間ニ更ニ商議ヲ重キタル結果九江ニ於ケル租  
界區域ノ將來ノ地位ノ問題ノ解決方法並ニ英國政府カ同國  
市政規則ヲ取消シ無條件ニテ九江ノ租界區域ノ行政ヲ來ル  
三月十五日ヨリ國民政府ニ交付スルコトヲ貴下ニ通告スル  
ノ榮譽ヲ有ス

三月二日

英國駐華公使代理 オーウエン、オマレト

覺書全文 (二)

二月二十日ノ協定ニ基キ余ハ最近ノ九江ノ騷擾ニ際シ英國  
國民ノ被レル一切ノ損害ノ解決ノ爲メニ四萬元ノ小切手ヲ  
茲ニ送ルノ榮譽ヲ有ス、各個人ノ要求ヲ雙方共同ニ調査ス  
ル日子ノ延滞ト費用トヲ避クルカ爲メ英國官憲ハ關係英國  
國民ノ箇々ノ要求ヲ解決スル責任ヲ取ルモノト了解ス、但  
シ此要求ハ詳細ニ調査サレ且二月二十日ノ協定ニ示サレタ  
ル如ク直接損害ニ限ラルヘシ、又要求ノ陳述及關係書類ノ  
贖本ハ國民政府代表ノ査閱ニ供スヘク一切ノ要求支拂ヒノ  
後若シ剩餘金アラハ英國政府ハ國民政府ニ之ヲ返付スルヲ

要ス、此機會ニ於テ深甚ノ尊敬ヲ貴下ニ表ス

三月二日

外交部長 陳 友 仁

覺書全文 (三)

九江英租界ノ將來ノ地位ノ解決ニツキ本日交換シタル書翰  
ニ關シ余ハ英國官憲カ現ニ發給シ居レル九江河岸通ノ十年  
間ノ使用特許證ヲハ中國相當官憲カ追認シ右ノ特許ハ中國  
官憲ノ追認期間ハ有效ナルコトヲ貴下ニ通告スルノ榮譽ヲ  
有ス

外交部長 陳 友 仁

### 英支南京事件解決協 定文

民國十七年八月十三日發表

王正廷氏ヨリ「ラムアソン」氏ニ宛テタル覺書

昨年三月二十四日發生セル南京事件ニ關シ本部長ハ茲ニ貴  
公使ニ次ノ通告ヲナスノ光榮ヲ有ス、國民政府ハ英支兩國

英支南京事件解決協定文

民間ノ幸福ト友誼ヲ増進センカ爲メ近日討論ノ後相互ノ同  
意セル大綱ニ照ラシ該事件ヲ解決セント欲ス、茲ニ本部長  
ハ國民政府ノ名ヲ以テ本事件ニ關シ調査研究ヲ經タル處右  
ハ國民政府ノ未タ南京ニ遷都セサル以前共產黨ノ煽動ニヨ  
リ發生シタルモノト認ム、但シ國民政府ハ責任ヲ負ヒ茲ニ  
貴政府代表等ノ受クルトコロノ侮辱及ヒ傷害、領事館ノ財  
產上ノ損失及ヒ在留英國人ノ身體上ノ損害並ニ財政上ノ損  
失ニ對シテ誠意ヲ以テ深ク遺憾ノ意ヲ表ス

國民政府ハ在支英國人ノ生命財產ノ保護ニ關シテ本國民政  
府カ抱キシ政策ニヨリ既ニ軍民長官ニ其ノ切實ナル保護ヲ  
命令シ置ケリ、國民政府ハ現在ノ共產黨及ヒ英國ト支那ノ  
兩國民ノ友誼ヲ破壞スルトコロノ惡勢力ハ既ニ消滅セルモ  
ノト信ス、今後英國在留民ノ生命及ヒ其ノ正當ノ事業ニ對  
シ再ヒ同様ノ暴行ヲ見サルコトヲ信スルモノナリ、當時共  
產黨ノ煽動ヲ蒙リ南京事件ニ參加セシ該軍隊ハ既ニ解散シ  
且ツ國民政府ハ切實ナル辦法ヲ講シ該事件ニ關係セル兵士  
其ノ他ノ關係者ヲ懲罰スルコトヲ本部長ハ通告シ得ルモノ  
ナリ

國民政府ハ國際公法ノ實則ニ照ラシ英國領事館南京在留ノ  
英國人ノ受ケシ身體上ノ損害ニ對シテハ充分賠償ヲ承認



ス、茲ニ國民政府ハ英支協同調査會ヲ組織シ以テ損害額及  
賠償額ヲ決定セント欲シ右照會ヲナスモノナリ

「ランブソン」公使ヨリ王正廷氏ニ宛テタル覺書

本官ハ南京事件關係者ノ懲罰及ヒ今後同様ノ事件力發生セ  
サル様注意スヘキ旨南京政府ノ命令力發セラレタル事ヲ聞  
キ右命令力早速且ツ充分ニ實行サルルコトヲ信スルカ故ニ  
本官ハ英國政府代表トシテ貴官ノ「ノート」ヲ受取り之ヲ以  
テ千九百二十七年四月十一日重慶ニテ前外交部長ニ發セラ  
レタル文書ニ記載セラレタル要求ノ解決セラレタルモノト  
認ム(バートン署名)

王正廷氏ヨリ「ラムブソン」氏ニ宛テタル覺書

本日(九日)交換シタル南京事件解決文書ニ關シ本官ハ左ノ  
諸點ニツキ貴下ノ注意ヲ喚起セント欲ス、即チ南京事件當  
時港ニ碇泊中ナリシ英艦「エメラルド」號ニヨリ南京ニ於ケ  
ル「ソコニーヒル」ニ砲火ヲ集中セラレタリ、之ニ關シ國民  
政府ハ英國政府力遺憾ノ意ヲ表セラレンコトヲ望ムモノナ  
リ

「ラムブソン」公使ヨリ王正廷氏ニ宛テタル覺書

「エメラルド」號事件ニ關スル貴輪問悉セリ

右ノ砲撃ハ英國在留民ノ多數カ兇暴ナル兵士ノ攻撃ヨリ造

レントシテ避難セル外國家屋ノ附近ノミニ限ラレタル保護  
行爲ナリシナリ、右ニヨリ此ノ一團ノ避難民ノ生命カ其ノ  
直面セル危難ヨリ逃レ得タルノミナラス更ニ等シク生命ノ  
危險ニ遭遇セル其ノ他ノ英國在留民ノ避難ヲモ可能トナサ  
シメタルモノニシテ英國政府ハ右「エメラルド」號ノ執レル  
方法ハ英國在留民生命財產ノ保護ノ爲メ絕對的必要ナリト  
思考スルモノナリ、尤モ當日ニ於ケル南京ノ狀況カ斯ル方  
法ヲ執ルノ止ムヲ得サルニ至ラシメタルコトハ深ク之ヲ遺  
憾トス(バートン署名)

王正廷氏ヨリ「ランブソン」公使ニ宛テタル覺書

本日交換セル南京事件解決文書ニ關シ本官ハ之ニヨリ英支  
外交關係ニ新時代ヲ劃センコトヲ希望シ且ツ平等及ヒ主權  
ノ相互尊重ニ基キテ現行條約ノ改正及ヒ未決諸案件ヲ整理  
セン爲メ方法ヲ講センコトヲ提案スルモノナリ

「ランブソン」公使ヨリ王正廷氏ニ宛テタル覺書

英國政府ハ條約改正ニ關スル支那ノ要求ノ正當ナルヲ認ム  
隨ツテ千九百二十六年十二月十八日附ノ宣言及ヒ千九百二  
十七年一月二十八日附七種ノ提案ニ於テ英國政府ハ其ノ政  
策ヲ宣明シ且ツ之ヲ實施スヘク能フ限リノ手段ヲ採レリ、  
英國政府カ支那ニ關シテ採レル有效且ツ同情的態度ヲ更ニ

明カナラシメン爲メ英國政府ハ條約改正問題ニ關シ正式委  
員ヲ任命シテ國民政府ト適當ナル時期ニ於テ交渉ヲ開始セ  
ントシ居レリ、英國政府ハ南京事件ノ故ヲ以テ支那ニ對ス  
ル從前ヨリノ態度ヲ改メントハセス之ヲ以テ條約改正ニハ  
何ノ關係モナキ一箇ノ挿話ト考ヘントスルモノナリ(バー  
トン署名)

ルコトヲ閣下ニ對シ通告スルノ光榮ヲ有シ候

又本使ハ英帝國政府カ當該土地ニ對シテ發給シタル權利證  
書ハ每畝一元ノ手数料ヲ以テ中國永租地契ニ引キ換ヘラル  
ヘク且ツ上述千八百六十一年二月二十三日租借協定及ヒ同  
年四月三日追加協定ハ兩國政府相互ノ同意ニ依リ租界還附  
ヲナスヘキ日以後之ヲ廢止スヘキコトノ本使ノ了解ニ付キ  
閣下ノ確認ヲ求ムルノ光榮ヲ有シ候  
本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候 敬具  
千九百二十九年十月三十一日南京ニ於テ

「サー、マイルス、ラムブソン」ノ爲メニ

エー、フランシス、アベリンダ

外交部長 王 正 廷閣下

### 鎮江英租界還附協定

民國十八年十月三十一日南京ニ於テ署名

#### 交換公文

一

以書翰啓上致候陳者英帝國政府ハ千八百六十一年二月二十  
三日租借協定及ヒ千八百六十一年四月三日追加協定ニ基キ  
永租シタル地域即チ鎮江英租界ヲ來ル十一月十五日以後中  
華民國國民政府ニ還附シ同時ニ該地域ニ於ケル英國市政管  
理機關ヲ解散シ且ツ市政管理章程ヲ廢止スルコトニ同意ス

鎮江英租界還附協定

二

以書翰啓上致候陳者本日附貴輪ヲ以テ左ノ通り御申越相成  
敬承致候  
「英帝國政府ハ千八百六十一年二月二十三日租借協定及ヒ  
千八百六十一年四月三日追加協定ニ基キ永租シタル地域  
即チ鎮江英租界ヲ來ル十一月十五日以後中華民國國民政  
府ニ還附シ同時ニ該地域ニ於ケル英國市政管理機關ヲ解

三三七



散シ且ツ市政管理章程ヲ廢止スルコトニ同意スルコトヲ閣下ニ通告スルノ光榮ヲ有シ候  
又本使ハ英帝國政府カ當該土地ニ對シテ發給シタル權利證書ハ每畝一元ノ手数料ヲ以テ中國永租地契ニ引キ換ヘラルヘク且ツ上述千八百六十一年二月二十三日租借協定及ヒ同年四月三日追加協定ハ兩國政府相互ノ同意ニ依リ租界還附ヲナスヘキ日以後之ヲ廢止スヘキコトノ本使ノ了解ニ付キ閣下ノ確認ヲ求ムルノ光榮ヲ有シ候  
本官ハ貴國第二節ニ記述サレタル御了解力相違ナキコトヲ確認スルト同時ニ國民政府ヲ代表シテ貴國政府ノ友誼的行爲ニ對シ謝意ヲ表示致度候

本官ハ茲ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百二十九年十月三十一日南京ニ於テ

王 正 廷

支那國駐劄英帝國全權公使

「サー、マイルス、ラムブソン」閣下

三

以書翰啓上致候陳者英國政府ノ鎮江英租界還附ニ關スル本日附貴翰ニ關シ本官ハ國民政府全國土地ニ對スル新徵稅法

公布以前及ヒ該新徵稅法鎮江區域ニ實施以前ニ在リテハ從來鎮江ニ於テ依リ地稅ヲ納付スヘシ  
「國民政府全國土地ニ對スル新徵稅法公布以前及ヒ該新徵稅法鎮江區域ニ實施以前ニ在リテハ從來鎮江ニ於テ「British Crown Leases」ヲ所持スル者ハ現行徵稅率ニ依リ地稅ヲ納付スヘシ」  
英帝國政府ハ此種措置ニ對シテ同意ヲ表示スルモノニ有之候  
本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百二十九年十月三十一日南京ニ於テ

「サー、マイルス、ラムブソン」ノ爲メニ

エー、フランシス、アベリソグ

外交部長 王 正 廷閣下

五

以書翰啓上致候英帝國政府ノ鎮江英租界還附ニ關スル本日附拙信ニ關シ本使ハ英帝國商館カ今後引續キ貨物、商品及ヒ材料ヲ倉庫ヨリ河岸ヲ經過シテ河上ノ舢舨及ヒ船艙ニ運搬シ及ヒ反對ニ河上ノ舢舨及ヒ船艙ヨリ倉庫ニ運搬スルノ權利ヲ享受スヘキコトノ本使ノ了解ニ付キ閣下ノ確認ヲ求ムルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百二十九年十月三十一日南京ニ於テ

「サー、マイルス、ラムブソン」ノ爲メニ

エー、フランシス、アベリソグ

外交部長 王 正 廷閣下

六

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰ニ關シ本官ハ英帝國商館カ



# （第二）亞米利加合衆國、支那國間ノ條約

## 望厦條約

千八百四十四年七月三日望厦ニ於テ調印

亞米利加合衆國及大清帝國ハ兩國間ニ存在スル永久堅固ナル友好關係ヲ鞏固ナラシメムコトヲ欲シ今後兩國間ノ關係ニ於テ相互ニ遵守スヘキ條規ヲ平和條約通商條約ヲ以テ明確ニ定メムコトヲ決シ右最モ望マシキ目的ノ爲メ亞米利加合衆國大統領ハ支那國駐劄特命全權公使「ケイレブ、カツレング」ヲ、大清帝國皇帝陛下ハ欽差大臣太子少保兩廣總督部堂總理五口通商善後事宜辦理外國事務宗室耆英ソ各其全權委員ニ任命シタルヲ以テ兩國ノ全權委員ハ互ニ其委任狀ヲ示シ其妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條 亞米利加合衆國ト大清帝國トノ間並兩國國民ノ間ニ人及場所ニ付例外ヲ設クルコトナク完全、永久且一般ノ平和及眞摯誠實ノ修交關係ヲ維持スヘシ

第二條 商業ノ目的ヲ以テ清國ニ至ル合衆國人民ハ本條約

ニ依リテ規定セラレ且其一部分タル稅率表ニ掲クル輸入稅及輸出稅ヲ納付スヘシ該人民ハ如何ナル場合ニ於テモ他國民ノ納付シ若ハ納付スルコトアルヘキ所ト異ナルカ或ハ之ヨリ多額ナル稅ヲ課セラルルコトナカルヘシ各種ノ料金及手数料ハ一切之ヲ廢止スヘク收入官吏ニシテ取立ニ付犯行アル者ハ支那國法律ニ依リ處罰セラルヘシ支那國政府力前記稅率表ヲ修正セムト欲スルトキハ領事又ハ合衆國ノ爲ニ正式ニ委任セラレタル官吏ト協議ノ上其同意ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得清國ヨリ他國ニ將來許與セラルヘキ關係ノ利益及特權ハ之ニ付合衆國及合衆國人民モ亦完全ニ且均等衡平ニ許與セラルルノ權利ヲ有ス

第三條 合衆國人民ハ廣州、厦門、福州、寧波及上海ノ五港ニ往來シ其家族ト共ニ居住シ商業ヲ營ミ且外國港及五港中ノ各港相互ノ間並五港相互ノ間ニ其船舶及貨物ヲ以テ隨意ニ往來スルコトヲ得但シ支那國ノ他ノ港ニ不法ニ進入シ若ハ沿岸ニ於テ秘密處僞ノ商業ニ從事スルヲ得ス

日本條ニ違反スル合衆國人民ニ屬スル一切ノ船舶ハ其載貨ト共ニ支那國政府ニ於テ之ヲ沒收スヘキモノトス

第四條 合衆國人民カ前記五港ニ於テ爲ス業務ニ關スル事項ノ監督及取締ニ付テハ合衆國政府ハ領事又ハ官憲ヲ委任シ支那國政府ノ官憲ニ依リ正式ニ之ヲ認可セラルヘク公ノ交際又ハ通信ハ事宜ニ依リ均等且相互的ナル條件ヲ以テ自身或ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ方法ノ如何ヲ問ハス地方官憲ニ依リ不作法ナル待遇若ハ虐待ヲ受ケタルトキハ前記官憲ハ支那國政府ノ上級官憲ニ之ヲ申立ツルノ權利ヲ有スヘク上級官憲ハ之ニ付完全ナル審査及修正ナル裁判ヲ爲スコトニ付監視ヲ爲スヘシ又前記領事ハ支那國ノ官憲及臣民トノ一切ノ不必要ナル非議若ハ衝突ヲ避クルコトニ注意スヘシ

第六條 合衆國ノ商船カ貿易ノ爲前記五港ノ各港ニ入ルトキハ其船舶書類ハ領事若ハ其代理者之ヲ保管シ稅關委員ニ之ヲ報告スヘシ且登錄簿記載ノ噸數高ニ應シテ積載噸數百五十噸以上ノ船舶ニアリテハ每噸五錢ノ割合ヲ以テ及積載噸數百五十噸以下ノ船舶ニアリテハ每噸一錢ノ割合ヲ以テ噸稅ヲ納付スヘク之ヲ以テ廢止セル舊存積稅及其他ノ料金ニ代ハルヘキモノトス前記五港中ノ一港ニ碇泊シ且噸稅ヲ納付セル船舶ニシテ其載貨ヲ處分セムカ爲五港中ノ他ノ港ヘ赴タトキハ領事若ハ其代理者ハ之ヲ稅關長ニ報告スヘク稅關長ハ該船舶ノ出港ニ際シ噸稅ヲ納付シタル旨ヲ出港許可證ニ記入シ其他ノ稅關ニ之ヲ報告スヘシ此場合ニ於テ他ノ港ニ入ル船舶ハ其載貨ニ付稅金ヲ納付スルノミニテ再ヒ噸稅ノ納付ヲ要セサルモノトス

第七條 乘客、手荷物、信書、食料品若ハ無稅品運搬ノ爲五港相互ノ間ニ使用セラルル合衆國人民ニ屬スル舟艇ハ噸稅ヲ要セサルモノトス尤モ有稅品ヲ運搬スル貨物船ハ合衆國人民ノ船舶ニ限り正規ノ噸稅每噸一錢ヲ納付スヘシ但シ合衆國人民カ清國臣民ヨリ賃借セル船舶ハ此限ニ在ラス



第八條 合衆國人民ハ自己ノ船舶カ入港ノ際水先案内者ヲ雇入ルルコトヲ得該水先案内者ハ水路ニ該船舶ノアルコトヲ報知シ港内ニ之ヲ入ラシムヘシ總テ適法ニ税金ヲ納付スルニ於テハ合衆國人民ハ其出港ノ際ニモ亦水先案内者ヲ使用スルコトヲ得ヘシ合衆國人民ハ當事者ニ於テ協定セラレ若ハ領事官憲ニ申請ノ上決定セル相當ノ報酬ヲ以テ支那國地方官憲ノ干涉ヲ受クルコトナク隨意ニ僱婢、買辦、通事及書記ヲ雇僱シ勞働者、海員及各種ノ有用ナル業務ニ要スル人員ヲ使用スルヲ得ヘシ

第九條 合衆國ノ商船カ入港シタルトキハ稅關長ハ其適當ト認ムルニ於テハ該船舶ヲ監視スル爲メ稅關吏ヲ選任スヘシ稅關吏ハ隨意ニ船上ニ若ハ自己ノ舟艇上ニ居住スルコトヲ得ヘシ但シ稅關吏ノ給養ニ關スル規定ハ稅關長之ヲ定ムヘク船舶又ハ其所有者ヨリ何等ノ手當ヲモ受クルコトヲ得サルヘク本規定ニ違反シテ爲セル取立ニ對シテハ相當ノ處罰ヲ受クヘシ

第十條 合衆國ノ商船カ前記各港ニ碇泊ノ度毎貨物上乘人、船長若ハ荷受人ハ其船舶書類ヲ二十四時間以内ニ合衆國領事若ハ其代理人ニ提出スヘシ合衆國領事若ハ其代理人ハ船舶ノ名稱、噸數、船員ノ名稱及積載貨物ニ付正

當ノ報告ヲ稅關長ニ爲スヘシ右終了ノ上稅關長ハ載貨ノ陸揚ニ對シテ許可ヲ與フヘシ船長、貨物上乘人若ハ荷受人カ許可ヲ受クルコトナク載貨ノ陸揚ヲ爲セルトキハ五百弗ノ罰金ヲ課セラルヘク該貨物ハ支那國政府ニ於テ之ヲ沒收スヘキモノトス港内ニ於ケル船舶ノ船長カ載貨ノ一部分ノ陸揚ヲ爲サムトスルトキハ其部分ニ對スル税金ヲ納付シタル後之ヲ爲スコトヲ得ヘシ且船長カ欲スルトキハ船舶ノ到着後遅クトモ四十八時間以内ニ積卸ヲ爲スコトナク出港スルヲ得ヘシ此場合ニ他ノ港ニ到着シ其載貨ヲ積卸シ法律ニ從ヒ船舶及載貨ニ對スル税金ヲ納付スル迄噸稅其他ノ税金若ハ手数料ヲ納付セサルモノトス但シ噸稅ハ前記四十八時間ヲ經過シタルトキハ之ヲ課スヘキモノトス

第十一條 稅關長ハ税金徵收ノ爲メ領事ヲ經テ爲サレタル申込ニ依リ相當ノ官憲ヲ選任スヘシ該官憲ハ船長、貨物上乘人若ハ荷受人ノ列席ノ上合衆國ノ商船上ニ於テ輸出或ハ輸入ノ爲ニ積込或ハ陸揚ヲ爲ス貨物ニ付公明正大ナル検査ヲ行フヘシ  
從價稅ヲ要スル貨物ノ價格若ハ風袋高ニ關ジテ紛争ヲ生シ且當事者間ニ満足ナル妥協ヲ得ルニ至ラサル場合ハ邊

タトモ二十四時間以内ニ領事ニ之ヲ附託スヘク該領事ハ稅關長ト協議ノ上之ヲ處理スヘシ

第十二條 格一ツ保チ且貨物ノ尺度及重量ニ關スル紛争ヲ避クル爲メ稅關長ハ廣州稅關ノ標準器ニ據リテ正式ニ作成シ、檢印シ且封印セル標準度量衡器ヲ五港ニ駐在スル各領事ニ交付スヘシ

第十三條 合衆國人民ノ船舶ニ對スル噸稅ハ其入港ノ許可ヲ得タル後之ヲ納付スヘシ輸入稅ハ貨物ノ陸揚ノ際ニ及輸出稅ハ積込ノ際ニ之ヲ納付スヘシ前記諸稅ノ納付アリタル後稅關長ハ出港許可證ヲ與ヘ且領事ハ船舶書類ヲ返還シタル後該船舶ハ出港スルコトヲ得ヘシ前記諸稅ハ支那國政府カ自己ノ爲メ其受納ヲ委任セル銀號ニ納入スヘシ合衆國商人ノ納付スル税金ハ現行規則ニ依リテ定マレル爲替相場ヲ以テ銀粒若ハ外國貨幣ニテ之ヲ受納スヘシ支那國ニ於テ轉賣シ若ハ輸送セラルヘキ輸入品ハ本條約ノ日附ニ於テ納付スヘキモノ以外ノ税金ヲ課セラレサルヘシ

第十四條 港内ニ在ル合衆國ノ商船ノ載貨ハ特殊ノ場合ノ外他ノ船舶ニ之ヲ積換ヘサルモノトス積換ヲナス場合ハ領事ハ稅關長ニ之ヲ證明スヘシ稅關長ハ事實審査ノ爲メ官

憲ヲ選任シ積換ヲ許可スヘシ申出、審査及許可ナクシテ積換ヘタル貨物ハ支那國政府ニ於テ之ヲ沒收スヘキモノトス

第十五條 廣州ニ於テ支那國政府ノ指定セル行商ニ對スル舊外國貿易制限規定カ廢止セラレタルニ因リ輸出入品ノ購買若ハ販賣ニ從事スル合衆國人民ハ何等ノ差別ヲ設クルコトナク支那國國民ト取引スルコトヲ許容セラルヘシ該人民ハ新シキ制限ヲ課セラルコトナク又ハ專賣其他ノ有害ナル束縛ニ依リテ其業務ヲ妨礙セラルルコトナシ

第十六條 支那國政府ハ支那國國民ヨリ合衆國人民ニ支拂フヘキ負債若ハ臣民ノ犯シタル詐欺ニ付實ニ任セサルヘシ尤モ合衆國人民ハ法律ニヨリ救正ヲ求ムルコトヲ得ヘシ領事ヲ經テ支那國地方官憲ニ對シテ爲セル申立ニ基キ該官憲ハ右事實ヲ調査シ其支拂ヲ強制スル爲メ相當ノ措置ヲ執ルヘシ債務者カ死亡シ、身代限ヲ爲シ若ハ逃亡シタルトキハ債權者ハ洋行代賠ノ舊制度ニ依リ賠償ヲ受タルコトヲ得ス合衆國人民ニシテ支那國國民ニ對シ債務ヲ負ヘルトキハ支那國國民ハ領事ヲ經テ同様ノ方法ヲ以テ救正ヲ求ムルコトヲ得ヘシ但シ合衆國政府ハ債務ニ付何等



ノ責任ヲ負フコトナシ

第十七條 貿易開港場ニ居住シ若ハ滞在スル合衆國人民ハ義務ノ爲ニ家屋並場所ヲ獲得シ或ハ住民ヨリ地所ヲ賃借シ病院、禮拜堂及墓所ヲ建設スルコトヲ得兩國政府ノ地方官憲ハ該地區内ノ民情ヲ考慮シテ協議ノ上前記物件ノ地所ヲ選定スヘシ當事者ハ同意ヲ以テ賃賃借料ヲ定メ所有者ハ不當ナル價格ヲ要求スルコトナク又商人ハ特殊ナル場所ヲ無法ニ因執スルコトナカルヘク各街平穩當ナルコトヲ努ムヘシ墓所カ支那國臣民ニ依リテ買置セラレタルトキハ法律ニ依リ嚴ニ處罰セララルヘシ  
合衆國ノ船舶ノ碇泊地ニ於テ合衆國人民、商人、海員若ハ其他ノ滞在者ハ其近隣ノ地ニ往來スルコトヲ得但シ遍ク各村落ヲ通シテ内地ヲ隨意ニ遊歴シ或ハ不法ニ且脱稅ヲ企テ貨物ヲ賣捌ク目的ヲ以テ市場ニ赴クコトナカルヘシ

公安ヲ保持スル爲各五港ニ於テ地方官憲ハ領事ト協議ノ上合衆國人民力踰越スルニ於テハ違法トナルヘキ境界ヲ劃定スヘシ

第十八條 合衆國ノ官憲若ハ人民ハ支那語ノ教授及書記事務輔佐ノ爲何人タルヲ問ハス支那國ノ學者及住民ヲ適法

備ノ港ノ稅關吏ニ對シ保護スヘシ

右終了ノ上貨物ヲ搭載セル船舶カ港ニ到着シ検査ノ上前記検査ニ符合スルトキハ該貨物ハ何等ノ追加稅ヲ納付スルコトナク陸揚ヲ許可セラルヘシ検査ノ上稅關長カ納稅ニ付詐僞アルコトヲ發見セシ場合ハ支那國政府ハ右貨物ヲ沒收スヘキモノトス

第二十一條 合衆國人民ニ對スル犯罪行為ニ付有罪トナレル支那國臣民ハ支那國法律ニ依リ支那國官憲之ヲ逮捕處罰スヘシ支那國ニ於テ罪ヲ犯シタル合衆國人民ハ領事或ハ合衆國ノ法律ニ依リ委任セラレタル官憲ニヨリテ審問處罰セララルヘシ紛議及異議ヲ豫防スル爲裁判ハ雙方ニ於テ公正ニ之ヲ爲スヘシ

第二十二條 合衆國ト支那國トノ間ノ平和親睦ノ關係カ本條約ニ依リ確立シ茲合衆國ノ船舶カ五貿易開港場相互ノ間ニ於テ自由ニ取引スルヲ許容セラレタルニ因リ更ニ支那國カ今後外國ト戰爭ヲ爲ス場合及之カ爲該國ノ船舶カ支那國諸港ニ入ルヲ除外セラレタル場合ニ於テモ合衆國ノ船舶ハ自由且安全ニ商業ヲ營ミ且合衆國國旗ノ中立性ニ對シ尊重ヲ受ケテ交戰國港相互ノ間ニ貨物ヲ引續キ運搬スルヲ得ルヲ約ス但シ該國旗ハ敵國ノ爲將校若ハ兵卒

ニ履備スルコトヲ得ヘク履備セラレタル者ハ之カ爲政府若ハ私人ヨリ迫害ヲ受ケサルヘシ合衆國人民ハ支那國ニ於テ各種ノ書籍ヲ適法ニ買入ルルコトヲ得ヘシ

第十九條 支那國ニ於テ平穩ニ業務ニ從事シ支那國臣民ト友好親善ノ關係ニアル合衆國人民ハ地方官憲ノ特別ノ保護ヲ自己及其所有物ニ對シテ享受スヘク地方官憲ハ合衆國人民カ支那國臣民ヨリ受クル凌辱若ハ危害ヲ防止スヘシ

合衆國人民ノ住居又ハ財產カ暴徒、放火者若ハ其他ノ不法暴行者ニ依リ脅迫追害セラレタルトキハ地方官憲ハ領事ノ請求ニヨリ直ニ履備者ヲ退散セシムル爲軍隊ヲ派遣スヘク有罪者ヲ逮捕シ法律ニ依リ嚴ニ處罰スヘシ

第二十條 支那國ノ自由港ニ貨物ヲ輸入シ且税金ヲ納付スル合衆國人民カ他ノ自由港ヘ貨物ノ一部若ハ全部ヲ再輸出セムト欲スルトキハ自國領事ヲ經テ稅關長ニ申出ツルノ權利ヲ有ス稅關長ハ脱稅ノ詐僞ヲ豫防スル爲稅關帳簿記載ノ貨物ニ對スル税金ノ納付カ申立ニ該當スルナク及貨物ニ付其原記號カ變化セサルナク調査スル爲官憲ヲシテ検査ヲ爲サシムヘク出港許可證ニ貨物及貨物ニ對シテ納付シタル税金額ヲ記入シ商人ニ之ヲ交付スヘシ且右ニ付

ノ輸送ニ從事スル船舶ヲ保護スルコトナク又敵國船ヲ其載貨ト共ニ支那國諸港ニ入ラシムカ爲僞用セシムヘカラス船舶ニシテ之ヲ犯ストキハ支那國政府ニ於テ沒收セラルヘシ

第二十三條 五貿易開港場ノ各合衆國領事ハ一年內ニ該港ニ出入シタル合衆國ノ船舶數並其輸出入品ノ數量及價格ニ關スル詳細ナル報告ヲ毎年各總督ニ爲スヘシ該總督ハ之ヲ大藏省ニ轉送シ其調査ニ附スヘシ

第二十四條 合衆國人民カ支那國地方官憲ト通信ヲ爲ス特別ノ場合ハ其用語ノ適正且敬虔ナルカ及事項ノ正義公道ニ基ケルカヲ明ニスル爲自國領事若ハ其他ノ官憲ニ之ヲ提示スヘク領事若ハ其他ノ官憲ハ相當ノ官憲ニ其審理及手續ノ爲ニ之ヲ移譯スヘシ支那國臣民カ合衆國領事ニ通告ヲ爲ス特別ノ場合ニ於テモ其用語ノ適正敬虔ナルカ及事項ノ正義公道ニ基ケルカヲ明ニスル爲自國地方官憲ニ之ヲ提示スヘク該官憲ハ領事若ハ其他ノ官憲ニ其審理及手續ノ爲ニ之ヲ移譯スヘシ合衆國人民ト支那國臣民トノ間ニ紛議ヲ生シ友誼的解決ヲ得サルトキハ兩國官憲ノ合議ニ依リ正義衡平ニ適合スル審理判決ヲ爲スヘシ

第二十五條 支那國ニ於ケル合衆國人民間ニ生スル身體並



財產ニ關スル問題ハ自國官憲ニ依リ裁判處理セラルヘシ  
支那國ニ於ケル合衆國人民ト他國民トノ間ニ生スル紛議  
ハ支那國ノ干渉ヲ受クルコトナク合衆國及該國間ノ現行  
條約ニ依リ處理セラルヘシ

第二十六條 支那國ノ五貿易開港場ノ水域ニ於ケル合衆國  
ノ商船ハ自國官憲ノ裁判管轄權ニ服スヘク該官憲ハ支那  
ノ支配ヲ受クルコトナク船長及所有者ト共ニ之ヲ處理ス  
ヘシ合衆國ノ人民及商業ニ對シ外國ノ爲シタル傷害ニ付  
テハ支那國政府ハ賠償ノ責ニ任セサルヘシ

合衆國ノ商船カ支那國政府ノ裁判管轄權ヲ行フ水域ニ於  
テ強盜又ハ海賊ノ掠奪ニ遇フトキハ支那文武官憲ハ其報  
告ニ依リ強盜海賊ヲ法律ニ依リ逮捕處罰シ其贓品ヲ最寄  
ノ領事若ハ官憲ニ引渡ス爲ニ取戻シ正當ノ所有者ニ還付  
スルコトヲ務ムヘシ領土ノ廣袤住民ノ夥多ノ爲強盜ヲ逮  
捕シ又ハ贓品ヲ取戻ス能ハサルトキハ支那國官憲ニ對シ  
法律上ノ手續ヲ執ルヘシ但シ支那國政府ハ損失貨物ニ對  
シ賠償ヲ爲ササルヘシ

第二十七條 合衆國ノ船舶カ支那國沿岸ニ於テ離碇シ又ハ  
擱坐シ掠奪其他ノ損害ヲ蒙リタルトキハ支那國官憲ハ其  
報告ニ依リ直ニ救助シ安全ナラシムルノ措置ヲ執ルヘシ

スコトツ努ムヘシ

第三十條 合衆國及支那國ノ上級官憲ハ對等ノ條件及相互  
通信ノ形式ヲ以テ通信ヲ爲スヘシ領事及地方文武官憲ハ  
均シク相互通信ノ體裁及形式ヲ用フヘシ一國ノ下級官憲  
カ他國ノ上級官憲ニ宛ツル場合ハ陳情ノ形式ヲ以テスヘ  
シ私人カ上級官憲ニ宛ツル場合ハ請願ノ形式ヲ用フヘシ  
何レノ場合ニ於テモ其條件若ハ形式ニ付當事者ニ對シ非  
禮若ハ不作法タルコトナカルヘシ口實及形式ヲ問ハス合  
衆國ハ支那國ヨリ又支那國ハ合衆國ヨリ贈與ヲ請求セラ  
レサルコトヲ約ス

第三十一條 合衆國ヨリ支那國皇室ヘノ文書ハ外務大臣又  
ハ兩廣、閩浙若ハ兩廣總督ノ仲介ヲ經テ傳達セラルヘシ

第三十二條 自國ノ商業ヲ保護スル爲巡邏スル合衆國軍艦  
カ支那國ノ港ニ到着シタルトキハ該軍艦ノ指揮官及支那  
國上級地方官憲ハ各其國家ノ友好關係ニ基キ對等ノ條件  
ニ依リ禮讓ヲ以テ交際ヲ爲スヘシ且該軍艦ハ必要ノ場合  
ニ於テハ食料品ノ買入、給水及修繕ノ爲支那國政府ヨリ  
便宜ヲ受クヘシ

第三十三條 貿易開港ニ非サル支那國諸港ニ於テ密商ヲ企  
テ又ハ阿片若ハ其他ノ禁制品ヲ取引スル合衆國人民ハ支

且乘組人員ハ懲罰ナル待遇ヲ受ケ、修繕ノ爲五港ノ内最  
モ便宜ノ港ニ赴クヲ得且食料品及水ノ供給ヲ受クル爲便  
宜ヲ受クヘシ自由港ヨリ他ノ港ヘ避難スルノ止ムヲ得サ  
ル時ニ於テモ亦乘組人員ハ懲罰ナル待遇ヲ受ケ安全ナル  
措置ヲ受クヘシ

第二十八條 合衆國人民、其船舶及財產ハ抑留セラレ又ハ  
如何ナル口實ニ依リテモ公用ノ爲差押ヘラレ又ハ強制的  
ニ留置セラルルコトナク且窮迫又ハ障礙ヲ受クルコトナ  
ク平穩ニ商業ニ從事スルヲ許サルヘシ

第二十九條 支那國地方官憲ハ支那國ニ於ケル合衆國ノ船  
舶ヨリ暴動者又ハ脫船者ヲ逮捕シ且處罰ノ爲領事若ハ其  
他ノ官憲ニ之ヲ引渡スヘシ

支那國臣民カ罪ヲ犯シ合衆國人民ノ住居若ハ船舶中ニ潛  
伏スルトキハ之ヲ庇護シ又ハ隱匿スルヲ得ス支那國地方  
官憲ヨリ合衆國官憲ヘ請求次第裁判ノ爲之ヲ引渡スヘシ  
合衆國ノ商人、海員及其他ノ人民ハ自國官憲ノ監督ノ下  
ニ置カルヘシ

兩國ノ各國民カ暴行及騷擾ノ行爲ヲ爲シ、武器ヲ使用シ  
テ他ニ危害ヲ加ヘ若ハ人命ニ係ル暴動ヲ爲ストキハ兩國  
官憲ハ秩序ヲ強行シ公安ヲ維持スル爲衝平ナル裁判ヲ爲

那國政府ニ於テ處分セラルヘク合衆國政府ノ認許又ハ保  
護ヲ受クルノ權利ヲ有スルコトナシ合衆國ハ自國國旗カ  
他國臣民ニ依リ支那國法律ノ違反ノ庇護ノ爲濫用セラル  
ルコトヲ禁遏スル爲措置ヲ執ルヘシ

第三十四條 本條約ハ確定的ニ締結セラレタルトキハ兩國  
ニ對シ拘束力ヲ有スヘシ各條項ハ重大ナル原因アルニ非  
サレハ變更セサルモノトス但シ支那國ノ各貿易開港場ノ  
事變カ異ルニ因リ通商及航海ニ關スル部分ニ付僅少ナル  
改正ヲ要スル場合ハ兩國政府ハ條約調印ノ日ヨリ十二年  
ノ期間滿了ノ際商議ヲ爲ス爲任命セル者ヲシテ友誼的ニ  
協定セシムヘシ批准ノ後本條約ハ合衆國及支那國並其人  
民及臣民ニ依リ遵奉セラルヘシ且本條約ノ條項ニ付論議  
スル爲合衆國ノ各邦ハ公使ヲ支那國ニ任命シ若ハ派遣ス  
ルコトヲ得ス

本條約ハ合衆國大統領(元老院ノ協贊ヲ經テ)及大清帝國  
皇帝陛下ニ於テ批准並裁可セラルヘク批准書ハ本條約調  
印ノ日ヨリ八月以内ニ成ルヘク速ニ交換スヘシ

右證據トシテ亞米利加合衆國及大清帝國ノ各全權委員ハ本  
條約ニ署名調印ス

西曆千八百四十四年七月三日即道光二十四年五月十八日



履ニ於テ之ヲ作成ス

シー、カウシング (印)  
著 英 (印)

(稅率表ハ之ヲ略ス)

# 天津條約

千八百五十八年六月十八日天津ニ於テ調印  
千八百五十九年八月十六日批准書交換

亞米利加合衆國並大清帝國ハ鞏固、永久且眞摯ノ友誼關係ヲ維持セムコトヲ欲シ平和、友誼及通商ノ條約ノ形式ニ依リ將來兩國カ其交通ヲ爲スニ當リ相互ニ遵守スヘキ規定ヲ明確ニ更新セムコトヲ決シ右望マシキ目的ノ爲合衆國大統領並大清帝國皇帝ハ左ノ如ク各其全權委員ヲ任命セリ即  
亞米利加合衆國大統領 支那駐劄特命全權公使「ウイリアム、ビー、リード」  
支那國皇帝陛下 東閣大學士總理兼刑部事務桂良及吏部尙書鑲藍旗漢軍都統花沙納  
右各委員ハ各其政府ヨリ附與セラレタル各自ノ全權ニ從ヒ

左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條 亞米利加合衆國及大清帝國間並其各人民間ニハ從來ノ如ク平和且友誼關係ヲ維持スヘク些細ナル原因ノ爲互ニ侮辱シ又ハ壓迫シ以テ相互間ニ疎隔ヲ生セシムルカ如キコトナカルヘシ何レカノ外國カ不正ニ又ハ壓迫的ニ行動スルカ如キ場合ニ於テハ該事件ノ通知アリタルトキハ合衆國ハ之ヲ調停シ圓滿ナル協定ヲ齎スヘキコトニ努メ其友情ヲ披瀝スヘシ

第二條 友誼關係ヲ永續セシムル爲大統領(合衆國上院ノ勸告及協贊ヲ得テ)及支那國皇帝間ノ批准書交換ニ依リ本條約以下ノ方法ニ依リ之ヲ保存スヘキモノトス即合衆國大統領ノ批准シタル原條約ハ支那國皇帝陛下ノ首都北京ニ於テ内閣之ヲ保存シ支那國皇帝陛下ノ批准セル原條約ハ合衆國ノ首都華盛頓ニ於テ國務卿之ヲ保存スヘシ

第三條 兩國民ヲシテ本條約ノ規定ヲ知ラシメ且遵守セシムル爲批准書交換後直ニ亞米利加合衆國ハ當ニ其諸法律ヲ確認公表スル官報紙上ニ於テ該條約規定ヲ公布スヘキコトヲ約ス又支那國皇帝陛下ハ批准書交換後直ニ北京ニ於テ及各省督撫ヲシテ公布セシムルコトヲ命スヘシ

第四條 更ニ友誼關係ヲ永續セシムル爲支那國ニ於ケル亞

米利加合衆國ノ公使又ハ委員又ハ最高外交代表者ハ常ニ首都ニ於ケル内閣ノ官吏又ハ兩廣及閩浙兩江ノ督撫ト完全ナル平等關係及信義ヲ以テ通信スルノ權利ヲ有スヘシ首都ニ於ケル内閣トノ通信ハ前記督撫ヲ通シ又ハ一般郵便ニ依リ之ヲ發送スヘク右一切ノ通信ハ之ニ封緘ヲ施スヘシ該封緘セル通信ハ最モ郵重ニ取扱ハルヘシ内閣及督撫(時ニ依リ後者ノ場合モアルヘシ)ハ如何ナル場合ニ於テモ前記通信ヲ迅速ニ且敬意ヲ以テ審議シ且受領ノ通知ヲ爲スヘシ

第五條 支那國ニ於ケル亞米利加合衆國公使ハ何時ニテモ事務ノ都合ニ依リ支那國皇帝陛下ノ首都ニ赴キ且同地ニ滞在シ共同利益ノ事件ニ付内閣ノ閣員又ハ他ノ右目的ノ爲代理者タルヘキ同等階級ノ高官ト協議スルノ權利ヲ有ス該公使ノ首都訪問ハ一年一回ヲ超ユヘカラス且不必要ニ遲滯スルコトナク其事務ヲ完了スルヲ要ス公使ハ陸路ニ依リ或ハ白河ノ河口ヨリ旅行スルコトヲ許可セラルヘシ但シ同河口ニ軍艦ヲ入港セシムヘカラス該河口ニ於テ右旅行ノ爲船舶ヲ準備セシムル爲同地ニ於ケル官憲ニ通知スヘシ公使ハ本規定ヲ利用シ些細ナル事務ノ爲首都訪問ヲ要求スルコトナカルヘシ首都ニ赴カムトスルトキハ

其旨書面ヲ以テ首都ニ於ケル禮部ニ通知スヘク該禮部ハ右通知ニ依リ公使ノ旅行ヲ便ニスル爲必要ナル指揮ヲ與ヘ且其途中必要ナル保護及尊敬ヲ與フヘシ公使カ首都ニ到着ノ上ハ同公使ノ爲ニ準備セル適當ナル住宅ヲ供與スヘシ但シ公使自身ノ費用ハ公使自ラ之ヲ支拂フヘシ公使ノ隨員ハ支那人從者ヲ除キ二十名ヲ超ユヘカラス右隨員及從者ハ商業ニ從事セサルコトヲ要ス

第六條 支那國皇帝陛下カ條約ニ依リ任意ニ又ハ其他ノ理由ニ依リ友邦國ノ代表者ヲ長期間又ハ短期間首都ニ駐在スルコトヲ許可シタルトキハ何等ノ協議又ハ明示的許可ヲ要セスシテ支那國ニ於ケル合衆國ノ代表者ハ同一ノ特權ヲ有スヘシ

第七條 合衆國及支那國ノ高官間ノ文書往復ハ平等條件ヲ以テ相互通信(照會)ノ形式ニ依リ之ヲ行フヘシ領事及地方ノ文武官モ亦均シク相互通信ノ體裁及形式ヲ以テスヘシ一國政府ノ下級官吏カ他國政府ノ上級官吏ニ宛テタル通信ハ陳情書ノ體裁及形式ニ依ルヘシ私人カ高官ニ宛テタル通信ハ請願ノ體裁ニ依ルヘシ如何ナル場合ニ於テモ侮辱的又ハ無禮ノ字體ヲ使用シ又ハ之ヲ受クルコトナカルヘシ尙如何ナル口實又ハ形式ニ依ルヲ問ハス合衆國ハ



支那國ヨリ又支那國ハ合衆國ヨリ贈物ヲ要求セラルルコトナカルヘキヲ約ス

第八條 將來北米合衆國ノ代表者ト督撫又ハ知事トノ會見ハ互ニ協議ノ上該官吏ノ官邸又ハ亞米利加合衆國ノ代表者ノ住宅ニ於テ之ヲ爲スヘシ口實ヲ設ケ右會見ヲ拒絕スルコトナカルヘシ日常事務ハ會見ノ煩ヲ避ケ重要ノ往復ニ依リ之ヲ商議スヘシ

第九條 支那國沿岸又ハ貿易開港ヲ巡航スル亞米利加合衆國ノ國有船舶カ自國ノ商標保護又ハ學術研究ノ爲支那國ノ何レカノ港又ハ其附近ニ到着シタルトキハ必要ニ應ジ兩國ノ友誼關係ヲ表象スル爲同船舶ノ司令官及地方官憲ノ高官ハ平等及禮讓ノ條件ニ依リ互ニ相交通スヘシ該船舶ハ食糧品又ハ其他ノ物品ノ供給及必要ナル修繕ノ爲支那國官憲ヨリ相當ノ便宜ヲ供與セラルヘシ亞米利加合衆國ハ亞米利加船舶カ支那國沿岸附近ノ海上ニ於テ難破シ且海賊ニ依リ掠奪若ハ拿捕セラレタル場合ニ於テハ合衆國ノ國有船舶ハ該海賊ヲ追跡シ拿捕シタルトキハ之ヲ審判處罰スル爲引渡スヘキコトヲ約ス

第十條 亞米利加合衆國ハ通商保護ノ爲領事及其他ノ商務官ヲ任命シ支那國カ開放ニ同意スヘキ地ニ駐在セシムル

ル爲軍隊ヲ派遣シ犯罪者ヲ逮捕シ且法律ノ定ムル最重ノ刑ニ處スヘシ合衆國ノ人民ニ對シ罪ヲ犯ス支那國ノ臣民ハ支那國ノ法律ニ依リ支那國官憲之ヲ罰スヘシ合衆國ノ人民カ陸上ニ於テ又ハ商船内ニ於テ他人ヲ侮辱シ之ニ迷惑ヲ與ヘ若ハ傷害ヲ加ヘ又ハ支那人ノ財産ヲ損傷シ其他支那國ニ於テ不都合ナル行動ヲ爲シタルトキハ合衆國ノ法律ニ依リ領事又ハ他ノ權能ヲ有スル官吏之ヲ處罰スヘシ裁判ノ爲ニスル逮捕ハ支那國官憲又ハ合衆國官憲ノ何レニ依リテモ之ヲ行フヲ得ヘシ

第十二條 外國貿易ノ爲開放セラレタル港ニ居住又ハ滞在スル合衆國ノ人民ハ其事務用ノ家屋ヲ賃借シ又ハ自ラ家屋ノ病院、教會堂及墓所ヲ建築スル爲其敷地ヲ賃借スルコトヲ許可セラルヘシ關係當事者ハ相互的且公平ナル契約ニ依リ賃貸料ヲ決定スルヲ得ヘシ所有者カ法外ノ價格ヲ要求シ又ハ地方官憲カ干涉スルカ如キコトナカルヘシ但シ右家屋又ハ敷地ニ關シ住民カ故障ヲ申出ツル場合ハ此限ニ在ラス官吏ノ證明ヲ請求スルニハ適法ノ手数料ヲ支拂フヘシ合衆國人民ハ不合理ノ特殊ノ地點(賃借)ヲ主張スルコトナク兩當事者ニ於テ正義ト節制トヲ以テ協議スヘシ墓所ヲ汚瀆スル支那土着民ハ法律ニ照シ嚴重ニ罰

權利ヲ有ス領事及商務官ハ支那國政府ノ地方官ト必要ニ應シ平等及相互的尊敬ノ條件トシテ會商又ハ文書ノ往復ヲ爲スコトヲ得ヘシ(領事又ハ領事代理副領事ハ道臺又ハ知府ト同等ニ在ルモノトス)領事及地方官ノ通信ハ相互通信ノ體裁ヲ以テスヘシ何レカノ國ノ官吏カ他ノ國ノ官憲ニ依リ無作法ニ取扱ハレ又ハ虐待セラレタルトキハ各政府ノ上級官吏ニ右事情ヲ陳述スルノ權利ヲ有スヘク該上級官吏ハ充分ニ之ヲ調査シ且嚴重ナル裁斷ヲ爲スヘシ前記領事及商務官ハ支那國官吏及人民ニ對シ慎重ニ一切ノ侮辱的行動ヲ避ケヘシ正式ニ任命セル領事カ支那國ノ港ニ到着シタルトキハ合衆國公使ハ之ヲ該港ノ屬スル省ノ督撫ニ通知スルノ義務ヲ有ス該督撫ハ直ニ該領事ヲ承認シ且其職務ヲ許可スヘシ

第十一條 支那國ニ於テ不穩ニ業務ニ從事スル亞米利加合衆國ノ人民ハ支那國ノ臣民ト和親及好意ノ共同ノ地位ニ立テ其身體及所有品ニ付地方官憲ノ保護ヲ享受スヘシ地方官憲ハ其種類ノ何タルヲ問ハス一切ノ侮辱又ハ加害ヲ防止スヘシ合衆國人民ノ住宅又ハ財産カ暴徒、放火者又ハ其他ノ暴行者若ハ無法者ニ依リ脅迫又ハ攻撃セラレタル場合ハ地方官ハ領事ノ請求ニ依リ直ニ暴徒ヲ退散セシム

セラルヘシ合衆國ノ船舶カ碇泊シ又ハ其人民カ居住スル地ニ於テ商人、船員其他ノ者ハ自由ニ其附近ノ地ヲ往復スルコトヲ得ヘシ但シ公安維持ノ爲奧地ノ村落又ハ市場ニ至リ賦稅ノ上不法ニ其貨物ヲ賣却スルコトヲ許サス

第十三條 合衆國ノ船舶カ支那國ノ沿岸ニ於テ難破又ハ坐礁シ掠奪又ハ其他ノ損害ヲ受ケタル處アルトキハ政府ノ當該官吏ハ右事實ノ通知ヲ受ケタル後直ニ其救助及安全ノ爲ノ手段ヲ執ルヘシ船中ニ在ル者ハ友誼的待遇ヲ受ケ直ニ最寄ノ港ニ於テ修繕スルヲ許サルヘク且糧食及飲料水ニ供給ニ付一切ノ便宜ヲ供與セラルヘシ合衆國ノ商船カ支那國領水内ニ在ルトキニ於テ盜賊又ハ海賊ニ依リ掠奪セラレタルトキハ支那國地方文武官ハ其通知アリタル後該盜賊及海賊ヲ逮捕シ法律ニ照シ之ヲ處罰シ且回收スルコトヲ得ル一切ノ財産ハ之ヲ其所有者ニ返還シ又ハ領事ニ引渡スヘシ支那國領土ノ廣汎ナルト其人口ノ多キ理由ニ依リ盜賊ヲ逮捕スル能ハス且財産ノ一部ノミ發見セラレニ過キサル場合ニ於テモ支那國政府ハ喪失セル財産ヲ賠償スルコトナシ但シ地方官憲カ盜賊ト共謀セシ事實證明セラルルニ於テハ其旨皇室ニ上奏スル爲上級官憲ニ通知スヘシ共謀官吏ハ嚴罰ニ處セラレ且其財産ハ損害ヲ



填補スル爲没收セラルヘシ

第十四條 合衆國人民ハ廣東省ノ廣州、潮州又ハ汕頭、福建省ノ廈門、福州、臺灣、浙江省ノ寧波、江蘇省ノ上海及其他今後他國又ハ合衆國トノ條約ニ依リ貿易ノ爲開放セラルヘキ港又ハ場所ニ往來シ並其家族ト共ニ居住シ及商業ヲ營ミ且任意ニ其船舶及貨物ヲ前記何レカノ港ヨリ他港ニ運輸スルコトヲ許可セラルヘシ但シ右船舶ハ他ノ港又ハ沿岸ニ於テ違法ノ秘密貿易又ハ詐欺貿易ヲ營ムコトヲ得ズ本條ニ違反スル亞米利加國旗ノ下ニ在ル船舶ハ其載貨ト共ニ支那國政府ニ沒收セラルヘク又禁制品貿易ニ從事スル合衆國ノ人民ハ合衆國政府ノ援助又ハ保護ヲ求ムルノ權利ナク支那國政府之ヲ處分スヘシ合衆國ハ其國旗カ他國ノ臣民ニ依リ支那帝國ノ法律違反ニ對スル保護トシテ濫用セラルルヲ豫防スルノ措置ヲ執ルヘシ

第十五條 合衆國人民ハ各貿易開港ニ於テ支那帝國ノ法律ニ依リ輸出入ヲ禁止セラレザル一切ノ商品ヲ海外ヨリ輸入シ販賣シ及購買シ輸出スルヲ許可セラルヘシ合衆國人民カ支那ニ於テ輸入又ハ輸出スル貨物ニ對スル關稅率ハ望厦條約ニ定ムルモノト同率タルヘシ但シ他國トノ條約ニ依リ修正セラレタル場合ハ此限ニ在ラス合衆國人民ハ

備スルコトヲ得ヘシ其相當代價額ハ當事者間ノ合意ニ依リ又ハ領事ノ決定ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十八條 合衆國ノ船舶カ入港スルトキハ稅關稅官ハ其適當ト認ムル場合該船舶ヲ保護セシムル爲稅關稅官更ヲ任命スヘシ該官吏ハ自己ノ都合ニ依リ該船舶内ニ又ハ自己ノ船舶内ニ居住スルヲ得ヘシ支那國政府ノ地方官憲ハ領事ノ通知アリタルトキハ支那國ニアル合衆國船舶内ノ一切ノ暴動者又ハ同船舶ヨリノ脱走者ヲ逮捕スルニ努メ且其處罰ノ爲領事又ハ他ノ官吏ニ引渡スヘシ支那國臣民タル犯罪者カ合衆國人民ノ家屋内又ハ船舶内ニ逃隱セムトスルトキハ合衆國人民ハ之ヲ隱匿庇護スルコトナク支那國地方官憲ノ合衆國官憲ニ對スル適法ノ請求ニ依リ裁判ノ爲之ヲ引渡スヘシ合衆國ノ商人、海員及其他ノ人民ハ自國政府ノ相當官吏ノ監督ヲ受クヘシ兩國中ノ孰レカノ箇人カ暴行又ハ騷擾行爲ヲ犯シ他人ニ傷害ヲ加フル爲武器ヲ使用シ又ハ生命ノ危險ヲ生スヘキ暴動ヲ行ヒタル場合ハ兩國政府ノ官吏ハ公平ナル裁斷ニ依リ秩序ヲ保チ公安ヲ維持スルニ努ムヘシ

第十九條 合衆國ニ屬スル商船カ前記何レカノ港ニ碇泊スルトキハ載貨上乗人、船長又ハ荷受人ハ四十八時間内ニ

最惠國ノ支拂フ稅額ヨリ高率ノ稅ヲ支拂ハシメラルコトナキコトヲ明約ス

第十六條 開港ニ入港スル合衆國ニ屬スル商船ハ登錄噸數ニ應シ百五十噸以上ノモノニ付テハ每噸(四十五立方呎)四錢ノ割合ヲ以テ又百五十噸及其以下ノモノニ付テハ每噸(四十立方呎)一錢ノ割合ヲ以テ噸稅ヲ支拂フヘシ前記商船着港ノ上ハ噸數登錄簿及其他ノ書類ヲ領事ニ提出スヘク領事ハ之ヲ稅關委員ニ通報スヘシ一港ニ於テ噸稅ヲ支拂ヒ載貨陸揚ノ爲又ハ載貨ナキカ又ハ少キ場合ニ於テ其全部又ハ一部ヲ購買スル爲他港ニ至ル船舶ニ付テハ領事ヨリ左ノ旨稅關委員ニ通報スヘク稅關委員ハ出港免狀ニ噸稅ノ支拂ハレタルコトヲ記入シ且他港ノ稅關稅官ニ右事情ヲ通報スヘシ右ノ場合該船舶ハ單ニ其載貨ニ關スル稅ノミヲ支拂フヘク再ヒ噸稅ヲ徵收セラルルコトナシ開港ニ於ケル稅關稅官ハ燈臺ノ建設並浮標及證明船ノ置場ニ付領事ト協議スヘシ

第十七條 合衆國人民ハ其船舶ヲ入港セシメ及適法ノ納稅ヲ爲シタル後出港セシムル爲水先案内者ヲ雇備スルコトヲ許サルヘシ又任意ニ僱婢、買辦、通事、書記、勞働者、海員及其他ノ必要ナル者並乘客用又ハ貨物用ノ船舶ヲ雇

船舶書類ヲ領事又ハ其代理ニ提出スヘク領事又ハ其代理ハ稅關長ニ該船舶ノ船名、噸數、乘組員ノ數、載貨ノ性質ニ關シ正確ナル報告ヲ爲スヘシ右報告ニ依リ稅關長ハ載貨ノ陸揚ヲ許可スヘシ右許可ナクシテ載貨ヲ陸揚スルトキハ五百弗ノ科料ニ處シ且許可ナクシテ陸揚セル貨物ハ支那國政府ニ依リ沒收セラルヘシ但シ入港セル船舶ノ船長カ載貨ノ一部ノミヲ陸揚セムト欲スル場合該一部ニ對スル輸入稅ヲ支拂ヒ殘存載貨ト共ニ他ノ港ニ至ルコトハ合法ト認メラル又船長ハ船舶ノ到着後四十八時間内ニ於テ載貨ヲ陸揚スルコトヲ出港セムト決シタルトキハ任意ニ出港シ得ヘク此場合同船舶カ他港ニ到着シ載貨ノ陸揚ニ着手スル迄噸稅又ハ其他ノ稅ヲ課セラルルコトナカルヘシ右他港ニ於テ載貨ヲ陸揚スルニ當リ法律ニ依リ船舶及貨物ニ對スル諸稅ヲ支拂フヘシ噸稅ハ前記四十八時間經過ノ後支拂フヘキモノトス領事又ハ代理ノ不在ノ場合ニ於テハ船長又ハ載貨上乗人ハ支那國ノ領事ニ依頼スルカ又ハ欲スル場合ニ於テハ直接ニ稅關長ニ報告ヲ爲スヘク稅關長ハ船舶事務ヲ行フニ必要ナル一切ノコトヲ行フヘシ

第二十條 稅關長ハ正當ノ徵稅ヲ爲ス爲領事ノ願出アルト



キハ相當ノ官吏ヲ任命スヘシ該官吏ハ船長、載貨上乗人又ハ荷受人立會ノ上合衆國商船ノ輸入貨物ノ陸揚又ハ輸出貨物ノ積込ニ付該貨物ノ公平ナル検査ヲ行フヘシ從價稅ニ依ル場合貨物ノ價格ニ付又ハ包裝容器ノ數量ニ付意見ノ相違アリ且兩當事者ニ依リ満足ニ協定スル能ハサル場合ニ於テハ該問題ハ二十四時間以内ニ之ヲ領事ニ附託スヘク領事ハ稅關長ト協議ノ上之ヲ決定スヘシ

第二十一條 支那國ノ自由港ニ商品ヲ輸入シ且其輸入稅ヲ支拂ヒタル合衆國人民ニシテ該商品ノ一部又ハ全部ヲ他ノ自由港ニ再輸出セムト欲スルトキハ領事ヲ經テ稅關長ニ出願スルコトヲ得ヘシ稅關長ハ稅稅ヲ防止スル爲相當官吏ヲ任命シ稅關ノ帳簿ニ記入セル該貨物ニ對シテ支拂ヒタル輸入稅カ出願中ニ入載セルモノト一致スルヤ及貨物ノ原商標ニ變更ナキヤヲ調査セシムヘシ右調査ノ上出港地ニ於テ貨物及其支拂輸入稅額ノ覺書ヲ作成シ之ヲ前記商人ニ交付シ又右事實ヲ他港ノ稅關官吏ニ證明スヘシ右全部ノ手續ヲ爲シタル該貨物登載ノ船舶カ他港ニ到着シ検査ノ上事實相違ナキコトヲ認メラレタルトキハ更ニ追加稅ヲ支拂フヲ要セスシテ右貨物ノ陸揚ヲ許可セラルヘシ但シ稅關長カ検査ノ上脫稅ノ事實ヲ發見シタルトキ

ハ支那國政府之ヲ沒收スヘシ合衆國船舶ニ依リ支那國ノ港ニ輸送セラレ陸揚セラレサル外國ノ穀類又ハ米ハ故障ナク再輸出スルコトヲ得ヘシ

第二十二條 合衆國船舶ノ噸稅ハ其入港ヲ許サレタル港ニ於テ之ヲ支拂フヘシ輸入稅ハ貨物ノ陸揚後、輸出稅ハ其積込後各之ヲ支拂フヘシ前記ノ諸稅ノ支拂ハレタル後稅關ノ徵稅官ハ出港許可書ヲ附與スヘク領事ハ船舶書類ヲ返還スヘシ前記諸稅ハ支那國政府ノ許可セル銀號ニ之ヲ支拂フヘク該支拂ハ銀錢(紋銀ト云フ)又ハ外國貨幣ヲ以テ其時價ニ依リ之ヲ受授スヘシ領事カ前記諸稅及噸稅ノ支拂前ニ該船舶ノ出港ヲ許可シタル場合ハ該領事ハ右ニ關スル責ニ任スルモノトス

第二十三條 港内ニ在ル合衆國商船ノ載貨ヲ他船ニ積替ノ必要ヲ生シタルトキハ其旨領事ニ出願スヘシ領事ハ稅關ニ對シ右必要ノ事情ヲ證明スヘク稅關長ハ官吏ヲ任命シ右事實ヲ調査セシメ右積替ヲ許可スヘシ許可書ナクシテ積替ヲ爲シタル貨物ハ支那國政府之ヲ沒收スヘシ

第二十四條 合衆國人民カ支那國臣民ニ對シ債權ヲ有スル場合ニ於テハ前者ハ法律ニ依リ其回收ヲ求ムヘシ右ニ付領事ヲ經テ地方官憲ニ右事情ノ陳情ヲ爲シタルトキハ地

方官憲ハ正規ノ取調ヲ爲シ其履行ヲ強制スル爲適宜ノ措置ヲ執ルヘシ支那國臣民カ合衆國人民ニ對シ債權ヲ有スル場合ハ領事ニ陳情スルカ又ハ領事裁判所ニ訴訟ヲ提起シ其回收ヲ求ムヘシ但シ何レノ政府モ該債務ニ對シ責ヲ負フコトナシ

第二十五條 合衆國ノ官吏又ハ人民ハ支那學ヲ取得シ又ハ文學ノ事務ヲ補助セシムル爲何人タルヲ問ハス支那各地ノ學者及人民ヲ雇傭スルコトヲ得ヘシ右被傭者ハ雇傭セラレタル故ヲ以テ政府又ハ僱人ノ何レニ依リテモ加害セラレルトコトナカルヘシ又合衆國人民ハ支那國ニ於テ各種ノ書籍ヲ購買スルコトヲ得ヘシ

第二十六條 本條約ニ依リ合衆國ト支那國トノ和親關係確立セラレ且合衆國ノ船舶カ支那國ノ開港ニ自由ニ出入スルヲ許サレタルヲ以テ更ニ今後支那國カ何國タルヲ問ハス他國ト開戰スル如キコトアル場合ニ於テ其敵國ノ船舶ノ前記諸港ニ入港スルヲ許ササル場合ニ於テモ合衆國ノ船舶ハ從前通り自由ニ且安全ニ其商業ニ從事シ且交戰國ノ諸港ニ出入シ貨物ヲ輸送スルコトヲ得ヘク中立國タル合衆國ノ國旗ハ充分ノ敬意ヲ表セラルヘシ但シ合衆國ノ國旗ハ敵國ノ勳務ニ從事スル官吏若ハ軍人ノ輸送ニ從事

シ又ハ敵國船舶ヲシテ其貨物ト共ニ支那國ノ港ニ入港セシムル爲前記國旗ヲ濫用スルヲ得ス右ニ違反スル一切ノ船舶ハ支那國政府之ヲ沒收スヘシ

第二十七條 支那國ニ於ケル合衆國人民相互間ニ生スル財產又ハ人ニ關スル權利一切ノ問題ハ合衆國政府之ヲ管轄シ且處理スヘシ支那國ニ於テ合衆國人民ト他ノ外國政府ノ臣民トノ間ニ生スル一切ノ爭議ハ支那國ノ干渉ヲ受クルコトナク合衆國ト右臣民ノ屬スル政府トノ間ニ現存スル條約ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第二十八條 合衆國人民カ支那國地方官吏ニ通信スルノ特殊ノ場合アルトキハ該人民ハ其用語カ適當ニシテ禮ヲ失セサルヤ及其内容カ正當ナリヤヲ確カムル爲領事又ハ管轄官廳ニ轉送シ其考量及處置ヲ求ムヘシ支那國臣民カ合衆國ノ領事ニ通信スル必要アル場合ニ於テハ直接之ヲ爲シ得ヘク此場合其事件ヲ具申シ同領事ノ考量及處置ヲ求ムヘシ同時ニ自國ノ官吏ニ對シテモ其事件ヲ通知スヘシ合衆國人民ト支那國臣民トノ間ニ爭議ヲ生シ圓滿ニ解決スル能ハサルトキハ兩國ノ官吏共同シテ正義公正ヲ旨トシ之ヲ審判スヘシ不法ノ手數料ヲ苛求スルコトハ嚴ニ之ヲ禁ス不正ヲ防ク爲公正ナル者ヲ通譯トシテ入廷スルヲ



許スヘシ

第二十九條 基督教ノ教義ハ新教及舊教ニ依リ公言セラレタル如ク人類ニ善行ヲ勸メ且自己ノ欲スル所ヲ他人ニ行フヘキコトヲ教フルモノナルヲ以テ今後平穩ニ教義ノ傳道ニ從事スル者ハ其信仰ノ故ヲ以テ虐待又ハ迫害セララルコトナカルヘシ合衆國人民タルト支那人信者タルトヲ問ハス前記基督教教義ヲ布教シ及實行スル者ハ如何ナル場合ニ於テモ干涉又ハ妨害ヲ受クルコトナカルヘシ

第三十條 締約國ハ何時ニテモ大清帝國カ他國又ハ他國ノ商人若ハ人民ニ對シ本條約ニ依リ與ヘラレサル航海、商業、政治上若ハ其他ノ交通ニ關スル權利、特權又ハ恩惠ヲ許與スルカ如キ場合ニ於テハ右權利、特權及恩惠ハ直ニ其無價ニテ合衆國、其官吏、商人及人民ノ利益ノ爲與ヘラルヘシ

本條約及通商條約ハ合衆國大統領(上院ノ勸告及協贊ヲ經テ)ニ依リ一年以内ニ於テ成ルヘク速ニ批准セララルヘク大清帝國皇帝ニ依リ直ニ批准セララルヘシ批准書交換ハ署名ノ日ヨリ一年以内ニ之ヲ行フヘシ

右證據トシテ亞米利加合衆國及大清帝國ノ各全權委員ハ本條約ニ署名調印ス

千八百五十八年六月十八日天津ニ於テ之ヲ作成ス

ウイリアム、ビー、リード (印)  
桂 良 (印)  
花 沙 納 (印)

### 天津條約追加條款

千八百六十八年七月二十八日華盛頓

ニ於テ調印

千八百六十九年十一月二十三日北京

ニ於テ批准書交換

亞米利加合衆國及大清帝國(支那國)間ノ千八百五十八年六月十八日ノ條約締結以來同條約ニ條項ヲ追加スヘキ必要生シタルヲ以テ合衆國大統領及大清帝國皇帝ハ左ノ如ク各其全權委員ヲ任命セリ

亞米利加合衆國大統領

國務長官「ウイリアム、エッチ、シユワード」

支那國皇帝陛下

特命全權公使「アンソン、バーリンゲム」(外二名)

右各委員ハ互ニ其全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ條項ヲ協定セリ

第一條 支那國皇帝陛下ハ他國ノ人民又ハ臣民ニ對シ貿易ノ目的ヲ以テ帝國ノ或地域ニ居住シ又ハ或領水ニ到ルノ特權ヲ許與シタルコトハ何等右土地及水上ノ主權ヲ放棄シタルモノニアラストノ意見ヲ有スルヲ以テ前記許與又ハ許可ハ合衆國ト開戦スルカ又ハ合衆國ニ敵對スルコトアルヘキ別國ニ對シ前記地域及領水内ニ於テ合衆國人民又ハ其財產ヲ攻撃スル權利ヲ與ヘタルモノト解釋セサルヘキコトヲ約ス又合衆國ハ合衆國ト開戦スルコトアルヘキ別國ノ人民若ハ臣民又ハ其財產ヲ支那帝國ノ前記地域又ハ領水内ニ於テ攻撃セサルコトヲ約ス但シ本條ハ敵國カ合衆國ノ人民又ハ其財產ニ對シ加フル攻撃ニ抵抗スルコトヲ妨クルモノト解スヘカラス

尙支那國ノ或地域ニ於テ或種ノ權利又ハ利益カ支那國政府ニ依リ貿易ノ目的ノ爲合衆國人民ニ許與セラレ又ハ許與セラルルトモ右許與ハ該地域内ニ於ケル人及財產ニ關スル支那國官憲ノ管轄權ヲ奪フモノト解スヘカラス但シ

條約ニ依リ明ニ放棄セラレタル權利ハ此限ニ在ラス  
第二條 亞米利加合衆國及支那國皇帝陛下ハ通商ノ安全及

其繁榮ヲ期スル爲支那國ニ於テ條約ニ依リ規定セラレサル通商航海ニ關スル特權又ハ免除ハ支那國政府任意ニ之ヲ定ムヘキモノナルコトヲ約ス但シ兩國間ノ條約規定ニ牴觸スル方法又ハ精神ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得ス

第三條 支那國皇帝ハ合衆國ノ諸港ニ領事ヲ任命スルノ權利ヲ有ス該領事ハ合衆國ノ公法及條約ニ依リ英國及露西亞國又ハ其他レカノ國ノ領事カ享有スルト同一ノ特權及免除ヲ享有スヘシ

第四條 千八百五十八年六月十八日ノ條約第二十九條ニ於テ支那國ニ在ル合衆國人民及支那國臣民ノ基督教信者ハ其信仰ノ故ヲ以テ迫害セララルコトナキヲ定メタルカ更ニ支那國ニ在ル各種宗教ノ信者タル合衆國ノ人民及合衆國ニ在ル支那國臣民ハ完全ナル良心ノ自由ヲ有シ且何レノ國ニ於テモ宗教上ノ信仰又ハ崇拜ノ故ヲ以テ無能力扱ワセラレ又ハ迫害セララルコトナキコトヲ約ス死者埋葬ノ墓地ハ其出生地又ハ國籍ノ如何ヲ問ヘス擾亂又ハ汚辱セララルコトナク尊重ニ保護セララルヘシ

第五條 亞米利加合衆國及支那國皇帝ハ誠意ヲ以テ本國及忠誠ヲ變更スル人類ノ固有ニシテ且奪フヘカラサル權利及其人民及臣民カ好奇心ヨリ或ハ商業又ハ永住ノ目的ヲ



以テ互ニ移住スルコトノ相互的利益ヲ認ム兩締約國ハ右目的ノ爲完全ナル自由意思ニ依ル移民以外ノモノハ之ヲ認メス故ニ兩締約國ハ各自本人ノ自由意思ニ基ク同意ナクシテ合衆國又ハ其他ノ外國へ支那國臣民ヲ拉シ去ル合衆國人民又ハ支那國臣民ニ對シ並支那國又ハ其他ノ外國へ合衆國ノ人民ヲ拉シ去ル支那國臣民又ハ合衆國人民ニ對シ之ヲ犯罪者トシテ取扱フヘキ法律ヲ制定スヘキコトヲ約ス

第六條 支那國ニ入國シ又ハ居住スル合衆國ノ人民ハ其旅行又ハ居住ニ付最惠國ノ人民又ハ臣民ノ享有スルト同一ノ特權及免除ヲ享有スヘシ合衆國ニ入國シ又ハ居住スル支那國臣民モ亦互惠的ニ其旅行又ハ居住ニ付最惠國ノ人民又ハ臣民ト同一ノ特權及免除ヲ享有スヘシ但シ右ハ支那國ニ在ル合衆國人民又ハ合衆國ニ在ル支那國臣民ニ歸化ヲ許シタルモノト解スヘカラス

第七條 合衆國人民ハ最惠國ノ人民又ハ臣民カ享有スルト同一ノ一切ノ特權ヲ支那國政府ノ管理ノ下ニ在ル公立教育機關ニ於テ享有スヘシ支那國臣民モ互惠的ニ合衆國政府ノ管理ノ下ニ在ル公立教育機關ニ於テ前記一切ノ特權ヲ享有スヘシ合衆國人民ハ支那國政府ノ條約ニ依リ外國人ノ

居住ヲ許セル地ニ於テ自由ニ學校ヲ設立シ及維持スルコトヲ得ヘシ支那國臣民モ亦互惠的ニ合衆國ニ於テ同一ノ特權及免除ヲ享有スヘシ

第八條 合衆國ハ一國カ他國ノ事務又ハ内政ニ對シ不必要ナル指揮ヲ爲シ又ハ干涉スルコトヲ否認又ハ防止スルヲ常トセルヲ以テ鐵道ノ敷設、電信ノ架設其他諸物ノ内部ノ改善ニ關シ支那國ノ内政ニ干涉スルノ意圖又ハ權利ヲ任意ニ放棄スヘシ他方ニ於テ支那國皇帝陛下ハ其領内ニ於テ前記ノ改善ヲ爲スニ付自ラ其時期、方法等ヲ決定スルノ權利ヲ留保ス右相互的了解ニ依リ締約國ハ今後何時ニテモ皇帝陛下カ帝国内ニ於テ前記種類ノ事業ヲ建設シ又ハ建設セシムルコトニ決シ且合衆國又ハ其他ノ西洋諸國ニ對シ右政策實行ノ爲便宜ノ供與ヲ申込ムトキハ合衆國ハ右ノ場合適當ナル技師ヲ指名シ支那國政府ニ雇儲セラルルコトヲ許可スヘク且他國ニ對シテモ同様ニ右申込ヲ承諾スヘキコトヲ勸誘スヘシ右ノ場合支那國政府ハ該技師ノ身體及財產ヲ保護シ其勤勞ニ對シ相當ノ補償ヲ爲スヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名シ且調印ス  
千八百六十八年七月二十八日華盛頓ニ於テ之ヲ作成ス

ウイリアム、エツチ、シユワード (印)  
アンソソン、バーリシゲム (印)  
(外二名印)

### 通商及訴訟手續ニ關スル補足條約

千八百八十年十一月十七日北京ニ於テ調印、千八百八十一年七月十日北京ニ於テ批准書交換

亞米利加合衆國大統領及支那國皇帝陛下ハ兩國政府間ノ現存條約中ニ若干ノ不備ノ點ノ存スルヲ以テ各全權委員トシテ合衆國大統領ハ「ミシガン」州ノ「ジェームス、ビー、エソングエル」、「カリフォルニア」州ノ「ジョン、エフ、スウイフト」及南「カロリナ」州ノ「ウイリアム、ヘンリー、トレスコット」ヲ

支那國皇帝陛下ハ大學士署禮部尙書寶李大學士帥安箇ヲ任命シ

右全權委員ハ左ノ追加條項ヲ協定セリ

#### 第一條 通商關係ノ擴張

通商及訴訟手續ニ關スル補足條約

合衆國及支那國政府ハ兩國既往ノ通商關係ノ利益ヲ承認シ且更ニ兩國ノ人民及臣民間ノ右通商關係ヲ進歩セシムルカ爲何レカ一方國ノ欲スル通商關係ノ特別ナル擴張ニ關スル提言ニ對シ最慎重且有利ナル注意ヲ與フルコトヲ相互ニ同意ス

#### 第二條 阿片

支那國臣民ノ合衆國港へ又ハ合衆國人民ノ支那國港へノ輸入禁止

支那國及合衆國ノ政府ハ支那國臣民カ合衆國ノ何レノ港ニモ阿片ヲ輸入スルコトヲ許可セザルヘク

一開港場ヨリ更ニ他ノ開港場へノ運送、購買及販賣ノ禁止

且合衆國人民カ支那國ノ何レノ開港場へモ阿片ヲ輸入シ一開港場ヨリ他ノ何レノ開港場へモ阿片ヲ運送シ又ハ支那國ノ何レノ開港場ニ於テモ阿片ヲ賣買スルコトハ之ヲ許可セサルコトヲ相互ニ承認ス右ノ絕對的禁止ハ何レカ一方國ノ人民若ハ臣民ノ所有スル船舶、右人民若ハ臣民ノ備給タル外國船舶又ハ何レカ一方國ノ人民若ハ臣民ノ所有スル船舶ニシテ阿片運送ノ爲ニ右人民若ハ臣民以外ノ人ニ備給セザレタルモノニ其適用ヲ擴張セザルルモノニシテ支那國及合衆國ハ適當ナル立法手段ニ依リ之ヲ履行スヘキモノトス



最惠國民待遇ヲ要求セサルコト  
且現存條約中ノ最惠國民條款ノ利益ハ本條ノ規定ニ反スルモノトシテ其何レカ一方ノ人民若ハ臣民ノ要求セサルモノトス

第三條 噸稅 輸出入稅 沿岸貿易稅

支那國皇帝陛下ハ合衆國人民カ完全ニ所有スル船舶ニ對シ又合衆國若ハ何レカノ外國ヨリ右同様ノ船舶ヲ以テ輸入セラレタル生産品、製造品若ハ商品ニ對シ又ハ合衆國若ハ何レカノ外國ニ向ケ右同様ノ船舶ヲ以テ輸出セラレ若ハ支那國一開港場ヨリ更ニ他ノ開港場ニ向ヒ右同様ノ船舶ヲ以テ運送セラルル生産品、製造品若ハ商品ニ對シ一切ノ他國民又ハ支那國臣民ノ船舶若ハ積荷ニ賦課若ハ徵收セラルルモノ以外又ハ其レヨリ高率ノ噸稅、輸出入稅若ハ沿岸貿易稅ヲ支那國開港場ニ於テ賦課シ若ハ徵收セサルコトヲ茲ニ約諾ス

合衆國ハ支那國臣民ノ完全ニ所有シ且直接若ハ何レカノ外國港經由ニテ外國貿易ニ開カレタル何レカノ支那國港ヨリ合衆國港ニ來着シ又ハ右合衆國港ヨリ直接若ハ何レカノ外國港經由ニテ何レカノ支那國開港場ニ歸着スル船舶ニ對シ又ハ右同様ノ船舶ヲ以テ支那國若ハ何レカノ外國ヨリ輸入

セラレタル生産品、製造品若ハ商品ニ對シ噸稅、輸出入稅若ハ沿岸貿易稅ニ關シ合衆國ニ何等ノ利益ナル差別待遇ヲ爲ササル他國民ノ船舶又ハ合衆國人民ノ船舶及積荷ニ賦課若ハ徵收セラルルモノ以外又ハ其レヨリ高率ノ噸稅若ハ輸入稅ヲ賦課若ハ徵收セサルコトヲ茲ニ約諾ス

第四條 訴訟手續 合衆國人民及支那國臣

民間ノ支那國ニ於ケル紛争 被告國籍ノ相當官吏ニ依ル審理

支那帝國ニ於テ合衆國人民及支那國臣民間ニ紛争發生シ右紛争カ兩國ノ官吏ニ依リ審問判決セラルルヲ必要トスル場合ニハ合衆國及支那國政府ハ右係争事件ハ被告ノ國籍ヲ有スル相當官吏之ヲ審理スルモノナルコトニ同意ス原告ノ國籍ヲ有スル相當權限アル官吏ハ自由ニ審理ニ出席シ其地位ニ適當スル禮儀ヲ以テ待遇セラレ正義ノ爲訴訟ヲ監視スルニ付一切ノ適當ナル便宜ヲ與ヘラレ且其希望スル場合ニハ證人ヲ出頭セシメ證人ニ對シ訊問及反對訊問ヲ爲スノ權利ヲ有ス訴訟ニ満足セサル場合ニハ右原告國籍ノ相當官吏ハ詳細ニ該訴訟ニ對シ抗辯スルコトヲ得

適用法規ハ訴訟ヲ審理スル官吏ノ國籍ノ法規タルヘシ右證據トシテ各全權委員ハ北京ニ於テ英吉利文及支那文ノ

本書ニ署名調印シ右各本文三通ノ際本及日附ハ同一ニシテ其批准書交換ハ本條約締結ノ日ヨリ一年內ニ北京ニ於テ之ヲ行フモノトス  
西曆千八百八十年十一月十七日即光緒六年十月十五日北京ニ於テ作成ス

賣 李 (印)  
帥 安 笛 (印)  
ジエームス、ビー、エンジェル (印)  
ジオン、エフ、スウィフト (印)  
ウイリアム、ヘンリー、トレスコット (印)

支那國亞米利加合衆國  
間ノ通商關係擴張ニ關  
スル條約

千九百三年十月八日上海ニ於テ調印  
千九百四年一月十三日華盛頓ニ於テ  
批准書交換

支那國亞米利加合衆國間ノ通商關係擴張ニ關スル條約

亞米利加合衆國及支那國皇帝陛下ハ兩國間ノ通商關係ヲ更ニ擴張シ且又支那國ノ政府カ通商航海條約ニ對スル諸外國政府ノ必要ナリト思惟セル修正ニ付及通商關係進捗ノ目的ヲ以テ其他ノ通商關係諸事項ニ付商議ヲ開クコトニ同意シタル千九百一年九月七日北京ニ於テ調印ノ最終議定書第十條第一項ノ規定ニ願ミ兩國臣民ノ利益ヲ増進セシメムトスル要望ニ激セラレ之カ爲左ノ全權委員ヲ任命セリ

北京駐劄亞米利加合衆國特命全權公使

「エドウィン、エイチ、コンヂェアー」

上海駐在亞米利加合衆國總領事

「ジオン、エフ、スウィフト」

上海在住亞米利加合衆國人民

「ジオン、エフ、スウィフト」

支那國皇帝陛下

工 部 尚 書 呂 海 寰

太子少保前工部左侍郎 盛 宣 懷

右全權委員ハ其全權委任狀ノ良好妥當ナルヲ認メタル後兩國間既存ノ通商航海條約ノ修正ニ付及通商關係進捗ノ目的ヲ以テ下記ノ通商關係諸事項ニ付左ノ如ク協定セリ



第一條 外交代表者 其權利及特權

國際慣行ニ從ヒ且支那國外交代表者ハ合衆國首都ニ駐劄シテ最惠國ノ同種ノ代表者ノ享有スルト同一ノ特權及免除ヲ享有スルノ權利ヲ有スルカ故ニ合衆國代表者ハ支那國皇帝陛下ノ首都ニ駐劄スルノ權利ヲ有ス右合衆國外交代表者ハ必要ナル一切ノ場合ニ於テ皇帝陛下ノ謁見ヲ賜ヒテ信任狀又ハ合衆國大統領ヨリノ一切ノ通告ヲ捧呈スルコトヲ得ヘク右一切ノ場合ニ於テ其高位位ニ相當スル場所及方法ヲ以テ接待セラレ且其儀式ハ雙方ノ威信ヲ何等毀損スルコトナク對等ノ地步ニ於テ諸國代表者ニ對シ行ハルルトコロノモノトス

合衆國代表者ハ國際慣行ニ從ヒ外交代表者ニ許與セラルル一切ノ特權及免除ヲ享有シ且一切ノ點ニ付最惠國ノ同種ノ代表者ニ與ヘラルルト同一ノ待遇ヲ受ケルモノトス

公文用語

合衆國官憲發支那國官憲宛ノ一切ノ公文及通信文ハ英吉利語ヲ以テ又支那國官憲發合衆國官憲宛ノモノハ支那語ヲ以テ正文トス

第二條 領事官 其權利及特權

支那國ハ合衆國ニ駐在シテ他國ノ領事官ノ享有スルト同一ノ權利、特權及免除ヲ享有スル領事官ヲ任命スルコトヲ得ルカ故ニ合衆國ハ其利害關係上必要ナル場合ニハ外國人ノ居住及外國貿易ニ現ニ開カレ又ハ將來開カルヘキ支那國一切ノ港又ハ諸地方ニ往來シ、居住シ及商工業及製造業ヲ營ミ又ハ其他一切ノ適法ナル職業ニ從事スルコトヲ得ヘク且右諸地點ニ於テ外國人ノ使用及專用ノ爲ニ既ニ特設セラレ又ハ特設セラルヘキ適當ナル地域内ニ於テ家屋、事務所及其他ノ建物ノ賃借又ハ購買及土地ノ賃借又ハ永代借地ヲ爲スコトヲ得ヘク其身體財產ニ關シテハ最惠國臣民又ハ人民ニ現ニ許與セラレ又ハ將來許與セラレヘキ一切ノ權利、特權及免除ヲ一般ニ享有スルモノトス

ノ權利、特權及免除ヲ享有スル領事官ヲ任命スルコトヲ得ルカ故ニ合衆國ハ其利害關係上必要ナル場合ニハ外國人ノ居住及外國貿易ニ現ニ開カレ又ハ將來開カルヘキ支那國内ノ地點ニ駐在スル領事官ヲ任命スルコトヲ得右合衆國領事ハ必要ノ場合ニハ其管轄區域内ノ支那國政府ノ地方官憲ト面接シテ又ハ書面ヲ以テ對等及相互尊重ノ條件ノ下ニ直接公ノ交渉又ハ通信ヲ爲スコトヲ得ヘク支那國一切ノ官憲ヨリ相當ノ尊敬ヲ以テ待遇セラレ且最惠國同種ノ官憲ニ對シ現ニ與ヘラルヘキ將來與ヘラルヘキ一切ノ權限、特權及免除ヲ享有シ及自國民ニ對シ一切ノ裁判權ヲ行使スルコトヲ得ルモノトス執レカ一方國政府ノ官吏カ他方國政府ノ官憲ヨリ何等カノ方法ヲ以テ不遜ノ待遇又ハ虐待ヲ蒙リタル場合ニハ該官吏ハ其旨ヲ自國政府ノ上級官憲ニ申告スルノ權利ヲ有スヘク該上級官憲ハ右ニ付充分ナル調査ト嚴正ナル批判トヲ爲スモノトス上記ノ兩國領事ハ相互ニ相手國ノ官憲及人民ニ對シ一切ノ凌辱的行爲ヲ行フコトヲ避ケルモノトス

支那國ニ於テ外國貿易ニ開カレタル何レカノ地點ニ正式ニ信任派遣セラレタル領事ノ到着シタル場合ニハ、合衆國公使ハ其旨外交部ニ通告スヘキ義務ヲ負フヘク之ニ因リ國際慣

行上該領事ハ直ニ正式ニ承認セラレ且其職務執行上ノ權利ヲ承認セラルルモノトス

第三條 支那ニ於ケル合衆國人民 其權利

合衆國人民ハ外國人ノ居住又ハ外國貿易ニ現ニ開カレ又ハ將來開カルヘキ支那國一切ノ港又ハ諸地方ニ往來シ、居住シ及商工業及製造業ヲ營ミ又ハ其他一切ノ適法ナル職業ニ從事スルコトヲ得ヘク且右諸地點ニ於テ外國人ノ使用及專用ノ爲ニ既ニ特設セラレ又ハ特設セラルヘキ適當ナル地域内ニ於テ家屋、事務所及其他ノ建物ノ賃借又ハ購買及土地ノ賃借又ハ永代借地ヲ爲スコトヲ得ヘク其身體財產ニ關シテハ最惠國臣民又ハ人民ニ現ニ許與セラレ又ハ將來許與セラレヘキ一切ノ權利、特權及免除ヲ一般ニ享有スルモノトス

第四條 釐金稅及其他ノ通過稅ノ全廢

支那國政府ハ通過貨物ニ對シ課稅スルノ現行制度殊ニ釐金トシテ知ラレタル課稅制度力貨物ノ自由配布ヲ妨ケテ取引ノ一般障礙ヲ招致スルニ至ルコトヲ認メ釐金及其他一切ノ通過稅ヲ帝國全部ニ亘リテ廢止シ且右徵稅ノ爲設置セラレタル事務所、稅關及補助稅關ヲ廢止シ且通過貨物ニ對シ課稅スヘキ其他ノ事務所ヲ建設セサルコトヲ茲ニ約ス通過貨物ニ課稅スル事務所、稅關及補助稅關ノ廢止後ハ其形式

及口實ノ如何ヲ問ハス右事務所、稅關及補助稅關ノ再設ヲ企テサルモノトス

補償トシテ許與セラレタル關稅率附加表

合衆國政府ハ右ノ補償トシテ現行暫定關稅率以外ニ附加稅ヲ合衆國人民輸入ノ外國貨物ニ對シ及海外向又ハ沿岸向輸出支那貨物ニ對シテ賦課シ得ルコトニ同意ス如何ナル場合ニ於テモ外國輸入品ニ對スル附加稅ハ西曆千九百一一年九月七日支那國及列國間調印ノ最終議定書所定ノ條件ニ從ヒ徵收セラレヘキ輸入稅ノ一倍半ヲ超過スルコトヲ得サルヘク輸入稅及附加稅ノ支拂ハ支那人若ハ外國人ノ手元ニ所持スルト又原包裝ノ儘ナルト否トヲ問ハス外國輸入貨物ニ對シ其他ノ一切ノ課稅、檢閱若ハ延滞ヨリ全ク免除セラルルモノナルコトヲ確保シ海外輸出ノ内國生産品ニ對シ賦課セラレタル輸出稅ヲ合衆國總額ハ如何ナル場合ニテモ從價七分五厘ヲ超過スルコトヲ得サルモノトス

支那國ノ課稅權

本條ハ本條ノ規定ト抵觸セサル他ノ稅ヲ賦課スル支那國固有權ニ何等干與スルトコロナキモノトス

右諸原則ヲ考慮シテ締約國ハ左ノ手續ヲ協定セリ

釐金制度ノ廢止 若干地方ニ於ケル内國



税關ノ存置

支那國政府ハ釐金其他通過貨物ニ課セラルル稅ヲ徵收スル一切ノ事務所、税關及補助税關ハ其種類ノ如何ヲ問ハス支那國十九省及東邊三省内ノ一切ノ道路、鐵道及水路ニ於テ之ヲ永久ニ廢止ス本規定ハ帝國海關所在ノ開港場ノ海岸ニハ十九省及東邊三省ヲ包含スル支那陸上國境ニ存在スル内國税關ニハ之ヲ適用セス

又内國税關ハ帝國海關ノ現存シ又ハ將來設置セラルヘキ一切ノ場所ニ於テ並海岸又ハ陸上國境ノ如何ナル地點ニ於テモ之ヲ設置スルコトヲ得

外國輸入品ニ對スル課稅ノ附加稅

合衆國政府ハ外國貨物ハ其輸入ニ際シ千九百一一年議定書所定ノ現實五分ノ輸入稅ニ加フルニ釐金、釐金以外ノ通過稅及外國貨物ニ對スル其他一切ノ課稅ノ廢止ニ對スル補償トシテ日本條所定ノ其他ノ改正事項ヲ考慮シテ前記輸入稅額ノ一倍半ノ特別附加稅ヲ支拂フヘキコトニ同意ス

外國輸出關稅率ノ改正

支那國政府ハ其實施シ得ル限リ外國輸出關稅ノ從量稅ヲ從價五分ヲ超過セサル限度ノ從價稅ニ改ムルコトヲ得ルモ現行輸出稅ハ少クトモ六月ノ豫告ノ與ヘラルル迄ハ之ヲ引上

ケサルモノトス現行輸出稅力五分以上ノ場合ニハ稅率ノ引下ハ五分迄トス

輸出品ニ對スル附加稅 其徵收方法

一切ノ種類ノ内國稅ノ代リニ支拂ハルヘキ暫行輸出稅二分ノ一ノ特別附加稅ハ外國向又ハ沿岸地方向輸出貨物ニ對シ其最初ノ船積地ニ於テ又ハ輸出ノ時ニ於テ之ヲ課スルモノトス

原產地證明書

稅關官吏ハ内國產貨物ト類似スル外國貨物ニ對シ所有者ノ請求アル場合ニハ輸入稅及附加稅支拂ノ上内地ニ於テ生スルコトアルヘキ爭議ノ危險ヲ豫防スル爲各包裝ニ付保護證明書ヲ交付スルモノトス

戒克船積貨物

戒克船ニ依リテ開港場ニ運搬セラレタル内地產貨物ハ地方消費ニ供セラルルモノナル場合ニハ該貨物所有者ノ國籍ノ如何ニ拘ラス支那國政府ノ財政規則ニ依リ處理セラルル爲之ヲ内國稅關ニ報告スルモノトス

支那國內ノ機械製造品 其待遇

支那國內ニ於テ製造セラレタル機械製綿糸及織布ハ其製造者力開港場ニ於ケル外國人タルト又ハ支那國內ノ何レカノ

地ニ在住スル支那人タルト問ヘス課稅ニ關シテハ完全ニ均等ナル地步ニ置カルルモノトス右貨物ハ其賦課セラレタル稅ヲ支拂ヒタル上ハ其製造原料タル綿カ外國ヨリ輸入セラレタルモノナル場合ニハ該綿ニ付支拂ハレタル輸入稅及輸入附加稅ノ三分ノ二ヲ又支那國產綿ナル場合ニハ該綿ニ付支拂ハレタル一切ノ稅ヲ割戻サルヘク輸出稅、沿岸貿易稅及輸出附加稅モ亦之ヲ免除セラルヘシ右同様ナル原則及手續ハ支那國ニ於テ機械ニ依リ製造セラレタル其他一切ノ外國式生產品ニ適用セララルモノトス

内國關稅事務ヲ管理スル海關

帝國海關外人幹部ノ一名又ハ數名ノ部員ハ支那帝國各諸省ノ督撫及知撫カ各自管轄ノ省ノ爲ニ之ヲ選出シ帝國海關總稅務司ト協議ノ上内國關稅事務ニ關スル事務取扱ノ一般の監督ヲ爲サシムルノ任務ニ就カシムヘキモノトス

告訴 其審査方法 條約規定強行ニ對スル責任

合衆國人民カ不法行爲ニ關シ告訴シタル場合ニハ右事件ハ支那國政府ノ一名ノ相當高級官吏カ合衆國政府及帝國海關各一名ノ相當官吏ト共ニ連ニ之ヲ審査シ且右審査官カ當該告訴ノ理由並損害ノ發生ヲ認メタル場合ニハ帝國海關ハ相

當ノ賠償ヲ爲スモノトス上該地方官憲ハ該不法行爲ニ付責任アル官吏ヲ嚴罰ニ處シ且之ヲ罷免スヘキコトニ付責ヲ負フモノトス告訴カ理由無キモノカ又ハ惡意ニ出テタルモノナルコト分明シタル場合ニハ告訴人ハ審査費用ヲ負擔スヘキモノトス

本條實施ノ場合公布セララルヘキ勅令

締約國カ本條約批准交換ヲ行ヒ且本條ノ規定カ支那國ノ條約國ニ依リ承認セラレタル時ニ本條ノ規定カ實施セララルヘキ日ヲ協定シ及一切ノ釐金稅、通過貨物ニ對スル課稅、右諸稅ヲ徵收スル事務所、税關及補助税關、外國貨物ニ對スル國內課稅ノ一切ノ種別、外國貨物輸入及内國產貨物輸出ニ對スル附加稅ノ廢止並本條所定ノ其他ノ一切ノ財政的變更及改正ヲ掲載セル勅令ヲ適當ナル形式ヲ以テ官報ニ發表シ之ヲ支那帝國全土ニ播布スヘキモノニシテ右一切ノ事項ハ前記ノ日ヨリ實施セララルヘキモノトス

該勅令ニハ地方高級官吏ハ勅令ノ法文又ハ精神ヲ無視スル官吏ハ何人ト雖モ之ヲ嚴罰ニ處シ且罷免スヘキ責ヲ負フヘキ旨ヲ記載スヘシ

第五條 合衆國ヨリノ輸入品ニ對スル關稅

申 最惠國待遇



支那國ニ輸入セラレタル貨物ニ對シ合衆國人民ノ支拂フヘ  
 本國稅ハ本條約ニ附屬シテ本條約ノ一部ヲ成セル稅率表ニ  
 掲載セラレタルモノニシテ本條約第四條ノ許容スルカ又ハ  
 將來締約國ノ協定スル改正及變更ノミツ受クルモノトス  
 尤モ合衆國人民ハ如何ナル時ニ於テモ最惠國人民又ハ臣民  
 ノ支拂フモノ以外又ハ其レヨリ多額ノ稅ヲ支拂ハサルモノ  
 トス右ニ對シ支那國臣民ハ如何ナル時ニ於テモ最惠國人民  
 又ハ臣民ノ支拂フモノヨリ多額ノ稅ヲ其合衆國ヘノ輸入品  
 ニ對シ支拂ハサルモノトス

第六條 保税倉庫

支那國政府ハ保税倉庫トシテ支那國相當官憲ノ承認シタル  
 倉庫ヲ合衆國人民カ正當ナル貨物ノ庫入、再包裝又ハ船積  
 準備ノ爲若干ノ支那國開港場ニ設置スルコトニ同意ス但シ  
 支那國政府ノ相當官憲カ支那國歲入保護ノ爲屢次制定スル  
 必要ナル取締規則(商品、稅關ヨリノ距離及取扱時間ニ準  
 シ徵收セラルル相當料金表ヲ含ム)ニ從フヘキモノトス

第七條 探礦規則ノ改正及探礦事業ノ獎勵

支那國政府ハ其礦物資源ヲ開發スルハ國ノ爲利益ナルコト  
 及探礦企業ノ投資ニ外國並支那國資本ヲ誘引スルハ望マシ  
 ヲコトナルヲ認メ本條約調印以後一年內ニ現行探礦規則ノ

改正ヲ發議シテ右改正ヲ約定スルコトニ同意ス右ノ目的ノ  
 爲支那國ヘ出來得ル限リ迅速ニ且熱心ニ探礦規則問題全般  
 ニ五リテ審議シ及合衆國並其他ノ諸國ノ規則中ヨリ支那國  
 ニ適用セラルヘキモノト思惟セラルル規則ヲ採擇シ以テ支  
 那國臣民ノ利益ヲ促進シ且何等支那國ノ主權ヲ侵害セサル  
 一方ニ於テ外國資本ノ誘引ニ付決シテ障礙ヲ與ヘス又外國  
 資本家ニ對シ該資本家カ一般的ニ承認セラレタル外國規則  
 ノ適用ヲ受クヘキ場合ヨリモ一層大ナル不利益ヲ蒙ラシメ  
 ス且合衆國人民カ改正新規則及支那國カ自國臣民且外國人  
 ニ對シ鑛山ノ探掘、鑛城ノ賃借並鑛山使用料ノ支拂ニ關シ  
 テ課スル條件並右外國資本カ特許ノ出願ヲ爲ス場合探礦  
 事業ニ關シテ必要ナル事務ニ付遵守スヘキ特許規定ニ從フ  
 コトヲ條件トシテ支那國領土ニ於テ探礦事業及其他該事業  
 關係ノ必要事務ヲ行フコトヲ得ル現行探礦規則ヲ改正ス  
 ルモノトス右ノ探礦事業ニ關係スル合衆國人民ノ居住ハ各  
 衆國及支那國間ニ協定セラルル規則ニ從フモノトス  
 右ノ新規則公布後許與セララルル一切ノ探礦利權ハ該新規則  
 ノ規定ニ從フモノトス

第八條 税金拂戻證書

税金拂戻ニ對スル拂戻證書ハ該證書下付申請許可書ヲ帝國

海關ニ提出後三週間內ニ該海關ヨリ合衆國人民ニ對シ之ヲ  
 發給ス且右證書ハ額面價格ヲ以テ發給港ニ於ケル一切ノ種  
 類ノ稅(噸稅ヲ除ク)ノ支拂ノ用ニ供セラルヘク又ハ輸入ノ  
 日ヨリ三年內ニ再輸出セラレタル外國貨物ニ對スル税金拂  
 戻ノ場合ニハ該證書所持人ノ任意ニ依リ帝國海關ハ發給港  
 ニ於テ其額面價格ヲ現金ヲ以テ償還スルモノトス但シ拂戻  
 證書申請ニ關シ海關官憲カ歲入詐取ノ企圖ヲ發見スル場合  
 ニハ申請者ハ天津條約第二十一條所定ノ歲入詐取ノ發覺ノ  
 場合ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ處罰スルモノトス貨物カ支  
 那國領土ヨリ搬去セラレタル場合ニハ領事ハ支那國政府ニ  
 支拂フヘキ相當罰金ヲ犯罪當事者ニ對シ課スルモノトス

第九條 商標ノ保護

合衆國政府ハ何レノ國ト雖モ正當ナル商標ノ專用ニ付條約  
 ニ依リ合衆國人民ヲ保護スルコトニ同意スル場合ニハ合衆  
 國內ニ於テ該國ノ人民ニ對シ同様ノ保護ヲ與フルコトヲ約  
 スルカ故ニ

茲ニ支那國政府ハ其臣民ニ對スル合衆國內ニ於ケル右ノ保  
 護ヲ確保スル爲一切ノ正當ナル商標ニシテ合衆國ノ人民、  
 商館若ハ會社カ合衆國內ニ於テ其專用ノ權利ヲ有スルカ又  
 ハ支那帝國內ニ於ケル専用ノ爲採用シ且使用シタルカ若ハ

登録後直ニ採用且使用セムトシタルモノノ支那帝國內ニ於  
 ケル専用ニ付合衆國ノ一切ノ人民、商館若ハ會社ヲ充分保  
 護スルコトニ同意ス右ノ目的ノ爲支那國政府ハ合衆國人民  
 ノ商標ニシテ合衆國相當官憲カ支那國政府ノ設置スヘキ登  
 録事務所ニ於テ支那國官憲ノ相當審査ノ後相當料金ヲ支拂  
 ヒ且相當取締規則ニ從ヒテ登録シタルモノノ支那國一切ノ  
 臣民ニ依ル侵害、模造、色彩ノ模倣又ハ模造詐欺ヲ禁止ス  
 ル法律的效力ヲ有スル布令ヲ其相當官憲ヲシテ發布セシム  
 ルコトニ同意ス

第十條 專賣特許ノ保護

合衆國政府ハ支那國臣民カ合衆國ニ於テ其發明ノ專賣特許  
 登録ヲ爲スコトヲ許與シ且右專賣特許ノ使用及所有ニ付支  
 那國臣民ヲ保護ス茲ニ支那國政府ハ自國ニ特許局ヲ設置ス  
 ルコトニ同意ス右特許局カ設置セラレ且發明ニ關スル特別  
 法カ採用セラレタル後ハ特許局ハ支那國ニ於テ適法ニ販賣  
 セラレ且支那國臣民ノ先ニ爲シタル發明ヲ侵害セサル商品  
 ニ付合衆國カ合衆國人民ニ發給シタル一切ノ專賣特許證ニ  
 對シ一定ノ年限有效ナル保護證明書ヲ支那國臣民ニ發給セ  
 ラルル特許證ト同様ノ樣式ヲ以テ規定料金徵收ノ上發給ス  
 ルモノトス



第十一條 著作權保護

合衆國政府ハ内國人民ト均等ノ地步ニ於テ著作權ニ關スル利益ヲ合衆國人民ニ與フル一切ノ他國ノ人民ニ對シ自國ノ著作權法ノ利益ヲ與フルコトヲ約スルカ故ニ

茲ニ支那國政府ハ自國國民ニ對シ合衆國ニ於ケル右ノ保護ヲ確保スル爲メ支那國人民ノ使用及教育用トシテ特ニ作成セラレタル書籍、地圖、印刷物若ハ印刷物若ハ一切ノ書籍ヲ支那語ニ翻譯シタル物ノ著者、圖案家若ハ所持者タル一切ノ合衆國人民ニ對シテ同様ノ方法及様式ノ下ニ及支那國政府カ商標保護ニ同意スルニ付基キタル所ト同様ノ條件ニ從ヒ登錄ノ日ヨリ十年間支那帝國內ニ於テ右ノ書籍、地圖、印刷物若ハ印刷物若ハ一切ノ書籍及販賣スルノ獨占權ニ付充分ナル保護ヲ與フルコトニ同意ス前記ノ書籍地圖等ニシテ同一ノ形式ヲ以テ再版スルヲ得サルモノハ之ヲ除キ如何ナル著作物ト雖モ本條ノ下ニ於テハ著作權ノ特權ヲ與ヘラレサルモノトス支那國國民ハ合衆國人民ノ書キタル書籍又ハ其編輯シタル地圖ノ支那語譯ノ原文ヲ作成、印刷及販賣スルノ自由ヲ有スルモノトス

本條ハ支那國ノ安寧ヲ阻害スヘキ一切ノ出版物ノ著者、所有者又ハ販賣者タル合衆國人民又ハ支那國國民ヲ正當ナル

法律上ノ訴訟ニ對シ保護セサルモノトス

第十二條 内地水路ノ航行

支那國政府ハ千八百九十八年帝國ノ内地航行可能水路ヲ旅客及正當貨物ノ運輸ノ目的ノ爲メ特ニ登錄セラルヘキ内國又ハ外國ノ一切ノ蒸汽船ニ依ル通商ニ開キタルトコロ合衆國人民、商館及會社ハ一切ノ外國ノ國民ニ對シテ許與セラレタルモノト均等ノ條件ニ於テ右ノ通商ニ從事スルコトヲ得

孰レカ一方ノ締約國カ如何ナル時ニ於テモ右通商ニ關スル當時現行ノ法規ヲ變更シ又ハ修正スルコトヲ有利ナリト思惟スル場合ニハ支那國政府ハ支那國ノ通商及利益ノ爲メ必要ナリト思惟セラルル右改正ヲ友好ノ精神ヲ以テ考慮シ且採用スルコトニ同意ス

外國貿易ニ對スル奉天及安東縣ノ開市

支那國政府ハ本條約批准書交換後盛京省內ノ奉天及安東縣ヲ國際的居住及貿易ノ場所トシテ開放スルコトニ同意ス實際の使用及專用ノ爲メ特設セラルヘキ適當ナル地域ノ選定及外國人ノ居住並通商ノ爲メ特設セラレタル右地域ニ關スル諸規則ハ合衆國及支那國政府協議シテ之ヲ定ムルモノトス

第十三條 内國貨幣制度ノ統一

支那國ハ帝國全土ニ於テ合衆國人民並支那國國民カ一切ノ税金及其他ノ債務支拂ニ付法定貨幣タルヘキ統一セラレタル内國貨幣制度ヲ設タル爲メ必要ナル措置ヲ執ルコトニ同意ス尤モ一切ノ關稅ハ從來通り海關兩ニ基キテ計算セラレ且支拂ハルモノトス

第十四條 基督教 其牧師並信徒ノ無差別待遇 宣教師ノ權利義務

新教及羅馬舊教兩教會ノ説ク基督教ノ教理ハ人ニ善ヲ爲シ且他人ヲシテ我ニ爲サシメムト欲スルトコロヲ他人ニ爲スコトヲ教フルモノト之ヲ認ム右ノ教理ヲ辯證ニ説教スル者ハ其信仰ノ故ヲ以テ困惑又ハ迫害セラレサルモノトス右ノ教義ニ從ヒ基督教ノ教理ヲ平穩ニ教ヘ且行フモノハ合衆國人民タルト支那人ノ改宗者タルト間ハ如何ナル場合ニ於テモ之カ爲妨害セラレ又ハ窘迫セラレサルモノトス基督教會ニ加入セル支那人ニ對シテハ何等ノ制限ヲ課セサルモノトス支那國國民タル者ハ改宗者及非改宗者一様ニ支那國法律ニ從ヒ及其共ニ平穩且親善ノ裡ニ生活スル監督者ニ對シ相當ノ尊敬ヲ拂ヒ及改宗者タルノ事實ハ該改宗者ヲシテ其教會加入前犯シタルカ若ハ加入後犯スヘキ一切ノ加害行

爲ノ結果ヨリ免レシムル權保護シ又ハ其信仰ト異ル宗教的慣習及行事ノ維持ノ爲課セラルル稅及寄附金ハ之ヲ除キ一般のニ支那國國民ニ對シテ課セラルル法定ノ稅ノ支拂ヲ免除セシムルモノニ非ス宣教師ハ支那國國民ニ對スル内國官憲ノ管轄權行使ニ干渉セサルヘク又内國官憲ハ改宗者及非改宗者間ニ何等ノ差別ヲ設ケスシテ兩者カ協同ニ平和ナル生活ヲ營ミ得ル様公平ニ法律ヲ執行スヘキモノトス

財產 傳道會社ノ購入シタル土地

合衆國傳道會社ハ該會社ノ財產トシテ傳道的目的ノ爲帝國内ノ一切ノ地方ニ於テ建物又ハ土地ノ賃借及永久借地ヲ爲シ且權限證書カ地方官憲ニ依リ正當ト認メラレテ正式ニ檢印セラレタル後其事業ノ實行ノ爲必要ナルヘキ適當ノ建物ノ建設ヲ爲スコトヲ得

第十五條 司法制度ノ改革 治外法權ノ撤廢

支那國政府其司法制度ヲ改革シ以テ泰西諸國ノ司法制度ト一致セシムルモノトスルノ希望ヲ表明シタルトコロ合衆國ハ右ノ改革ニ一切ノ援助ヲ與フルコトニ同意シ且又支那國法制ノ狀態、其施行設備及其他ノ事項カ治外法權ノ撤廢ヲ現實ニ充分保障スル場合ニハ右治外法權ヲ撤廢スルノ覺悟アルモ



ノトス

第十六條 「モルヒネ」輸入禁止

合衆國政府ハ支那國政府カ「モルヒネ」及其注射器ノ支那國  
ヘノ輸入ヲ禁止スルコトニ同意ス但シ醫藥ノ目的ノ爲關稅  
ヲ支拂ヒ且輸入ヲ右ノ目的ノ限度ニ有效ニ制限スヘキ支那  
國制定ノ取締規則ニ從ヒテ輸入セラルル「モルヒネ」及其注  
射器ハ之ヲ除クモノトス右ノ禁止ハ一切ノ國ヨリノ該輸入  
ニ一律ニ適用セラルルモノトス支那國政府ハ支那國ニ於ケ  
ル「モルヒネ」及其注射器ノ製造ヲ禁止スヘキ措置ヲ直ニ採  
用スルコトヲ約ス

第十七條 本條約所定ノ修正事項以外諸條

約ノ效力存續

締約國ハ合衆國及支那國間ノ諸條約ノ一切ノ條項ニシテ西  
曆千九百年一月一日ニ於テ有效ナリシモノハ本條約又ハ合  
衆國カ一方ノ當事者タル其他ノ諸條約ニ依リ修正セラルル  
限度ヲ除キ完全ニ其效力ヲ存續スルモノトス  
本條約ハ批准書交換ノ日ヨリ起算シテ十年間及以下所定ノ  
通り修正ノ行ハルル迄ハ其效力ヲ存續スルモノトス

修正

且又一方ノ締約國ハ本條約所定ノ關稅率及條項ハ本條約批

准書交換ノ日ヨリ起算シテ十年ノ終ニ於テ改正セラルヘキ  
ヲ要求スルコトヲ得ルモノトス第一期ノ十年ノ終了前ニ改  
正ノ要求ナキ場合ニハ右條項ハ本條約所定ノ形式ノ儘第一  
期終了ノ日ヨリ起算シテ更ニ十年間及以下同様ニ逐次十年  
間完全ニ效力ヲ存續スルモノトス

公文用語

本條約及其三箇ノ附屬書ノ英吉利語及支那語ノ原文ハ慎重  
ナル比較ヲ經タルモ其間何等カ意義ノ相違アル場合ニハ英  
吉利文ノ意義ヲ以テ正當ナルモノトス  
本條約及其三箇ノ附屬書ハ締約國ニ依リ各自國ノ憲法ニ從  
ヒテ批准セラルヘキ且批准書交換ハ本條約日附ヨリ十二月  
以内ニ華盛頓ニ於テ之ヲ行フモノトス  
右證據トシテ下名ハ各自ノ全權ニ依リ英吉利語及支那語ノ  
本條約二通ニ署名調印ス  
西曆千九百三年十月八日即光緒三十九年八月十八日上海ニ  
於テ作成ス

エドウィン、エイチ、コンヂアー (印)  
ジオン、グー、ドノ (印)  
ジオン、エフ、シーマン (印)  
呂 海 宜 懷 (印)

(以下省略 關稅率表)

第一附屬書

合衆國人民ハ既ニ條約ニ依リ阿片ノ取引若ハ取扱ヲ禁止セ  
ラレタルカ故ニ本條約ニ於テハ阿片ニ對スル課稅ニ付何等  
言及セス

鹽ノ取引ハ支那國ニ於ケル政府專賣ナルカ故ニ本條約ニ於  
テハ鹽ニ對スル課稅ニ付何等言及セス

尤モ充分ナル討議及考究ノ結果阿片及鹽ニ對スル内國稅ノ  
徵收並右内國稅收入ヲ保護シ及右貨物ノ不正取引ヲ豫防ス  
ルノ手段ハ他ノ貨物ノ無害通過ニ關スル本條約第四條ノ規  
定ニ何等抵觸セサルヘキ方法ニ依リ支那國政府專ラ之ヲ監  
理スルモノナリト認メラレタリ

エドウィン、エイチ、コンヂアー (印)  
ジオン、グー、ドノ (印)  
ジオン、エフ、シーマン (印)  
呂 海 宜 懷 (印)

第二附屬書

本日附ノ合衆國及支那國間ノ通商條約第四條ハ開港場ニ於

支那國亞米利加合衆國間ノ通商關係擴張ニ關スル條約

ケル内國稅關存置ノ件ヲ規定ス右開港場ニ於ケル支那國ノ  
收入ヲ保護スル爲ニ支那國政府ハ各開港場ニ於テ當該港所  
在ノ主タル内國稅關ヨリ相當ノ距離以内ニ帝國海關官憲カ  
當該港ノ輸出入貿易ヨリ生スル收入ヲ徵收スル爲ニ必要ト認  
ムル派出内國稅關ヲ設置且維持スルノ權利ヲ有スルモノト  
ス各開港場ニ於ケル右派出内國稅關及主タル内國稅關ハ千  
九百一年ノ議定書ニ規定セラレタル帝國海關之ヲ管轄スル  
モノトス

エドウィン、エイチ、コンヂアー (印)  
ジオン、グー、ドノ (印)  
ジオン、エフ、シーマン (印)  
呂 海 宜 懷 (印)

第三附屬書

本條約第五條ニ規定セラレタル本條約附屬ノ輸入貨物關稅  
率表ハ西曆千九百一年九月七日ノ議定書ニ從ヒ支那國及合  
衆國ノ代表者間ニ協定セラレ且合衆國ヲ代表スル「ジオン、  
グー、ドノ」及支那國ヲ代表スル呂海宜及盛宜懷兩閣下ニ  
依リ調印セラレタル關稅率表ナルコトヲ茲ニ相互ニ聲明ス

エドウィン、エイチ、コンヂアー (印)



ジ オ ン、グ ー ド ノ ー (印)  
 ジ オ ン、エ フ、シ ー マ ン (印)  
 呂 海 寰 (印)  
 盛 宣 懷 (印)

【參考】

米國ノ一九二二年對支通商條例

(千九百二十二年九月十九日大統領裁可)

本條例ハ通商ノ發展ヲ計ラシカ爲メ支那ニ於テ會社ヲ設立スルコトヲ得シムルヲ目的トス、本條例ハ亞米利加合衆國元老院及代議院カ聯邦議會ノ議ヲ經テ之ヲ制定ス

第一條 本條例ハ「一九二二年對支通商條例」(China Trade Act 1922) トシテ引用セラルヘシ

定 義

第二條 本條例ノ用語例左ノ如シ、但シ前後ノ關係ニ依リ別段ノ意義ヲ示ス場合ハ此限ニ在ラス

人(Person)ナル語ハ個人(individual)、組合(partnership)、會社(corporation)及團體(association)ヲ包含ス、支那ナル語ハ(一)滿洲、西藏、蒙古及支那カ外國政府ニ租借ヲ

許セル地域ヲ合ム支那、(二)香港直轄殖民地、(三)澳門州(Province of Macao)ヲ意味ス、會社(corporation)ナル語ハ本條例ノ規定ニ依リテ設立ヲ認可セラレタル會社ヲ意味ス、聯邦區裁判所(Federal district court)ナル語ハ各聯邦區裁判所(Federal district court)、合衆國支那裁判所(United State court for China)「ナハハ」區ノ大審院(Supreme Court of the District of Columbia)ヲ意味ス、登記官吏ナル語ハ第三條ニ依リ任命セラレタル對支通商條例登記官吏ヲ意味ス

登記官吏

第三條 商務卿ハ商務省ノ一官吏ヲ支那條例登記官吏ニ任命スルノ權能ヲ有ス、登記官吏ノ事務所ハ支那國內ニ商務卿ノ指定シタル場所ニ置カルヘシ、本條例ニヨリ登記官吏ニ與ヘラレタル職權ハ商務卿監督ノ下ニ登記官吏自ラ執行スヘシ、但シ商務卿ニ上告ノ場合規定ニ基キ登記官吏ノ行爲ハ商務卿ニヨリ承認、變更又ハ撤回セラルルコトアルヘシ

設立定款

第四條 (イ)五人以上ノ個人(以後本條例ニ於テ「設立者」ト稱ス)ニシテ其半數以上カ合衆國ノ公民ナルトキハ本

條例ノ規定ニ準シ支那ニ於テ營業ノ目的ヲ以テ會社ヲ設立スルコトヲ得

(ロ)會社設立者ハ設立認可ノ申請ヲ爲シ規則ニ依リテ定メラルヘキ方法並形式ニ依リ商務卿ニ申請書ヲ提出スヘシ、申請書ニハ左記ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- (一)設立セントスル會社ノ名稱(但シ其名稱ハ其末尾「Federal Inc U.S.A.」ナル文字ヲ附スルコトヲ要ス)
- (二)本店ノ所在地(本店ハ「コロンビア」區内ニ置クコトヲ要ス)
- (三)會社設立ノ目的並其從事スヘキ業務ノ性質
- (四)資本金總額、各種株式及其發行條件、各株式ノ數、額面額ノ表示
- (五)會社ノ存續期間(但シ二十五箇年ヲ超ユルコトヲ得ス、然レトモ其設立認可ハ設立ノ際ニ於ケル認可ノ條件ト同一條件ノ下ニ更新スルコトヲ得)
- (六)各箇人ノ姓名、住所(其半數以上ハ合衆國ノ公民タルコトヲ要シ内少クトモ一人ハ「コロンビア」區ノ居住者タルヲ要ス)
- (七)資本金ノ二割五分ニ當ル金額ニ對スル引受アリテ現金又ハ第八條ノ規定ニヨリ現實ニ拂込ムコト、又ハ

取締役ノ保管セル箇人財産ニテ拂込ムコト

(八)爲替手形、約束手形、其他ノ債券證券ノ割引、預金、爲替手形ノ賣買、流通ヲ目的トスル各種手形其他ノ債券證券ノ發行等ノ業務並一般銀行業又ハ保險業ニ從事スルコトヲ得ス

會社設立認可

第五條 會社設立認可ノ申請書カ商務卿ニ提出セラレタル場合商務卿ハ夫レカ本條例ノ規定ニ合シ本條例ニ依ル會社ナルコトヲ認ムル設立認可證ヲ發行ス但シ次ノ諸項ヲ必要トス(イ)設立手数料百弗ヲ支拂フコト(ロ)設立定款及其記載事項本條例ニ合シ該會社カ本條例ニ依リ許可セラルヘキモノナリト認ムルコト(ハ)會社カ米國物産ノ爲メ支那ニ販路ヲ開拓シ得ルモノト認ムルコト、設立定款ハ設立認可證ノ一部分トシテ全部之ニ際寫セラルヘキモノナリ、會社設立者ニ於テ設立認可證下付以前又ハ其申請ニ關シテ法律ニ定メラレタル認可證下付ノ條件タル法律要件ヲ具備セサルコトアリト雖モ既ニ認可證ガ下付セラレタル以上ハ其後ニ於テ之カ爲メニ認可證ヲ無効ナラシメ又ハ認可證ニ基キテ爲セル會社ノ行爲ノ法律上ノ效果ヲ變セシメラルル事ナカルヘシ、但シ登記官吏カ認可撤回



ノ手續ヲ履行セル場合ハ此限ニ在ラス

第六條 會社ハ本條例ノ他ノ條項ニテ許可セラレタル權限ノ外(イ)存續權ヲ有ス(ロ)社印ヲ有シ任意ニ之ヲ變更スルコトヲ得(ハ)訴訟ノ原被兩當事者タルコトヲ得(ニ)設立定款ニテ許可セラレタル業務並之ニ附隨スル業務ノ營業權ヲ有ス(ホ)契約ヲ締結シ責任ヲ負擔スルコトヲ得(ヘ)會社設立ノ目的遂行ニ必要ナル有體無體ノ動産並不動産ヲ取得シ、所有シ且必要ナキニ至レハ之ヲ處分スルコトヲ得(ト)金錢ヲ借入レ手形、利札、記名式社債又ハ其他ノ債券證券ヲ發行シ會社ノ所有財産ヲ擔保トシテ債務ノ辨濟ヲ保證スルコトヲ得(チ)支那ニ支店ヲ置クヲ得

株 券

第七條 會社ノ發行株ハ額面額ニ於テ金錢又ハ第八條ノ規定ニ依ツテ拂込マルコトヲ要ス、全額拂込済トナラサル以前ニ其ノ如キ株券ヲ發行スルヲ得ス

第八條 會社ノ株券ハ第七條又ハ第四條(ロ)項(七)段ノ目的ノ爲メ有體又ハ無體ノ動産又ハ不動産ヲ以テ拂込マルルヲ要ス、但シ(一)財産價格證明書カ規定ニ從ヒ會社ヨリ商務卿又ハ登記官吏ニ提出セラレ規定ノ手数料ヲ支拂セタル場合(二)商務卿又ハ登記官吏カ其財産價格カ公平

ナル市價以下ナラスト認メタル場合ハ此限ニ在ラス

細 則

第九條 細則(Regulations)トシテ左記ノ事項ニ關シテ規定スルコトヲ得(イ)株主若クハ取締役ノ通常又ハ臨時會議開催ノ時日、場所、其招集通知並議事ノ方法、定足數ノ決定ニ關スル件(ロ)取締役ノ數、資格、任命、選任方法、任期並報酬ニ關スル件、但シ取締役ノ數ハ三名ヲ下ルコトヲ得ス、取締役ノ半數以上並社長、會計係、秘書役若クハ之ニ相當スル職責ヲ有スル役員ノ半數以上ハ支那ニ住所ヲ有スル合衆國ノ公民タルコトヲ要ス(ハ)各種株式ノ拂込及之カ徵收ノ方法、拂込ナキ場合ニ於ケル罰則及沒收、株券ノ作製、株式ノ賣買讓渡ノ登錄方法、株主會議ニ於ケル代表方法

株主總會

第十條 (イ)會社ノ株券發行後六箇月以内ニ會社ノ本店又ハ支店ニ株主總會ヲ開催スヘシ、此總會ハ會社ノ取締役ノ過半數ニ依リ招集セラルヘク各株主ハ少クモ總會ノ九十日前ニ口頭又ハ書狀ヲ以テ通告ヲ與ヘラルヘシ、株券三分ノ二ノ株主ヲ以テ其總會ニ於ケル定足數トス、總會ニ於テハ會社ノ細則ヲ總會ニ於テ代表セラレタル株券ノ

過半數ヲ以テ採擇スルヲ得

(ロ)左記ノ各項ハ株主カ株主總會ニ於テ爲スニ非サレハ之ヲ決議スルコトヲ得ス

(一)細則ノ採擇、(二)定款又ハ細則ノ變更、(三)會社ノ營業全部若クハ其獨立セル一部門賣却ノ承認、(四)會社ノ任意解散ノ承認、(五)會社ノ存在期限ノ延長ノ承認

(ハ)上記ノ變更若クハ承認ノ採決ニハ投票權附株式ノ三分ノ二以上ノ贊成アルコトヲ要ス、該變更又ハ承認ハ左ノ條件ヲ備フルニ非サレハ其效力ヲ發生セス

(一)會社カ法定ノ方法及形式ニ依リ採ララルヘキ行爲ヲ陳述シタル際本ヲ商務卿ニ提出シ商務卿カ該變更又ハ承認ハ本條例ノ要件ニ合致セルコトヲ承認セルコト、(二)會社ノ細則及其變更シタルモノ並株主總會細則等ノ際本ヲ登記官吏ニ提出スルコト

取締役

第十一條 設立定款ニ依リ任命セラレタル取締役ハ後任者就任マテ會社ノ全權ノ行使ヲ司ル但シ法律又ハ會社ノ定款或ハ細則ニ依リ株主ニ付與セラレタル權限ハ此限ニ在ラス、其後會社細則ニ依リ選任セラレタル取締役ハ會社

米國ノ一九二二年對支通商條例

ノ全權ノ行使ヲ司ル但シ株主ニ付與セラレタル權限ハ此限ニ在ラス、其權限行使ニ當リ取締役ハ必要ナル場合會社ノ役員、使用人等ノ任免更迭ヲ行フコトヲ得

報告及記錄檢閱

第十二條 (イ)本條例ニ於テハ會社ノ會計年度ハ十二月三十一日ヲ以テ終ル曆年ト一致スルコトヲ要ス、會社ハ法定ノ方法、形式及時日ニ於テ毎會計年度ニ於ケル營業狀態並年末ニ於ケル財政狀態ノ報告書ヲ登記官吏ニ提出スヘシ、會社ハ各株主ニ該營業報告ノ正確ナル寫本ヲ提供スヘシ

(ロ)登記官吏ハ各報告、認可書其他本條例ノ規定ニ依リ登記官吏カ發受シタル書類ノ寫本ヲ商務卿ニ提出スヘシ、商務卿ハ會社設立認可申請書及本條例ノ規定ニ依リ商務卿カ發受シタル認可書ノ寫本ヲ登記官吏ニ送致スヘシ、斯ル書類ハ總テ登記官吏及商務卿ノ事務所ノ記錄ニ留メ置キ規定ニヨル檢閱ニ供スヘシ

配 當

第十三條 會社ノ爲ス利益配當ハ總テ營業純益中ヨリ支出スルヲ要ス  
設立認可撤回



第十四條 登記官吏ハ會社ノ業務カ本條例其他ノ法律若クハ合衆國政府ノ締結セル條約ノ條項、會社ノ定款若クハ細則ニ違反セサルカヲ確ムル爲メ會社ノ業務ヲ調査スルコトヲ得、登記官吏ハ會社ノ業務カ其ノ如キ場合合衆國支那裁判所ニ於テ會社ノ設立認可ノ撤回取消手續ヲ行フコトヲ得、取消手續ノ最終決定マテ裁判所ハ何時ニテモ登記官吏ノ申請又ハ裁判所自身ノ發意ニ基キ會社ノ業務狀態ニ對シ適當トスル命令ヲ發スルコトヲ得

第十五條 (イ)登記官吏ハ本條例ニ依リ付與セラレタル職權ノ執行ノ爲メ自己又ハ自己ノ命令ニ依リ發行シタル呼出狀ヲ以テ左ノ件ヲ要求スルコトヲ得(一)支那ニ於テ指定セラレタル訊問所へ支那ノ何地ヨリナリトモ證人トシテ出頭スルコト並帳簿、文書、書類其他ノ證據物件ノ提出若クハ證人カ支那以外ノ地ニ現住シ又ハ一時滞在セル場合該證人ノ現住所又ハ滞在在地ヨリ五十哩以内ノ如何ナル指定訊問地ニ於テモ同様ノコトヲ爲スコト(二)宣誓ヲナサシムル權限ヲ付與セラレタル者ノ面前ニ於テ供述ヲ爲セシムルコト、供述ヲナセル場合供述ヲ爲サシメタル者又ハ其者ノ命令ニ依リ其證言ヲ文書ニ認メ供述者之ニ署名スルヲ要ス、登記官吏又ハ登記官吏ノ命ヲ受ケタル

役員、使用人又ハ米國官吏ハ宣誓ヲナサシメ且證人ヲ訊問スルコトヲ得

本條ニ依リ呼出サレタル證人並供述ヲ爲セル證人ニ對シテハ其何人タルヲ問ハス合衆國ノ裁判所ニ於テ證人ニ支拂フト同額ノ日當及旅費ヲ支拂フコトヲ要ス

(ロ)如何ナル證人タルヲ問ハス呼出狀ヲ受ケテ出頭セス又ハ登記官吏ノ面前ニ出頭スルモ其命令ニ服セサル場合登記官吏ハ聯邦裁判所ノ共助ヲ要求スルコトヲ得、共助ノ要求ヲ受ケタル裁判所ハ證人ニ呼出狀ノ命スル所ニ從フヘキコト及戰爭事實ニ關スル證據物件ノ提供ヲ命スルコトヲ得、此命令ニ從ハサル場合ニハ裁判所ハ法廷侮辱罪(Contempt)トシテ處罰スルコトヲ得

(ハ)何人ト雖モ文書若クハ其他ノ方法ニ依ル舉證又ハ證據カ自己ヲシテ犯罪者タラシメ罰金若クハ沒收ニ處セラレルル供アリトノ理由ヲ以テ呼出ニ應ジ證言シ供述シ若クハ帳簿文書其他ノ證據物件ノ提出ヲ拒ムコトヲ得ス、然レトモ何人タルヲ問ハス呼出狀及宣誓ニ從ツテ文書又ハ其他ノ證據方法ニ依リテ行爲、事件、事物ニ關シテ如何ナル證言又ハ證據ノ提供ヲ爲スモ該行爲、事件、事物ヲ理由トシテ訴追セラレ罰金若クハ沒收ニ處セラレルコト

ナシ、但シ該舉證ノ際ニ於ケル偽證ニ關シテハ訴追及處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

(ニ)本條例ニ依リテ登記官吏ニ付與セラレタル職權ノ行使ヲ全カラシメンカ爲メニ登記官吏自身又ハ登記官吏カ文書ニ依リ適法ニ權限ヲ與ヘタル官吏、雇人又ハ代理人ハ檢査ノ目的ニ適當ナル時ニ於テ何時ニテモ會社ノ業務ニ關スル帳簿、計算、記録、書類、信書等ヲ閱覽シ並其寫本ヲ作成スルコトヲ得、何人ト雖モ適法ニ權限ヲ與ヘラレタル官吏、雇人又ハ代理人ノ請求ヲ受ケテ前述ノ閱覽又ハ寫本作成ヲ拒ミ又ハ此等ノ權利ノ行使ヲ妨碍シ或ハ之ニ抵抗スル者ハ其違法行爲ノアル毎ニ五百弗以下ノ罰金ニ處ス、上記ノ罰金ハ合衆國ノ名義ニテ提起セラレタル民事訴訟ニ依リテ徵收スルコトヲ得

第十六條 會社ノ任意解散、設立認可ノ撤回ノ場合ニハ取締役ハ會社ノ債權者及株主ノ爲メニ清算人ト爲ル、但シ利害關係人カ合衆國支那裁判所ニ訴訟ヲ提起シタル場合又ハ裁判所自身ノ發意ニ依リテ既ニ繫屬セル訴訟手續中ニ於テ裁判所カ自由裁量ニ依リテ取締役以外ノ者ヲ選任シテ清算人ト爲ス場合ハ此限ニ在ラス、清算人ハ會社ノ業務ヲ終了シ及會社ニ對スル一切ノ債務ノ完済後ニ於テ

猶存在スル會社ノ財産ヲ各株主ニ適宜分配スルニ必要ナル權限ヲ有シ且之ニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スヘキモノトス、本條ノ目的ニ關シテハ清算人ハ會社ヲ代表シテ訴訟ノ原告及被告ト爲ル、而シテ清算人トシテ自己ノ保管スル財産ノ範圍内ニ於テ會社ノ株主及債權者ニ對シテ連帶及單獨ニ責任ヲ負フ

刑罰

第十七條 (イ)商務卿ハ本條例ニ依リ自身又ハ登記官吏ニ與ヘラレタル職權ノ行使ヲ全カラシムルニ必要ナル規則ヲ制定スル權限ヲ有ス

第十八條 株主、取締役、役員、使用人又ハ會社ノ代理人ハ何レモ既ニ發行セラレタル會社ノ株券、債券又ハ其他債務ノ證據物件ノ價格或ハ價格ニ變動ヲ及ホス如キ事實並會社ノ財政狀態又ハ財政方法或ハ夫レニ變動ヲ及ホス如キ事實ニツキ文書タルト口頭タルヲ問ハス其虛偽ナルヲ知ル又ハ虛偽ナルヲ信スル理由アル陳述又ハ諸種ノ廣告ヲ作製、發行又ハ發表スルヲ得ス、株主、取締役、役



員、使用人又ハ會社ノ代理人ハ會社ノ法定資本カ拂込ラ  
了セサル場合如何ナル形式ニ依ルヲ問ハス文書又ハ廣告  
ヲ作製、發行又ハ發表シテ現實拂込額ヲ述ヘスシテ法定  
資本額又ハ現實拂込額以上ノ額ヲ述フルコトヲ得ス。本  
條ノ條項ニ違反シタルモノハ五千弗以下ノ科料又ハ十年  
以下ノ禁錮或ハ其兩者ニ處セラルヘシ

第十九條 本條例又ハ合衆國法律ノ下ニ設立セラレサル箇  
人、團體、會社ハ「Federal Infr. U.S.A.」ナル文字ヲ付  
シタル名稱ノ下ニ支那ニ於テ營業スルヲ得ス、本條ノ違  
反者ハ一千弗以下ノ科料ニ處ス

會社裁判管區

第二十條 聯邦區裁判所ハ會社、株主及取締役其他ノ役員  
ニ對シ各其資格ニ於テ提起セラレタル訴訟ノ專屬第一  
審裁判管轄權ヲ有ス(但シ「千九百零六年六月三十日通過ノ  
改訂合衆國支那裁判所構成及管轄ニ關スル條例」An  
Act creating a United State Court for China and prescri-  
bing the jurisdiction thereofノ規定スル所ニ從フヘキ場  
合ハ此限ニ在ラス)、會社ニ對スル訴訟ハ合衆國支那裁判  
所又ハ「コロンビア」區高等法院ニ、又ハ會社カ代理店ヲ  
有シ營業ヲナセル土地ノ聯邦地方裁判所ニ提起スルコト

ヲ得

聯邦課程

第二十一條 一九二二年歳入條例第二章ハ其末尾ニ左ノ新  
條項ヲ追加ス  
「第二百六十四條(イ)會社カ一九二二年對支通商條例ノ  
下ニ組織セラレタル場合第二百三十條ニ依リ課セラレタ  
ル税金ノミノ爲メ支那ニ於ケル財源ヨリ生スル純收入即  
チ支那在住米支人カ會計年度末ニ所有スル株券面額カ富  
日ニ於ケル會社ノ株券面額全體ニ對スル割合ニ依リ社債  
ヲ許可セラル、但シ第二百三十條ニ依リ課セラレタル稅  
額カ其社債カ本條(ロ)ノ下ニ保證セラレタル特別配當額  
ヲ超過シタリトノ理由ヲ以テ輕減セラルルヲ得ス  
(ロ)斯クノ如キ社債ハ商務卿カ委員ニ左ノ事項ヲ保證セ  
サル限許可セラレサルモノトス(一)報告提出前一箇年間  
會社カ會計年度ノ終ニ於テ在支米支人タリシ者ニ特別配  
當トシテ支拂ヒタル額及會社ノ所有株(二)斯クノ如キ特  
別配當ハ其ノ如キ各箇人ニ支拂フ他ノ諸配當以外ノモノ  
ナルコト及(三)斯クノ如キ配當ハ各人ノ所有スル會社株  
券ノ額面價ニ比例シテ各箇人ニ支拂ハルヘキコト但シ會  
社カ一種以上ノ株券ヲ有シ其株券ニ會社條款中ニ斯クノ

如キ特別配當ヲ特別ノ箇人ニ行フ方法ヲ規定シアル旨並  
支拂額ハ規定ノ方法ニ依リ配當スル旨明記シアル場合ハ  
此限ニ在ラス

(ハ)本條ノ目的ノ爲メ會社ノ株券ハ各所有者ニ公平ナル  
收入ヲ與フ  
(ニ)本條ニ於テ用フル「支那」ナル語ハ一九二二年對支通  
商條例ニ用ヒラレタルモノト同一トス」

第二十二條 一九二一年歳入條例第二百三十條(ロ)項ハ左  
ノ如ク改正ス  
「爾後毎年第二百三十六條及第二百六十四條ニ規定ノ社  
債ニ超過スル純收入額ノ一割二分五厘」

第二十三條 一九二一年歳入條例第二百三十八條(一)項中  
「二百六十二」ノ次ニ「又ハ二百六十四」ヲ追加ス  
第二十四條 一九二一年歳入條例第二百四十條(ハ)項ノ終  
ニ左ノ如ク追加ス

「一九二二年對支通商條例ノ下ニ組織セラレタル會社ハ  
本條ノ意味ニ於テ他ノ會社ト合併スルヲ得ス」  
第二十五條 一九二一年歳入條例第二條ノ終ニ左ノ如ク追  
加ス

「(十二)一九二二年對支通商條例ノ下ニ組織セラレタル

會社ハ本條ノ目的ノ爲メ内國會社ト看做サル」

第二十六條 一九二一年歳入條例第二百十三條(ロ)項ハ其  
(十二)段ノ終ノ「ビリオド」ヲ「セミコロ」ニ換ヘ追加ス  
ルコト左ノ如シ  
「(十三)一箇人ノ場合若シ其時在支支那人ナリト雖モ會  
社ノ株券ノ收入ニ對シ公平ナル權利アラハ一九二二年對  
支通商條例ノ下ニ組織セラレタル會社ノ配當ヲ受クルモ  
ノトス」

第二十七條 一九二一年歳入條例第二百十六條(イ)項、第  
二百三十四條(イ)項(六)段、第二百四十五條(イ)項(三)  
段ハ何レモ其「二百六十二條」ナル文字ノ次ニ「コンマ」ト  
左ノ文字ヲ挿入スルモノトス  
「及一九二二年對支通商條例ノ下ニ組織セラレタル會社  
以外ノモノ」

修正權保留  
第二十八條 合衆國聯邦議會ハ本條例ノ規定ヲ變更、修正  
又ハ撤回スル權能ヲ留保ス

修正權保留  
第二十八條 合衆國聯邦議會ハ本條例ノ規定ヲ變更、修正  
又ハ撤回スル權能ヲ留保ス



# 關稅條約

千九百二十八年七月二十五日北京ニ於テ訓印

亞米利加合衆國及支那共和國ハ幸ニ兩國間ニ存在スル親善關係ヲ保持セントノ熱心ナル希望ニ促サレ且兩國間ノ通商關係ヲ擴張シ鞏固ナラシメンコトヲ希望シ是等ノ目的ヲ促進スヘキ條約ヲ商議セシムルノ目的ヲ以テ左ノ如ク各全權委員ヲ任命セリ

亞米利加合衆國大統領

支那國駐劄亞米利加合衆國特命全權公使

「チエイ、グイ、エー、マクマレー」

支那共和國國民政府委員會

宋 子 文

因テ各全權委員ハ會合ノ上互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メタル後兩國間ノ左ノ條約ヲ協定セリ  
第一條 亞米利加合衆國及支那國間ニ從來締結セラレ且現ニ效力ヲ有スル諸條約ニ掲ケラレタル一切ノ規定ニシテ支那國ニ於ケル商品ノ輸入及輸出ニ對スル稅、戻稅、通

加稅及噸稅ノ稅率ニ關スルモノハ之ヲ廢止シ其ノ效力ヲ喪失セシメ完全ナル國家ノ關稅自主權ノ原則ヲ適用スヘシ但シ締約國ノ一方ハ他ノ一方ノ領域内ニ於テ前記ノ事項並ニ之ニ關聯スル一切ノ事項ニ關シ別國ニ許與セララル待遇ニ比シ毫モ差別的ナラサル待遇ヲ享有スルコトヲ條件トス

何レノ締約國ノ國民モ他方締約國ノ領域内ニ於テ其ノ輸入及輸出ニ際シ如何ナル口實ヲ以テスルモ該國ノ國民又ハ別國ノ國民ノ納付スル所ト異ルカ又ハ之ヨリ高キ何等ノ關稅、内地課金又ハ租稅ヲモ徵收セラルルコトナカルヘシ

前二項ノ規定ハ千九百二十九年一月一日ヨリ實施セララルヘシ但シ次條ニ規定スル批准書交換カ該期日迄ニ行ハレタル場合ニ限ル然ラサル場合ニハ批准書交換後四月ヲ以テ實施セラルヘシ

第二條 本條約ノ英吉利文及支那文ハ價重ニ比較照合セラレタルモ兩文ノ間ニ意義ノ相違アリタル場合ニハ英吉利文ニ表示セラレタル意義ニ據ルモノトス

右證據トシテ下名ハ其ノ權限ニ基キ英吉利語及支那語ニテ作成セラレタル本條約二通ニ署名訓印セリ  
千九百二十八年七月二十五日即支那共和國十七年七月二十五日北平ニ於テ作成ス

チエイ、グイ、エー、マクマレー (印)  
宋 子 文 (印)

## 支那移民取締條約(一八八〇年)

千八百八十年十一月十七日北京ニ於テ訓印  
千八百八十一年七月十九日北京ニ於テ批准  
書交換

咸豐八年即西曆千八百五十八年不和修好條約カ亞米利加合衆國及支那國間ニ締結セラレ同治七年即西曆千八百六十八年兩國ノ爲若干ノ補足條項ヲ追加シ該補足條項ハ恒久ニ遵守セララルヘキモノナルカ故ニ合衆國政府ハ合衆國領土ニ到來スル支那勞働者移住ノ不斷ノ増加竝該移住ニ伴フ諸ノ困難ノ爲ニ今ヲ現存條約ニ對シ其精神ヲ直接侵害セスシテ加ヘラルヘキ改正ヲ商議セムコトヲ欲スルカ故ニ

支那移民取締條約(一八八〇年)

茲ニ亞米利加合衆國大統領ハ「ミシガン」州ノ「ジエームス、ビー、エンジェル」州ノ「カリフォルニア」州ノ「ジオン、エフ、スウィフト」及南「コロリナ」州ノ「ウイリアム、ヘンリー、トレスコット」州、支那國皇帝陛下ハ大學士袁孝及大學士帥安箇ヲ全權委員ニ任命シ右全權委員ハ相互ニ其全權委任狀ヲ審查シ且現存條約ニ加ヘラレ得ヘキ修正點ヲ討議シテ左ノ修正條項ヲ協定セリ

第一條 支那勞働者ノ來住ヲ禁シ得サルモ取締ヲ制限シ若ハ中止シ得ル合衆國政府ノ權利

合衆國政府ノ意見ニ於テ支那勞働者ノ合衆國ヘノ到來若ハ合衆國內ノ居住カ該國ノ利益ヲ害セムトシ又ハ該國領土内ノ何レカノ地方ノ秩序ヲ紊サムトスルモノナリト認ムル場合ハ其場合ノ如何ヲ問ハス支那國政府ハ合衆國政府カ右ノ到來又ハ居住ヲ取締リ、制限シ若ハ中止シ得ルモ絕對的ニ禁止シ得サルコトニ同意ス制限若ハ中止ハ合理的ナルヘク且單ニ勞働者トシテ合衆國ニ行ク支那人ニノミ適用セララルヘク其他ノ階級ノ若ハ右取締ヲ受ケサルモノトス支那勞働者ニ關スル立法ハ單ニ移民ノ取締、制限若ハ中止ヲ強行スルニ必要ナル性質ノモノタルヘク且移民ハ簡人的虐待若ハ



凌辱ヲ蒙ラサルモノトス

第二條 支那國臣民ノ合衆國到來及合衆國

出發ノ自由

教師、學生、商人トシテ行クト又ハ好奇心ノ爲ニ行クトハハ一時のニ合衆國領土内ニ居住スル者カ右支那人以外ノ何人カノ爲ニ虐待ヲ蒙リタル場合ニハ合衆國政府ハ全力ヲ盡シテ其保護ノ爲ニ措置ヲ講シ且最惠國人民若ハ臣民カ條約ニ依リテ與ヘラレ且其享有スルト同一ノ權利、特權、不可侵及免除ヲ確保スヘシ

第三條 保護

支那勞働者又ハ其他ノ階級ノ支那人ニシテ目下永續的ニ若ハ一時的ニ合衆國領土内ニ居住スル者カ右支那人以外ノ何人カノ爲ニ虐待ヲ蒙リタル場合ニハ合衆國政府ハ全力ヲ盡シテ其保護ノ爲ニ措置ヲ講シ且最惠國人民若ハ臣民カ條約ニ依リテ與ヘラレ且其享有スルト同一ノ權利、特權、不可侵及免除ヲ確保スヘシ

第四條 支那國政府ニ通告スヘキ合衆國立

法手段

締約國ハ前諸條ヲ協定シタルトコロ合衆國政府カ右諸條ニ準據スル立法手段ヲ採用スヘキ場合ハ其場合ノ如何ヲ問ハス該立法手段ハ之ヲ支那國政府ニ通告スヘシ施行セラレタ

支那移民取締條約(一八九四年)

千八百九十四年三月十七日華盛頓ニ

於テ調印

千八百九十四年十二月七日華盛頓ニ

於テ批准書交換

西曆千八百八十年十一月十七日(光緒六年十月十五日)支那移民ノ合衆國ヘノ來住ノ取締、制限又ハ中止ヲ目的トスル條約カ合衆國及支那國間ニ締結セラレタルカ故ニ

及支那國政府ハ支那勞働者ノ居住カ合衆國ノ或地方ニ於テ惹起シタル敵愾心及訾ラス非難セラレタル重大ナル不秩序ニ顧ミ、斯ル勞働者ノ支那國ヨリ合衆國ヘノ移住ヲ禁止セムコトヲ欲スルカ故ニ

及兩國政府ハ斯ル移民禁止ニ協力シ且他ノ方途ニ於テ兩國友好ノ紐帶ヲ鞏固ナラシメムト欲スルカ故ニ

及兩國政府ハ相互ニ他方國ノ法權内ニ於ケル自國人民又ハ臣民ヲ一層克ク保護セムカ爲相互的手段ヲ採用セムコトヲ欲スルカ故ニ

茲ニ合衆國大統領ハ合衆國國務卿「オルター、キユー、グ

支那移民取締條約(一八九四年)

ル右立法手段カ支那國臣民ニ對シ苛酷ナルモノト認メラレタル場合ニハ華盛頓駐劄支那國公使ハ合衆國國務卿ニ該事項ヲ通告シ合衆國國務卿ハ右支那國公使ト共ニ該事項ヲ審議シ且支那國外務部モ亦北京駐劄合衆國公使ニ該事項ヲ通告シテ該事項ヲ右合衆國公使ト共ニ審議シ以テ相互的且無條件的の利益ノ結果セムコトヲ期スヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ北京ニ於テ英吉利文及支那文ノ本書ニ署名調印シ各本文三通ノ謄本及日附ハ同一ニシテ其批准書交換ハ本條約締結ノ日ヨリ一年內ニ北京ニ於テ之ヲ行フモノトス

西曆千八百八十年十一月十七日(光緒六年十月十五日)北京ニ於テ作成ス

實

帥

安

李

(印)

帥

安

李

(印)

帥

安

李

(印)

帥

安

李

(印)

帥

安

李

(印)

レシヤム」支那國皇帝陛下ハ亞米利加合衆國駐劄特命全權公使太常寺少卿楊」全權委員ニ任命シ右全權委員ハ相互ニ其委任狀ヲ示シ其良好妥當ナルヲ認メテ左ノ條項ヲ協定セリ

第一條 締約國ハ本協約批准書交換ノ日ヨリ起算シテ十年間以下規定セラレタル條件ニ基ク外支那勞働者ノ合衆國ヘノ到來ヲ絕對的ニ禁止スヘキコトニ同意ス

第二條 前條ノ規定ハ氏名届出ヲ爲シタル一切ノ支那勞働者ニシテ合衆國內ニ正妻、子若ハ親ヲ有シ又ハ一千弗ノ價格アル財產若ハ未ダ辨濟セラレサル同額ノ債務ニシテ自己ニ支拂ハルヘキモノヲ有スル者ノ合衆國ヘノ歸還ニ對シテハ之ヲ適用セサルモノトス尤モ一切ノ斯ル支那勞働者ハ合衆國退去前歸還條件トシテ其出發スル地方ノ收稅官ニ前記ノ家族、財產若ハ債務ヲ詳細ニ記載シタル書面ヲ寄託シ右收稅官ヨリ合衆國法律カ現在若ハ將來規定シ且本條約ノ條項ニ違反セサル本條約上ノ歸還權利證書ヲ發給セラレタルモノトス且前記書面記載事項カ虛偽ナルコト證明セラレタル場合ニハ右書面ニ基ク歸還又ハ歸還後ノ定住ノ權利ハ各場合ニ於テ失效スルモノトス而シテ右合衆國歸還ノ權利ハ合衆國退去ノ日ヨリ一年內ニ行使



セラルヘキモノナルモ右權利ハ疾病又ハ其他ノ不可抗力ノ理由ニ依リテ支那勞働者カ速カニ歸還スルコト能ハサル場合ニハ(右歸還不可能ノ事由ハ出發港駐在ノ支那國領事ニ委細之ヲ報告シ且右支那國國民ノ合衆國ニ於ケル上陸港ノ收稅官ノ満足スル標該領事ノ認可ヲ受クルモノトス)一年ヲ超エサル延長期間ニ互リ有效ナルモノトス而シテ本條約所定ノ歸還許可證ヲ稅關ノ相當官憲ニ提示スルニ非レハ右支那勞働者ハ陸路又ハ海路ニ由ルモ合衆國ニ入國スルヲ許可セラレサルモノトス

第三條 本條約ノ規定ハ官吏、教師、學生、商人又ハ好奇心若ハ漫遊ノ爲ノ旅行者ニシテ合衆國ニ來住スル勞働者ニ非ル支那國國民カ現在享有スル權利ニハ關セサルモノトス斯ル支那國國民ハ其合衆國入國許可ヲ得ル爲ニハ自國政府若ハ其最後ニ居住シタル國ノ政府ノ發給シタル許可證ニシテ其出發國若ハ出發港駐在ノ合衆國外交若ハ領事代表者ノ査證シタルモノヲ提示スルコトヲ得

又支那勞働者ハ他國ニ向ヒ若ハ他國ヨリ來ル旅行ノ途上ニ於テ合衆國領土ヲ通過スルノ特權ヲ續イテ享有スルモ右通過ノ特權ノ濫用ヲ防止スル爲ニ必要ナル合衆國政府所定ノ規則ニ從フヘキモノトス

第四條 千八百八十年十一月十七日(光緒六年十月十五日)北京ニ於テ訓印セラレタル合衆國及支那國間ノ移民條約第三條ニ從ヒ支那勞働者若ハ其他如何ナル階級ノ支那人モ其合衆國居住ノ永續的ナルト一時的ナルトツ間ハス歸化人民トナルノ權利ハ之ヲ除キ身體及財產保護ノ爲合衆國法律カ最惠國人民ニ與ヘタル一切ノ權利ヲ享有スルモノナルコトヲ茲ニ約ス而シテ合衆國政府ハ合衆國ニ於ケル一切ノ支那國國民ノ身體及財產ノ保護ヲ確保スル爲其全力ヲ盡スヘキ該第三條所定ノ義務ヲ更ニ確認スルモノトス

第五條 合衆國政府ハ千八百九十三年十一月三日ノ法律ニ依リ改正セラレタル千八百九十二年五月五日ノ法律ニ依リ前者ノ通過前合衆國領域内ノ一切ノ支那勞働者ニ對シ一層充分ナル保護ヲ與ヘムコトヲ期シテ該諸法律所定ノ通リ氏名届出ヲ爲スヘキ標合法的ニ要求シタルモノニシテ支那國政府ハ右諸法律ノ施行ニ反對セサルヘク且右ニ對シ相互的ニ合衆國政府ハ支那國政府カ條約港内タルト條約港外タルトツ間ハス支那國ニ於ケル合衆國人民ノ一切ノ熟練又ハ不熟練勞働者(前記諸法律所定ノ通リ商人ニ非ス)ノ無料氏名届出ニ關スル同標ノ法律若ハ規則ヲ

### 仲裁裁判條約

千九百八年十月八日華盛頓ニ於テ  
訓印  
千九百九年四月六日華盛頓ニ於テ  
批准書交換

發布シ且施行スルノ權利ヲ承認ス

而シテ合衆國政府ハ本條約批准書交換ノ日ヨリ十二月以内ニ且右期間後ハ毎年支那國政府ニ對シ支那國條約港内及條約港外ニ在住スル宣教師ヲ合ム其他一切ノ合衆國人民ニシテ公務ノ爲支那國ニ在住シ若ハ旅行スル合衆國外交官及其他ノ官吏並ニ其隨員及僕婢ヲ除キタル者ノ姓名、年齢、職業、居住地若ハ其番號記載ノ登錄簿若ハ報告書ヲ供與スルコトヲ約ス

第六條 本條約ハ批准書交換ノ日ヨリ起算シテ十年間其效力ヲ存續シ且右十年ノ期間滿了前六月ニ於テ孰レカ一方ノ政府カ他方政府ニ對シ廢棄ノ通告ヲ正式ニ與ヘサル場合ニハ本條約ハ更ニ十年間效力ヲ完全ニ存續スルモノトス

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名調印ス  
西曆千八百九十四年三月十七日華盛頓ニ於テ本書二通ヲ作成ス

トルター、キユー、グレンシャム (印)  
楊 (印)

亞米利加合衆國大統領及清國皇帝陛下ハ千八百九十九年七月二十九日海牙ニ於テ締結セラレタル國際紛爭平和的處理ニ關スル條約ノ締結國カ同條約第十九條ニ依リ仲裁裁判ニ付スルコトヲ得ヘシト思惟スル一切ノ問題ヲ該裁判ニ付セムカ爲協定ヲ締結スルノ權利ヲ保留シタルノ事實ニ鑑ミ兩國間ニ仲裁裁判條約ヲ締結スルコトニ決定シ之カ爲左ノ如ク其全權委員ヲ任命セリ即チ

亞米利加合衆國大統領  
國務卿 「エリヒュー、ルート」

支那國皇帝陛下  
亞米利加合衆國、墨西哥國、秘露國及玫瑰國駐劄特命全權公使 伍廷芳

各全權委員ハ互ニ其全權委任狀ヲ示シ其良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ



セラルヘキモノナルモ右權利ハ疾病又ハ其他ノ不可抗力ノ理由ニ依リ斯ル支那労働者力速カニ歸還スルコト能ハサル場合ニハ(右歸還不可能ノ事由ハ出發港駐在ノ支那國領事ニ委細之ヲ報告シ且右支那國國民ノ合衆國ニ於ケル上陸港ノ收稅官ノ満足スル標該領事ノ認可ヲ受クルモノトス)一年ヲ超エサル延長期間ニ互リ有效ナルモノトス而シテ本條約所定ノ歸還許可證ヲ稅關ノ相當官憲ニ提示スルニ非レハ右支那労働者ハ陸路又ハ海路ニ由ルモ合衆國ニ入國スルヲ許可セラレサルモノトス

第三條 本條約ノ規定ハ官吏、教師、學生、商人又ハ好奇心若ハ漫遊ノ爲ノ旅行者ニシテ合衆國ニ來住スル労働者ニ非ル支那國國民力現在享有スル權利ニハ關セサルモノトス斯ル支那國國民ハ其合衆國入國許可ヲ得ル爲ニハ自國政府若ハ其最後ニ居住シタル國ノ政府ノ發給シタル許可證ニシテ其出發國若ハ出發港駐在ノ合衆國外交若ハ領事代表者ノ査證シタルモノヲ提示スルコトヲ得

又支那労働者ハ他國ニ向ヒ若ハ他國ヨリ來ル旅行ノ途上ニ於テ合衆國領土ヲ通過スルノ特權ヲ續イテ享有スルモ右通過ノ特權ノ濫用ヲ防止スル爲ニ必要ナル合衆國政府所定ノ規則ニ從フヘキモノトス

第四條 千八百八十年十一月十七日(光緒六年十月十五日)北京ニ於テ訓印セラレタル合衆國及支那國間ノ移民條約第三條ニ從ヒ支那労働者若ハ其他如何ナル階級ノ支那人モ其合衆國居住ノ永續的ナルト一時的ナルトツ間ハ歸化人民トナルノ權利ハ之ヲ除キ身體及財產保護ノ爲合衆國法律力最惠國人民ニ與ヘタル一切ノ權利ヲ享有スルモノナルコトヲ茲ニ約ス而シテ合衆國政府ハ合衆國ニ於ケル一切ノ支那國國民ノ身體及財產ノ保護ヲ確保スル爲其全力ヲ盡スヘキ該第三條所定ノ義務ヲ更ニ確認スルモノトス

第五條 合衆國政府ハ千八百九十三年十一月三日ノ法律ニ依リ改正セラレタル千八百九十二年五月五日ノ法律ニ依リ前者ノ通過前合衆國領域内ノ一切ノ支那労働者ニ對シ一層充分ナル保護ヲ與ヘムコトヲ期シテ該諸法律所定ノ通リ氏名届出ヲ爲スヘキ標合法的ニ要求シタルモノニシテ支那國政府ハ右諸法律ノ施行ニ反對セサルヘク且右ニ對シ相互的ニ合衆國政府ハ支那國政府力條約港内タルト條約港外タルトツ間ハス支那國ニ於ケル合衆國人民ノ一切ノ熟練又ハ不熟練労働者(前記諸法律所定ノ通リ商人ニ非ス)ノ無料氏名届出ニ關スル同標ノ法律若ハ規則ヲ

### 仲裁裁判條約

千九百八年十月八日華盛頓ニ於テ訓印  
千九百九年四月六日華盛頓ニ於テ批准書交換

發布シ且施行スルノ權利ヲ承認ス

而シテ合衆國政府ハ本條約批准書交換ノ日ヨリ十二月以内ニ且右期間後ハ毎年支那國政府ニ對シ支那國條約港内及條約港外ニ在住スル宣教師ヲ合ム其他一切ノ合衆國人民ニシテ公務ノ爲支那國ニ在住シ若ハ旅行スル合衆國外交官及其他ノ官吏並ニ其隨員及僕婢ヲ除キタル者ノ姓名、年齢、職業、居住地若ハ其番號記載ノ登錄簿若ハ報告書ヲ供與スルコトヲ約ス

第六條 本條約ハ批准書交換ノ日ヨリ起算シテ十年間其效力ヲ存續シ且右十年ノ期間滿了前六月ニ於テ孰レカ一方ノ政府カ他方政府ニ對シ廢棄ノ通告ヲ正式ニ與ヘサル場合ニハ本條約ハ更ニ十年間效力ヲ完全ニ存續スルモノトス

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名訓印ス  
西曆千八百九十四年三月十七日華盛頓ニ於テ本書二通ヲ作成ス

タルター、キユー、グレンシヤム (印)  
勳 (印)

亞米利加合衆國大統領及清國皇帝陛下ハ千八百九十九年七月二十九日海牙ニ於テ締結セラレタル國際紛争平和的處理ニ關スル條約ノ締結國カ同條約第十九條ニ依リ仲裁裁判ニ付スルコトヲ得ヘシト思惟スル一切ノ問題ヲ該裁判ニ付セムカ爲協定ヲ締結スルノ權利ヲ保留シタルノ事實ニ鑑ミ兩國間ニ仲裁裁判條約ヲ締結スルコトニ決定シ之カ爲左ノ如ク其全權委員ヲ任命セリ即チ

亞米利加合衆國大統領  
國務卿 「エリヒュー、ルート」  
支那國皇帝陛下  
亞米利加合衆國、墨西哥國、秘魯國及玫瑰國駐劄特命全權公使 伍廷芳

各全權委員ハ互ニ其全權委任狀ヲ示シ其良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ



### 平和促進條約

千九百十四年九月十五日華盛頓ニ

於テ調印

千九百十五年十月二十二日華盛頓

ニ於テ批准書交換

第一條 兩締約國間ニ發生スルコトアルヘキ法律の性質ヲ有スル問題又ハ兩締約國間ニ現存スル條約ノ解釋ニ關スル紛議ニシテ外交上ノ手段ニ依リ處理スルコト能ハサルモノハ千八百九十九年七月二十九日ノ條約ニ依リ海牙ニ設置セラレタル常設仲裁裁判ニ付スヘキモノトス但シ右紛議ニシテ兩締約國ノ緊切ナル利益、獨立若クハ名譽ニ關シ又ハ第三國ノ利益ニ關係アル場合ハ此限ニ在ラズ

第二條 兩締約國ハ各箇ノ事件ニ付之ヲ常設仲裁裁判所ニ訴フルニ先チ其係争事件、仲裁裁判官ノ權限ノ範圍並仲裁裁判所ノ組織及手續ニ關シ定ムヘキ期限ヲ明確ニ定メタル特別協定ヲ締結スヘシ右特別協定ハ亞米利加合衆國ニ於テハ大統領カ同國上院ノ勸告及協賛ヲ經テ之ヲ締結スルモノトス

第三條 本條約ハ批准書交換ノ日ヨリ五箇年間效力ヲ有ス

第四條 本條約ハ兩締約國ニ依リ批准セラレヘク且批准書ハ成ルヘク速ニ華盛頓ニ於テ之ヲ交換スヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名調印ス

千九百八年十月八日即チ光緒三十四年九月十四日華盛頓市ニ於テ本書ニ通ツ作成ス

エリヒュー、ルイト (印)

亞米利加合衆國國務卿「ウイリアム、ジェニングス、ブライアン」

支那共和國大統領閣下

亞米利加合衆國駐劄支那共和國特命全權公使「カイ、ワ、シア」

右各員ハ互ニ其全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メ

エリヒュー、ルイト (印)

亞米利加合衆國大統領閣下

亞米利加合衆國國務卿「ウイリアム、ジェニングス、ブライアン」

支那共和國大統領閣下

亞米利加合衆國駐劄支那共和國特命全權公使「カイ、ワ、シア」

右各員ハ互ニ其全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メ

タル後左ノ如ク協定セリ

第一條 亞米利加合衆國政府及支那共和國政府間ニ生スヘキ紛争ニシテ普通ノ外交手續ニ依リ解決セラレス又ハ締約國カ仲裁裁判ノ手段ヲ採用セサルトキハ其性質ノ如何ヲ問ハス次條ニ記載スル方法ニ依リ組織セララル常設國際委員會ノ調査ニ付シ其報告書ヲ求ムヘシ

締約國ハ各自ノ國スル限リ委員會ノ調査中及其報告書カ交付セララル迄ハ兵力ニ訴ヘサルコトヲ約ス

第二條 國際委員會ハ左記五名ノ委員ヲ任命シ之ヲ組織スヘシ

各政府ハ各二名ノ委員ヲ任命スヘシ但シ其中一名ノミ自國國籍ノ者トス

第五委員ハ協議ノ上之ヲ任命スヘキモ前記ノ委員會代表者ノ何レノ國籍ニモ屬セサル者トス

該第五委員ハ議長ノ任務ヲ行フヘシ

兩政府カ第五委員ノ選擇ニ於テ一致スルコト能ハサル場合ニ於テハ他ノ四委員ニ其任命ヲ請求スヘシ四委員間ニ於テモ了解成立セサルトキハ千九百七年ノ「ヘーグ」條約第四十五條ノ規定ヲ適用スヘシ

委員會ハ本條約批准書交換後六箇月内ニ組織セラルヘ

平和促進條約

シ

委員ノ任期ハ一箇年トス但シ再任スルコトヲ得委員ハ後任者アル迄若ハ再任セララル迄又ハ任期滿了ノ時ニ於テ從事中ノ事務カ完成セララル迄其任ニ留ルヘシ

死亡、辭任又ハ身體上若ハ精神上ノ不能ヨリ生スル間員ハ成ルヘク速ニ原任命方法ニ從ヒ之ヲ補充スヘシ

締約國ハ委員任命ニ先チ報酬ニ關シ了解ヲ得ルコトヲ要ス委員會ノ集會ニ附隨スル費用ハ兩締約國之ヲ均等ニ分擔スヘシ

第三條 兩締約國間ニ紛争生シ普通ノ方法ニ依リ解決セラレサル場合ニハ各締約國ハ國際委員會ヲシテ該紛争ノ調査並其報告書ヲ作成セシムルコトヲ要求スルノ權利ヲ有ス國際委員會ノ議長ニハ通知ヲ發スヘク議長ハ直ニ他ノ四委員ニ之ヲ傳達スヘシ

此場合議長ハ委員會委員ト協議ノ上該委員多數ノ同意ヲ得タル後該委員會カ其任務ヲ盡サムコトヲ各締約國ニ申出ツルコトヲ得兩政府中ノ一方ノミニテモ右申出ヲ受諾シタルコトヲ宣言シタルトキハ前項ニ從ヒ委員會ニ該事件ノ裁判權ヲ與フヘシ

集會ノ場所ハ委員會ニ於テ之ヲ決定スヘシ



第四條 兩締約國ハ各別ニ紛争ノ要點ヲ議長ニ陳述スルノ  
權利ヲ有ス右陳述ハ單ニ參考ノ爲ニ供スルモノナルヲ以  
テ右ニ關スル兩者ノ相違ハ委員會ノ行動ヲ拘束スルコト  
ナシ

既ニ行ハレ又ハ將ニ行ハレムトスル或種ノ諸行爲カ紛争  
ノ原因ナルトキハ委員會ハ各締約國ノ權利ヲ保護スル爲  
假ニ及報告書ヲ交付スルニ至ル迄其見解ニテ如何ナル方  
法ヲ採ルヘキカヲ成ルヘク速ニ表示スヘシ

第五條 委員會ハ其準據スヘキ手續ニ關シ成ルヘク千九百  
七年ノ「ヘーグ」條約第一ノ第九條乃至第三十六條中ノ規  
定ニ準據スヘシ

締約國ハ委員會ニ其調査及報告ノ爲アラユル手段及アラ  
ユル必要ナル便宜ヲ與フルコトニ同意ス

締約國カ別段ノ期間ヲ定メサル限り委員會ノ事業ハ同會  
カ該事件ノ裁判權ヲ取得シタル日ヨリ一年內ニ之ヲ完成  
スヘシ

委員會ノ終結及報告書ノ用語ハ多數決ニ依リ之ヲ定ムヘ  
シ報告書ハ自己ノ職權ニ依リ行動スル議長ノミ之ニ署名  
シタル上各締約國ニ送達セラルヘシ

締約國ハ委員會ノ該報告書ニ基キ執ルヘキ行動ニ關シ充

分ナル自由ヲ保留ス

第六條 本條約ハ亞米利加合衆國上院ノ勸告及協賛ヲ得以  
テ亞米利加合衆國大統領閣下ニ依リ並支那共和國大統領  
閣下ニ依リ批准セラルヘシ

本條約ハ批准書交換後直ニ效力ヲ生シ五年間有效トス  
右五年ノ期間終了ノ遲クトモ六箇月前ニ廢棄ヲ通告スル  
ニ非レハ本條約ハ締約國ノ執レノ一方カ之ヲ廢止スルノ  
意志ヲ通告シタル日ヨリ十二箇月ノ期間終了ニ至ル迄引  
續キ效力ヲ有ス

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名調印ス

西曆千九百十四年九月十五日中華民國三年九月十五日華盛  
頓ニ於テ之ヲ作成ス

### 北清事變賠償金ノ亞米 利加合衆國割當額控除 ニ關スル交換公文

千九百八年七月十一日及十四日

北京駐劄亞米利加合衆國公使「ロツクヒル」

#### 發慶親王宛公文

以書翰致啓上候陳者本公使ハ千九百一年九月七日ノ最終議  
定書第六條ノ規定ニ從ヒ支那國カ合衆國ニ與ヘタル賠償公  
債額ヲ合衆國金貨拂二千四百四十四萬弗ヨリ年四分ノ利息  
ニ於テ千三百六十五萬五千四百九十二弗二十九仙ニ修正ス  
ルノ權能ヲ大統領ニ許與スルノ法案カ合衆國議會ヲ通過シ  
タル旨ヲ合衆國國務卿ノ調令ニ基キ閣下ニ報告スルノ光榮  
ヲ有スルハ幸甚ノ儀ニ有之候右修正金額ノ内二百萬弗ハ一  
年內ニ合衆國ノ Court of Claimsニ提起セラレタル私人ノ  
賠償請求ニ關スル裁判ノ結果ニ係屬スルモノニ候右判決確  
定後ノ差引殘高モ亦國務卿ノ決定スヘキ方法ニ依リ支那國  
政府ニ之ヲ還付可致候該法案ニ依リ大統領ハ賠償金殘額ノ  
支拂ヲ友誼的行爲トシテ支那國ニ免除スルノ權能ヲ與ヘラ  
レ右免除ハ大統領ノ適當ト認ムル時期及方法ニ依リ之ヲ爲  
スモノニ候

本公使モ亦免除ノ時期及方法ニ關シ貴帝國政府ノ意見ヲ仰  
キテ國務卿ニ傳達スヘキ旨國務卿ヨリ被調令候

茲ニ本公使ハ本公使ノ政府ニ傳達スヘキ御速答ヲ閣下ヨリ  
得度此段照會得貴意候 敬具

千九百八年七月十一日

北清事變賠償金ノ米國割當額控除ニ關スル交換公文

#### 在北京 亞米利加公使館

ダブリユー、ダブリユー、ロツクヒル

慶親王發北京駐劄亞米利加合衆國公使「ロ  
ツクヒル」宛公文

以書翰致啓上候陳者本官ハ千九百一年九月七日ノ最終議定  
書第六條ノ規定ニ依リ支那國カ合衆國ニ與ヘタル賠償公債  
額ヲ合衆國金貨拂二千四百四十四萬弗ヨリ年四分ノ利息ニ  
於テ千三百六十五萬五千四百九十二弗二十九仙ニ修正スル  
ノ權能ヲ大統領ニ許與スルノ法案カ合衆國議會ヲ通過シタ  
ル旨合衆國國務卿ノ調令ニ基キ閣下カ本官ニ通告セラレタ  
ル七月十一日附貴翰ヲ了承スルノ光榮ヲ有シ候右修正金額  
ノ内二百萬弗ハ一年內ニ合衆國ノ Court of Claimsニ提起  
セラレタル私人ノ賠償請求ニ關スル裁判ノ結果ニ係屬スル  
モノニ候右判決確定後ノ差引殘高モ亦國務卿ノ決定スヘキ  
方法ニ依リ支那國政府ニ之ヲ還付スヘキモノニ有之候該法  
案ニ依リ大統領ハ賠償金殘額ノ支拂ヲ友誼的行爲トシテ支  
那國ニ免除スルノ權能ヲ與ヘラレ右免除ハ大統領ノ適當ト  
認ムル時期及方法ニ依リ之ヲ爲スモノニ候閣下モ亦國務卿  
ノ調令ニ從ヒ免除ノ時期及方法ニ關シ國務卿ニ傳達スヘキ



我國政府ノ意見ヲ求メ以テ我國政府カ貴國政府ニ對シ右邊答ヲ可爲標被冀望候

外交部發亞米利加合衆國公使「ロツケヒル」宛ノ公文

免除金額ヲ支那國ニ還付スル時期及方法ニ關シ帝國政府ハ該事項ニ付何等表明スヘキ希望ヲ有セス暗黙ニ合衆國政府ノ友好的意圖ニ信賴シテ合衆國カ其抱懷スル目的ヲ最克ク貫徹スヘキ方法ヲ採用スルモノト確信スルモノニ有之候

以書翰致啓上候陳者合衆國ニ學生ヲ送致スル件ニ付閣下ニ宛致送付候公文ニ關シ賠償金還付ノ開始スル年ヨリ百名ノ學生ヲ四年間ニ亘リ毎年合衆國ニ送致シ第四年目ニ四百名ノ學生カ合衆國ニ滞在スルコトニ相成様正ニ決定セラレ候

此段御回答得貴意候 敬具  
千九百八年七月十四日北京ニ於テ  
外交部 部 (印)

### 錦愛鐵道ニ關スル豫備協約

千九百九年十月二日奉天ニ於テ  
〔「マクマレー」條約集ニ據ル〕

慶親王 那世凱 袁世凱 梁敦彥

千九百八年七月十四日北京ニ於テ

銀行團ト呼ビ、「パワリソング、エンド、カンパニー」(寶林公司)ヲ請負者ト稱ス

錦州、愛理間鐵道ノ財務、建設及工事ニ關スル本豫備協約ハ一方滿洲總督兼奉天巡撫(以下當局ト指稱ス)ト他方米國資本團及其組合(充分ナル同意ノ下ニ之ニ加入スルコトヲ認メラレタル組合、而シテ其範圍ハ全組合ノ四割以内但シ加入スヘキ組合ハ支那政府ニ依リ決定セラレヘキモノナリ)トノ間ニ締結セラレタルモノニシテ以下米國資本團ヲ

銀行團ト呼ビ、「パワリソング、エンド、カンパニー」(寶林公司)ヲ請負者ト稱ス  
今茲ニ當事者相互ノ承認セル協約ヲ示セハ左ノ如シ  
第一條 當局ハ錦州、愛理間鐵道建設ニ必要ナル資金ヲ銀行團ヨリ借款スヘキコトヲ約ス、本公債ノ利息ハ年五分ヲ超エサルヘキコト、發行ノ條件ハ出來得ル丈ケ有利ニ且ツ其他手續上ノ詳細ハ相互満足ナル如ク協定セラレヘキコト  
利息及元金ノ割賦償却ハ本鐵道ノ收入若クハ公債所得ニヨリ償還シ若シ之等ヲ以テ不充分ナルトキハ相互満足ナル如ク當局及銀行團ノ選擇ニヨリ滿洲ノ收益ニヨリ償却スヘキモノトス  
第一回發行ノ公債ハ錦州、齊齊哈爾間ノ鐵道建設及裝備ニ必要ナル額トシ、第二回ハ齊齊哈爾、愛理間ノ鐵道建設及裝備ノ用ニ充當スルモノトス  
交通部發行ノ公債償還ニ對シテモ之等期限滿了前ニ同様ノ協定ヲナスコト  
第二條 當局ハ本鐵道ノ建設及裝備ニ對シ請負者寶林公司ト契約スヘキコトヲ承認ス、請負者ハ出來得ル丈ケ最良ノ材料ヲ使用シ出來得ル丈ケ最廉ノ條件ノ下ニ本鐵道ヲ



建設設備スヘキコトヲ約ス  
詳細ノ項目、條件ニ就テハ後日相互ノ満足ナル如ク協定スヘシ

第三條 支那ノ材料使用ハ前記同條ノ條件ノ下ニ其優占權ヲ有スルモノトス、而シテ支那ノ材料ヲ使用シ得サル場合ハ他ノ市場ニ求ムヘキモノトス

當局ハ請負者ニ對シ本鐵道ノ契約金額ニ對シテノミ其責任ヲ有シ而シテ諸材料ノ購入ニ際シテハ手數料ノ支拂ヲ認メサルコト明カナリ

第四條 本鐵道建設中技師長ノ任命ハ寶林公司ニ一任スヘキモ其任命ハ支那政府ノ指定スル鐵路公司總辦ノ承認ヲ得ヘキモノトス

技師長ハ交通部及鐵路公司ノ監督下ニ隸屬スヘキモノトス

第五條 建設工事ハ區間ノ完成ニ伴ヒ列車ノ運轉ヲナシ公司發行ノ公債流通間ハ交通部ノ監督ヲ受クヘキモノトス  
利息、割賦償却及運轉費用ヲ支拂ヒ尙ホ剩餘アラハ鐵路公司ハ其一部ノ收益ヲ受クヘキモノトス

第六條 本公司ハ支、米及英國ノ三國人ヲ以テ組織シ支那人ハ其過半數ノ支配權ヲ有スヘキモ本項記載以外ノ他國

人ニ對シテハ如何ナル事情アルモ支那政府ノ充分ナル許可ナクシテ本公司ノ監督支配ニ對シ如何ナル發言權ヲモ與ヘサルモノトス

支那政府ハ本公司ノ總辦トシテ高級官吏ヲ任命スルコト其他組織上ノ詳細ハ後日相互ノ満足ナル如ク協定スヘシ

第七條 本鐵道ハ支、米及英三國ノ關係者ニ依リ組織スヘキモノトス、而シテ本鐵道ハ商業上ノ目的ノ爲メ支那領土ニ建設セラレタルコト及戰時ニ際シテハ支那ノ軍隊及軍需品ノ輸送ニノミ使用セララルヘキコトヲ認ム

第八條 滿洲總督兼奉天巡撫ト銀行團及請負者トノ間ニ關印セル本豫備協約ハ勅令ニ依リ認可セララルニ非レハ無効トス

第九條 若シ本協約ニ於テ勅令ニヨリ承認シ得スト認メタル場合或ハ又當局カ本協約中ニ不満足ナル條項アル爲メ尙ホ考慮ヲ要スヘキヲ認メタル場合ハ其削除スヘキ條項ハ當事者雙方ニ満足ナル如ク細目協定ニ於テ改正スヘシ

第十條 本協約ハ英、支兩國文ヲ以テ各三通ヲ作成シ一通ハ滿洲總督兼奉天巡撫之ヲ保管シ一通ハ米國資本團、一通ハ寶林公司之ヲ保管スルモノトス、若シ英文文中ニ文義上ノ疑點アリタル場合ハ相互ノ満足ナル一致ニヨリ解

決スルモノトス

本協約ハ宣統元年九月十九日即チ西曆千九百九年十月二日奉天ニ於テ契約當事者記名調印シテ證トナス

滿洲 總督 兼 奉天 巡撫 (印)

「ゼー、ビー、モルガン、エンド、カンパニー」

「クイン、ロエプ、エンド、カンパニー」

「ゼー、フアースト、ナショナル、バンク」

「ゼー、ナショナル、シティ、バンク、オブ、ニューヨーク」

右代表 支配人

ウイラード、デイー、ストリート (印)

寶林公司代表

支配人 「ダブリュー、デイー、エス」代理

フ レ ン チ (印)

(註記)

協約第八條ニ規定サレタル所ハ認可ノ勅令カ一九一〇年一月二十一日ニ公布セラレタルモ細目協定ハ未タ何等決定スルニ至ラス

米支無線電信臺借款契約

米支無線電信臺借款契約

千九百二十一年一月八日  
(民國十年一月八日)

中國政府ハ強力ノ無線電信臺一箇所及中力ノ無線電信臺四箇所ヲ設置セムトスルニ因リ米國無線電話電報聯合公司ト左ノ借款契約ヲ締結ス

第一條 本契約ハ中華民國(以下中國政府ト稱ス)ノ名義ヲ以テ米國無線電話電報聯合公司ノ請負人ト之ヲ締結セルモノトス

第二條 中國政府ハ請負人ニ上海ニ於テ一千「キロワット」ノ強力無線電信臺ヲ建築スルコトヲ委託ス其發信電力及受信電力ハ直接ニ世界各無線電信臺ト通信シ得ルモノタルヘシ

第三條 中國政府ハ請負人ニ北京、廣州、漢口、哈爾濱ノ四箇所ニ各六百「キロワット」ノ中力無線電信臺一臺ヲ建築スルコトヲ委託ス該四箇所ノ無線電信臺ノ發受電力ハ直接ニ日本、菲律賓、香港、新嘉坡ノ各無線電信臺ト通



信シ得ルモノタルヘシ

第四條 中國政府ハ各請負人カ無線電信臺ヲ建設スル爲建築地ニ於テ土地ヲ買入レ又ハ租借スルコトヲ承諾ス

第五條 前記五電信臺ノ建築、運輸、機械据付ノ爲土地ノ買入及租借、家屋ノ建築、電柱ノ建設等ニ對スル資金ハ米貨四百六十二萬弗トシ請負人ニ於テ之ヲ聯合負擔ス建築場ノ一切ノ施設モ請負人ノ責任トス

第六條 第五條ニ記載セル四百六十二萬弗ハ該電信臺ヲ建築スル費用ト爲ス中國政府ハ十箇年間ニ之ヲ償還スヘシ即チ毎年十分ノ一宛償還シ其未償還額ニ對シテハ中國政府ヨリ毎年七分ノ利息ヲ附與シ毎年償還ノ時之ヲ加入計算ス償還ノ時期ハ毎年十二月三十一日ト定メ電信臺使用開始ノ時ヨリ始ム

第七條 第六條ニ規定セル毎年償還スヘキ元利金ニ對シテハ電信臺收入ヲ擔保トシ毎年決算ノ時利息ヲ引去リタル剩餘金中ヨリ之ヲ償還ス若シ收入カ支出ニ足ラサルカ又ハ單ニ利息ノミヲ支拂ヒ得ルニ止マルトキハ中國政府ハ該電信臺回收ノ時之ヲ補足償還スヘシ

第八條 中國政府ハ請負人ノ建築セル各無線電信臺ニ關シ十箇年以内請負人ニ之カ管理ノ全權ヲ與フ

第九條 中國政府ハ請負人ノ管理期限内ニ於テ委員ヲ各電信臺ニ駐在セシメ之ヲ監督スルコトヲ得並ニ帳簿検査ノ權ヲ有ス又練習生ヲ派遣シ練習セシムルコトヲ得但シ練習生ノ費用ハ中國政府ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

第十條 請負人ハ管理期限内毎年營業收入ノ一割ヲ謝金トシテ中國政府ニ納付スヘシ此謝金ハ收入カ支出ニ足ラサル場合ト雖モ納付スヘキモノニシテ期日ハ毎年年末トシ遲滞スルコトヲ得ス

第十一條 中國政府ノ派遣セル各電信臺ノ監督員ノ俸給ハ中國政府ヨリ之ヲ支給ス

第十二條 中國政府ハ電信臺ノ營業ノ發達ヲ希望スルニ因リ各電信臺カ外國ノ各電信臺ト自由ニ通信スルコトヲ承諾ス

第十三條 請負人ハ中國政府カ十箇年ノ期限内何時ニテモ各電信臺ノ代金ヲ償還シ之ヲ回收シテ中國ノ所有トナスコトヲ承諾ス但シ此場合中國政府ハ當然未償還金額ノ全部及償還期日迄ノ利息ヲ一律請負人ニ償還スヘキモノトス

第十四條 中國政府ハ十箇年ノ期限内第十三條ニ記載セル金額ヲ償還セサル限り請負人ノ管理權ヲ撤回スルコトヲ

ス疑義爭執アルトキハ佛文ニ依ル

中華民國交通部

米商 無線電話電報聯合公司

中華民國十年一月八日訂立

附 則

得ス若シ中國政府カ此種ノ行爲ニ出テタルトキハ請負人ハ其建築セル各電信臺ニ對シ當然其所有權ヲ保持スルモノトス第十五條 若シ十箇年ノ期限滿了後中國政府カ各電信臺ニ對スル代金ヲ交付シ之ヲ回收スルコト能ハサルカ又ハ資金及利息ヲ全部償還スルコト能ハサルトキハ中國政府ハ公債ヲ發行シ償還未済ノ元利ヲ償還シ而シテ各電信臺ハ米支ノ合辦ト爲スヘシ

中華民國交通部(以下中國政府ト稱ス)ハ米商無線電話電報聯合公司請負人ト中華民國十年一月八日ニ此附則契約ヲ締結ス無線電信借款本契約ニ中國政府ハ何時ニテモ立替金ヲ償還シテ各電信臺ヲ回收シ得ヘキコトヲ規定セリ今該電信臺ノ設備完成後ニ於ケル中國政府ノ回收方法並ニ請負人カ中國政府ニ代リ出ス所ノ電信臺建築資金、準備金、利息ノ償還方法ニ關シ中國政府ハ請負人ト附則ヲ締結スルコト左ノ如シ

第十七條 建築上ノ便宜ノ爲メニ中國政府ハ請負人ニ護照ヲ交付シ以テ所製材料及機械ノ輸送ニ便シ且釐金其他ノ税金ヲ免除セシムヘシ

第十八條 請負人カ管理期間内ニ於テ電信臺ヲ増築シ機械ヲ購入セムトスルトキハ中國政府ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス然ラサレハ法律上ノ效力ヲ發生セサルモノトス

第十九條 請負人カ電力ヲ増加シ機械ヲ購買シタル資本及利息ハ電信臺收入中ヨリ之ヲ年賦ニテ償還ス

第二十條 本契約ハ英、佛、支三箇國文ヲ以テ三通ヲ作成

第一條 請負人ハ電信臺建築ノ爲メ支那政府ニ代リ米金四百六十二萬弗ヲ募集スルコトヲ承諾ス該款ハ請負人ノ名義ヲ以テ米國銀行ニ入レ專ラ電信臺建築費ニ充ツヘク他ニ流用スルコトヲ得ス

第二條 請負人カ中國政府ニ代リ立替ヘタル四百六十二萬弗ハ中國政府ヨリ毎年四十六萬二千弗宛ノ割ヲ以テ十箇年間ニ償還スルモノトス



第三條 中國政府ハ未償還金額ニ對シ毎年七分ノ利息ヲ請負人ニ支拂フ此利息ハ元金償還ト同時ニ交付スヘキモノトス

第四條 中國政府カ毎年請負人ニ償還スヘキ元利ハ該電信稟完成後通信開始ノ年ノ十二月三十一日以前ニ之ヲ交付スヘシ

第五條 中國政府カ各電信塔ヲ回收シタル後ハ其營業管理權ハ中國政府ニ歸スルモノトス即チ請負人ハ各電信塔ノ營業管理ニ關シ一切責任ヲ負擔セス本契約第八條ノ規定ハ無効トス

第六條 此附則契約後ハ本契約ノ一部トシ本契約ニ照シ一律之ヲ遵守スヘキモノトス

中華民國十年一月八日

### 華盛頓會議ニ於テ大正四年ノ日支交渉ニ關シ亞米利加合衆國委員ノ爲シタル陳述

#### 【參考】

#### 對支政策ニ關スル聲明

「ケロウグ」氏ノ第一次對支聲明

(千九百二十七年一月二十六日附)

支那時局ニ關スル議論甚々タル際國務省ノ關稅自主及治外法權撤廢問題ニ對スル態度ヲ明確ニ述フルハ余ノ責務ナリト思惟ス、米國ハ恒ニ支那國內ノ統一ト獨立ト繁榮トヲ願望シ米國ノ對支條約規定ノ關稅管理權並ニ治外法權ノ可及的速カニ撤廢サレム事ヲ希望シタ、米國カ千九百三年ノ條約中ニ於テ治外法權撤廢ニ關スル聲明ヲ爲シ又條約實施後三箇月以内ニ關稅會議ヲ開催スヘキヲ規定セル千九百二十二年二月六日ノ華府條約ヲ締結シタルハ實ニ道義ノ目的ヲ有シタルカ故テアル

米國ハ過去ニ於テモ現在ニ於テモ華府條約ノ附加稅實施ノミニ止マラス更ニ關稅ノ管理權ヲ撤廢シ而シテ支那ニ對シテ完全ナル關稅自主權ヲ返還スル爲メ支那ノ如何ナル政府或ハ支那ヲ代表スル委員トモ交渉ヲ開始スル用意ヲ有ス、

併シナカラ米國ハ最惠國の待遇ヲ許與サレムコトヲ期待スルモノニシテ尙ホ關稅又ハ其他ノ租稅ニ關シテハ他國民ヲ偏重シ、米國及其市民ヲ差別シ或ハ特權許與ニ依ツテ差別ヲ設クコトナキヲ期待シ更ニ支那ニ於ケル通商上ノ門戸開放機會均等ノ維持ト支那カ米國市民ト其財產權トニ對シ凡ニ保護ヲ與ヘム事ヲ期待スルモノテアル

米國ハ條約ニ依ラス即時實施シ得ヘキ法權會議ノ勸告ヲ實施シ且ツ支那カ法律ト裁判所ニ依リテ米國市民ト其財產權ヲ保護スル用意ノ出來次第治外法權撤廢ノ爲メ交渉スヘキ用意ヲ有スル

米國カ支那ト最モ自由ナル精神ヲ以テ交際セムトスル意志ヲ有スルコトハ華府條約締結以降ニ於ケル諸事件ノ簡單ナル歴史ニ依ツテ立證セラルルテアラウ、同條約ハ千九百二十五年七月七日批准サレ列國ノ批准書交換ハ華府ニ於テ行ハレタ、千九百二十五年八月六日支那政府ハ諸條約國ニ同文通譯ヲ發シテ現行條約ノ改訂ヲ要求シタ、同年七月一日余ハ北京駐劄ノ我公使ニ訓令ヲ發シ是ヲ以テ我國カ條約改訂考慮ノ意志アル事實ヲ支那國民ニ證明スルノ機會ヲラシムル樣督促シタルノテアル、余ハ列國ニ對シテモ同訓令ヲ通告シ支那關稅ニ關スル特別會議開催準備ヲ促進シ且ツ這ノ

特別關稅會議ハ條約規定ノ事業完結後完全ナル關稅自主權許與實行案ノ基礎トナルヘキ具體的勸告書作製ヲ要求セルヘキモノテアルト信スル旨ヲ陳述シ、米國代表者ニ支那關稅自主權ヲ改正スル新條約締結交渉ニ關シ全權ヲ附與シタ、之ヨリ先治外法權ノ撤廢勸告ヲ報告書中ニ包含スルト云フ諒解ノ下ニ治外法權問題調査委員會ノ任命ヲ促シタ、之ヨリ先支那政府ハ米國カ關係列國ニ對シテ有スル其威望ニ依ツテ關稅問題ニ關スル會議招集ト法權委員會任命方ヲ促進シ尙ホ各國政府カ其代表者ニ對シテ條約改訂ノ問題ニ關スル考究及治外法權撤廢勸告書作製等ニ關シテ廣汎ナル權限ヲ附與セムコトヲ求メタ、右ハ合衆國ノ見解ト一致スルモノニアラウタ、仍ツテ米國及對支關稅條約ヲ有スル列國ハ千九百二十五年九月四日既ニ發表ヲ見タル通譯ヲ以テ關稅會議代表者任命ノ意志アルコトヲ證明シタ次第テアル、之等列國ハ支那ニ對シテ支那政府カ條約改訂及關稅問題ニ就テ爲スコトアルヘキ合理的ノ提議ヲ考慮討議スルノ意志アルコトヲ通告シ尙ホ又治外法權問題ノ全般ヲ考慮スヘキ委員會代表者任命及列國政府ヲシテ法權撤廢ノ目的ヲ以テ如何ナル手段ヲ講スヘキカヲ考慮セシムル爲メ勸告書ヲ作製スルノ權限ヲ與フル意志アル旨發表シタ、右代表者ハ直ニ



任命サレ支那關稅會議ハ千九百二十五年十月十六日ヲ以テ開會シタノテアル

開會ノ後久シカラズ千九百二十六年十一月三日米國代表ハ即チ關稅會議ニ向ツテ提議スルニ二分五厘附加稅施行承認案ヲ以テシ茲ニ必要ナル稅率改作製次第華盛頓會議條約ニ依ル五分奢侈品稅則ヲ即行スヘキヲ提議シタ、更ニ米國代表ハ合衆國政府ハ即時ニ千九百二十二年二月六日華盛頓條約ノ條項ヲ有效ナラシムル爲メ必要ナルヘキ各種協定ノ交渉ヲ爲スヘキ用意アルコトヲ表明シタ

又米國代表ハ支那ノ關稅自主ヲ尊重セムトスル主義ヲ肯定シ直ニ本主義ヲ具體化シ及釐金ノ廢止、現行條約ノ關稅制限撤去並ニ支那國定關稅法ノ實施ヲ準備スル新條約交渉ノ用意アルコトヲ表明シタ

千九百二十五年十一月十九日關稅會議臨時辦法委員會ハ支那代表ノ參加ヲ以テ左ノ決議ヲ採用シタ

- (一) 本會議參列各國代表ハ本會議ニ於テ關稅自主ノ條約中ニ將來協定サルヘキ其他ノ問題ト共ニ關稅自主ノ條項ヲ加入セシムル目的ヲ以テ以下ノ條項採擇ヲ決議ス
  - (二) 訂約各國ヘ支那ヲ除ケ外支那ノ關稅自主權ヲ承認ス
- 換言スレハ現存支那列國間條約中ノ關稅制限ヲ撤去シ且

ツ千九百二十九年一月一日以降支那國定關稅法ノ實施ヲ同意ス

(三) 中華民國政府ハ國定關稅法實施ト同時ニ釐金ノ廢止ヲナスヘキコトヲ宣言シ更ニ釐金ノ廢止ハ民國十八年一月一日(千九百二十九年一月一日)迄ニ完全ニ實施サルヘキコトヲ宣言セリ

會議開催以來我國全權及專門委員ハ支那ヲ含ム列國全權及專門委員ト協力シ本企圖ノ遂行換言スレハ華盛頓條約ニ規定サレタル附加稅ノ實施及關稅自主實施以前ニ於テ支那ノ需要ヲ充タス爲メニ必要ナル附加稅ヲ規定スル爲メ努力スルトコロガアツタ、千九百二十六年四月中旬迄ハ會議ハ支那及列國ノ満足ヲ以テ成功ニ終ルヘキ望ミカアツタ、然ルニ恰モ當時會議ニ支那ヲ代表セル政府ハ願望シタ、然ルニ合衆國及他國ノ代表ハ尙ホ交渉繼續ノ望ミヲ以テ支那ニ留リ千九百二十六年七月三日ニハ

支那關稅會議列國全權ハ本朝和蘭公使館ニ會合ノ上支那政府代表カ會議ニ於テ外國全權ト各種ノ問題ノ討議ヲ爲シ得ル地位ニ置カラル鳴ニハ出來得ル限リ速カニ會議ノ事業ヲ進捗セシムヘキコトヲ何等異議ナク且ツ衷心ヨリ希望スル旨ヲ聲明ス

トノ宣言ヲ發シタ

米國政府ハ其當時モ又今日ニ於テモ關稅及治外法權ノ全般的問題ノ交渉ヲ繼續スルノ用意ヲ有シ若クハ米國單獨ニテ交渉ヲ開クノ用意ヲ有スルモノテアル、問題ハ唯誰ヲ相手ニ交渉スルカト云フ點テアル、余ノ既ニ述ヘタ如ク若シ支那ニシテ自國ノ政府又ハ國民ヲ代表スル代表者任命ノ件ニ就テ一致シ得ルナラハ我米國ハ前記ノ如キ條約ヲ締結スルノ用意ヲ有スルモノテアル、併シナカラ米國上院ノ批准ヲ經タル現行條約ハ大統領ニ依ツテ廢棄シ得ラルヘキモノテハナク、支那國ノ何人カト締結調印ヲ了シ而シテ後米國上院ノ批准ヲ經タル新條約ニ依ツテ代ラレネハナラヌ次第テアル

米國政府ハ支那ノ國民的覺醒ヲ同情の興味ヲ以テ注視シ來ツタモノテアリ支那民衆カ其政治組織改造ニ向ツテナス進歩ノ一步一步ヲ歡迎スルモノテアル

千九百二十二年ノ新政體樹立以降數年間米國政府ハ凡ユル方途ニ依リ政權爭奪ヲ行ヒタル諸黨派ニ對シテ嚴正中立ノ態度維持ニ努力シタ、併シナカラ米國政府ハ支那民衆及其指導者等カ米國市民ニ何等其責任ナキ闘争ノ期間ニ於テ在支米國市民カ其生命財產ニ對スル保護ヲ要求スルノ權利アル

對支政策ニ關スル聲明

事實ヲ承認スヘキヲ期待シ居ルモノテアル、而シテ若シ支那官憲ニシテ斯カル保護ヲ與ヘ得サル場合ニ於テハ米國政府ハ自ラ自國市民ノ生命財產保護ニ當ルハ其根本的任務ナルコト今更言フ俟タナイ、現時支那領海内ニ米國海軍ヲ派遣シ居ルハ實ニ斯カル必要ノ生セヌトモ限ラヌカ爲メテアル、米國政府ハ最モ自由ナル精神ヲ以テ支那トノ交際ヲ希フ次第テアリ、我政府ハ同國內ニ租借地ヲ持タネハ又未ダ會テ同國ニ對シテ帝國主義的態度ヲ現示シタ例モナイノテアル、併シナカラ米國政府ハ自國市民カ特權、獨占權、勢力範圍等ナクシテ他列國市民ト同シク支那國內ニ居住シ合法的職業ニ從事スルノ平等的機會ヲ與ヘラルヘキコトヲ要求スルモノテアル

第二次對支聲明

(千九百二十八年七月二十四日附)

支那ニ於ケル事態ハ最近數箇月間ニ極メテ急速ニ進展シタ、米國政府並ニ國民ハ其進展ヲ深甚ニシテ且ツ同情アル關心ヲ以テ注視シ續ケテ來タ、本年初頭駐支米國公使ハ揚子江沿岸ヲ巡遊シ其途次上海滯在中本年三月三十日國民政府外交部長ト昨年三月二十四日ノ不幸ナル南京事件解決ニ



關スル通牒ノ交換ヲ行ツタノテアル、而シテ此解決ニ於テ一致ヲ見タル諸條件ヲ實行スル爲メ一ノ米支共同委員會ヲ設定シ此事件ニ際シテ米國人ノ受ケタル損害評價ヲ委任シタ、昨年一月二十七日余ハ支那ニ對スル米國ノ立場ヲ表明スル一ノ「ステートメント」ヲ發表シタカ以來余ハ屢々此「ステートメント」ニ言及シテ米國政府ノ立場ヲ繰返シ確言スルノ機會ヲ得タモノテアル、其際余ハ米國政府力其當時ノミナラス遠ク華盛頓條約交渉ノ當時ヨリシテ既ニ支那ノ如何ナル政府若クハ代表トモ夫レカ支那ヲ代表シ又ハ支那ノ爲メニ代辯シ得ル政府若クハ代表テアル限リ之ヲ密ニ華盛頓條約ノ規定スル關稅附加稅ノ實施ニ關スル交渉ニ止マラス更ニ支那ニ對シテ完全ナル關稅自主權ヲ回復セシムルノ交渉ヲモ開始スル用意カアツタ旨ヲ開陳シタ

其後米國政府ハ益々深甚ノ興味ヲ以テ支那ニ於ケル各黨派力相共ニ協働シツツアルコト且ツ米國政府力交渉ヲ開始シ得ル政府樹立ノ運動ニ向ヒツツアルコトヲ見守ツテ居タ、屢々新聞ニ發表セラレタル新聞記事及公報ヲ通シテ米國民モ亦是等ノ展開ヲ熱心ナル興味ヲ以テ觀察シ來ツタノテアル

支那駐在米國公使カラ南京國民政府外交部長ヘ宛テ本年三月三十日附通牒ニ於テ現在條約ノ改訂ニ關スル國民政府外交部長ヨリノ提言ニ答ヘテ米國政府及國民ハ支那國民カ異常ナル性質ノ義務ニ依ツテ拘束セラルルコトナク出來得ル限リ自國ノ健全ナル國民生活ヲ發展セシメ且ツ主權ニ對スル熱望ヲ實現セムトスル希望ニ同情ヲ寄スル旨ヲ述ヘ、且ツ又條約關係ノ整調ニ伴ヒ支那カ負フコトヲ必要トスル義務ノ實行ヲ確保スルニ足ル支那國民ノ代表政府カ出現スヘキヲ米國政府ハ希望シ期待スル旨ヲ述ヘテ置イタ、千九百二十八年七月十一日附ノ余ニ宛テタ通牒ニ於テ伍朝樞氏ハ國民政府力條約交渉ノ目的ノ爲メ全權代表ヲ任命スルニ決定シタ旨並ニ伍朝樞氏カ米國政府モ亦同様ニ此目的ノ爲メ代表ヲ任命スヘク要求スルノ調令ヲ受ケテ居ル旨余ニ通告シタ

支那ニ對スル米國ノ好意ハ夙ニ知レ渡ツテ居ル所テアリ米國政府並ニ國民ハ統一、和平、進歩ノ爲メ支那ニ依ツテ爲サレル如何ナル申出ヲモ歡迎スル、吾人ハ彼等ニ對スル内政干渉ヲ信奉スルモノテハナイ、我々ハ彼等ニ唯我々カ外交的關係ヲ維持スル總テノ國民ニ期待スルモノハ單ニ米國民並ニ其財產及法律上ノ權利ノ相當ナル保護並ニ他ノ如

何ナル國ノ利益又ハ國民ニ與ヘラルル待遇ト比較シテ差別的ナラサル待遇ヲ要求スルノミテアル

支那國民ノ當面シテ居ル重大ナ困難ノ内容ニ關シテハ深甚ナル瞭解ヲ以テ余ハ新生、合立ノ支那カ内亂擾攘ニ年アリ國土ヲ疲弊セシメタル混亂中カラ將ニ脱ケ出テヤウトスル道程ニアルト云フ余ノ信念ヲ茲ニ確メルコトヲ得タノテアル

之ハ少クトモ合衆國人民ノ希望テアルコトハ疑ヲ容レナイノテアル、支那國民ノ爲メニ語リ且ツ國民ニ語リ得ル責任アル當局ヲ支那ニ創造スルコトニヨリ關係諸國民全般ノ幸福ハ増進セラルヘシト云フ信念ト確認トノ熱烈ナル要望者ノ一人ヤシテ余ハ米國政府力支那駐在ノ米國公使ヲシテ支那國民政府ノ適法的ニ任命サレタル代表者ト米支兩國ノ關係改正ニ關シ交渉ヲ直ニ開始スルノ準備アルコトヲ宣言スル幸願ヲ有スルモノテアル、此交渉ハ新條約締結ノ前提トナルヘキモノニシテ之ハ兩國間ノ通商力其領土及港灣ニ於テ十分其裨益ヲ享ケ諸外國ノ通商ニ與ヘヨレタル裨益ニ比較シテ何等區別ナイモノテアルト云フ主義及關稅自主主義ヲ取り戻ス爲メニ十分ナル考慮ヲ費サルヘキコトハ豫期サレテモ宜シイノテアル(駐日米國大使館發表)

南京事件解決協定文

南京事件解決協定文

民國十七年三月三十日

南京政府外交部長書翰

客年三月二十四日ノ南京事件ニ關シ國民政府外交部長ハ米國公使ニ對シ國民政府ハ幸ニ米支兩國間ニ存在スル極メテ友誼的ナル感情ヲ助長セムコトヲ欲シ本年二月二十六日以來閣下ト本官トノ間ニ行ハレタル討議ノ結果意見ノ一致ヲ見タル所ニ從ヒ該事件ノ即時解決ヲ爲ス用意アルコトヲ通告スルノ光榮ヲ有ス

外交部長ハ米國國旗及米國政府公式代表者ニ對スル非禮、米國領事館ノ蒙レル財產上ノ損失並ニ在留米國人ニ對シテ加ヘラレタル身體上ノ傷害及物質上ノ損害ニ付國民政府ノ名ニ於テ亞米利加合衆國政府ニ對シ誠心誠意ヲ以テ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表明スルノ光榮ヲ有ス

本事件ハ調査ノ結果國民政府南京建都前余々共產主義者ノ煽動ニ依リテ起リタルモノナルコト判明シタルモ國民政府ハ右ニ拘ラス本事件ニ對シ責任ヲ負フ



國民政府ハ其ノ既定方針ニ從ヒ在支米國人ノ生命及財産ノ繼續的且有效ナル保護ニ付文武官憲ニ對シ既ニ一再チラス命令ヲ發シタリ、共產主義者及其ノ米支兩國民間ノ友好關係ヲ阻害セムトスル邪惡ナル勢力ヲ驅逐シタルニ依リ國民政府ハ外國人保護ノ任務カ爾今一層容易トナルヘキコトヲ信シ且國民政府ハ米國人ノ生命又ハ正當ナル利益ニ對シ再ヒ斯ノ如キ暴行又ハ運動ノ行ハレサルヘキコトヲ特ニ約ス

右ニ關聯シ外交部長ハ共產主義者ニ煽動セラレテ悲ムヘキ本事件ニ參加シタル特定師團ノ軍隊ハ既ニ解散セラレタルコトヲ附言ス、國民政府ハ尙犯行ニ加ハリタル兵士及其他ノ者ノ處罰ノ爲有效ナル措置ヲ執レリ

充分ニ認メラレタル國際法ノ原則ニ從ヒ國民政府ハ南京ニ於ケル米國領事館、其ノ館員、在留米國人及其ノ財産ニ加ヘラレタル總テノ身體上ノ傷害及物質上ノ損害ニ對シ充分ナル賠償ヲ爲スコトヲ約ス

國民政府ハ此ノ目的ノ爲ニ在留米國人カ關係支那人ヨリ受ケタル實際ノ傷害及損害ヲ審査シ各場合ニ付支拂フヘキ賠償額ヲ査定スヘキ米支共同委員會ヲ設置セムコトヲ提議ス

米國公使回答

米國公使ハ左ノ通り本日附外交部長書翰ヲ敬承セリ

「客年三月二十四日ノ南京事件ニ關シ國民政府外交部長ハ米國公使ニ對シ國民政府ハ幸ニ米支兩國間ニ存在スル極メテ友誼的ナル感情ヲ助長セムコトヲ欲シ本年二月二十六日以來閣下ト本官トノ間ニ行ハレタル討議ノ結果意見ノ一致ヲ見タル所ニ從ヒ該事件ノ即時解決ヲ爲ス用意アルコトヲ通告スルノ光榮ヲ有ス

外交部長ハ米國國旗及米國政府公式代表者ニ對スル非禮、米國領事館ノ蒙レル財産上ノ損失並ニ在留米國人ニ對シテ加ヘラレタル身體上ノ傷害及物質上ノ損害ニ付國民政府ノ名ニ於テ亞米利加合衆國政府ニ對シ誠心誠意ヲ以テ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表明スルノ光榮ヲ有ス

本事件ハ調査ノ結果國民政府南京建都前全ク共產主義者ノ煽動ニ依リテ起リタルモノナルコト判明シタルモ國民政府ハ右ニ拘ラス本事件ニ對シ責任ヲ負フ

國民政府ハ其ノ既定方針ニ從ヒ在支米國人ノ生命及財産ノ繼續的且有效ナル保護ニ付文武官憲ニ對シ既ニ一再チラス命令ヲ發シタリ、共產主義者及其ノ米支兩國民間ノ友好關係ヲ阻害セムトスル邪惡ナル勢力ヲ驅逐シタルニ依リ國民政府ハ外國人保護ノ任務カ爾今一層容易トナル

ヘキコトヲ信シ且國民政府ハ米國人ノ生命又ハ正當ナル利益ニ對シ再ヒ斯ノ如キ暴行又ハ運動ノ行ハレサルヘキコトヲ特ニ約ス

右ニ關聯シ外交部長ハ共產主義者ニ煽動セラレテ悲ムヘキ本事件ニ參加シタル特定師團ノ軍隊ハ既ニ解散セラレタルコトヲ附言ス、國民政府ハ尙犯行ニ加ハリタル兵士及其他ノ者ノ處罰ノ爲有效ナル措置ヲ執レリ

充分ニ認メラレタル國際法ノ原則ニ從ヒ國民政府ハ南京ニ於ケル米國領事館、其ノ館員、在留米國人及其ノ財産ニ加ヘラレタル總テノ身體上ノ傷害及物質上ノ損害ニ對シ充分ナル賠償ヲ爲スコトヲ約ス

國民政府ハ此ノ目的ノ爲ニ在留米國人カ關係支那人ヨリ受ケタル實際ノ傷害及損害ヲ審査シ各場合ニ付支拂フヘキ賠償額ヲ査定スヘキ米支共同委員會ヲ設置セムコトヲ提議ス

米國公使ハ破綻的勢力ノ煽動ヲ受ケサル場合ニ於ケル支那國民ノ固有ノ正義心ト廉恥心トヲ充分ニ認メ南京事件カ支那國民ノ凡ユル思慮アル階級ニ惹起セル遺憾ノ念ト屈辱ノ感トヲ深ク諒察シ且本事件有罪者ノ處罰ニ關スル言質カ最近ノ機會ニ於テ完全ニ履行セラルヘキコト——殊ニ事件ニ

南京事件解決協定文

對シ箇人的ニ責任アル林祖涵ニ付テ——ア信シ本事件ヨリ生シタル諸問題ノ決定的解決ノ爲外交部長書翰中ニ記述セラレタル諸條件ヲ本國政府ノ爲ニ承諾ス

米國政府ハ本件解決力誠意ヲ以テ爲サレタルコトヲ確信シ米支兩國民間ノ關係ノ他ノ方面ニ於テ南京官憲ニ依リ示サルコトヲ豫期シ得ヘキ誠意ト好意トノ尺度ヲ與フルモノトシテ前記解決條件ノ忠實ナル履行ヲ期待ス

南京政府外交部長書翰

千九百二十七年三月二十四日ノ南京事件ヨリ生シタル諸問題ノ解決ニ付本日交換シタル公文ニ關シ國民政府外交部長ハ本件當日、當時入港碇泊中ノ米國軍艦「ノア」及「ブレストン」カ南京「ソコニー」丘ニ向ウテ砲火ヲ開キタル事實ニ對シ米國公使ノ注意ヲ喚起スルノ光榮ヲ有ス、右事實ニ鑑ミ國民政府ハ米國政府カ右ノ行爲ニ付遺憾ノ意ヲ表セムコトヲ切ニ希望ス

米國公使回答

米國公使ハ千九百二十七年三月二十四日當時入港碇泊中ノ米國軍艦「ノア」及「ブレストン」カ南京「スタンダード」石油



會社丘ニ向ツテ砲火ヲ開キタル事實ヲ述ヘ且米國政府カ此ノ行爲ニ付遺憾ノ意ヲ表セムコトヲ希望セル本日附外交部長書翰ヲ敬承セリ

存條約改訂及諸懸案解決ノ爲ニ措置ヲ執ラムコトヲ提議スルノ光榮ヲ有ス

米國公使回答

右ニ對スル回答トシテ米國公使ハ該行爲ハ事實ニ於テ嚴ニ米國領事、其ノ家族及館員カ其他ノ多數ノ者ト共ニ不規律ナル兵隊ノ襲撃ヲ逃レムカ爲ニ遁ケ入りタル家屋ノ直接近隣地ニ限ラレタル掩護砲火ニシテ之カ右人員ノ生命ヲ切迫セル危險ヨリ救フ唯一ノ手段タリシノミナラス又生命ノ現實的危險ノ中ニ在リタル他ノ南京在留米國人ノ撤退ヲ可能ナラシメタルモノナルコトヲ指摘セサルヲ得ス

米國公使ハ合衆國ト支那國トノ間ノ外交關係ニ一新紀元ノ開カルヘキコト並平等及領土主權相互尊重ヲ基礎トスル現存條約改訂及諸懸案解決ノ爲更ニ措置ヲ執ラムコトヲ希望セル本日附外交部長書翰ヲ敬承セリ

故ニ米國政府ハ其ノ統制ヲ超エタル諸事情カ南京在留米國市民ノ生命保護ノ爲斯ノ如キ手段ヲ執ルノ已ムナキニ至ラシメタルコトヲ深ク悲ム次第ナルモ米國軍艦トシテハ其ノ執リタル行動ニ代ハルヘキ手段ナカリシモノト思惟ス

南京政府外交部長書翰

千九百二十七年三月二十四日ノ南京事件ヨリ生シタル諸問題ノ解決ニ付本日交換シタル公文ニ關シ國民政府外交部長ハ支那國ト合衆國トノ間ノ外交關係ニ一新紀元ノ開カルヘキコトヲ希望シ且平等及領土主權相互尊重ヲ基礎トスル現

既ニ客月外交部長トノ會談ニ於テ此點ニ關シ述ヘ置キタル處ヲ此際言明スルニ吝ナルモノニアラス  
合衆國ト支那國トノ間ニ存スル傳統的友誼ハ茲ニ之ヲ設クヲ要セス、米國政府カ終始一貫シテ採リ來レル行動方針及千九百二十七年一月二十七日國務長官ノ爲シタル政策ノ聲明ニ依リテモ明ナルカ如ク合衆國政府及人民ハ支那國民自身ノ健全ナル國民生活ヲ發展セシメ且能ク限リ外的性質ノ義務ニ拘束セラレタル主權ニ對スル要望ヲ實現セムトスル支那國民ノ希望ニ對シ滿腔ノ同情ヲ有スルモノナリ、之カ爲米國政府ハ初期ノ條約中ニ斯ル條項ノ挿入ヲ必要ナラ

シメタル諸狀態ノ改善カ不必要又ハ不適當トナリタル條約ノ規定ヲ正當ナル形式ニ依リ且相互ノ同意ヲ以テ改訂スル機會ヲ時々與フルニ至ラムコトヲ希望ス

此ノ目的ノ爲米國政府ハ支那國カ其ノ希望スル條約關係ノ修正ニ附隨シテ當然負フコトトナルヘキ各種ノ義務ヲ誠意ヲ以テ現實ニ履行スヘキコトヲ保證スルニ足ル程度ニ於テ支那國民ヲ代表シ且實際ノ權力ヲ行使スル政府ノ發現スルニ至ラムコトヲ希望ス



### (第二) 露西亞國、支那國間ノ條約

## 尼布楚(ネルチンスク)條約

千六百八十九年八月二十七日調印

(前文省略)

第一條 露西亞國ト支那國トノ境界ハ「チエルナヤ」河附近ニ於テ其ノ左岸カ「シルカ」河(黑龍江ノ支流)ニ合スル「ゴルビチヤ」河ヲ以テ之ヲ劃ス同河ノ水源ヨリ海ニ至ル境界線ハ同河ノ水源地タル山脈ノ頂上ニ沿ヒ之ヲ劃スヘシ兩國ノ管轄區域ハ之ヲ分チテ前記山脈ノ南方斜面ヨリ流出シ黑龍江ニ合スル一切ノ河川又ハ水流ノ流域ハ之ヲ支那帝國ニ、又前記山脈ノ北方ヨリ流出スル一切ノ河川ノ流域ハ之ヲ露西亞帝國皇帝ノ支配ニ屬セシムヘシ露西亞國ノ「ウード」河ト前記山脈トノ中間ニ横ヘル他ノ河川——黑龍江ノ附近ヨリ海ニ流出スルモノ——ノ流域ニ

シテ現ニ支那國ノ支配ノ下ニ在ルモノノ管轄權ノ問題ハ後日ニ之ヲ讓ルヘク本問題ニ付露西亞國大使ハ現在露西亞國皇帝ヨリノ明確ナル調令ヲ有セサルヲ以テ今後兩國大使カ各自國ニ歸國ノ後露西亞國皇帝及支那國皇帝ハ互ニ全權委員ヲ派遣スルカ又ハ文書ノ往復ニ依リ親交ノ條件ヲ以テ之ヲ決定スヘシ

第二條 黑龍江ニ流入スル「アルゲン」河ノ全線ハ同條ニ兩國ノ境界ヲ劃ス其ノ左岸ノ地域ハ支那國皇帝ノ支配ノ下ニ、其ノ右岸ハ露西亞國皇帝ノ下ニ置カルヘシ其ノ南方ノ住民ハ北方ニ移住セシムヘシ

第三條 露西亞國皇帝陛下ノ建造セル「アルバチン」ノ城邑ハ全然之ヲ破壊スヘク其ノ住民ハ一切ノ軍用及其ノ他ノ貯藏品ヲ携帶セシメ露西亞國領域ヘ移住セシムヘシ該移住民ハ其ノ一切ノ財產ヲ携帶スルコトヲ得ヘク差押ニ依リ之等住民ニ損害ヲ蒙ラシムルコトヲ得ス

第四條 本條約ノ日附以前ニ一方ノ地方ヨリ他方ノ地方ヘ

逃亡シ定住セル者ハ現儘定住スルコトヲ得ヘク何レノ側ヨリモ其ノ引渡ヲ請求スルコトナカルヘシ但シ本條約ノ日附後何レカノ締約國ニ逃亡セル者ハ遲滞ナク之ヲ國境ニ送還シ且直ニ地方ノ長官ニ引渡スヘシ

第五條 兩國政府ハ本條約締結ノ時ヨリ兩國ノ臣民ハ正當ノ旅行券ヲ所持スルニ於テハ私用ノ爲及商業ヲ營ム爲國境ヲ越エ往來スルコトヲ得ヘキコトヲ約ス

第六條 本條約ノ日附迄ニ兩國臣民間ニ生シタル一切ノ紛爭ハ今後之ヲ爭フコトナク且右紛爭ヨリ生スル請求ハ之ヲ受理セス但シ今後私用(適法ノ)爲國境ヲ越エタル兩國ノ臣民中財產及生命ニ對シ暴行罪ヲ犯ス者ハ直ニ之ヲ逮捕シ其ノ者ノ屬スル國ノ國境ニ送還シ且地方ノ長官(軍憲)ニ引渡スヘク該長官ハ右犯罪ノ處罰トシテ之ヲ死刑ニ處スヘシ兩國ハ私人カ國境ニ於テ犯ス罪及暴行ヲ以テ戰爭及流血ノ原因トナスヲ得ス此ノ種ノ事件生スルトキハ其ノ發生地ニ於ケル官吏ヲシテ兩國主權者ニ報告セシメタル後友誼的態度ヲ以テ外交上ノ交渉ニ依リ之ヲ解決スヘシ

支那國皇帝カ兩國使節ノ協定セル前記國境條約ノ規定ヲ石碑ニ彫刻シ標記トシテ之ヲ國境ノ或地點ニ存置セムト

款スルトキハ自由ニ之ヲ爲スヲ得ヘク之ヲ爲スト爲ササルトハ全然支那國皇帝ノ任意トス

## 恰克圖條約

千七百二十七年露曆十月二十一日  
「ネルチンスク」ニ於テ調印  
千七百二十八年六月十四日恰克圖  
ニ於テ批准書交換

大清帝國皇帝陛下ノ勅令ニ從ヒ左ノ全權委員ハ平和條約ヲ締結シ及國境劃定ノ爲集合セリ

福密爾問文官懲戒裁判所長內務大臣參與

「チー」

福密爾問邊疆諸省管轄裁判所長赤旗軍將軍

「ツウ」

兵部次官

「ウ」

露西亞國全權大使「イルリヤ」伯爵

「ツウ」



右兩國ノ全權ハ「ネルチンスク」ニ會合シ平和條約締結及  
國境劃定ノ爲左ノ協定ヲ爲セリ

第一條 本新協約ハ兩國ノ間ニ恒久ノ平和ヲ鞏固ナラシ  
ムカ爲特ニ締結セラレタルモノニシテ爾今永久ニ兩國  
ハ其臣民ノ安全ヲ保持シ善ク兩國ノ和親ヲ尊重シ如何ナ  
ル反抗的事件モ發生シ得サル様嚴重ニ各自ノ臣民ヲ統轄  
スルモノトス

第二條 今和親ヲ更新スルニ方リ兩國ハ兩國間ニ發生シタ  
ル過去ノ事件ヲ回顧スルヲ欲セス又今日迄ニ逃亡シタル  
モノハ返還セララルコトヲ從來ノ儘ニ放置セラルヘシ  
但シ今後逃亡スルモノアルトキハ如何ナル形式ニ依ルモ  
之ヲ防止シ兩國ハ其逃亡者ヲ熱心ニ搜索且逮捕シテ國境  
ノ人民ニ引渡スヘシ

第三條 露西亞國大使「イルリヤ」伯爵「サヴア」、ウラジス  
ラウイチ」ハ支那大官等ト左ノ如ク協定ス  
兩國ノ國境ノ劃定ハ極メテ重要ナル事件ニシテ現場カ  
踏査セラルルニ非サレハ之ヲ行フコトハ不可能ナリ故ニ  
露西亞國大使「イルリヤ」伯爵「サヴア」、ウラジスラウイ  
チ」ハ國境ニ赴キ支那侍從武官「チエルーフ」及近衛將軍  
「ベジュージ」及兵部次官「ウウリチン」ト協議シ兩國ノ國

境ヲ左ノ如ク協定ス  
恰克圖河畔ニ於ケル露西亞國衛舍ト「オロコイト」山上ニ  
在ル支那國石造衛舍トノ間ニ橫ハル土地ハ之ヲ等分ニ兩  
分シ中間ニ境界標トシテ一箇ノ衛舍ヲ建テ同地點ニ兩國  
ノ交易場ヲ設置スヘク同地點ニ國境確定ノ爲兩國ヨリ委  
員ヲ派遣スヘシ

國境ハ前記地點ヨリ東方ニ向ヒ「ブルグテイ」山嶺ニ沿ヒ  
「キランスク」ノ衛舍ニ至ルヘシ「キランスク」衛舍ヨリ  
「チコイ」、「アラ、ハダイン、ウス」ニ沿ヒ之等四箇ノ衛  
舍ノ反對ノ側ニ在ル「チコイ」河ノ一部ヲ國境ト定ム  
「アラ、ハダイン、ウス」ヨリ蒙古「ウブール、ハダイン、  
ウス」ノ衛舍ニ至リ「ウブール、ハダイン、ウス」ヨリ「ツ  
アガン、オル」ノ地ナル蒙古ノ衛舍ニ至ル迄露西亞國臣  
民ノ占有セル土地ト支那國臣民タル蒙古人ノ衛舍トノ間  
ノ總テノ砂漠地ハ恰克圖ニ於ケルト同様之ヲ等分ス即チ  
露西亞國臣民ノ移住セル土地ニ近ク山脈、連山及河川ノ  
存スルトキハ此等ヲ境界標ト定メ同様ニ蒙古衛舍ニ近ク  
山脈、連山及河川ノ存スルトキハ此等ヲ境界標ト定ム但  
シ山脈及河川ノ存セサル平坦ナル土地ニ於テハ之ヲ等分  
シテ境界標ヲ建設ス

兩國全權ハ所謂「ツアガンオラ」ノ衛舍ヨリ「アルゲン」河  
ノ岸迄赴キ蒙古ノ衛舍ノ管下ニ存スル土地ヲ調査シテ國  
境ヲ定ムヘシ恰克圖ト「オロゴイト」トノ兩地間ノ境界トシ  
テ建設セラレタル國境衛舍ヨリ始マリ「オロゴイト」、「チ  
ーメン、コブノフ」、「ビチクツ、ホシエグ」、「ベレソツオ  
ロ」、「タークイーチエロツワイン」、「ホンゴールホロ」、「ヤ  
シホルオラ」、「ボゴスンアマ」、「グンドザンオラ」、「フ  
ウガイトオラ」、「コビモウロウ」、「ブグツダバガ」、「エ  
ウチンマオイモウロウ」、「ドシトダバガ」、「キシニクツダ  
バガ」、「ゲルビダバガ」、「ヌタツダバガ」、「エルギクタル  
ガタ」、「ケンゼマダ」、「ホニンダバガ」、「ケムケムチツク  
ボム」、「シヤビナダバガ」ノ諸山ニ沿ヒテ西方ニ向ヒ此等

諸山ノ山嶺ニ沿ヒテ中央ニ分界ヲ爲シ之ヲ國境トス此等  
諸山ノ山嶺ノ間ニ山脈及河川ノ存スルトキハ其山脈及河  
川ハ之ヲ等分シ其北側ハ露西亞國領トシ南側ハ支那國領  
トス全權ハ分界ヲ明記シ且其圖面ヲ作成シ相互ニ右文書  
及圖面ヲ交換シテ各自ノ大臣ノ許ニ持參セリ卑賤ノ輩ニ  
シテ兩國ノ劃定セル國境ノ間ニ於テ盜賊ノ目的ヲ以テ  
徘徊シ土地ヲ占有シ若ハ右地域内ニ天幕小舎ヲ建設セル  
者ハ之ヲ搜索シ各其屬スル遊牧地ニ移セリ又國境地域ヲ

安寧ナラシムカ爲國境地域ヲ徘徊スル兩國臣民モ亦之  
ヲ搜索シテ各其屬スル天幕地ニ歸屬セシメタリ  
黑貂五枚ヲ貢獻シタル兩國ノ「ウリヤンヒ」族ハ將來モ從  
前通り其舊首ノ管下ニ殘留スヘシ但シ黑貂一枚ヲ貢獻シ  
タルモノハ國境劃定ノ成立シタル日ヨリ將來永久ニ右貢  
獻ヲ免除セラルヘシ右證據ノ爲ニ圖書ヲ作成シ之ヲ兩國  
ノ間ニ交換スヘシ

第四條 兩國ノ國境劃定セラレ相互ニ逃走者ノ生セサルニ  
至リタルヲ以テ露西亞國大使「イルリヤ」伯爵「サヴア」、ウ  
ラジスラウイチ」ト協定シテ兩國ノ間ノ自由交易ノ開  
始ヲ約セリ商人ノ數ハ之ヲ既ニ決定セラレタルカ如ク二  
百人ヲ超エサルモノトス右商人ハ三年ニ一回北京ニ赴ク  
コトヲ得ヘキモ總テ商人ナルヲ以テ食糧品ハ給與セラレ  
サルモノトス但シ賣手及買手何ノ側ニ對シテモ一切ノ  
稅ヲ徵收セサルモノトス商人カ國境ニ到着シタルトキハ  
右到着ヲ届出ツヘシ届出ヲ受理シタルトキハ官吏ヲ派遣  
シ右官吏ハ商人ニ會ヒ交易ノ爲之ニ同行スヘシ商人カ途  
中ニ於テ自費ヲ以テ駱駝、馬及食糧ヲ買ヒ又ハ勞働者ヲ  
雇入レムト欲スルトキハ之等ヲ買ヒ及雇入ルルコトヲ  
得



支那國官吏若ハ隊商ノ頭領ハ右商人ヲ統轄監督シ爭議ノ發生シタル場合ニハ公正ニ和解セシムヘシ頭領若ハ嚮導者ニシテ何等カノ功績アルトキハ之ヲ褒賞スヘシ兩國皇帝ノ勅令ニ依リテ禁止セラレタル物品以外ノ物品ハ其名稱ノ如何ヲ問ハス賣買スルコトヲ得

頭領ノ許可ナクシテ秘カニ滯留セムト欲スルモノアルトキハ之ヲ許スヘカラス病氣ノ爲死亡シタルモノアルトキハ其殘留品ハ其名稱ノ如何ヲ問ハス露西亞國大使「イルリヤ」伯「サヴア、ウラジスラウイチ」ノ規定セル如ク之ヲ本國ノ人民ニ引渡スヘシ

兩國間ノ交易ノ外ニ交易ノ爲「ネルチンスク」、「セレギン」及恰克圖附近ノ國境上ニ適當ナル場所ヲ選擇シ右地點ニ家屋ヲ建設シ籬若ハ柵ヲ以テ外部ヨリ見得ル様之ヲ圍ムヘシ交易ノ爲右地點ニ赴カムト欲スルモノハ必ス眞直ナル路ヲ行クヘシ

交易ノ爲右通路ヨリ離レ又ハ他ノ地點ニ赴クモノアルトキハ其物品ハ之ヲ沒收スヘシ相互ニ同數ノ官吏ヲ任命シ同級ノ將校ヲシテ之ヲ監督セシムヘシ  
右將校ハ共同シテ其土地ヲ守備シ相反目スヘカラス一切ノ爭議ハ露西亞國大使「イルリヤ」伯「サヴア、ウラジ

スラウイチ」ト協定セルトコロニ從ヒ之ヲ解決スヘシ  
第五條 最近北京ニ於テ露國人ノ爲ニ設ケラレタル屋敷ハ露西亞國及今後來着スル露西亞人ノ爲ニ用ヒラルヘク右露西亞人ハ該屋敷内ニ住ムヘシ  
又露西亞國大使「イルリヤ」伯「サヴア、ウラジスラウイチ」ノ申請ニ基キ露西亞國トノ事件ニ付監督權ヲ有スル支那國大官等ノ援助ニ依リ右屋敷内ニ一ノ教會ヲ建設セリ

最近北京ニ來着セル一名ノ僧侶ハ右教會内ニ住ムヘク其他來着豫定ノ三名ノ僧侶モ亦同居スヘシ  
右僧侶ノ來着シタルトキハ從來着セルモノニ與ヘラレタルト同様ニ食料ヲ給スヘシ  
右僧侶ノ來着ノトキ教會ハ開始セララルヘシ

右露西亞人ハ自國ノ法律ニ從ヒ自己ノ神ヲ祈禱シ禮拜スルコトヲ得ヘシ其他小兒四名及露西亞語及羅典語ヲ知レル青年二名モ亦右教會ニ住ミ之等ニ官費ヲ以テ食料ヲ給スヘシ右ノ小兒及青年ハ露西亞國大使「イルリヤ」伯「サヴア、ウラジスラウイチ」カ言語研究ノ爲ニ北京ニ滯留セシメムトスルモノニシテ研究完了セルトキニハ任意ニ歸國スヘシ

第六條 兩國間ノ交通ニハ印刷セラレタル旅券ヲ攜帶ヲ要ス

故ニ露西亞國ヨリ支那國ニ出張セシメラルモノアルトキハ元老院若ハ露西亞法院及「トボルスク」總督ヨリ支那邊境諸省ノ管轄法院ニ宛テタル證書ヲ下付セララルヘシ又支那國ヨリ露西亞國ニ出張セシメラルモノアルトキハ邊境諸省管轄法院長ヨリ元老院若ハ露西亞國法院及「トボルスク」總督ニ宛テタル同様ノ印刷セラレタル證書ヲ下付スヘシ

國境及國境地方ヨリ逃亡人、盜難及其他之ニ類似ノ事件ニ關シ書信ヲ發送スル場合ニハ露西亞國境ニ駐在スル市長、支那國國境ニ駐在スル「ツイーシエーツイーハン」  
「オバンチヤントルジ」  
「オバンチヤントルジ」ハ相互ニ右書信ニ署名調印シテ之ヲ發送スヘシ露西亞人カ「ツイーシエーツイーハン」  
「オバンチヤントルジ」  
「オバンチヤントルジ」ニ對シ書信ヲ宛ツルトキハ右支那國官吏ハ之カ返信ヲ認ムヘシ右書信ヲ持參スル總テノ使者ハ必ス恰克圖ヲ經由シテ通行スヘシ重大事件ノ起レルトキハ一切ノ近道ヲ通行スルコトヲ許サルヘシ何人タルヲ問ハス故意ニ

(恰克圖經由ハ遠キカ故ニ)近道ヲ通行スルトキハ露西亞國市長、衛戍司令官及支那國境汗等ハ右題ヲ相互ニ通報

第七條 「ウド」河及其地方ニ關シテハ露西亞國大使「フエ

オドル、アレキセエウイチ」ハ支那帝國内裁判所大官「サムグー」ト協議シ「本件ノ解決ハ之ヲ留保シ他日文書若ハ使節ヲ通シテ結了スヘシ」ト言明セシヲ以テ右題ヲ議定書ニ記載セリ之カ爲ニ支那帝國大官ハ露西亞國大使「イルリヤ」伯「サヴア、ウラジスラウイチ」ニ對シ「卿ハ女帝ヨリ總テノ事件ヲ決定スヘキ全權ヲ與ヘラレテ派遣セラレタルニ依リ我等ハ本件ニ關シ協約ヲ締結スヘキ必要アリ何トナレハ貴國ノ人民ハ絶エス」ヒムゴツグ

リ」ト稱セラルル我等ノ領域ニ侵入シ今ニシテ協約ヲ締結セサルニ於テハ國境附近ニ居住スル兩國ノ人民ハ相互ノ間ニ爭議若ハ不和ヲ起サムコトモ計リ難シ之レ極メテ平和及協調ニ反スルカ故ニ速ニ協定スルノ必要アリ」ト言明セリ

露西亞國大使「イルリヤ」伯「サヴア、ウラジスラウイチ」ハ答ヘテ曰ク「此極東ノ土地ニ關シ女帝ハ余ニ之カ交渉ヲ委任セサリシノミナラス余モ亦此土地ニ付確然タル知識ヲ有セサルカ故ニ今ハ從來ノ儘ニ放置セサルヲ得ス然レトモ何人ニテモ我等ノ領域ヨリ國境ヲ通貫シテ赴カ



ムトスルモノアルトキハ注意シテ之ヲ禁止スヘシト  
 之ニ對シ支那國大官ハ「女帝カ卿ニ極東地方ニ關シ協定  
 スルコトヲ委任セサリシ以上我等ハ之以上追求セサルヘ  
 シ本件ハ從來ノ儘ニ放置スヘシ然レトモ卿ノ歸國セラ  
 ルニ際シ貴國人民ニシテ國境ヲ越エテ赴カムトスルモノ  
 アルトキハ之ヲ逮捕シテ必ス處罰スヘシトノ旨ヲ訓令セ  
 ラレヨ然レトモ卿等ハ以テ不和ヲ破壊セルモノト言フコ  
 ト能ハス我國ノ人民ニシテ貴國國境ヲ通過スルモノアル  
 トキハ請フ卿等又之ヲ罰セヨ  
 本會議ニ於テハ「ウド」河及其他ノ通商河川ニ關シテハ之  
 カ協定ヲ爲サス從來ノ儘ニ放置スヘシ然レトモ貴國人民  
 ハ現狀以上ニ移民シ土地ヲ占有スヘカラスト言明セリ  
 露西亞國大使「イルリヤ」伯爵「サヴァ、ウラジスラウイ  
 チ」ハ之ニ答ヘテ「之等ノ事項ハ總テ歸國後明白ニ女帝  
 ニ伏奏スヘシ又其他ノ事項モ精密ニ踏査シテ何等カノ協  
 定ヲ結ヒ以テ本事件ヲ處理セムカ爲當該土地ニ關シ充分  
 ナル地理的知識ヲ有スルモノヲ右地點ニ派遣スヘキ理由  
 ヲ説明スヘシ本事件ハ事小ナリト雖モ現狀ノ儘ニ放任セ  
 ムカ必ス兩國ノ平和ニ有害ナル影響ヲ與フヘシ尙本事件  
 ニ關シ余ハ露西亞國元老院ニ通牒セリ」ト言明セリ

第八條 兩帝國ノ國境監督官ハ猶豫ナク各自國ノ事件ヲ公  
 正ニ處理スヘシ自國監督官一己ノ利益ノ爲ニ遲滯ノ生シ  
 タルトキハ兩國ハ各自ノ規則ニ從ヒ右監督官吏ヲ處罰ス  
 ヘシ  
 第九條 一方ノ帝國ヨリ他方ノ一帝國ニ公用ノ爲ニ小吏若  
 ハ大官ノ使者ノ差遣セララルル場合ニハ右ノ者ハ國境ニ至  
 リ自己ノ使命ト官位トニ付宣明ヲ爲シ協議セムカ爲ニ他  
 方國官吏ノ出張スル迄暫ク國境ニテ待ツヘキモ長ク滯留  
 セシメサルコトヲ要ス到着後ハ住家ト食料トヲ與フヘシ  
 使者カ貨物ノ交易ヲ許可セサル年ニ到着シタルトキハ商  
 品ヲ携帶スルコトヲ得ス重要ナル事件ニ關シテハ一名若  
 ハ二名ノ使者ヲ増加スヘシ此場合捺印セラレタル旅券ヲ  
 提示シ國境ノ官吏ハ直ニ馬車ト食料ト仰者トヲ與ヘ其到  
 着ヲ妨ケサルコトヲ要ス之レ露國大使「イルリヤ」伯「サ  
 ヴァ、ウラジスラウイチ」ト協定セルトコロナリ  
 兩國間ノ交通若ハ使者ノ派遣ハ極メテ重要ナルカ故ニ如  
 何ナル形式ニ於テモ之ヲ遲延スヘカラス爾今文書ヲ遲延  
 シ使者ヲ引止メ又ハ返書ヲ與ヘス又ハ徒ニ時間ヲ空費シ  
 テ返書ヲ遲延スルカ如キコトアル場合ニハ右行爲ハ平和  
 ニ適應セサルモノナルカ故ニ紛議ノ解決セララルル迄使者

及商人ノ通行ヲ禁止シ且之ヲ引止メ右紛議ノ解決後平常  
 ノ交通ヲ開始スヘシ

大使「イルリヤ」伯ノ定メタルトコロニ從ヒ之ヲ處罰スヘシ

第十條 爾今兩國ノ臣民ニシテ逃亡スルモノアルトキハ逮

第十一條 本平和條約ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ交換セリ

捕セラレタル現場ニ於テ之ヲ處罰スヘシ武裝シタルモノ  
 掠奪殺害ヲ犯シ國境ヲ越エテ逃亡スルトキハ之ヲ死刑ニ  
 處スヘシ又武器ヲ持シ捺印セラレタル旅券ナクシテ國境  
 ヲ越エテ逃亡セムトスルモノアルトキハ假令掠奪殺害ヲ  
 犯ササルモノト雖モ其罪ニ準シテ之ヲ罰スヘシ官吏若ハ  
 其他ノモノニシテ自己ノ首長ニ對シ竊盜ヲ犯シ逃亡シタ  
 ルトキハ其犯罪力露西亞國領内ニ於テ爲サレタル場合ニ  
 ハ之ヲ絞殺シ支那國領内ニ於テ爲サレタル場合ニハ之ヲ  
 逮捕シ現場ニ於テ斬首刑ニ處シ贓物ハ之ヲ其首長ニ返還  
 スヘシ國境ヲ越エテ獸類其他ノ家畜ヲ盜ミタルモノアル  
 トキハ裁判ヲ受クル爲ニ右犯人ヲ當該地方裁判官ニ引渡  
 スヘシ該裁判官ハ右犯罪力初犯ノ場合ニハ贓物價格ノ十  
 倍ノ罰金ヲ課シ二犯ハ二十倍ヲ課シ三犯ニハ死刑ヲ課ス  
 ヘシ國境ヨリ遠カラサル國境地方ニ於テ自己ノ利益ノ爲  
 ニ營業スルモノアルトキハ營業貨物ハ之ヲ國庫ニ沒收シ  
 營業者ハ裁判官ノ判決ニヨリテ之ヲ處罰スヘシ卑賤ナル  
 人民ニシテ旅券ナクシテ國境ヲ越エタルモノモ露西亞國

露西亞國大使「イルリヤ」伯「サヴァ、ウラジスラウイチ」  
 ハ露西亞語及羅典語ノ本書一通ニ署名調印シテ支那  
 國大官ニ手交シ支那國大官ハ滿洲語、露西亞語及羅典語  
 ノ本書一通ニ署名調印シテ之ヲ露西亞國大使「イルリヤ」  
 伯「サヴァ、ウラジスラウイチ」ニ手交セリ  
 本條約ハ之ヲ正確ニ印刷ニ附シ廣ク一觀ニ知悉セシムル  
 爲ニ之ヲ一切ノ國境官吏ニ配布セリ  
 大清帝國皇帝陛下ノ勅命ニ依リ左ノ人員ハ國境ニ關スル事  
 項ヲ規定スル爲ニ召集セリ  
 (氏名省略)  
 協議ノ後左ノ如ク協定セリ  
 平和條約十一條ハ變更スルコトナク維持スルモノナルコト  
 ヲ認メラレタリト雖モ國境カ山嶽ノ他ノ側面ヲ通過スル爲

恰克圖條約追加條約

千七百六十八年露曆十月十八日



「ブウルグウチイ」、「ビシクトウ」、「クホチコオ」諸山及其  
他ノ地點ノ近傍ヨリ露西亞國ヲ退去セシムルノ必要ヲ認メ  
タリ但シ其他一切ノ事項ハ輸入税ヲ支拂ハサル「キアクタ」  
及「ツオモウイクハイトウ」(「ツウルウクハイトウ」)ニ於ケ  
ル兩交易場ニ在ル舊狀態ノ儘タルヘシ平和條約ノ羅典語及  
露西亞語ノ本文ニ於ケル誤謬並忘却セル重要ナル點ニ付テ  
ハ之ヲ訂正スルハ適當ナルコトト裁決セリ尙兩國間ニ生セ  
ル紛議ハ之ヲ忘却シテ問責セス且逃亡者ハ過去ニ遡ツテ訴  
追セラレサルヘシ

國境ニ於ケル兩國國民間ノ竊盜及逃亡ヲ防遏スルノ方法ニ  
關スル原條約第十條ノ規定ハ不明瞭ニシテ不正確ナルヲ以  
テ之ヲ削除シ正文トシテ他ノモノヲ以テ之ニ代ヘタリ現條  
約ニ從ヒ各國ハ類似ノ事件ノ再發ヲ豫防スル爲爾今其國民  
ヲ監視スヘキモノトス國境ニ於テ毎年開カルヘキ會合ニ於  
テ如上ノ事項ノ發生シタル形跡ヲ認メタルトキハ接壤國指  
揮官ハ遲滞ナク且善意ニ之ヲ審査スヘキモノトス右指揮官  
カ私的利益ノ爲ニ其義務ヲ缺クトキハ各國ハ法律ニ依リテ  
之ヲ處罰スヘシ強盜ノ搜索及逮捕並國境ヲ不法ニ通過スル  
者ノ處罰ニ關シテハ左ノ規定ヲ適用ス

持兇器者ハ殺人ヲ犯セルト否ト問ハス之ヲ逮捕シ且何レ  
ノ監視所ヨリ來レルカ及同行者ヲ有セルカ否カヲ自白スル  
迄嚴重ニ留置スヘシ監視所ニ於テ嚴格ナル審問ヲ爲シタル  
後逮捕セラレサル強盜ノ姓名ハ之ヲ書留メ且該表ヲ一切ノ  
監視所特ニ「ドウシアースク」ノ第一首長タル「ダイヂー」及  
露西亞國ノ指揮官ニ送付スヘシ「ドウシアースク」ノ諸首長  
ハ直ニ現場ニ來リ露西亞國ノ指揮官ト共ニ事件ヲ細心ニ  
審査シタル後國境事件ノ裁決セラルル地點ニ引續キ送付ス  
ヘキ報告書ヲ直ニ作成スヘシ又廉潔ニシテ人望アル者ヲ派  
遣シ右ノ者ハ直ニ監視所ニ赴キ且「ドウシアースク」ノ首長  
ト協同シテ第二次審査ヲ爲シ右審査後報告書ハ國境事件ノ  
裁決セラルル地點ニ之ヲ送付スヘシ強盜犯ヲ犯セル大清帝  
國國民ハ何人タルヲ問ハス外部諸州ヲ管轄スル裁判所ニ之  
ヲ引渡シ且死刑ニ處スヘシ

露西亞國國民ハ同刑ニ處スル爲之ヲ元老院ニ引渡スヘシ殺  
人犯ハ國境ニ之ヲ公然引致シ且處刑スヘシ強盜ノ馬、鞍、  
兇器及其他ノ物品ハ逮捕シタル者ニ報酬トシテ之ヲ與フヘ  
シ馬、家畜又ハ其他ノモノヲ盜取シタル者ハ最初ハ贓品ノ  
價格ノ十倍ヲ支拂フヘシ

第十條 強盜ノ目的ヲ以テ監視所ヲ避ケテ國境ヲ通過スル

盜賊カ逮捕セラレサル場合ニ各監視所ノ指揮官ハ之ニ付報

告書ヲ提出スル爲犯罪ヲ審査シ且死者ノ創傷及身體ヲ檢視  
スル爲ニ參集スヘシ監視所ノ指揮官ハ犯人ヲ運クモ一月以  
内ニ逮捕スヘシ該期間内ニ犯人ヲ逮捕セサル場合ハ報告書  
ヲ國境事件ヲ裁決スル場所ニ送付スヘシ指揮官及兵卒カ盜  
取シタル馬及物品ノ搜索ニ關シ其義務ヲ盡ササルトキハ處  
罰セラルヘク且贓品ノ價格ノ十倍ヲ支拂ハシメラルヘシ竊  
盜ヲ行フ爲ニ國境ヲ通過スル兇器ヲ有セサル者ヲ逮捕シタ  
ル場合ハ法律ニ依リ百打ノ笞刑ニ處スヘシ

馬及其他ノ動物カ國境附近ニ逃走セル場合ニハ直ニ最近キ  
監視所ニ之ヲ連行クヘシ發見セサルトキハ説明ヲ付シタル  
報告書ヲ作成スヘシ

逃走セル馬及動物ハ五日間以内ニ之ヲ還付スヘシ右期間發  
見セル獸類ヲ返還セサル場合又ハ或場所ニ隠匿セル場合  
及該場所ヲ知レル場合ハ監視所ノ指揮官ハ之ニ付國境事件  
ヲ裁決スル官憲ニ報告書ヲ提出スヘシ此場合ニ於テハ逃走  
セル獸類ノ價格ノ二倍ヲ返還セシメラルヘシ

竊盜又ハ殺人ヲ犯スコトナク國境ヲ通過スル兇器ヲ攜帶シ  
且旅行券ヲ攜帶セサル者ハ逮捕セラルヘシ其馬、鞍及其他  
ノ物品ハ右ノ者ヲ逮捕シタル者ニ報酬トシテ之ヲ與フヘシ  
狩獵ノ爲國境ヲ通過スル場合ハ法律ニ依リ百打ノ笞刑ニ處  
セラルヘシ其獲物、武器、馬及犬ハ之ヲ逮捕シタル者ノ報  
酬ト爲スヘシ

兇器ヲ攜帶セサル者ニシテ國境ヲ通過シタル爲逮捕セラレ  
タル場合ハ監視所ノ指揮官ハ嚴重ニ之ヲ取調フヘシ

道ヲ誤リタル場合ハ之ヲ釋放シ且他方ノ哨所ニ送還スヘシ  
近寄り難キ森林又ハ山嶽ニ隱匿セル者ヲ發見シ且逮捕セル  
場合ハ法律ニ依リ公然百打ノ笞刑ニ處スヘク其馬、鞍及其  
他ノ物品ハ右ノ者ヲ逮捕シタル者ニ報酬トシテ之ヲ與フヘ







衙ヲ巡行スルヲ得サルヘク許可證ナクシテ廓外ニ出ツルヲ得サルヘシ許可證ナクシテ出タル者ハ領事ニ引渡サルヘク領事ハ當然之ヲ起訴スヘシ

物ノ保管倉庫ヲ建設セシムル爲伊犁及塔爾巴哈臺ノ兩商業市ニ於テ市場ノ近傍ノ土地ヲ之ニ充ツヘシ

第十條 兩帝國ノ一方ニ屬スル犯罪人ニシテ他方ニ逃亡セル場合ハ之ヲ赦免セサルヘシ雙方國ノ地方官憲ハ其踪跡ヲ搜索スル爲最嚴格ナル措置ヲ執リ且最精確ナル情報ヲ受クヘシ此種ノ逃亡者ニ付テハ相互ニ犯罪人引渡アルヘシ

第十四條 露西亞國臣民カ其宗教ノ儀式ニ依リ出張所内ニ於テ禮拜ヲ勤行スルトキハ支那國政府ハ如何ナル場合ニ於テモ之ニ干渉スルコトナカルヘシ

第十一條 取引業務ノ爲支那國ニ到ル露西亞國商人ハ乘用獸類及運搬用獸類ヲ伴フヘキヲ以テ伊犁市ノ近傍ニ於テハ伊犁河沿岸ノ地ヲ及塔爾巴哈臺市ノ近傍ニ於テハ水草ヲ有スル場所ヲ其使用ニ充ツヘシ該遊牧場ニ於テ露西亞國商人ハ耕地及墳墓ノ監視者ニ獸類ノ保護ヲ委託スヘシ

第十五條 露西亞國商人カ伊犁若ハ塔爾巴哈臺ニ交易ノ爲羊ヲ携帶セル場合ニハ地方官憲ハ羊十頭毎ニ二頭ヲ政府ノ爲ニ之ヲ取り各頭ニ代フルニ織物一疋(法定尺度)ダバヒヲ交付スヘシ爾餘ノ獸類及其他ノ貨物ハ隨意ニ協定シタル價格ヲ以テ兩帝國ノ商人間ニ於テ交易セラレヘク

第十二條 兩帝國商人間ノ貨物ノ交易ニ付雙方共掛賣ニテ引渡ヲ爲ササルヘシ本條ニ反シテ掛賣ニテ貨物ヲ引渡ス者アルトキハ露西亞國及支那國官吏ハ之ニ關與セサルヘク出訴アリタル場合ト雖モ右出訴ヲ許容セサルヘシ

第十六條 兩帝國ノ普通ノ公文書ハ露西亞國政府ニアリテハ西部比利亞上級官廳ノ仲介ニ依リ該官廳ノ調印ノ下ニ且支那國政府ニアリテハ伊犁上級官廳ノ仲介ニ依リ其調印ノ下ニ爲サルヘシ

第十三條 取引業務ノ爲支那國ニ到レル露西亞國商人ハ外國出張所トシテ敷地ヲ有スルノ必要アルヘキヲ以テ支那國政府ハ露西亞國臣民ヲシテ其費用ヲ以テ居住家屋及貨

第十七條 本條約ハ各全權委員之ニ署名調印スヘシ露西亞

國ハ露西亞國全權委員ノ署名アル露西亞語ノ本文四通ヲ並支那國ハ支那國全權委員及其隨員ノ署名アル滿洲語ノ本文四通ヲ作成スヘシ各全權委員ハ條約ヲ實施シ且永久

大清帝國ハ 侍從武官黑龍江將軍 奕 山

的規律ヲ遵守スル爲露西亞語及滿洲語ノ本文各一通ヲ保有スヘシ條約ノ批准交換後調印シ且保存スル爲露西亞語及滿洲語ノ本文各一通ヲ露西亞國ノ權限アル元老院及支

各其人民ノ利益ノ爲ニ兩帝國間ニ恒久且最モ緊密ナル友誼ヲ確立セムコトヲ希望シ左ノ如ク協定セリ

那國理藩院ニ送付スヘシ 露西亞國及支那國全權委員ニ依リテ締結セル本條約ノ前記 諸條ハ署名及調印セラレタルモノトス

第一條 黑龍江ノ左岸ニシテ「アルグーン」川ヨリ黑龍江ノ河口ニ至ル迄ハ露西亞帝國ニ所屬シ其右岸江ニ沿ヒテ烏蘇利河ニ至ル迄ハ大清帝國ニ所屬スルモノトス烏蘇利河ト海洋トノ間ニ介在スル地域ハ前記二國ノ國境ノ確定ヲ

千八百五十一年(全露西亞國獨裁皇帝陛下二十六年)七月二十五日

見ル迄從來ノ通り兩國ノ共有スル所トス黑龍江、松花江、拉烏蘇里河ノ航行ハ之ヲ清國及露西亞兩國ノ船舶ニ對シテノミ許容ス右諸川ノ航行ハ他ノ凡テノ國家ノ船舶ニ對シテ之ヲ禁止ス「ゼイア」河ヨリ南方「ホルモルジン」村ニ至リ黑龍江左岸ニ住居スル滿洲ノ住民ハ滿洲政府統治ノ下ニ永久其舊居ヲ保持スルコトヲ得ヘタ露西亞住民ハ

コヴアレウスキト (印)  
イ、チ、ア、ン (印)  
ブウヤンタイ (印)

千八百五十八年五月十六日愛琿ニ於テ 調印  
千八百五十八年六月二日清國皇帝批准

愛琿條約

愛琿條約

千八百五十八年五月十六日愛琿ニ於テ 調印

千八百五十八年六月二日清國皇帝批准

愛琿條約

愛琿條約

千八百五十八年五月十六日愛琿ニ於テ 調印

千八百五十八年六月二日清國皇帝批准



右ニ對シテ何等侵犯スルコトヲ得ス  
 第二條 兩國臣民ノ和親ノ爲鳥蘇里河、黑龍江並松花江ノ  
 河岸ニ居住スル兩國ノ臣民ハ相互ニ商取引ヲ行フコト  
 ヲ許シ且當局ハ右兩岸ノ取引業者ヲ保護スルモノトス

# 天津條約

千八百五十八年六月十三日  
 天津ニ於テ調印

第三條 露西亞帝國全權陸軍中將「ムウラヴィエフ」及

大清帝國全權黑龍江將軍奕山ニ依リ  
 一致協定セラレタル諸條項ハ確實ニ且不可侵ニ永遠ニ實  
 行セララルコトヲ期ス之カ爲陸軍中將「ムウラヴィエフ」  
 ハ露西亞帝國ヲ代表シテ露西亞語及滿洲語ヲ以テ作成セ  
 ラレタル本條約ノ一通ヲ大清帝國ヲ代表スル將軍奕山ニ  
 手交シ將軍奕山ハ大清帝國ヲ代表シテ滿洲語及蒙古語ヲ  
 以テ作成セラレタル本條約ノ一通ヲ露西亞帝國ヲ代表ス  
 ル總督「ムウラヴィエフ」ニ手交セリ  
 本條約ニ記載セル一切ノ條項ハ兩國ノ國境ニ居住スル  
 住民ニ告示スルモノトス

千八百五十八年五月十六日愛理市ニ於テ

ニコラス、ムウラヴィエフ (印)  
 ビエール、ベロフスキイ (印)  
 奕山 (印)  
 ヴラジミール、ガ (印)

全露西亞國皇帝陛下及支那國皇帝陛下ハ露西亞國及支那國  
 間ノ相互關係ヲ確定シ且兩國ノ利益ノ爲新規定ヲ制定スル  
 ノ必要ヲ認メ之カ爲各左ノ全權委員ヲ任命セリ  
 全露西亞國皇帝陛下  
 侍從武官長 海軍中將 露西亞國太平洋艦隊司令官  
 支那國駐劄露西亞帝國全權委員 伯爵「イウフイミウ  
 ス、ブーチアチヌ」  
 支那國皇帝陛下  
 東閣大學士總理刑部事務 桂  
 吏部尙書鑾旅漢軍都統 花

右全權委員ハ各自國政府ヨリ付與セラレタル全權ニ依リ左  
 ノ條項ヲ協定セリ

第一條 本條約ハ全露西亞國皇帝陛下及支那國皇帝陛下間  
 並各自國臣民間ニ多年來存スル平和及友好ヲ確認ス支那  
 國ニ居住スル露西亞國臣民及露西亞國ニ居住スル支那國

臣民ハ各其身體及財產ノ安全ニ付兩國政府ノ保護ヲ永  
 遠ニ享受スヘシ

第二條 爾今露西亞國政府及支那國政府間ノ通信ハ從來ノ  
 如ク一方ニ於テハ露西亞國元老院及他方ニ於テハ支那國  
 理藩院ニ依リ爲サレサルヘク露西亞國外務大臣及支那國  
 軍機大臣又ハ特派大學士間ニ於テ之ヲ行ヒ右照會ハ相互  
 ニ完全ニ對等ナル地步ニ立ツモノトス

前記露西亞國外務大臣及支那國軍機大臣又ハ特派大學士  
 間ノ普通通信ハ國境官憲之ヲ傳送スヘシ重要ナル照會ハ  
 特派使節之ヲ北京ニ持參シ右使節ハ軍機處及特派大學士  
 ニ面接スルコトヲ得ヘシ右使節ハ其來着後直ニ禮部ヲ介  
 シテ書狀ヲ捧呈スヘシ

露西亞國ノ全權使節及公使ト支那國大學士、諸大臣及沿  
 海督撫トノ間ノ通信及接見並兩國國境總督及國境駐在官  
 憲間ノ交渉ニ付テハ均シク平等タルヘキモノトス露西亞  
 國政府ニ於テ支那國開港場ノ一ニ駐在スヘキ全權公使ヲ  
 任命スルノ必要ヲ認ムル場合ニハ右全權公使ト支那國地  
 方官憲及北京ニ於ケル各大臣トノ間ノ照會及個人的交渉  
 ハ一切ノ諸外國ト締結シタル現行一般章程ニ從ヒ之ヲ辦  
 理スヘシ

露西亞國使節ハ恰克圖及「ウルガ」又ハ白河河口ノ大沽又  
 ハ支那國ノ其他ノ都邑若ハ開港場ヲ經由シテ北京ニ赴ク  
 コトヲ得豫告アルトキハ支那國政府ハ使節及其隨員ノ旅  
 行カ迅速且順適ナル様必要ナル設備ヲ直ニ爲スコトヲ要  
 ス首都ニ於ケル迎接ハ使節ノ官位ニ相當スヘキ榮譽ヲ以  
 テ之ヲ行ヒ安適ナル宿泊所ヲ供シ且右宿泊所ニハ一切ノ  
 必需品ヲ備フヘシ

露西亞國外交使節ヲ支那國ニ派遣スルニ付生スヘキ一切  
 ノ經費ハ露西亞國政府之ヲ負擔シ如何ナル場合ニ於テモ  
 支那國政府ノ負擔ト爲ラサルモノトス

第三條 爾今露西亞國及支那國間ノ通商ハ國境上ノ指定地  
 ニ於テ行ハルルノミナラス海路ニ由ルコトヲ得ヘシ露西  
 亞國商船ハ下記ノ港ニ通商ノ爲着スルコトヲ得ヘシ上  
 海、寧波、福州府、廈門、廣東、臺灣島ノ臺灣府、海南  
 島ノ瓊州府

第四條 商人及通商ニ從事スル船長ノ數ニ關シテハ將來兩  
 國政府ニ於テ何等制限セララルコトナカルヘシ  
 海路通商及海路通商ニ關スル一切ノ詳細事項即チ輸入貨  
 物目錄ノ届出、投儲稅及現行稅率ニ據ル税金ノ支拂ニ付  
 露西亞國臣民ハ支那國諸港ニ於ケル外國通商ニ關シテ制定



セラレタル一般章程ニ從フヘシ  
 露西亞人ニ依リ行ハルル一切ノ不正通商ニ對スル制裁ハ  
 支那國政府ノ利益ノ爲陸揚貨物ヲ沒收トス  
 第五條 露西亞國政府ハ通商ニ開カレタル港ニ領事官ヲ任  
 命スルノ自由ヲ有スヘシ

露西亞國政府ハ露西亞國民ノ秩序ヲ維持シ且領事官ノ權  
 カヲ庇護スル爲右ノ港ニ軍船ヲ派遣スルコトヲ得ヘシ  
 領事官及地方官憲間ノ交渉、教會家屋及店舖建築ノ爲適  
 當ナル地域ノ租借、支那人所有ノ土地ノ露西亞人ニ依ル  
 購入及領事官ノ管掌スル一切ノ處分ハ涉外事件ニ付支那  
 國政府ノ遵守スヘキ一般章程ニ從ヒ之ヲ辦理ス

第六條 露西亞國軍艦又ハ商船カ沿海ニ於テ沈没シタル場  
 合ニハ最寄ノ支那國官憲ハ現場ニ赴キテ乗組員ヲ救助シ  
 且船舶及貨物ノ救難ノ爲ニ必要ナル措置ヲ執ルヘキモノ  
 トス又右支那國官憲ハ乗組員及貨物ヲ露西亞國領事若ハ  
 露西亞國ト親交アル國ノ代理領事官ノ駐在スル最寄ノ港  
 ニ又ハ海難カ國境附近ニ惹起シタル場合ニハ國境ニ輸送  
 スルニ付便宜ヲ與フヘシ露西亞國政府ハ乗組員及貨物ノ  
 救難ニ因リ生シタル費用ヲ辨償スヘシ  
 露西亞國軍艦又ハ商船カ修理ヲ施シ水及食料ノ補給ヲ爲

スノ必要アル場合ニハ其航行ノ途上ニ於テ通商ヲ開カレ  
 サル港ニ入港シテ公平ナル價格ヲ以テ必要ナルモノヲ購  
 入スルコトヲ得ヘク地方官憲ハ右購入ニ關シ妨害スルコ  
 トヲ得ス

第七條 開港場及開市場ニ於ケル露西亞國臣民及支那國臣  
 民間ノ一切ノ事件ハ支那國官憲カ露西亞國領事若ハ右地  
 點ニ於テ露西亞國政府ノ權力ヲ代表スル官吏ト協議シテ  
 之ヲ審理スヘシ犯罪ノ責アル露西亞國臣民ハ露西亞國法  
 律ニ從ヒ之ヲ處罰スヘシ

右同様ニ露西亞人ノ生命若ハ財產ニ對スル犯罪若ハ加害  
 行爲ノ責アル支那國臣民ハ支那國法律ニ從ヒ之ヲ處罰ス  
 ヘシ支那國內地ニ侵入シテ犯罪ヲ行ヒタル露西亞國臣民  
 ハ之ヲ國境若ハ露西亞國領事ノ駐在スル開港場ノ一ニ送  
 致シ露西亞國法律ニ從ヒテ處罰スヘシ

第八條 支那國政府ハ基督教ノ教義ハ人類ノ間ニ於テ秩序  
 及協和ノ建設ヲ容易ナラシムルモノナルコトヲ認ムルヲ  
 以テ基督教徒タル自國臣民カ其宗教上ノ義務ヲ行フニ付  
 迫害セサルコトヲ約ス該臣民ハ帝國內ニ於テ寬容セラレ  
 タル他ノ信仰ニ歸依スル一切ノ者ニ許與セラレタル保護  
 ヲ享受スヘシ

支那國政府ハ基督教傳道師ハ之ヲ物質的利益ヲ求メサル  
 善人ナリト認ムルヲ以テ其自國臣民ノ間ニ基督教ヲ傳播  
 スルコトヲ許可シ且帝國內地ヲ巡歴スルコトヲ妨害セサ  
 ルモノトス開市場若ハ開港場ヲ出發スル一定數ノ傳道師  
 ハ露西亞國官憲ノ署名シタル旅行券ヲ携帶スヘシ

第九條 支那國及露西亞國間ノ國境ノ未ダ劃定セサル部分  
 ハ之ヲ遲滞ナク現場ニ於テ審査スヘシ  
 兩國政府ハ之カ爲委員ヲ任命シ右委員ハ境界線ヲ劃定シ  
 且該境界劃定ニ關シ追加條款トシテ本條約ニ附屬スヘキ  
 協約ヲ締結スヘシ而シテ後境界ニ關スル地圖及明細書ヲ  
 調製シ後日ノ證據書類ト爲スヘシ

第十條 宗教上ノ露西亞國使節ノ北京滞在ノ期間ニハ制限  
 ナカルヘク右使節一行ノ者ハ自國政府ノ許可ニ依リ何時  
 タリトモ自國ニ歸還スルコトヲ得ヘシ缺員ハ新ニ人ヲ派  
 シテ之ヲ補フコトヲ得ヘシ支那國政府ハ滞在使節ノ給養  
 費ヲ負擔セサルヘク一切ノ費用ハ露西亞國政府之ヲ支辨  
 スヘシ右使節一行ノ者、露西亞國政府カ恰克圖若ハ支那  
 國開港場ヨリ北京ニ及北京ヨリ恰克圖若ハ支那國開港場  
 ニ發スル使者及其他ノ者ノ旅費ハ露西亞國政府之ヲ支辨  
 スヘシ支那國地方官憲ハ前記一切ノ者ノ旅行カ迅速且順

適ナル様必要ナル措置ヲ執ルヘキモノトス

第十一條 兩國政府間ノ通信並北京ニ駐在スル宗教上ノ使  
 節ノ必要ノ爲恰克圖及北京間ニ定期郵便事務ヲ設クヘシ  
 支那國使者ハ北京及恰克圖ヨリ毎月一回一定ノ日ニ發セ  
 ラルヘク且十五日若ハ十五日以下ノ期間内ニ書狀及公ノ  
 小包ヲ其宛地ニ運送スルコトヲ要ス尙一年毎三月若ハ  
 毎四月ニ一切ノ種類ノ發送物及證券ノ運送ノ爲恰克圖ヨ  
 リ北京ニ及北京ヨリ恰克圖ニ運送除ヲ發スヘシ右運送除  
 ハ一月ノ期間内ニ其行程ヲ全ウスルコトヲ要ス此等通信  
 ノ設置及維持ノ爲ニ生スル一切ノ經費ハ兩國政府之ヲ均  
 分シテ支辨スヘシ

第十二條 政治上、通商上及其他ノ一切ノ特權ニシテ支那  
 國政府ヨリ最惠ノ待遇ヲ享クル國カ將來取得スヘキモノ  
 ハ豫メ會商スル必要ナク同時ニ露西亞國ニ均霑セシムヘシ  
 本條約ハ支那國皇帝之ヲ批准スヘク且露西亞國皇帝ノ批  
 准後批准書交換ハ一年內若ハ成ルヘク速カニ北京ニ於テ  
 之ヲ行フヘシ  
 兩國全權委員ノ署名調印シタル露西亞語、滿洲語及支那  
 語ノ本文ハ之ヲ茲ニ交換シ且兩締約國カ該實ニ嚴守スヘ  
 キ本條約一切ノ條項ノ解釋ハ滿洲文ニ據ルモノトス



天津條約追加條約(北京追加條約)

西曆千八百五十八年及宣統元年第二世皇帝ノ治世第四年六月一日(十三日)天津ニ於テ作成ス

大清帝國

恭親王

イウフイミウス、プーチアチヌ (印)  
桂 (印)  
花 (印)

右各委員ハ互ニ全權委任狀ヲ示シ其充分ナルコトヲ認メタル後左ノ如ク協定セリ

天津條約追加條約

(北京追加條約)

千八百六十年十一月十四日  
北京ニ於テ調印

露西亞國ト支那國トノ間ニ現存スル條約ヲ詳細審査シタル結果全露西亞國ノ獨裁君主タル同國皇帝陛下及大清帝國皇帝陛下ハ一層兩帝國間ノ相互の友誼關係ヲ確保シ通商關係ヲ發達セシメ且一切ノ誤解ヲ避ケムコトヲ欲シ若干ノ追加條項ヲ規定スルコトニ決シ此目的ノ爲左ノ如ク其全權委員ヲ任命セリ

露西亞國皇帝  
陸軍少將 「ニコライ、イグナチエフ」

今後兩帝國ノ東洋ニ於ケル國境線ハ「ルシカ」河ト「アルグン」河トノ合流點ヲ起點トシ黑龍江ニ沿ヒ同河ト烏蘇里河トノ合流點ニ至ルモノトス黑龍江ノ左岸(北方)ニ位スル地方ハ露西亞帝國ニ屬シ其右岸(南方)ニ位スル地方ハ烏蘇里河トノ合流點迄支那帝國ニ屬ス更ニ烏蘇里河合流點ヨリ「ヒンカイ」湖ニ至ル烏蘇里河及「ソングチヤ」河ニ沿フ國境線ノ右岸ニ位スル地方ハ露西亞帝國ニ其左岸ハ支那帝國ニ更ニ兩帝國ノ國境線ハ「ソングチヤ」河力其水源ヨリ「ヒンカイ」湖ヲ越エ「ベレンホウ」河ニ向ヒ同河ノ河口ヨリ山嶺ニ從ヒ「ハウプトウ」河ノ河口ニ至リ同處ヨリ琿春河ト該河ヨリ圖們江ニ至ル迄ノ海ト間ノ山嶺ヲ以テ之ヲ劃ス該全權委員同様に其東部ニ位スル地方ハ露西

亞帝國ニ其西部ニ位スル地方ハ支那帝國ニ屬ス前記ノ國境線ハ圖們江河口ヨリ二十支里ノ海上ニ及フモノトス尙天津條約第九條ノ實施ヲ確認スル爲地圖ヲ作製シ國境線ヲ明瞭ナラシムル爲赤線ヲ以テ之ヲ記入シ且露西亞語「アルファベット」ヲ以テ地名ヲ記入スヘシ兩帝國ノ全權委員ハ該地圖ニ署名調印スヘシ前記記入ノ地名中支那國臣民ノ住居セル地方アルトキハ露西亞國政府ハ右居住ヲ認メ且居住者力從來通り狩獵及漁業ニ從事スルコトヲ許可スヘシ國境線ヲ建設シタル後ハ前記國境線ハ之ヲ永久ニ變更スヘカラス

第二條 從來確定セサル西方ノ國境線ハ今後山脈及大河流ノ方向斂事實上支那國境衛兵ノ駐屯セル線ニ依リ之ヲ定ムヘシ即チ恰克圖條約ノ締結後千七百二十八年(雍正六年)ニ建設セラレタル「シヤピンダバガ」(沙賓達巴哈)ト稱スル國境線ノ最後ノモノヲ起點トシ西南ニ向ヒ「サイサン」湖ニ至リ同湖ヨリ「イシク、クウル」湖ノ南方ニ位スル山脈(「シエレスト」山脈)ノ南方支脈ニシテ「テンダリシヤン」其他ノ名アリ)ヲ經テ浩罕ノ屬領ニ至ル線ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 將來發生スルコトアルヘキ一切ノ國境問題ハ本條天津條約追加條約(北京追加條約)

約第一條及第二條ノ規定ニ依リ之ヲ定ムヘタ且東方ニ於テ「ヒンカイ」湖ヨリ圖們江迄西方ニ於テ「シヤピンダバガ」國境線ヨリ浩罕ノ屬領ニ至ル迄ノ國境建設ノ爲兩國政府ハ委員ヲ任命スヘタ東方國境線ノ爲該委員ハ明年四月中烏蘇里河合流點ニ於テ會合スヘタ西方國境ヲ觀察スル爲同委員會ハ「タルバガタイ」ニ於テ會合スヘシ但シ其時期ハ之ヲ決定セス

前記委員ハ本條約第一條及第二條ノ定ムル基礎ニ依リ地圖及國境線ノ詳細ナル說明書四通ヲ作成スヘタ右二部ハ露西亞語ヲ以テ他ノ二部ハ支那語又ハ滿洲語ヲ以テ之ヲ作成スヘシ該委員力前記地圖及說明書ニ署名調印シタル印ニ依リ確定セル調書ヲ作成スヘシ該調書ハ之ヲ本條約ノ追加條項ト認ム



同時ニ愛理條約第二條ニ定ムル貿易ニ關スル條項ハ本條ニ依リ之ヲ確認ス

第五條 露西亞國商人ハ恰克圖ニ於テ貿易ヲ爲ス外商用ノ爲同地ヨリ北京ニ至ルノ舊權利ヲ享有スヘク其途中庫倫及張家口ニ於テ貿易ヲ行フコトモ均シク許可セラルヘシ但シ此場合卸賣貿易ヲ行フノ義務ナキモノトス露西亞國政府ハ庫倫ニ領事及領事館員ヲ任命シ及其出費ニテ右各職員ノ住宅ヲ建築スルノ權利ヲ有ス該建物ノ敷地ノ許與、敷地區劃並牧場ノ許與ニ關シテハ庫倫知事ト協定スルヲ要ス

支那國商人ニシテ貿易ノ爲露西亞國內ニ入國セムト欲スル者ハ均シク許可セラルヘシ

露西亞國商人ハ商用ノ爲何時タリトモ支那國內ヲ旅行スルヲ得ヘシ但シ同一場所ニ同時ニ二百人以上會合スルコトノミハ之ヲ禁止ス尙該商人ハ露西亞國境官憲ノ發給セル旅券ヲ所持スルコトヲ要ス該旅券ニハ隊商ノ隊長ノ姓名、其率ユル隊商ノ人數、行先地ヲ記載スヘシ該旅行中前記商人ハ其必要トスルモノヲ賣買スルノ自由ヲ有ス旅行中一切ノ費用ハ商人自ラ之ヲ負擔スヘシ

第六條 試行ノ名義ヲ以テ伊犁及塔爾巴哈臺(タルバガタ

イ)ニ於ケルト同一ノ基礎ニ於テ喀什噶爾(カシユガル)ヲ貿易開放地ト爲スヘシ支那國政府ハ同地ニ於テ住宅、商品貯藏ノ爲ノ倉庫、教會等一切ノ必要ナル建物ヲ具備スル商館ヲ建設スルニ要スル充分ナル敷地並伊犁及塔爾巴哈臺ニ於ケルト同様墓所用及牧畜用土地ヲ讓與スヘシ該土地ノ許與ニ關スル命令ハ直ニ喀什噶爾知事ニ對シ發セラルヘシ

喀什噶爾(カシユガル)ニ於テ貿易ニ從事スル露西亞國商人カ掠奪セラレタル場合其掠奪カ支那國守備兵駐屯所ノ線外ニ於ケル者ニ依リ犯サレタルトキハ支那國政府ハ其責ニ任セス

第七條 支那國ニ在ル露西亞人並露西亞國ニ在ル支那人ハ貿易開市ニ於テ地方官憲ヨリ何等ノ妨害ヲ受クルコトナク全然自由ニ商業ニ從事スルコトヲ得ヘク且同様自由ニ當ニ市場、小賣店、地方商人ノ住居ニ出入シ現金拂又ハ物品交換ノ方法ニ依リ種々ノ商品ノ卸、小賣ノ取引ヲ爲スコトヲ得ヘシ尙相互的信用ニ依リ信用取引ヲ爲スコトヲ得ヘシ

前記商人ノ其貿易ヲ行フ地ニ於ケル滞在期間ハ之ヲ一定スルコトナク商人ノ自由裁量ニ委スルモノトス

第八條 支那國ニ在ル露西亞國商人及露西亞國ニ在ル支那

國商人ハ兩國ノ特別ノ保護ヲ受クヘシ商人ヲ監督シ之ト地方住民トノ間ニ生スルコトアルヘキ誤解ヲ豫防スル爲露西亞國政府ハ今後伊犁及塔爾巴哈臺(タルバガタイ)ニ於テ採用セル規定ノ基礎ニ從ヒ喀什噶爾(カシユガル)及庫倫ニ於ケル領事ヲシテ右事務ヲ執ラシムルコトヲ得ヘシ支那國政府ニシテ希望スルトキハ同様ニ露西亞帝國ノ首府及他ノ都市ニ於テ其領事ヲシテ同一ノ事務ヲ執ラシムルコトヲ得ヘシ

兩國ノ領事ハ各自國政府ノ費用ヲ以テ建築セル建築物ニ居住スヘシ但シ便宜ト認ムルトキハ地方住民ヨリ住宅ヲ賃借スルヲ禁セラルコトナシ

地方官憲トノ關係ニ於テ兩國領事ハ天津條約第二條ノ實施上全然平等ノ立場ニ置カルヘシ兩國領事ハ其商人ニ關スル一切ノ事件ヲ任意ニ之ヲ審理シ重罪及輕罪ハ天津條約第七條ノ規定ニ依リ犯罪人ノ屬スル國ノ法律ニ從ヒ之ヲ裁判スヘシ

商事ニ關シ商人間ニ生スル爭議、請求及其他同種ノ紛爭ハ商人自ラ其選擇セル仲裁方法ニ依リ之ヲ解決スヘシ領事及地方官憲ハ請求ニ關シ何等責任ヲ負フコトナク和解

セシムル爲協力スヘシ

貿易ノ許可セラレタル地ニ於テ兩國領事ノ商人ハ商品ノ注文、店舖、住宅及其他ノ賃賃借ノ爲書面ヲ以テ契約シ其公證ヲ求ムル爲領事館及地方官憲ニ提出スルコトヲ得ヘシ書面契約ノ不履行ノ場合ニハ領事及地方長官ハ契約當事者ヲシテ其義務ヲ嚴密ニ履行セシムル爲ノ手段ヲ執ルヘシ

商人間ノ商事ニ關セサル爭議ノ訴訟事件ハ領事及地方長官ノ合議ニ依リ之ヲ裁判スヘシ敗訴者ハ自國ノ法律ニ從ヒ罰セラルヘシ

露西亞國臣民カ支那國臣民中ニ隱匿セラレ又ハ露西亞國臣民カ支那國內地ニ逃亡セル場合ニ於テハ地方官憲ハ露西亞國領事ノ通知ヲ受ケタル後該逃亡ヲ搜索スル爲ノ手段ヲ執ルヘシ且之ヲ發見シタルトキハ直ニ露西亞國領事館ニ引渡スヘシ露西亞國臣民中ニ隱匿セラレ又ハ露西亞國內ニ逃亡セル支那國臣民ニ付テモ亦均シク同様ノ手續ヲ執ルヘシ

殺人、重傷害ヲ伴フ強盜、生命ニ對スル加害、放火等ノ重罪犯ノ場合ニ於テハ豫審ヲ開キタル後該犯罪者カ露西亞人ナルトキハ之ヲ露西亞國ニ送還シ同國ノ法律ニ依リ



之ヲ處罰スヘク支那人ナルトキハ犯罪地ノ官憲之ヲ處罰スヘシ又支那國ノ法律上必要ナル場合ニ於テハ該犯罪者ヲ他ノ都市又ハ地方ニ護送シ之ヲ處罰スヘシ  
 犯罪ノ場合如何ナル種類ノモノト雖モ領事及地方長官ハ自國ニ屬スル犯罪者ニ適用スルニ必要ナル處置ヲ他國人ニ對シ執ルコトヲ得ス兩者ハ自國政府ノ臣民ニ非サル箇人ヲ各別ニ拘禁、裁判又ハ處罰スルコトヲ得ス

第九條 兩國臣民間ノ通商關係及新國境線ノ確定ヲ定ムル現協定ニ依リ「ネルチンスク」及「恰克圖」ニ於テ締結セル條約及其追加條約ニ依リ定ムル舊規定ハ今後之ヲ適用セス兩國ノ國境ニ於ケル官憲ノ交渉及國境事務ノ調査ニ依リ定メラレタル規定ハ最早均シク現情ニ適セサルモノト認メタル結果舊規定ニ代ヘ左記規定ヲ設ク

東方國境中庫倫及恰克圖ニ於テ恰克圖知事ト庫倫官憲トノ間又西方國境ニ於テ西部比利亞總督ト伊犁官憲トノ間ニ存在スル交渉ノ外今後「アムール」州及沿海州ノ衛戍總督ト黑龍江省及吉林省ノ將軍トノ間並恰克圖國境委員ト同地部員トノ間ニ各本條約第八條ノ規定ニ從ヒ國境關係ノ交渉ヲ爲スヘシ天津條約第二條ニ從ヒ前記衛戍總督及將軍ハ其交渉ニ於テ完全ナル平等ノ地位ニ立ツヘク且

該交渉ニ於テ其管轄事項ニ直接關係アルモノ以外ニ渉ルヘカラス  
 特殊ノ重大事件ノ場合ニ於テハ東部比利亞總督ハ國境事務ヲ司ル中央行政官憲タル軍機處又ハ理藩院ト書面ヲ以テ交渉スルコトヲ得ヘシ

第十條 國境事件(如何ニ重大ナルモノト雖モ)ニ關スル調示及決定ニ付國境長官ハ本條約第八條ニ定ムル規定ニ從テ天津條約第七條ノ定ムル如ク犯罪者ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ處理スヘシ家畜カ國境ヲ越エ或ハ國境外ニ誘拐又ハ奪略セラレタル場合ニ於テ地方官憲ハ其通知ヲ受ケ且其踪跡ノ概要ヲ最寄國境守備員ニ指示シタル後直ニ搜索ノ爲係員ヲ派遣スヘシ發見セラレタル家畜ハ直ニ之ヲ原所有者ニ送還スヘシ頭數不足ノ場合ハ法律ニ從ヒ取戻請求ヲ爲スヘシ但シ此場合賠償支拂額ハ從來實行セラレタルカ如ク不足セル家畜ノ價格ノ數倍ニ上ルカ如キコトアルヘカラス

箇人カ國境外ニ逃亡セル場合ニ於テ右通知アルト直ニ逃亡者搜索ノ措置ヲ執ルヘシ該逃亡者ハ之ヲ逮捕シ其所有物ト共ニ遲滞ナク國境官憲ニ引渡スヘシ逃亡動機ノ審理

及同事件ノ裁判ハ逃亡者ノ屬スル國ノ國境最寄ノ地方官憲之ヲ行フヘシ該逃亡者ハ其逮捕ノ時ヨリ引渡ノ時ニ至ル迄ノ國境外滯在中適當ニ食物及必要ノ場合ハ衣服ヲ給セラルヘシ同伴スル護衛者ハ逃亡者ヲ寬大ニ取扱フヘク專斷行爲ハ之ヲ許サス一般人モ亦未ダ何等ノ裁決ヲ受ケサル逃亡者ニ對シ同様ノ取扱ヲ爲スヘシ

第十一條 兩帝國ノ國境長官間ノ公文書往復ハ國境最寄ノ官吏ノ仲介ニ依リ之ヲ行フヘク該官吏ハ右送達公文書ヲ受取リタルトキハ受領書ヲ交付スヘシ

東部西部比利亞總督及恰克圖知事ハ其公文書ヲ恰克圖ニ於ケル國境委員ニ送達スヘク該委員ハ之ヲ部員ニ轉送スヘシ庫倫知事ハ其公文書ヲ部員ニ送達スヘク該部員ハ之ヲ恰克圖國境委員ニ轉送スヘシ

「アムール」州ノ衛戍總督ハ愛琿副都統ヲ經テ其公文書ヲ送達スヘク黑龍江省及吉林省將軍ハ右副都統ノ仲介ニ依リ其公文書ヲ「アムール」州衛戍總督ニ轉送スヘシ  
 沿海州衛戍總督及吉林省將軍ハ烏蘇里河及環泰河沿岸ノ國境長官ノ仲介ヲ經テ其公文書ヲ相互ニ發受スヘシ  
 西部比利亞總督ト伊犁行政長官又ハ將軍トノ公文書ノ往復ハ伊犁ニ於ケル露西亞領事ノ仲介ニ依リ轉送セラル

ヘシ  
 特殊ノ重大事件ニ付口頭ノ説明ヲ必要トスル場合ニ於テハ兩帝國ノ國境長官ハ互ニ其公文書ヲ露西亞國ノ信任セル官吏ヲシテ發送セシムルコトヲ得ヘシ

第十二條 天津條約第十一條ノ規定ニ從ヒ恰克圖ト北京間ヲ往復スル書狀及小包ノ郵便業務ハ次ノ時期ニ出發スヘシ即チ書狀ノ送達ハ前記各兩地ヨリ毎月一回、小包ノ送達ハ恰克圖ヨリ北京向二箇月毎ニ一回、北京ヨリ恰克圖向三箇月毎ニ一回

書狀郵便ハ二十日以内ニ小包郵便ハ四十日以内ニ各其行先地ニ到着スルヲ要ス  
 各便小包郵便物ハ各箇ノ重量百二十支那斤即チ四「ブ」以下ノモノ二十函以下トス

書狀郵便ハ其引渡ヲ受ケタル即日之ヲ發送スルヲ要ス遲延ノ場合ハ之ヲ證議シ嚴罰ニ處スヘシ  
 信書及小包ノ運送人ハ庫倫ニ於ケル露西亞國領事館ニ出頭シ同地ノ居住者宛書狀及小包ヲ引渡シ且該居留者ヨリ發送スル書狀及小包ヲ受取ルヘシ  
 小包郵便物發送ニ當リ其委託セラレタル函ニハ送狀ヲ添附スルヲ要ス恰克圖ヨリハ庫倫知事宛送狀ヲ官吏ニ携帶



セシムヘク又北京ヨリハ同様理藩院ニ報知スヘシ  
送狀ニハ正確ニ發送ノ日、函數及其重量ヲ記載スヘシ各  
箱ノ重量ハ其包裝ノ上ニ露西亞數字及之ヲ蒙古及支那數  
字ニ譯シタルモノヲ以テ記載スヘシ

露西亞國商人カ其國商業事務上其費用ニ於テ其書狀又ハ  
商品ノ輸送事務ヲ開始セムトスルトキハ國營郵便業務ヲ  
緩和スル爲之ヲ許可スヘシ郵便通信ヲ開始セムトスル場  
合該商人ハ單ニ地方官憲ニ對シ其同意ヲ得ル爲豫告スヘ  
シ

第十三條 露西亞國外務大臣ヨリ大清帝國軍機處ニ及東方  
西北利亞總督ヨリ軍機處又ハ理藩院ニ宛テタル普通ノ通  
信ハ普通ノ郵便手續ニ依リ之ヲ發送スヘシ但シ其發送時  
期ニ付テハ一定ノ期限ヲ設クルコトナシ特殊ノ重要ナル  
事件ノ場合ニ於テハ其通信ハ露西亞國傳達使ニ依リ之ヲ  
送達セシムヘシ

露西亞國使節ノ北京滯在中特殊ノ重要ナル公用文書ハ同  
様此目的ノ爲ニ特ニ任命セル露西亞國ノ官吏ヲシテ傳達  
セシムヘシ  
露西亞國傳達使ハ其途中何處ニ於テモ又何事ニ對シテモ  
之ヲ監禁スヘカラス

公用文書ヲ運搬スルノ任ニ當ル傳達使ハ必ス露西亞國區  
民タルヲ要ス  
傳達使ノ派遣ニ付テハ其出發前二十四時前ニ恰克圖ニ於  
テハ委員ヨリ部員ニ又北京ニ於テハ露西亞國使節ヨリ兵  
部ニ通報スルヲ要ス

第十四條 今後本條約ニ依リ定ムル陸上貿易ニ關スル規定  
中一方又ハ他方ノ締約國ニ不便ヲ生スルトキハ東部西比  
利亞ノ總督ハ大清帝國ノ國境長官ト協議ノ上總テノ場合  
前記諸條ニ定ムル原則ニ從ヒ追加協約ヲ締結スルノ權能  
ヲ有スヘシ

天津條約第十二條ハ同時ニ確認セラレ何等ノ變更ヲ受ケ  
ルコトナシ  
第十五條 合議ノ上前記諸條ヲ定メタルニ依リ露西亞帝國  
及支那帝國ノ各全權委員ハ露西亞語本文ニ通及其支那語  
譯文ニ通ニ自ラ署名調印シ各一通宛ヲ交付スヘシ

本條約ノ諸條ハ兩國ノ各全權委員ノ批准書交換ノ日ヨリ  
逐語的ニ天津條約中ニ挿入セラレタルモノト看做シ其效  
力ヲ發生スヘク常ニ誠實ニ且違反スルコトナク之ヲ實施  
スヘシ  
兩帝國ノ主權者ニ依リ批准セラレタル後本條約ハ兩國內

ニ於テ之ヲ公布シ其所屬民ニ周知セシメ且之ヲ拘束スヘシ  
千八百六十年十一月十四日北京ニ於テ之ヲ締結シ之ニ署名  
ス

ニコライ、イグナチエフ (印)  
恭 (印)

### 陸路通商條約

千八百六十二年三月四日  
北京ニ於テ調印

北京追加條約中ニ露支陸上通商ニ對スル規則及稅表ノ協定  
セラレサリシヲ考慮シ大露西亞國全權副官「レヴ、ハリウ  
一ゼク」及大清國欽命總理各國事務王大臣ハ左ノ如ク通商  
及關稅ノ規則ヲ協定セリ

第一條 兩國ノ境界ニ沿ヒテ其兩側百支那里ニ互ル地域ニ  
於テハ貨物ハ無稅ニテ運送スルコトヲ得且兩國ハ各其國  
境規則ニ從ヒ通商ヲ取締ルコトヲ得

第二條 小資本ヲ以テ商業ヲ營マムトスル露西亞商人ハ支  
那ニ從屬シ支那官吏ノ駐在スル(支那行政官廳ノ存在ス

### 陸路通商條約

ル)蒙古ニ於テ及其官吏ノ管轄下ナル全「アイマツク」ニ  
於テ同様ニ無稅ニテ營業スル權利ヲ有スヘシ  
支那政府ハ露西亞商人カ支那行政官廳ノ存在セサル土地  
ニ出發セムト欲スルトキハ爾今之ヲ阻止セサルヘク且右  
商人ハ自國ノ國境官吏ノ發給セル露西亞文、支那文及蒙  
古文ノ證明書ヲ所持セサルヘカラス右證明書ニハ商人ノ  
氏名、商品ノ種類ト數、梱包及駱駝牛馬ノ數ヲ記載ス  
ヘシ

商人カ前記證明書ヲ所持セサルコト發覺スルトキハ該商  
人ノ貨物ハ支那政府ニ押收セラルヘク該商人ハ北京條約  
第十條ニ從ヒ逃亡者ニ準シ取扱ハルヘシ蒙古ニ於ケル露  
西亞領事ハ商人カ證明書ヲ有セスシテ交易スルコトナカ  
ラム爲ニ嚴重ナル取締ヲ爲スヘシ

第三條 露西亞商品ヲ所持シテ天津ニ赴カムトスル露西亞  
商人ハ露西亞國監督官發給哈布圖部員證明(捺印ヲ以テ)  
ノ兩國國語ヲ以テ記シタル許可書ヲ所持スルコトヲ要ス  
該許可書ニハ除商指揮者ノ氏名、商品ノ數量ト種類、梱  
數ヲ記入スルモノトス  
該除商ハ張家口、東壩、通州ヲ通路シ直路天津ニ赴カサ  
ルヘカラス



セシムヘク又北京ヨリハ同様理藩院ニ報知スヘシ  
送狀ニハ正確ニ發送ノ日、函數及其重量ヲ記載スヘシ各  
箱ノ重量ハ其包裝ノ上ニ露西亞數字及之ヲ蒙古及支那數  
字ニ譯シタルモノヲ以テ記載スヘシ

露西亞國商人カ其國商業務上其費用ニ於テ其書狀又ハ  
商品ノ輸送事務ヲ開始セムトスルトキハ國營郵便業務ヲ  
緩和スル爲之ヲ許可スヘシ郵便通信ヲ開始セムトスル場  
合該商人ハ單ニ地方官憲ニ對シ其同意ヲ得ル爲豫告スヘ  
シ

第十三條 露西亞國外務大臣ヨリ大清帝國軍機處ニ及東方  
西北利亞總督ヨリ軍機處又ハ理藩院ニ宛テタル普通ノ通  
信ハ普通ノ郵便手續ニ依リ之ヲ發送スヘシ但シ其發送時  
期ニ付テハ一定ノ期限ヲ設クルコトナシ特殊ノ重要ナル  
事件ノ場合ニ於テハ其通信ハ露西亞國傳達使ニ依リ之ヲ  
送達セシムヘシ

露西亞國使節ノ北京滯在中特殊ノ重要ナル公用文書ハ同  
様此目的ノ爲ニ特ニ任命セル露西亞國ノ官吏ヲシテ傳達  
セシムヘシ  
露西亞國傳達使ハ其途中何處ニ於テモ又何事ニ對シテモ  
之ヲ嚴禁スヘカラス

公用文書ヲ運搬スルノ任ニ當ル傳達使ハ必ス露西亞國臣  
民タルヲ要ス

傳達使ノ派遣ニ付テハ其出發前二十四時前ニ恰克圖ニ於  
テハ委員ヨリ部員ニ又北京ニ於テハ露西亞國使節ヨリ兵  
部ニ通報スルヲ要ス

第十四條 今後本條約ニ依リ定ムル陸上貿易ニ關スル規定  
中一方又ハ他方ノ締約國ニ不便ヲ生スルトキハ東部西北  
利亞ノ總督ハ大清帝國ノ國境長官ト協議ノ上總テノ場合  
前記諸條ニ定ムル原則ニ從ヒ追加協約ヲ締結スルノ權能  
ヲ有スヘシ

天津條約第十二條ハ同時ニ確認セラレ何等ノ變更ヲ受ク  
ルコトナシ

第十五條 合議ノ上前記諸條ヲ定メタルニ依リ露西亞帝國  
及支那帝國ノ各全權委員ハ露西亞語本文二通及其支那語  
譯文二通ニ自ラ署名調印シ各一通宛ヲ交付スヘシ

本條約ノ諸條ハ兩國ノ各全權委員ノ批准書交換ノ日ヨリ  
運語的ニ天津條約中ニ挿入セラレタルモノト看做シ其效  
力ヲ發生スヘク常ニ誠實ニ且違反スルコトナク之ヲ實施  
スヘシ

兩帝國ノ主權者ニ依リ批准セラレタル後本條約ハ兩國内

ニ於テ之ヲ公布シ其所屬民ニ周知ヒシメ且之ヲ拘束スヘシ  
千八百六十年十一月十四日北京ニ於テ之ヲ締結シ之ニ署名  
ス

ニコライ、イグナチエフ (印)  
恭 (印)

### 陸路通商條約

千八百六十二年三月四日  
北京ニ於テ調印

北京追加條約中ニ露支陸上通商ニ對スル規則及稅表ノ協定  
セラレサリシヲ考慮シ大露西亞國全權副官「レヴ、ハリウ  
「ゼク」及大清國欽命總理各國事務王大臣ハ左ノ如ク通商  
及關稅ノ規則ヲ協定セリ

第一條 兩國ノ境界ニ沿ヒテ其兩側百支那里ニ互ル地域ニ  
於テハ貨物ハ無稅ニテ運送スルコトヲ得且兩國ハ各其國  
境規則ニ從ヒ通商ヲ取締ルコトヲ得

第二條 小資本ヲ以テ商業ヲ營マムトスル露西亞商人ハ支  
那ニ從屬シ支那官吏ノ駐在スル(支那行政官廳ノ存在ス

### 陸路通商條約

ル)蒙古ニ於テ及其官吏ノ管轄下ナル全「アイマツタ」ニ  
於テ同様ニ無稅ニテ營業スル權利ヲ有スヘシ  
支那政府ハ露西亞商人カ支那行政官廳ノ存在セサル土地  
ニ出發セムト欲スルトキハ爾今之ヲ阻止セサルヘク且右  
商人ハ自國ノ國境官吏ノ發給セル露西亞文、支那文及蒙  
古文ノ證明書ヲ所持セサルヘカラス右證明書ニハ商人ノ  
氏名、商品ノ種類ト數量、梱包及駱駝牛馬ノ數ヲ記載ス  
ヘシ

商人カ前記證明書ヲ所持セサルコト發覺スルトキハ該商  
人ノ貨物ハ支那政府ニ押收セラルヘク該商人ハ北京條約  
第十條ニ從ヒ逃亡者ニ準シ取扱ハルヘシ蒙古ニ於ケル露  
西亞領事ハ商人カ證明書ヲ有セスシテ交易スルコトナカ  
ラム爲ニ嚴重ナル取締ヲ爲スヘシ

第三條 露西亞商品ヲ所持シテ天津ニ赴カムトスル露西亞  
商人ハ露西亞國監督官發給哈布圖部員證明(捺印ヲ以テ)  
ノ兩國國語ヲ以テ記シタル許可書ヲ所持スルコトヲ要ス  
該許可書ニハ除商指揮者ノ氏名、商品ノ數量ト種類、捆  
數ヲ記入スルモノトス

該除商ハ張家口、東壩、通州ヲ通路シ直路天津ニ赴カサ  
ルヘカラス



其途上ノ全税關ニ於テ支那官吏ハ迅速ニ相數及其内容ヲ  
 検査スルコトヲ得然ル後證明書ヲ検査シ之ニ税關印ヲ捺シ  
 貨物ヲ通過セシムルモノトス證明書ハ六箇月ノ期間内ニ  
 之ヲ無効ナラシムル爲天津税關ニ提出セサルヘカラス税  
 關ニ於テ検査ノ場合ニ梱包ノ破損セラレタルトキハ税關  
 自ラ之ヲ改裝シ検査ノ行ハレタルコトヲ證明シ破損セラ  
 レタル梱包數ヲ證明シ符號ヲ記スヘシ検査ハ二時間以上  
 ニ互ルヘカラス商人カ其所持スル證明書ヲ紛失シタルト  
 キハ將來商品ノ證明ヲ中絶スヘシ商人ハ直ニ其紛失物ニ  
 關シ證明ヲ與ヘタル官廳ニ對シ交付月日ト證明番號トヲ  
 記シタル請願書ヲ以テ届出ヲ爲スヘシ官廳ハ直ニ該商人  
 ニ新證明書ヲ下付シ之ニ検査及通過許可ノ便宜ノ爲其證  
 明書カ第二回目ニ下付セラレタルモノナルコトヲ記入ス  
 ルモノトス

第四條 露西亞商人ハ張家口ヲ通過スルトキ天津ニ發送シ  
 タル貨物ノ五分ノ一ヲ賣却ノ目的ヲ以テ張家口ニ留置ス  
 ルコトヲ得三日間内ニ該商人ハ其留置ニ就テ税關長ニ届  
 出ツヘシ税關長ハ之ヲ検査シ證明番號ヲ符シ貨物賣却許  
 可ノ證明ヲ與フルモノトス然ル後商人ハ該商品ヲ賣却ス  
 ルコトヲ得ヘシ唯張家口ニハ商人ハ大ナル倉庫(卸賣)ヲ

開クヘカラス

第五條 天津ニ到着後露西亞貨物ヨリ一般歐洲税率ノ三分  
 ノ二ニ相當スル關稅ヲ徵取スヘシ張家口ニ殘サレタル五  
 分ノ一ノ貨物ニ對シテモ亦張家口ニ於テ同様ノ關稅ヲ徵  
 取スヘシ

第六條 張家口ニ殘サレタル五分ノ一ノ貨物ニ對シ張家口  
 ニ於テ關稅ヲ支拂ヒシ後即チ其支拂ニ關シ受領書ヲ受取  
 リタル後該貨物カ賣却セラレサルトキハ露西亞商人ハ該  
 貨物ヲ賣却ノ爲通州若ハ天津ニ持行クコトヲ得且其他ノ  
 如何ナル關稅モ右貨物ヨリ徵取セラルコトナシ

第七條 貨物ノ天津到着後及支那官吏ニ依ル該貨物ノ検査  
 後如何ナル貨物ノ容レラレタルカヲ問ハス其容器ノ破壞  
 セラレ該貨物ノ代置セラレタルコト、該貨物ノ途中ニ於  
 テ五分ノ一以上殘サレタルコト並該貨物ノ第三條ニ規定  
 セラレタル道順ニ依ラス他ノ道順ニ依リ運送セラレタル  
 コト發覺シタルトキハ右違犯商人ノ貨物ハ國庫ニ沒收セ  
 ラルヘシ

第八條 露西亞商人カ貨物ヲ天津ヨリ海路ニ依リ外國人ニ  
 開放セラレタル他港ニ運送スルトキハ天津ニ於テ不足セ  
 ル一般歐洲關稅率ノ三分ノ一ノ稅ヲ支拂フヘシ右ノ場合

ニハ他港ニ於テハ右商人ハ夫以上何等ノ關稅ヲモ課セラ  
 レサルヘシ天津若ハ他港ヨリ貨物カ内地ニ運送セララル

トキハ歐洲關稅率ニ從ヒ運送稅ヲ支拂ハサルヘカラス  
 注意 上述ノ規則ハ輸入ニ關係ス

第九條 外國人ニ開放セラレタル總テノ港ニ於テ露西亞商  
 人ハ支那貨物タルト西洋貨物タルトヲ問ハス其輸出入ニ  
 際シ外國海上貿易ニ對スル一般規則ニ依リ取扱ヘルヘシ

第十條 開港中ノ一港ニ於テ購買セラレタル支那生産品ヲ  
 天津ヲ經テ露西亞ニ輸入スルニ際シテハ第一港ニ於テ一  
 般歐洲稅率ニ從ヒ輸出稅ヲ支拂フノ外天津ニ於テ猶半分  
 ノ再輸入稅ヲ支拂ハサルヘカラス

該貨物ヲ恰克圖ニ輸出スルニ當リ露西亞領事ハ商人ニ對  
 シ兩國語ヲ以テ書シ天津稅關ノ捺印ヲ附シタル文書ヲ與  
 フヘク右文書ニハ商人ノ氏名、貨物ノ數量ト種類及梱包

數ヲ記入スルモノトス然ル後貨物ハ夫以上如何ナル稅ヲ  
 モ課セラルルコトナク恰克圖ニ輸出セララルコトヲ得ヘ  
 シ但シ第三條ニ規定セラレタル道順ニ依リ赴クコトヲ要  
 ス途中ニ於テ貨物ヲ賣却スヘカラス此規則ニ違反スルト  
 キハ違反者ノ貨物ハ國庫ニ沒收セララルヘシ

通州東塔及張家口通過ノ際ノ検査ニ關シテハ第三條ニ從

ヒ之ヲ爲スヘシ

第十一條 天津及通州ニ於テ露西亞商人ニ購入セラレタル  
 支那貨物カ陸路(第三條ニ定メラレタル)露西亞國ニ輸出  
 セラルル際該貨物ヨリ歐洲稅率ニ從ヒ輸出稅ヲ徵取スル

モノトス商人ニ證明書ノ與ヘラレタル後ハ該商人ノ貨物  
 ヨリ夫以上ノ稅ヲ徵取セサルヘシ然レトモ途中ニ於テ賣  
 却スヘカラス此規則ニ違反スルトキハ違反者ハ罰金ヲ課  
 セラルヘシ

第十二條 露西亞商人カ張家口ニ於テ支那商品ヲ購買シ之  
 ヲ露西亞ニ輸出スル場合ニハ該商品ヨリモ一般歐洲稅率  
 ノ半額ニ相當スル輸出稅ヲ徵取スヘク該貨物ヨリハ夫以  
 上何等ノ稅モ徵取セラレサルヘシ但シ該貨物ハ途中ニ於  
 テ賣却スヘカラス此規則ヲ犯ストキハ犯人ハ罰金ヲ課セ  
 ラルヘシ

第十三條 露西亞人ハ通州ヨリ貨物ヲ輸出スルニ際シ豫メ  
 東塔ノ稅關ニ通知スルコトヲ要ス右稅關ハ所定ノ關稅ヲ  
 徵取シタル後貨物ノ品名、數量及梱包數ヲ記シタル證明  
 書ヲ與フルモノトス但シ商人ハ該貨物ヲ途中ニ於テ賣却  
 スヘカラス此規則ヲ犯ストキハ犯人ハ罰金ヲ課セラルヘ  
 シ



第十四條 天津若ハ其他ノ港ニ於テ購買セラレタル歐洲貨物ヲ陸路露西亞ニ發送スル際他ノ外國人カ該貨物ノ爲ニ已ニ輸入税及通過税ヲ支拂ヒタルコトノ證明書(受領證)ノ存スルトキハ關稅ヲ要求セラレサルヘシ他ノ外國人カ單ニ輸入税ノミ支拂ヒタルトキハ露西亞商人ハ一般歐洲稅率ニ從ヒ猶通過税ヲモ支拂フヘシ

第十五條 露西亞商人カ天津、通州及張家口ヨリ貨物ヲ露西亞ニ發送スルトキハ證明書ノ外ニ檢査ノ際貨物檢定ノ爲ニスル貨物送狀ヲ必要トス

商人ハ其與ヘラレタル證明書ヲ貨物ノ發送日ヨリ六箇月以内ニ之ヲ無効ナラシムル爲恰克圖ニ於テ提出セザルヘカラス商人ハ何等カノ事故ニ依リ該證明書ヲ期限内ニ提出スルコト能ハサル場合ニハ該事由ニ就キテ露西亞領事及其土地ノ支那官憲ニ届出テサルヘカラス之ヲ犯ストキハ罰金ヲ課セラルヘシ

證明書紛失ノ場合ニハ貨物ハ停止セララルヘシ商人ハ速ニ右證明書ヲ下付シタル稅關ニ届出テサルヘカラス然ルトキハ稅關ハ可成速ニ檢査及通過許可ノ便宜ノ爲ニ新證明書ヲ與フル義務ヲ負ヒ其證明書ニハ其レカ第二回目ニ與ヘラレタルモノナルコトヲ記入スルモノトス

上記ノ規則ハ輸出ニ關係ス

第十六條 露西亞商人ハ規則第二條ニ列記セラレ一般歐洲稅率表ニ附記セラレタル物品ヲ陸路ニ依リ運送スル場合ニモ亦其規則ニ從フヘシ

第十七條 密輸入セラレタル貨物ハ禁制品ニ屬スル物品若ハ規則第三條及第五條ニ列記セラレ一般歐洲稅率表ニ記載セラレタル物品ト同様ニ國庫ニ沒收スヘシ且商人ハ護身用トシテ武器ヲ所持セムト欲スルトキハ恰克圖ニ於テ其件ニ就キテ届出ヲ爲シ且證據ノ爲ニ登記セザルヘカラス除商中ノ各人ハ皆一揃ノ武器ヲ所持スルコトヲ得

第十八條 一般歐洲稅率表ニ記載ナキ露西亞貨物及支那貨物ヨリ關稅ノ徵收セララル場合ハ一般規則ニ依リ取扱ハルヘシ即チ全貨物ノ價格ノ五分ヲ徵收スルモノトス將來上述ノ貨物ヨリ五分ノ稅ヲ勘定スル際露西亞商人ト支那稅關トノ間ノ誤解ヲ避ケタル爲ニ近ク天津ニ於テ一般歐洲稅率表中ニ列記セラレス又一般歐洲稅率表ニ包含セシメラルルニ不適當ナル貨物ニシテ支那ニ輸入セララルモノ及磚茶ニ對シ追加稅率表ヲ作成セザルヘカラス右規定セラレタル稅率表ハ現行規則ノ附屬書ト爲シ及一般歐洲稅率表ノ追加トナスヘシ

第十九條 露西亞商人ハ支那商人ニ屬スル商品ヲ其所有物トシテ輸送スヘカラス

第二十條 本新規則ハ將來三年間ノ實施ノ爲ニ協定セララルモノトス其期限滿了後當事國ノ一方ニ於テ本規則ニ改正ヲ加ヘムト欲スルトキハ其改正方ヲ三月以内ニ他ノ一方ニ報告セザルヘカラス若シ執レノ一方モ右報告ヲ爲ササルトキハ本規則ハ新ニ五年間效力ヲ有スヘシ其經過後再ヒ五月滿了前ニ協議ニ入ルコトヲ得ヘシ

第二十一條 支那官吏ハ密輸入ニ對スル處置ニ關シ狀況ニ應シ一般取締規則ヲ採用スルコトヲ得

第二十二條 兩國ハ本規則ニ記名調印シタル後本規則ニ關スル知識ヲ必要トスル各官廳ニ對シ參考トシテ之ヲ配付スルモノトス

千八百六十二年二月二十日(同治元年二月四日)北京ニ於テ締結署名ス

其他ノ支那代表六名 (印)

修正陸路通商條約

千八百六十九年四月二十七日  
北京ニ於テ調印

千八百六十二年三月四日(露曆二月二十日)露西亞國及支那國トノ間ニ國境貿易ニ關スル規定ヲ作成シ三年ノ期間試行的ニ實施スヘキコトヲ聲明シタルカ該期間ハ滿了ト成レルヲ以テ一方ニ於テ大清欽命總理各國事務大臣和碩恭親王、他方ニ於テ露西亞國皇帝陛下ノ特命全權公使陸軍大將「アト、ウランガリ」ハ右規定ヲ左ノ如ク修正スヘキコトニ同意ス

輸入貿易

第一條 兩國ノ國境百浬里(三十哩)ノ範圍内ニ於ケル貿易ニ對シテハ何等課稅スルコトナカルヘシ

各國政府ハ自國ノ國境規則ニ依リ取締手段ヲ執ルノ自由ヲ有スルモノトス

第二條 露西亞國商人ハ貿易ノ目的ヲ以テ支那國官吏ノ駐



在スル支那國ニ隸屬スル蒙古ノ各地並同官吏管轄ノ下ニ在ル部落ニ入ルノ自由ヲ有シ且課稅ヲ免除セラルヘシ支那國ハ露西亞國商人カ貿易ノ自由ヲ以テ同國官吏ノ駐在セサル蒙古ノ地方ニ到ルコトヲ欲スル場合之ニ對シ何等ノ妨害ヲ加フルコトナカルヘシ但シ該商人ハ自國政府ノ國境官憲ニ依リ發給セラレタル證明書ヲ所持スルヲ要ス該證明書ニハ露西亞語、支那語及蒙古語ヲ以テ所持者ノ姓名、商品及其包裝ノ種類並其車ニ乗ル駱駝及牛馬ノ頭數ヲ明記シ之ニ檢印スヘク且支那國國境第一ノ支那國官吏駐在所ニ之ヲ提出シ其檢査ヲ受クヘク同所ハ檢印又ハ署名ニ依リ之ヲ查證スヘシ

前記旅行券ヲ所持セサルコトヲ發見セラレタルトキハ其商品ハ沒收セラルヘク且逃亡人ノ逮捕及送還ニ關スル北京條約第十條ノ規定ニ依リ處分セラルヘシ領事ハ露西亞國臣民ノ旅行券ヲ所持セスシテ貿易ヲ行フ爲支那國領域ニ入ルコトヲ防ク爲嚴密ナル取締ヲ爲スヘシ

第三條 露西亞國商品ヲ天津ニ輸送スル露西亞國商人ハ露西亞國國境官吏及支那國恰克圖駐劄員ノ檢印セル證明書ヲ所持スルヲ要ス該證明書ハ露西亞語及支那語ヲ以テ前記商人及其從者ノ姓名、積荷ノ種類及其箇數ヲ明記スヘシ

ルトキハ第七條ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ此場合關係商館ハ其責任ヲ負擔スヘク喪失セル證明書ハ無効タルヘシ

第四條 恰克圖ヨリ商品ヲ輸送スル露西亞國商人ハ張家口ヲ經由スルトキ同地ニ於テ天津向ノ商品ノ一部ヲ賣却スル爲之ヲ寄託スルコトヲ許可セラルヘシ此場合三日以内ニ稅關長宛右届出ヲ爲スヘク稅關長ハ右ニ對スル許可書ヲ發給スヘシ張家口ニ於テ寄託セル商品ニ對シテハ其賣却ヲ許可セラルル前輸入稅ヲ支拂フヘシ但シ同地ニ領事ヲ任命シ又ハ商館(文理上洋行及倉庫ヲ含ム)ヲ設置スルヲ要セス

第五條 露西亞國商品ヲ輸送スル露西亞國商人ハ天津到着ノ上一般輸出入稅率表ニ定ムル輸入稅ノ三分ノ二ノ割合ヲ以テ之ヲ支拂フヘシ右支拂ハ天津ニ於テ之ヲ爲スヘシ張家口ニ寄託セル商品ニ對シテハ一般輸出入稅率表ニ從ヒ同地ニ於テ輸入稅ヲ支拂フヘシ

第六條 張家口ニ寄託セル露西亞國商品ニシテ同地ニ於テ輸入稅ヲ支拂ヒ其支拂證明書ヲ受領セルニ拘ラス未ダ賣却セラレサルトキハ之ヲ賣却スル爲該商人ハ通州又ハ天津ニ之ヲ輸送スルヲ得ヘシ此場合更ニ輸入稅ヲ支拂フヲ要セス該露西亞國商人ハ張家口ニ於テ支拂ヒタル輸入稅

シ此種ノ除商ハ張家口、東壩及通州ヲ經テ天津ニ直行スル旅行ノミヲ許可セラルヘシ前記行路ニ在ル支那國稅關官吏ハ荷物ノ箇數ヲ記載シ且遲滯ナク其在中物及輸送證明書ヲ檢査シ之ニ其檢印ヲ押捺シ其通商ヲ許可スルノ權限ヲ有スルモノトス該荷物カ稅關ニ於テ其在中物ノ檢査ノ爲開封セラレタル場合ニ於テハ檢査完了ノ後再荷造ヲ爲シ之ニ稅關ノ封印ヲ施スヘク且證明書ニ開封セル荷物ノ箇數ヲ記載スヘシ稅關ノ檢査ハ二時間以上ニ渉ルヘカラス該證明書ハ發給ノ日ヨリ六月以内ニ天津ノ稅關ニ引渡スヘク同稅關ハ之ヲ無効トスヘシ

證明書ヲ喪失シタルトキハ所持者ハ直ニ該證明書ノ日附及番號ヲ明記シ之ヲ發給シタル官憲ニ届出ツヘシ出願人ハ右届出ニ依リ遲滯ナク「代用」ナル語ヲ以テ裏書セル副本ヲ發給セラルヘシ同時ニ最寄ノ稅關ニモ右届出ヲ爲スヲ要ス稅關ハ商品ヲ檢査シ其相違ナキコトヲ認メタルトキハ遲延ヲ除ク爲假旅行券ヲ發給シ其所持者ヲ通行セシムヘシ前記届出及旅行券下付用願カ張家口ニ於テ爲サレタルトキハ旅行券發給前同地ニ於ケル露西亞國商人カ出願者ノ保證ヲ爲スコトヲ要ス天津到着ノ上商品ノ種類及荷物ノ箇數カ證明書副本ト一致セサルコトヲ發見セラレタ

ノ三分ノ一ヲ拂戻サルヘシ同地ニ於ケル稅關ハ右ノ旨ヲ記載セル證明書ヲ該商人ニ發給スヘシ

第七條 露西亞國商人ノ輸送スル商品(張家口ニ於テ寄託ノ届出ヲ爲シタル貨物及其他ノ貨物ヲ含ム)カ天津ニ到着ノ後擾亂セラレ又ハ取換ヘラレ又ハ張家口留置商品ノ數量ニ誤謬アリタルコトヲ發見シタルトキハ規則違反ヲ犯シタル該商人ニ屬スル一切ノ商品ハ之ヲ沒收スヘシ旅行中商品ヲ包裝セル儀又ハ箱ニ實際ノ損傷ヲ生シ荷造ノ仕替ヲ必要トスル場合ニ於テハ荷造ヲ仕替ヘタル後到着シタル第一ノ稅關ニ其旨ヲ届出ツヘシ稅關ハ商品ノ種類カ相違ナキコトヲ發見シタルトキハ其旨證明書ニ裏書ヲ爲スヘク之ニ依リ其所持者ハ科料ヲ免除セラルヘシ

第三條ニ定ムル徑路以外ノ徑路ニ依リ直路ヲ離レタル地方ニ赴キ反則ノ方法ニ依リ商品ヲ賣却セムトスル者アルトキハ其規則違反ヲ犯シタル者ナルコトヲ確メタル上其商品ノ全部ヲ沒收スヘシ違反者カ單ニ該直路ヲ離レタルノミニテ其商品ノ取引ヲ爲ササルトキハ其貨物ニ對シ一般輸入稅ヲ課シ之ヲ罰スヘシ  
商品カ沒收セラルル場合其所有者カ其價格ノ支拂ニ依リ代償セムト欲スルトキハ支那國官憲ト協議ノ上之ヲ協定



スヘク此場合正當ニ評價シタル貨物ノ價格ヲ當該官憲ニ支拂フモノトス

第八條 露西亞國商人カ其商品ヲ天津ヨリ水路ニ依リ他ノ港ニ輸送セムトスルトキハ天津ニ於テ豫メ輕減ヲ許可セラレタル三分ノ一ノ輸入税ヲ追納スヘシ右追納ニ依リ他ノ港ニ到着ノ上ハ再ヒ課税セラルルコトナシ天津又ハ其他ノ港ヨリ商品ヲ内地ニ輸送セムトスルトキハ一般輸出税率表ニ從ヒ再出港税(輸入税ノ半額)ヲ支拂フヘシ

輸出貿易

第九條 條約港ニ於テ支那商品ヲ購買シ之ヲ輸出若ハ輸入シ又ハ水路ニ依リ露西亞國ヨリ輸送シタル外國貨物ヲ輸入シ若ハ輸出スル商人ハ現行外國貿易ニ關スル一般規則ヲ適用セラルヘシ

第十條 何レカノ港ヨリ天津ヲ經由シテ支那商品ヲ露西亞國ヘ輸送スル露西亞國商人ニシテ且右商品ヲ天津ニ於テ賣却スル爲同地ニ留置カサルモノハ何地カニ於テ全部納税シタルコトヲ證明スル書類ヲ所持スルトキハ天津ニ於テ再課税セラルルコトナシ同地ニ於ケル露西亞國領事ハ露西亞語及支那語ヲ以テ所持人ノ姓名、商品ノ種類及荷物ノ箇數ヲ記載セル證明書ヲ發給シ天津税關ノ檢印ヲ求

ムヘシ右證明書ヲ所持スルトキハ更ニ課税セラルルコトナク貨物ヲ恰克圖ニ輸送スルコトヲ得ヘシ該商人ハ第三條ニ定ムル徑路ヲ通過スルヲ要シ途中商品ヲ販賣スルコトヲ禁セラルル前記規定ノ違反ハ第七條ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ

該商品ハ通州、東壩及張家口ヲ經由スルニ當リ第三條ノ規定ニ依リ檢査ヲ受クヘキモノトス通過旅行券ハ發給ノ日ヨリ六月以内ニ恰克圖ニ於テ之ヲ提出スヘク遲延スルトキハ右期間内ニ領事及地方官憲ニ届出ヲ爲スヲ要ス本規定ニ違反スル場合ハ科料ニ處スヘシ通過證書ノ所持者カ之ヲ喪失シタル場合ニ於テハ第三條ニ定ムル手續ヲ執ルヘシ

第十一條 天津、通州又ハ其他ノ地ニ於テ内地ヨリ輸送シタル支那商品ヲ購買シ且之ヲ第三條ニ定ムル陸路ニ依リ輸送セムト欲スル露西亞國商人ハ一般輸出入税率表ニ定ムル全額ノ輸出税ヲ支拂ヒ納付證書ヲ受領スヘシ此場合更ニ課税セラルルコトナシ該商品ハ途中之ヲ賣却スヘカラス

第十二條 露西亞國領土ヘ陸路輸送スル爲天津ニ於テ同地ニ再輸入セル支那國商品ヲ購買シタル露西亞國商人ハ該

商品カ原荷積港ニ於テ既ニ全額ノ輸出税ヲ支拂ハレ且輸出ニ關スル一切ノ現行規則ニ從ヒ一年ノ期間内ニ露西亞國ヘ輸送スル爲天津ヨリ輸出セラルルニ於テハ更ニ輸出税ヲ支拂フヲ要セス天津ニ於テ再輸入及庫入ノ爲支拂ヒタル半税ハ戻税證書ノ發給ニ依リ其拂戻ヲ爲スヘシ該商品ハ途中之ヲ賣却スルコトヲ得ス輸送證書ノ發給ヲ要スル外第十條ニ定ムル一切ノ手續ヲ執ルヘシ

第十三條 露西亞國領土ニ輸送ノ目的ヲ以テ通州ニ於テ支那國生産品ヲ購買スル露西亞國商人ハ東壩ニ於テ豫メ其届出ヲ爲シ且一般輸出入税率表ニ從ヒ全額ノ輸出税ヲ支拂フヲ要ス東壩ニ於テ輸出税ヲ支拂ヒタルトキハ商品ノ種類及荷物ノ箇數ヲ明記セル證明書ノ發給ヲ受クヘシ該商品ハ途中之ヲ賣却スルコトヲ得ス

第十四條 露西亞國領土ヘ輸送ノ目的ヲ以テ張家口ニ於テ支那國生産品ヲ購買スル露西亞國商人ハ一般輸出入税率表中ノ出港税又ハ沿岸貿易税(即チ一般税額ノ半額)ノ割合ヲ以テ輸出税ヲ支拂フヘシ張家口ニ於テ右輸出税ヲ支拂フトキハ稅關ハ證明書ヲ發給スヘク其後再課税セラルルコトナシ該商品ハ途中之ヲ賣却スルコトヲ得ス

第十五條 天津又ハ其他ノ港ニ於テ陸路露西亞國領土ヘ輸

送スル目的ヲ以テ外國ヨリ輸入セル商品ヲ購買スル露西亞國商人ハ外國輸入者カ既ニ其商品ニ對シ輸入税及半税ヲ支拂ヒ且之ヲ證スル輸入税受領書ヲ所持スルニ於テハ更ニ課税セラルルコトナシ但シ右ノ場合輸入税ノミツ支拂ヒ沿岸貿易税ハ未タ之ヲ支拂ハサルニ於テハ露西亞國商人ハ一般輸出入税率表ニ依リ其半額ヲ稅關ニ支拂フヘシ

總則

第十六條 天津、通州及張家口ノ道順ニ依リ露西亞國領土ヘ商品ヲ輸送スル露西亞國商人ハ檢査ノ目的ノ爲其貨物ニ對スル稅關ノ許可書ヲ携帶スルヲ要ス輸送證明書提出ノ期間及該書類喪失ノ場合ニ於ケル手續ニ關スル一切ノ件ハ第十條ニ依リ之ヲ處辨スヘシ

第十七條 輸出入税率表附屬ノ貿易規則第二條ノ規定ハ露西亞國商人ノ陸路貿易ニモ均シク之ヲ適用ス

第十八條 露西亞國商人カ一般關稅規則第三條及第五條ニ定ムル密輸入又ハ禁制品輸送ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ該品ハ均シク之ヲ沒收スヘシ自己防衛ノ爲武器ヲ携帶スル商人ハ自國ノ官憲ニ届出ツヘク該官憲ハ輸送證明書中ニ其旨ヲ記入スヘシ



一人一箇ノ武器携帯ヲ許可スヘシ  
 第十九條 一般輸出入税率表ニ列挙ナキ種類ノ外國商品又ハ支那國商品ハ天津ニ於テ協定セラレタル露西亞國追加規則ニ依リ之ヲ處分スヘシ  
 前記追加規則及一般税率表ノ何レニモ列挙セラレサル貨物ハ外國國民ニ適用スヘキ規則ニ依リ從價五分ノ割合ヲ以テ輸出入税ヲ支拂フヘシ

第二十條 露西亞國商人ハ支那國商人カ一港ヨリ他港ニ貨物ヲ輸送スルニ當リ之ニ保護ヲ與フヘカラス

第二十一條 支那國官憲ハ一切ノ外國ニ適用スヘキ一般規則ニ從ヒ常ニ密輸入ヲ嚴密ニ防止スル爲必要ナルヘキ一切ノ手段ヲ考案シ且之ヲ實施スルノ自由ヲ有スヘシ

第二十二條 前記協定セル規定ハ十五年間效力ヲ繼續スヘク該期間ノ滿了ニ於テ露西亞國又ハ支那國政府ノ何レカカ修正ヲ欲スルトキハ該期間滿了ノ六月前ニ豫告ヲ爲スヘシ滿期ノ時迄何等ノ豫告ナキトキハ本規定ハ更ニ五年ノ期間其效力ヲ繼續スヘシ其後右期間ノ滿了前六月間ニ之ヲ修正スヘシ重要ナルカ又ハ支障アル點ハ直ニ共同審議ヲ爲シ前記定ムル期間ノ滿了前ニ修正ヲ行フヘシ  
 兩締約國高等委員ハ前記諸條ヲ協定シ且之ニ署名調印セル

ヲ以テ一般遵守ノ爲一切ノ關係者ニ之ヲ布告スヘシ

(兩國全權委員署名調印)

### 聖彼得堡條約

千八百八十一年二月二十四日  
 聖彼得堡ニ於テ調印  
 同年八月十九日批准書交換

全露西亞國ノ獨裁君主タル皇帝陛下及支那國皇帝陛下ハ兩國ノ利益ニ關係スル國境及通商ニ關スル問題ヲ規定シ兩國間ノ友交關係ヲ確保セムコトヲ欲シ該問題ヲ協定スル目的ヲ以テ左ノ如ク各其全權委員ヲ任命セリ

全露西亞國皇帝陛下

上院議員外務大臣 「ニコラス、ドウ、ヂイルス」

支那國駐劄特命全權公使 「ユゼーメ、ドウ、ブツオウ」

支那國皇帝陛下

露西亞國駐劄特命全權公使 會

右各員ハ互ニ其全權委任狀ノ妥當ナルヲ認メ左ノ諸條ヲ協

### 定セリ

第一條 全露西亞國皇帝陛下ハ千八百七十一年以來一時露西亞國軍隊ノ占領セル伊犁地方ニ於テ支那國ノ管轄權ヲ復舊スルコトニ同意ス

露西亞國ハ本條約第二條ニ規定セル範圍ニ於テ同地方(伊犁)ノ西部ヲ其管轄下ニ歸セシムヘシ

第二條 支那國皇帝陛下ハ種族及宗教ノ如何ヲ問ハス伊犁地方ノ住民カ同地方ニ惹起セシ騷亂中又ハ該擾亂後犯シタル行爲ニ付其財產又ハ身體ニ對スル一切ノ訴追ヲ免ルル爲ノ適當ナル措置ヲ命令スヘキコトヲ約ス

伊犁地方ノ人民ヲ支那國官憲ノ管轄ニ移ス以前ニ於テ支那國官憲ハ支那國皇帝陛下ノ名ニ於テ伊犁地方ノ人民ニ對シ前記約束ニ一致スル布告ヲ爲スヘシ

第三條 伊犁地方ノ住民ハ支那國臣民トシテ現住地ニ居住シ又ハ露西亞國ニ移住シ同國ノ國籍ヲ獲得スルコトノ自由ヲ有ス右選擇ハ伊犁地方ニ於テ支那國管轄權ノ復舊スル以前ニ之ヲ表明スルコトヲ要ス但シ露西亞國ニ移住ノ希望ヲ表明スル者ニ對シテハ同地方ニ於テ支那國管轄權ノ復舊ノ日以後一年ノ猶豫ヲ與フヘシ支那國官憲ハ該住民ノ移住及其動産ノ輸出ニ妨害ヲ加フルコトナカルヘシ

### シ

第四條 伊犁地方ニ於テ土地ヲ所有スル露西亞國臣民ハ同國ニ於テ支那國政府ノ管轄權ノ復舊ノ後ニ於テモ該財產權ヲ保有スヘシ同國ニ於テ支那國管轄權ノ復舊シタルトキハ露西亞國ノ國籍ヲ選擇スヘキ伊犁地方住民ニ對シテハ右規定ヲ適用セス

千八百五十一年ノ伊犁條約(「クルヂア」條約)第十三條ニ定ムル露西亞商館用敷地以外ノ土地ヲ有スル露西亞國臣民ハ支那國臣民ト同様ノ租稅及取立金ヲ支拂フヘシ

第五條 兩國政府ハ伊犁州ノ行政ノ移轉ヲ行フ爲「クルヂア」ニ委員ヲ派遣シ同州ニ於ケル支那國政府ノ管轄權ノ復舊ニ關スル本條約ノ規定ノ一般實施事務ヲ掌ラシムヘシ

該委員ハ兩國政府カ前記移轉事務ノ大綱ノ管理ヲ委任セル土爾吉斯坦總督及陝甘總督間ニ定メラルヘキ協定ニ從ヒ其任務ヲ遂行スヘシ  
 伊犁地方ノ行政ノ移轉ハ陝甘總督及土爾吉斯坦總督カ派遣スル官吏ノ塔付干城ニ到着シタル日ヨリ三箇月内ニ於テ成ルヘタ速ニ之ヲ完了スヘシ本條約ノ支那國皇帝陛下ノ批准及公布ヘ之ヲ前記土爾吉斯坦總督ニ通告スヘシ



第六條 支那國皇帝陛下ノ政府ハ千八百七十一年以來露西亞國軍隊ノ伊犁地方ノ占領ニ由リ生シタル費用及今日迄ニ露西亞國臣民カ支那國領城ニ於テ財產掠奪ニ依リ蒙リタル損害ヨリ生スル金錢上ノ請求竝支那國領城內ニ於テ軍隊ノ攻撃ノ犠牲トナリ殺害セラレタル露西亞國臣民ノ遺族ノ扶助料トシテ合計九百萬金貨留ノ額ヲ露西亞國政府ニ支拂フヘシ

前記九百萬金貨留ノ額ハ本條約附屬ノ特別調書ニ於テ兩國政府ノ協定シタル順序及條件ニ從ヒ本條約ノ批准書交換ノ日以後二箇年ノ期間内ニ之ヲ支拂フヘシ

第七條 伊犁地方ノ西部ハ露西亞國ノ國籍ヲ選擇シ其結果當然伊犁地方ニ於テ所有シタル土地ヲ拋棄スヘキ伊犁人民ノ居留地ニ併スル爲露西亞國ニ併合セラルヘシ

伊犁ニ於ケル露西亞領ト支那領トノ境界ハ別珍烏山脈ヨリ霍爾果斯河ニ沿ヒ同河カ伊犁河ニ入り再ヒ伊犁河ヲ横キリ右方ニ向ヒ烏宗烏山脈ニ走リ其西方「コルチア」ニ至ル地點迄ノ線ヲ以テ之ヲ定ム右地點ヨリ南方ニ至ル境界ハ千八百六十四年塔城ニ於テ署名セル調書ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第八條 千八百六十四年塔城ニ於テ署名シタル調書ノ定ム

ル國境線中齊桑湖ノ東方ニ於テ缺陷アルヲ發見シタルヲ以テ該缺陷ヲ除去シ且兩國所屬ノ「キルギス」種族ノ間ニ明確ナル區分ヲ設ケシムル爲委員ヲ任命スヘシ

該委員ハ成ルヘク舊國境線ト奎喇山ヨリ黑伊爾特什河ヲ横キリ陸烏爾嶺ニ至ル右方ノ線トノ間ニ新線ヲ設クヘシ

第九條 兩國政府ハ前記第七條及第八條ニ依リ定メタルヘキ國境線上中未タ境界標ノ建設ナキ地域ニ之ヲ建設セシムル爲委員ヲ任命スヘシ

該委員ノ會合ノ時及場所ハ兩國政府間ノ協定ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十條 條約ニ依リ伊犁、塔爾巴哈臺、喀什噶爾及庫倫ニ於テ領事ヲ任命スルコトヲ承認セラレタル露西亞國ノ權利ハ今後肅州(嘉峪關)及吐魯番ニモ擴張セラルヘシ科布多、烏里雅蘇臺、哈密、烏魯木齊及五城ノ市邑ニ於テ露西亞國政府ハ商業ノ發展ニ從ヒ支那國政府ト協定ノ後其領事館ヲ設立スヘシ

見ノ際及一般ニ兩者ノ關係ニ付遵守セラルヘキ平等ノ原則ニ關シテハ友邦國官吏ノ相互ノ尊敬ヲ基礎トスヘシ

商取引及其他ノ問題ニ付支那國領城內ニ於テ兩國ノ國民間ニ生スヘキ一切ノ事件ハ領事及支那國官憲間ノ共同協議ニ依リ之ヲ調査シ且決定スヘシ

商業ニ關スル訴訟ニ付兩當事者ハ其選擇スル仲裁人ニ依リ其爭議ヲ和解的ニ解決スルヲ得ヘシ右方法ニ依リ一致ヲ見サルトキハ兩國ノ官憲之ヲ調査シ且決定スヘシ

商品ノ注文、其輸送竝小賣店、住宅及其他ノ土地ノ貸賃借又ハ其他ノ同種ノ取引ニ關シ露西亞國及支那國ノ臣民間ノ書面ヲ以テスル契約ハ領事館及之ヲ提出シタルトキ證明スル權限アル地方上級官憲ニ提出シ其證明ヲ求ムルコトヲ得ヘシ右契約ノ不履行ノ場合ニ於テハ領事及支那國官憲ハ右契約義務ノ履行ヲ確保シ得ル手段ヲ講スヘシ

肅州及吐魯番ノ領事ハ露西亞國臣民ノ利益上其駐在ヲ必要トスル附近ノ地ニ於テ領事事務ヲ執行スヘシ

千八百六十年北京ニ於テ締結セラレタル條約第五條及第六條中ニ定ムル領事館用、墓所用及牧畜用ノ土地ニ關スル規定ハ均シク肅州及吐魯番ノ二市邑ニ適用セラルヘシ

地方官憲ハ領事館ノ建設セララル迄領事カ假住所ヲ求ムルニ付援助ヲ與フヘシ

蒙古及天山兩山腹ノ地域ニ駐在スル露西亞國領事ハ其運送及其通信送達ノ爲天津條約第十一條及北京條約第十二條ノ規定ニ從ヒ政府ノ郵便機關ヲ使用スヘシ右郵便事務ニ付領事ヨリ依頼セララル支那國官憲ハ援助ヲ與フヘシ

吐魯番市ハ外國貿易ノ爲開カレタル地ニ非ス故ニ同地ニ領事館ヲ設置スル權利ハ支那國ノ諸港、内地諸省及滿洲ニ於テ同種ノ權利ヲ得ム爲之ヲ前例トシテ主張スヘカラス

第十二條 露西亞國臣民ハ從來ノ如ク支那國ノ管轄ニ歸シタル蒙古ニ於テ支那國官憲ノ存在スル地方及部落タルト然ラサル地方タルトト問ハス無稅ニテ商業ヲ營ムコトヲ許可セラルヘシ

露西亞國臣民ハ均シク伊犁、塔爾巴哈臺、喀什噶爾、烏魯木齊及大壁ニ至ル迄ノ天山山脈ノ南北兩腹地方ニ於テ

第十一條 支那國ニ於ケル露西亞國領事ハ其各管轄事項ニ付重要ニシテ急速ノ送達ヲ必要トスルトキハ其駐在地ノ地方官憲又ハ同地方若ハ省ノ上級官憲ト通信スルコトヲ得ヘシ右兩者間ノ通信ハ公信ヲ以テスルヲ要ス兩者ノ會

聖彼得堡條約



無税ニテ商業ヲ營ムノ權利ヲ享有スヘシ右租税ノ免除ハ商業發達シ關稅ヲ設クルヲ必要トスルトキハ兩國政府間ノ協定ニ依リ廢止セラルヘシ

露西亞國臣民ハ支那國ノ前記地方ニ又ハ前記地方ヨリ原産地ノ如何ヲ問ハス一切ノ種類ノ生産物ヲ輸入シ又ハ輸出シ及現金ニテ又ハ交換ノ方法ニ依リ賣買ヲ爲スコトヲ得ヘク且一切ノ種類ノ商品ニ依リ其支拂ヲ實行スルノ權利ヲ有ス

第十三條 露西亞國政府カ領事館ヲ設置スルノ權利ヲ有スル地方並張家口ニ於テ露西亞國臣民ハ購買ニ依リ獲得シタル土地又ハ千八百五十一年ノ伊犁條約(「クルヂア」條約)第十三條ニ依リ伊犁及塔爾巴哈臺ニ關シ定ムルトコロニ從ヒ地方官憲ニ依リ讓渡セラルヘキ土地ニ家屋、商店、倉庫及其他ノ建築物ヲ建築スルコトヲ得ヘシ領事館ノ設置ナキ張家口ニ於テ露西亞國臣民ニ許與セラレタル特權ハ一ノ例外ニシテ他ノ内地諸省ノ各地ニ之ヲ擴張スルヲ得ス

第十四條 露西亞國商人ニシテ陸路其商品ヲ支那國內地ニ輸送セムト欲スル者ハ從來ノ如ク之ヲ張家口及通州ヲ經テ天津ニ差向クルヘク天津ヨリ其他ノ諸港及内地市場ニ

輸送シ各地ニ於テ之ヲ販賣スルコトヲ得ヘシ

露西亞國商人カ支那國諸都市及前記諸港並内地市場ニ於テ購買シタル商品ヲ露西亞國ニ輸出セムトスルトキハ前記同様行路ニ依ルヘシ露西亞國商人ハ商用ノ爲均シタ露西亞國隊商ノ旅行終點タル肅州(嘉峪關)ニ到ル權利ヲ有シ且同地ニ於テ露西亞國商人カ天津ニ於テ許與セララル一切ノ權利ヲ享有スヘシ

第十五條 支那國ノ内地及關外地方ニ於テ露西亞國臣民ノ行フ陸路貿易ハ本條約附屬ノ規則ニ依リ之ヲ定ムヘシ本條約ノ商業規定並其追加規則ハ本條約ノ批准書交換ノ日以後滿十年ノ期限後ニ於テ之ヲ更新スルコトヲ得ヘシ但シ右期間滿了前六箇月内ニ於テ各締約國カ右更新ヲ爲スヘキ希望ヲ表明セサルトキハ前記商業規定並規則ハ更ニ十年ノ期間有效ナルモノトス

露西亞國臣民ノ支那國ニ於ケル海路ニ依ル貿易ハ支那國ニ於ケル海路外國貿易ノ爲設ケラレタル一般規則ニ從フヘシ該規則ヲ修正スルノ必要ヲ生シタル場合ハ兩國政府ハ右問題ニ付協定スヘシ

第十六條 陸路ニ由ル露西亞商業ノ發達ニ依リ該商業ノ必要上現ニ有效ナル關稅ノ外ニ支那國ニ於ケル輸出入品ニ

對シ關稅ヲ設ケル場合ニ於テ露西亞國及支那國ノ兩政府ハ商品ノ價格五分ノ稅率ヲ右輸出入稅決定ノ基礎トシテ協定ヲ遂クヘシ

右關稅ノ設ケララルニ至ル迄ハ現ニ品質上等ノ茶ニ對スル稅率ヲ課セラルル或種ノ品質下等ノ茶ノ輸出稅ハ其價格ニ應シ減額セラルヘシ各種ノ茶ニ對スル輸出稅ハ本條約ノ批准書交換ノ日以後遲クトモ一箇年ノ期間内ニ支那國政府ト露西亞國政府トノ間ニ北京ニ於テ協定ノ上之ヲ定ムヘシ

第十七條 千八百六十年北京ニ於テ締結セラレタル條約ノ第十條ノ解釋ニ付從來生シタル意見ノ相違ハ本條約ニ依リ左ノ如ク之ヲ定ム即チ國境外ニ家畜ヲ竊取又ハ拐去シタル場合ニ行使スヘキ返還請求權ニ關スル前記條項ノ規定ハ今後該家畜ノ竊取又ハ拐去ノ罪ヲ犯シタル箇人ヲ發見シタルトキハ同人ニ對シ其返還ヲ爲ササル家畜ノ實價ノ支拂ヲ宣告スヘキモノト解釋スヘキコトヲ定ム前記家畜ノ竊取罪ヲ犯シタル箇人カ支拂不能ナル場合ニ於テモ地方官憲ハ其支拂賠償ノ責ヲ負フコトナキヲ約ス兩國ノ國境官憲ハ一切ノ嚴正ナル自國法律ニ依リ家畜ノ拐去又ハ竊盜ノ罪ヲ犯シタル箇人ヲ追窮シ且拐去セラレ

又ハ國境ヲ越エタル家畜ヲ正當所有者ニ取戻ス爲其權限内ノ處置ヲ執ルヘシ拐去セラレ又ハ國境ヲ越エタル家畜ノ踪跡ニ付テハ國境ノ衛兵ニ對シテノミナラス又最寄ノ郷長ニモ之ヲ報告スヘシ

第十八條 黑龍江、松花江及烏蘇里河ヲ航行シ並其沿岸地方ノ人民ト貿易ヲ爲スヘキ兩國臣民ノ權利ニ關シ千八百五十八年五月十六日愛璽ニ於テ締結シタル條約ノ規定ハ之ヲ確認ス

兩國政府ハ前記規定ノ適用方法ニ關シ協定スヘシ

第十九條 露西亞國及支那國間ノ舊條約ノ規定ニシテ本條約ニ依リ變更セラレサルモノハ其完全ナル效力ヲ存續ス第二十條 本條約ハ兩帝國ニ依リ批准セラレタル後之ヲ各人ニ周知セシメ且遵守セシムル爲各帝國內ニ於テ之ヲ公布スヘシ批准書ノ交換ハ本條約署名ノ日ヨリ六箇月ノ期間内ニ聖彼得堡ニ於テ之ヲ行フヘシ

前記諸條ヲ確定スル爲兩締約國ノ全權委員ハ露西亞語、支那語及佛蘭西語ノ本條約各二通ニ署名調印セル前記三正文ハ正確ニ之ヲ相對照シ其一致セルヲ認ム本條約ノ解釋ハ佛蘭西語ニ據リ之ヲ定ムヘキモノトス千八百八十一年二月十二日聖彼得堡ニ於テ之ヲ作成ス



ニコラス、ドウ、ヂイルス (印)  
會 ヌゼーヌ、ブツオウ (印)

議定書

露西亞國及支那國政府ノ全權ニ依リ本日署名セラレタル條約第六條ニ依リ支那國政府ハ露西亞國軍隊ノ伊犁地方ノ占領ニ依リ生シタル費用ヲ償ヒ及露西亞國臣民ノ諸種ノ金錢上ノ請求ニ應スル爲露西亞國政府ニ九百萬金貨留ノ額ヲ支拂フヘキモノトス該金額ハ本條約批准書交換ノ日ヨリ計算シ二箇年ノ期間内ニ之ヲ支拂フヘシ  
前記金額ノ支拂方法ヲ明確ニセムコトヲ欲シ下名ハ左記ノ如ク協定ス

支那國政府ハ九百萬金貨留ノ相當額ノ磅金貨即チ百四十三萬千六百六十四磅二志ヲ六回ニ分チ一回分二十三萬八千六百十磅十三志八片中倫敦迄ノ輸送ニ依リ生スヘキ慣例ノ銀行費用ヲ差引キ在倫敦「ベーリソング」兄弟商會ニ拂込ムヘシ  
右拂込ハ之ヲ各四箇月毎ニ割當テ第一回拂込ハ本日署名セラレタル條約ノ批准書交換後四箇月ニ之ヲ實行シ最後ノ拂

込ハ右交換後滿二箇年内ニ之ヲ實行スヘシ  
本議定書ハ其全部ヲ本日訓印セル條約中ニ挿入セラレタルト同一ノ效力及價值ヲ有ス  
右證據トシテ兩國ノ全權委員ハ本議定書ニ署名訓印セリ  
千八百八十一年二月十二日聖彼得堡ニ於テ之ヲ作成ス

ニコラス、ドウ、ヂイルス (印)  
會 ヌゼーヌ、ブツオウ (印)

露支同盟密約

(李鴻章「ロバノフ」條約)

千八百九十六年五月聖彼得堡ニ於テ訓印

第一條 東方亞細亞ニ於ケル露西亞國領土ニ對スルト又ハ支那國若ハ朝鮮國ニ對スルトツ間ハ日本國ノ企ツル一切ノ侵略ハ必然的ニ本條約ノ即時適用ヲ招致スルモノト之ヲ認ム  
右ノ場合兩締約國ハ其ノ當時兩締約國カ使用シ得ル一切

ノ陸海軍ヲ以テ相互ニ支持シ且各締約國ノ兵力ニ對スル糧食供給ノ爲成ルヘク多クノ援助ヲ爲スコトヲ約ス  
第二條 兩締約國カ共同動作ヲ執ルニ至リタルトキハ他方國ノ同意ヲ得ルニ非レハ敵國ト平和條約ヲ單獨ニ締結スルコトヲ得サルモノトス

第三條 軍事動作中ハ支那國一切ノ港ハ必要アル場合ニ於テ露西亞國軍艦ニ開放セラルヘク露西亞國軍艦ハ右港ニ於テ其ノ必要トスル一切ノ援助ヲ支那國官憲ヨリ受タルヘシ

第四條 支那國政府ハ露西亞國陸軍カ侵略セララルルノ怖アル地點ニ援到スルコトヲ容易ナラシメ且其ノ抵抗手段ヲ確保スル爲支那國黑龍江省及吉林省ヲ橫斷シテ浦潮斯德ノ方向ニ一條ノ鐵道線ヲ建設スルコトニ同意ス該鐵道ノ露西亞國鐵道トノ聯絡ハ支那國領土又ハ支那國皇帝陛下ノ主權ノ侵害スルノ口實ト爲ラサルヘシ該鐵道ノ敷設及經營ハ露支銀行ニ之ヲ許與シ且之カ爲締結セララルル契約ノ條款ハ露西亞國駐劄支那國公使及露支銀行間ニ於テ正式ニ商議セラルヘシ

第五條 戰時ニ於テハ第一條所定ノ通り露西亞國ハ其ノ軍隊ノ輸送及軍隊ニ對スル糧食支給ノ爲第四條所定ノ鐵道

東支鐵道建設及經營ニ關スル契約

ヲ自由ニ使用スルコトヲ得ヘシ平時ニ於テハ露西亞國ハ其ノ軍隊及軍需品ノ通過輸送ノ爲同一ノ權利ヲ有ス但シ途中停車ハ輸送事務ノ必要ヲ理由トスル場合ノ外之ヲ許サス  
第六條 本條約ハ第四條所定ノ契約ヲ支那國皇帝カ確認シタル日ヨリ實施セラルヘク右實施ノ日ヨリ十五年間有效トス右期間終了前六月ニ於テ兩締約國ハ本條約ノ更改ニ關シ商議スヘシ

東支鐵道建設及經營ニ關スル契約

千八百九十六年九月八日柏林ニ於テ訓印

光緒二十二年七月二十日(千八百九十六年八月廿六日)附ノ勅令ニ據リテ行動スル聖彼得堡駐劄支那國全權公使許一方ノ當事者トシ、露支銀行ヲ他方ノ當事者トシ左ノ如キ協定成立セリ

支那國政府ハ庫平銀五百萬兩ノ金額ヲ露支銀行ニ拂込ミ右



拂込資金ノ比率ヲ以テ特別契約所定ノ條件ニ從ヒ該銀行ノ損益ニ關與スルモノトス

支那國政府ハ赤塔城及露西亞國南烏蘇里鐵道間ノ直接交通ヲ開始スヘキ鐵道ノ建設ヲ決定シタルトコロ右鐵道ノ建設及經營ハ左ノ條件ニ從ヒテ之ヲ露支銀行ニ委任スルモノトス

第一 露支銀行ハ該鐵道ノ建設及經營ノ爲東支鐵道會社ナル名稱ヲ有スル一會社ヲ設立スルモノトス該會社ノ使用スル印章ハ支那國政府之ヲ交付ス該會社ノ定款ハ鐵道會社ニ關スル露西亞國慣習ニ從フモノトス  
會社ノ株券ハ支那國又ハ露西亞國國民ノミ之ヲ所持スルコトヲ得該會社ノ社長ハ支那國政府之ヲ任命スルモ其ノ俸給ハ會社之ヲ支辨スルモノトス社長ハ北京ニ其ノ住所ヲ有スルコトヲ得

社長ハ銀行及鐵道會社ノ支那國政府ニ對スル約定ノ詳細ナル實施ヲ特ニ監視スヘキ任務ヲ負ヒ其ノ他銀行及會社ノ支那國政府及中央並地方官憲ニ對スル關係ヲ監視スヘキ任務ヲ負フ東支鐵道會社社長ハ支那國政府及露支銀行間ノ一切ノ計算ヲ審查スヘキ任務モ亦負フモノトス  
一切ノ交渉ヲ遲滯ナク進捗セシムル爲ニ露支銀行ハ一名

ノ代理人ヲ北京ニ駐在セシムルモノトス

第二 鐵道建設區域ハ支那國政府ノ任命シタル該會社社長ノ代表委員カ會社ノ技師及地方官憲ト協定シテ之ヲ建設スルモノトス右建設區域ノ設定ニ際シ墓地、墳墓並市街及村落ハ成ルヘク回避スヘキモノトス

第三 會社ハ本契約カ勒令ニ依リ裁可セラルヘキ日ヨリ十二月ノ期間内ニ工事ニ着手シ及鐵道建設區域カ確定セラレ且右建設ニ付必要ナル土地カ會社ノ處分シ得ルニ至ル日ヨリ六年ノ期間内ニ全鐵道線カ完成スル様右工事ヲ進捗セシムルモノトス軌道ノ廣サハ露西亞國鐵道ノモノト同一(露尺五呎即チ支尺約四呎二吋二分ノ一)タルコトヲ要ス

第四 支那國政府ハ地方官憲ニ命令ヲ發シテ會社カ鐵道建設ノ爲必要ナル食糧品等ヲ時價ニ依リ購入スルニ付全力ヲ竭シテ援助セシムルモノトス支那國政府ハ必要ノ程度ニ從ヒ右諸物件ノ運搬ヲ便宜ナラシムヘキ措置ヲ執ルヲ要ス

第五 支那國政府ハ鐵道及其ノ職員ノ安全ヲ一切ノ加害行爲ニ對シ確保スヘキ措置ヲ執ルヲ要ス會社ハ鐵道ノ管理

等ノ爲必要ナリト認ムルトキハ任意ニ數名ノ外國人又ハ內國人ヲ雇傭スルノ權利ヲ有ス

鐵道地域内ノ刑民事件訴訟等ハ條約ノ規定ニ從ヒ地方官憲之ヲ解決スヘキモノトス

第六 鐵道ノ建設、經營及保護ノ爲ニ必要ナル土地並土砂、石塊、石灰等ヲ獲得スル爲ニ必要ナル鐵道沿線ノ土地ニシテ官有地ナルトキニハ無償ニテ會社ニ引渡サルヘク私有地ナルトキニハ時價ニ依リ該土地所有者ニ對スル一時拂若ハ年賦拂ヲ以テ會社ニ引渡サルヘキモノトス  
會社所屬ノ土地ハ一切ノ不動產稅ヲ免除セラルルモノトス

會社ハ其ノ土地ニ關シ絕對的且排他的行政權ヲ有スヘシ會社ハ其ノ土地ニ於テ一切ノ種類ノ建造物ヲ建設シ鐵道ニ必要ナル電信ヲ建設經營スルノ權利ヲ有スヘシ又會社ノ收入、旅客及貨物ノ運輸並電信等ヨリ生スル一切ノ收入及料金は付テハ一切ノ課金及税金ヲ免除スヘシ但シ鐵道山ハ之ヲ例外トシ特別ノ協定ニ俟ツヘキモノトス

第七 鐵道ノ建設、經營及修理ノ爲必要ナル一切ノ物件及材料ハ一切ノ關稅及一切ノ內國課金並税金ヲ免除セラルルモノトス

第八 會社ハ本鐵道經由ニテ輸送セラルル露西亞國軍隊及軍用材料カ重大ナル必要以上如何ナル口實ノ下ニ於テ中途停車スルコトナク一ノ露西亞國停車場ヨリ他ノ露西亞國停車場ニ向ヒ直接輸送セラルルコトニ付責任ヲ負フモノトス

第九 支那國國民ニ非ル旅客カ鐵道附屬ノ土地ヲ退去セムト欲スル場合ニハ支那國旅行券ヲ所持スルヲ要ス會社ハ支那國國民ニ非ル旅客カ支那國旅行券ヲ所持セサル場合鐵道附屬ノ土地ヲ退去セサルコトニ付責任ヲ負フモノトス

第十 旅客ノ手荷物並一ノ露西亞國停車場ヨリ他ノ露西亞國停車場ニ向ヒテ輸送セラルル通過貨物ハ關稅ヲ課セララルコト無ク又一切ノ內國課金及税金ヲ免除セラルルモノトス會社ハ旅客ノ手荷物ハ之ヲ除キ右ノ貨物ヲ特別ノ貨車ニ積込ミテ輸送スヘキモノトス該貨車ハ支那國國境到着ニ際シテ支那國稅關ニ封印ヲ施シ且稅關カ該封印カ完全ナリヤ否ヤヲ確認シタル後ニ非レハ支那國國境ヲ退去スルヲ得サルモノトス右貨車カ途中許可無ク開封セラレタルコト證明セラレタル場合ニハ貨物ハ之ヲ沒收スルモノトス



鐵道ニ由リ露西亞國ヨリ支那國ニ輸入セラレタル貨物並  
同一鐵路ニ由リ支那國ヨリ露西亞國ニ輸出セラレタル貨  
物ハ三分ノ一減ノ支那海關輸出又ハ輸入税ヲ各支拂フモ  
ノトス貨物カ内地ニ運送セラレタル場合ニハ右貨物ハ其  
ノ課セラレタル輸入税半額ニ均シキ通過税ヲ別ニ支拂フ  
モノニシテ右通過税ハ該貨物ヲ一切ノ補足的課税ヨリ免  
除スルモノトス

通過税ヲ支拂ハサル貨物ハ内地ニ於テ課セラルル一切ノ  
關稅及釐金稅ヲ支拂フヘキモノトス

第十一 旅客及貨物ノ運送貨物ノ積込及荷卸料金ハ會  
社カ之ヲ決定スルモノトス但シ支那國公信郵便ハ無料ニ  
テ且支那國陸海軍隊並支那國軍用材料ハ半額ヲ以テ之ヲ  
運送スヘキ義務ヲ有ス

第十二 支那國政府ハ工事期間中並鐵道カ完成シテ運轉セ  
ラルル日ヨリ更ニ八十年間會社ノ缺損ニ付如何ナル場合  
ニ於テモ何等責任ヲ負ハサル據該會社ニ對シ會社自己ノ  
計算及危險ニ於テ鐵道ヲ經營スル完全且排他的ナル權利  
ヲ讓渡スルモノトス  
右期間經過シタルトキハ鐵道ハ其ノ一切ノ附屬物ト共ニ  
無償ニテ支那國政府ニ引渡スモノトス

全鐵道線カ完成シ且運轉セラルル日ヨリ三十六年ノ期間  
經過スルトキハ支那國政府ハ一切ノ投下資本並鐵道ニ關  
スル一切ノ債務及其ノ利息ヲ全部償還シテ右鐵道ヲ買戻  
スノ權利ヲ有ス

純益カ株主配當額ヨリ超過シ資本等ノ一部カ償還セラレ  
タル場合ニハ該一部ノ金額ハ買戻價格ヨリ之ヲ控除スル  
モノトス支那國政府ハ該買戻金額ヲ露西亞國立銀行ニ豫  
メ預入ルルニ非レハ如何ナル場合ニ於テモ鐵道ヲ占有ス  
ルコトヲ得サルモノトス

鐵道完成シテ運轉開始ノ日ニ於テ會社ハ支那國政府ニ庫  
平銀五百萬兩ヲ支拂フモノトス

千八百九十六年八月二十七日(九月八日)伯林ニ於テ  
光緒二十二年八月二日

許 (印)

露支銀行

ウークトムスキー (印)

ロートシュタイン (印)

【參考】

「カッシニ」密約

(千八百九十六年九月八日)

〔本密約ハ一八九六年十月三十日「ノース、  
チャイナ、ヘラルド」紙カ「カッシニ」條約ト  
シテ發表セルモノナルモ當時ノ駐支佛國公  
使「ヂエラール」氏ノ意見ニ依レハ「カッシ  
ニ」條約ナルモノハ存在セス所謂「カッシ  
ニ」條約ハ一八九六年九月八日聖彼得堡ニ  
於テ駐露支那公使「シュエー、チン、チエン」  
氏及露支銀行代表者間ニ締結セラレタル鐵  
道契約(一八九六年五月締結セラレタル露  
支同盟密約所定ノモノ)ニシテ當時ノ駐支  
露國公使「カッシニ」伯カ該契約ヲ携ヘ露都  
ニ赴カムトシテ其ノ北京ニ於ケル批准ヲ待  
チツツアリタルモノナリ〕

清國皇帝陛下ハ日清戰爭ノ終末ニ於テ露西亞國皇帝陛下ノ  
忠誠ナル支持ニ依リ諸多ノ便益ヲ享ケタルカ故ニ及兩帝國  
ノ國境領域間ノ交通並兩國ノ國際通商カ雙方ノ利益ノ爲ニ

「カッシニ」密約

運用セラレムコトヲ欲スルカ故ニ兩帝國ノ友好關係ノ基礎

ヲ一層克ク鞏固ナラシムルノ目的ヲ以テ若干ノ事項ヲ相互  
ニ確定セムコトヲ命セリ之カ爲清國皇帝陛下ハ特派清國軍  
機處大臣ニ全權ヲ付與シ北京ニ於テ清國駐露西亞國特命  
全權公使「カッシニ」伯ト共ニ兩帝國間ノ貨物輸送ヲ容易ナ  
ラシメ且國境及海岸ノ防禦ヲ強固ナラシムルノ目的  
ヲ以テ東三省(奉天省、吉林省及黑龍江省)ノ鐵道系統ヲ西  
比利亞ニ於ケル露西亞國鐵道系統ト接続セシムルノ件ニ關  
スル若干ノ事項ニ關シ且又遼東半島及其ノ附屬島嶼ノ回收  
ニ付露西亞國カ與ヘタル忠誠ナル援助ニ對スル報酬トシテ清  
國カ露西亞國ニ許與スヘキ若干ノ特權ニ關シ協定セシメタリ  
第一條 露西亞國大西北比利亞鐵道カ完成ノ域ニ達セムトス  
ルノ事實ニ鑑ミ清國ハ露西亞國カ其ノ鐵道ヲ左ノ如ク清  
國領土内ニ延長スルコトニ同意ス

(イ) 浦潮新鎮港ヨリ吉林省ノ琿春府ニ至リ更ニ北西ニ  
向ヒテ吉林省首都ニ至ルモノ

(ロ) 西北比利亞ノ成都市ノ鐵道停車場ヨリ黑龍江省ノ蒙  
琿府ニ至リ更ニ南西ニ向ヒテ齊齊哈爾ノ首都ニ至リ  
更ニ吉林省ノ伯納府ニ至リ更ニ南東ニ向ヒテ吉林省  
首都ニ至ルモノ



第二條 露西亞國カ清國ノ黑龍江省及吉林省内ニ敷設シタル鐵道ノ敷設費ハ露西亞國單獨ニ之ヲ負擔シ且該鐵道ノ取締規則及敷設ハ專ラ露西亞國ノ方式ニ據リ清國ヘ之ニ何等干渉セサルヘク該鐵道ノ全監理ハ三十年間露西亞國ノ掌中ニアルモノトス右期間終了後ハ清國ハ該鐵道ノ相當評定價格ニ依リ鐵道並之ニ附屬スル車輛、機械工場及建物ヲ買收スヘキ必要ナル資金ヲ準備スルコトヲ得ヘシ但シ右ノ場合清國ノ執ルヘキ買收方法ニ關シテハ後日ニ商議スヘシ

第三條 清國ハ現在山海關ヨリ奉天省ノ首都タル奉天(盛京)迄及奉天ヨリ吉林省首都延長セムトスル鐵道ヲ所有ス清國ニ於テ今後右鐵道ノ敷設ヲ不便ナリト認ムル場合ニハ露西亞國ヲシテ資金ヲ調達セシメ清國ニ代リ吉林省ヨリ右鐵道ヲ敷設セシムヘク清國ハ十年ノ期間後右鐵道ヲ買收スルコトヲ得ヘシ右鐵道ノ經路ニ關シテハ露西亞國ハ吉林ヨリ奉天、牛莊等ニ至ル經路ニ付清國カ既ニ檢分シタルトコロニ從フヘシ

第四條 清國カ奉天省ノ山海關ヨリ牛莊、蓋平、金州、旅順口及大連灣並附屬島嶼ニ至ル迄敷設スヘキ鐵道ハ兩帝國間ノ通商ヲ容易ナラシムル爲露西亞國鐵道取締規則ニ

從フヘシ

第五條 露西亞國カ清國領土内ニ於テ敷設スヘキ鐵道ニ付其ノ經由スル線路ハ通常清國ノ地方文武官憲之ヲ保護スルコトヲ要ス又右地方文武官ハ諸多ノ鐵道停車場ニ於ケル露西亞國文武官並鐵道工事ニ從事スル露西亞人タル一切ノ技術及職工ニ對シ一切ノ便宜及援助ヲ供與スヘシ但シ該鐵道ノ通過地域ハ大部分不毛ニシテ住民稀少ナルヲ以テ右地域ニ於テ清國官憲カ常ニ必要ナル保護及援助ヲ與フルハ困難ナルノ事實ニ關シ露西亞國ハ右鐵道財產ヲ一層克ク保護セムカ爲諸多ノ重要停車場ニ歩騎ノ特別大隊ヲ駐屯セシムルコトヲ得

第六條 該鐵道ニ依リ兩國間ニ輸入セラルル貨物ニ課セラる關稅ニ關シテハ同治第一年二月四日(露曆千八百六十二年二月二十日)批准セラレタル陸路通商ニ關スル露清通商條約ノ定ムル規定ニ從フヘシ

第七條 從來黑龍江省、吉林省及長白山ニ於ケル探礦ヲ禁止セル章程アリタルモ本條約批准後ハ露西亞人及清國臣民ハ前記地方ニ於テ探礦スルコトヲ得但シ探礦前ニ於テ探礦ニ付清國地方官憲ニ出願スルコトヲ要シ右清國官憲ハ清國本土ニ於ケル現行ノ鐵業條例ニ從ヒ必要ナル護照

ヲ發給スヘシ

第八條 東三省ニ於テハ泰西ノ方式ニ依リ訓練セラレタル若干ノ大隊アリト雖該地方ノ軍隊ノ大部分ハ舊制ニ從フモノナリ清國ニ於テ將來泰西ノ制度ニ據リ該地方ノ全體ノ軍隊組織ヲ改革セムト欲スル場合ニハ清國ヘ之カ爲相當陸軍士官ヲ露西亞國ヨリ備聘スルコトヲ得ヘク且右取極ノ準備スヘキ規則ハ黑龍江省ニ於テ現在備聘セララル獨逸國陸軍士官ニ關スル現行規則ニ從フヘシ

第九條 露西亞國ハ未ダ嘗テ亞細亞ニ於テ不凍ニシテ一年ヲ通シ開放セラレタル海港ヲ有シタルコトナキヲ以テ本大陸ニ於テ軍事行動ノ突發スヘキ場合ニハ露西亞國東洋艦隊及太平洋艦隊カ自由且任意ニ巡遊スルハ勿論困難ナルヘシ清國ヘ之ヲ熟知スルヲ以テ一時露西亞國ニ山東省ノ膠州灣ヲ十五年ノ期間租賃スルノ意思ヲ有ス右期間終了後清國ヘ露西亞カ該港占領中建設シタル一切ノ兵舎、倉庫、機械工場及船渠ヲ買收スヘシ但シ軍事行動ヲ執ルノ虞ナキ場合ニハ露西亞國ヘ他國ノ候補及猜忌ヲ激成セシムルノ機會ヲ免除セムカ爲該港ノ即時取得ヲ爲シ又ハ該港ヲ支配スル重要地點ヲ把握セサルモノトス租借料及其ノ支拂方法ニ關シテハ他日議定書ヲ以テ協定スヘシ

第十條

遼東半島ノ港タル旅順口及大連灣並附屬島嶼ハ軍略上ノ重要地點ナルヲ以テ清國ハ將來ノ危險ニ對スル施設ノ爲適當ナル築城ヲ速カニ行ヒ且其ノ要塞等一切ノ修理ヲ爲スノ責務ヲ有ス之カ爲露西亞國ハ右二港ノ防備ニ付一切ノ必要ナル援助ヲ供シ一切ノ他國ヲシテ之ヲ侵略セシメサルヘシ又清國ハ第三國ニ右二港ヲ割讓セサルノ義務ヲ負フモノトス但シ將來事變緊急ニシテ之カ割讓ノ必要アリ且露西亞國カ突然戰爭ニ投スルノ已ムナキニ至リタル場合ニハ清國ハ露西亞國カ一層克ク敵國ヲ攻撃シ又ハ自國ノ地位ヲ防守シ得ルカ爲一時該港内ニ其ノ陸海軍ヲ集中セシムルコトニ同意ス

第十一條 然リト雖露西亞國カ國セサル軍事行動ノ危險ナキ場合ニハ清國ハ旅順口及大連灣ノ施設ニ對スル全監理權ヲ有スヘク露西亞國ヘ之ニ對シ何等干渉セサルヘシ但シ東三省内ノ鐵道ノ敷設及右地域内ノ探礦ニ關シ露西亞國ハ本條約批准後即時且當該露西亞人ノ任意ニ基キテ着手スルコトヲ得ヘシ露西亞國文武官及露西亞國商人ニシテ其ノ行先ノ如何ヲ問ハス(本條所掲ノ地域内ヲ)旅行スル者ニ關シテハ地方官憲ノ爲シ得ル限リニ於テ一切ノ保護ノ特權及便宜ヲ與ヘラルヘク且右地方官憲ハ本條約所



揚ノ露西亞國官憲及臣民ノ途上ニ妨害ヲ加ヘ又ハ其ノ旅行ヲ遲延セシムルコトヲ得ス

第十二條 本條約ハ各締約國皇帝陛下ノ各署名後直ニ效力ヲ發生シ旅順口、大連灣及膠州灣ニ關スル規定ヲ除キ之ヲ兩帝國ノ各地方官憲ニ通告スヘシ批准書交換ノ地ニ關シテハ將來ノ決定ニ俟ツヘキモ六箇月間内ニ之ヲ行フヘシ兩締約國ノ各全權委員ハ支那語、露西亞語及佛蘭西語ノ三國語ヲ以テ本條約ヲ作成シ各國語ノ謄本一通宛ハ署名調印後各締約國之ヲ保管スヘク對校ノ上前記三國語ノ本書ノ内容ハ相互ニ一切ノ點ニ付一致スルモノト之ヲ認ム但シ將來疑義アル場合ニハ佛文ヲ以テ正文トスヘシ

### 東支鐵道會社條例

露曆千八百九十六年十二月四日裁可

#### 會社ノ設立

第一條 清國境土内ニ於テ黑龍江省西部國境上ノ一箇所ヨリ起リ吉林省東部國境上ノ一箇所ニ至ル鐵道ヲ敷設經營シ之ヲ露國政府カ後員加爾鐵道及南烏蘇里鐵道ヨリ清國

境上ニ向ケテ敷設スヘキ支線ト接続セシムル爲千八百九十六年八月二十七日清國政府ト露清銀行トノ間ニ締結シタル契約ニ基キ東支鐵道會社ノ名稱ノ下ニ一ノ株式會社ヲ設立ス但シ會社ハ清國政府ノ許可ヲ經テ鐵道ト連帶シ若ハ之ト關係ナシニ炭坑ヲ探掘シ且之ト同時ニ清國內ニ於テ他ノ鐵業及商工業ヲ營ムコトヲ得若シ鐵道事業ト關係セシテ前記業務ヲ營ム場合ニハ會社ハ其業務ニ關スル特別會計ヲ設ケサルヘカラス

會社ヲ設立スルノ任務ハ露清銀行之ヲ負擔ス  
會社設立ト同時ニ前記千八百九十六年八月二十七日附契約ニ由リ附與セラレタル鐵道線ノ敷設及營業ニ關スル權利義務ハ總テ會社ニ移ルモノトス  
會社ハ其創立人カ株券ニ對スル第一回拂込ヲ結了シタル旨ノ證明書ヲ國立銀行ヨリ大藏大臣ヘ提出シタル後始メテ成立シタルモノト認メラルヘシ而シテ前記拂込ハ本條例裁可ヲ經タル日ヨリ二箇月以内ニ必ス之ヲ結了スルヲ要ス

其後ノ拂込ハ會社創立ノ日ヨリ一箇年内ニ券面價格ニ由リ順次皆納スヘキモノトス  
會社株券ノ所有者ハ露清兩國ノ臣民ニ限ル

#### 免許期限

第二條 清國政府トノ契約ニ依リ會社ハ全線開通ノ時ヨリ八十年間東支鐵道ヲ所有ス

#### 露國政府ニ對スル義務

第三條 會社ハ東支鐵道ノ企業ヲ實行シ得ルハ一ニ營業諸費ヲ支辨シ及債券ニ對シテ義務アル支拂ヲナスカ(第十條及第十六條)爲ニ露國政府ニ於テ鐵道ノ收入ニ擔保ヲ與フルニ由ルコトヲ認メ免許期限(第二條)中露國政府ニ對シテ左記ノ義務ヲ負擔ス

一 東支鐵道ハ其附屬物及車輛一切トモ乗客及貨物ノ安全便利並其運搬ニ關スル營業上ノ需要ヲ充タス爲常ニ完全ニ保持シアラサルヘカラス

二 東支鐵道ノ汽車運轉ハ同鐵道ニ連接スル露國鐵道ニ於ケル汽車運轉ノ度數ト同一ナラシムルヲ要ス

三 東支鐵道ハ露國後員加爾鐵道ト烏蘇里鐵道トノ間ヲ往復スル各種列車ヲ其儘受繼キ滯留ナク指定ノ場所ニ運搬スヘシ

四 直接交通ノ諸列車ハ其乗客列車タルト貨物列車タルトノ間ハス總テ東支鐵道之ヲ西比利亞鐵道ニ於テ採用スヘキ速力ヨリモ劣ラサル速力ヲ以テ發送セサルヘカ

#### 東支鐵道會社條例

#### ラス

五 東支鐵道ハ其線路全長ニ於テ電信ヲ架設營業シ之ヲ同鐵道ト接近スル露國鐵道ノ電信ト接続セシメ以テ一ノ國境停車場ヨリ他ノ國境停車場ニ至ル通過電報並露清兩國ヨリ相互ニ發送スル電報ヲ接受シ且之ヲ運送ナク發送スヘシ

六 東支鐵道ニ於ケル運轉ノ發達ト共ニ其技術上ノ構造カ乗客及貨物ノ運搬ヲ正規ニシ且滯留ナカラシムルノ需用ヲ満足セシムルニ不充分ナリト認メラル場合ニ於テ露國鐵道ヨリ之ニ關スル相當ノ伸張ヲ請求スルヤ否ハ東支鐵道ハ速ニ技術上ノ構造及汽車運轉ノ改良ニ關スル處置ヲ施ササルヘカラス若シ前記兩鐵道ノ意見投合セサル場合ニハ東支鐵道ハ露國大藏大臣ノ判定ニ服從セサルヘカラス又東支鐵道ノ所有ニ係ル資力ハ此鐵道伸張ノ爲必要ナル工事ヲ起スニ不充分ナリト認メラル場合ニハ同鐵道事務所ハ何時タリトモ露國政府ヨリ金錢上ノ補助アラムコトヲ露國大藏大臣ニ請願スルコトヲ得ヘシ

七 露國政府ト會社トノ協議ニ由リ乗客及貨物ノ通過運輸並電報發送ノ爲免許期限中(第二條)最高限ノ運賃及



電報料ヲ制定スヘシ而シテ此最高ノ運賃及電報料ハ前記期限内露國政府ノ同意ヲ經スシテ之ヲ增加スヘカラスルモノトス會社事務所ハ前記範圍内ニ於テ露國大藏省ト協議ノ上鐵道運輸及電報發送ニ係ル直接交通ノ運賃及電報料ヲ定ムヘシ

八 東清鐵道ハ露國ノ郵便物、小包郵便物及之ニ陪伴スル官吏ヲ無賃ニテ運搬スヘシ此目的ノ爲會社ハ各乘客列車中ニ長サ三「サージエン」以内ノ車室ヲ備ヘ置クト雖尙露國郵便官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其官廳ノ費用ニテ製造シタル郵便車ヲ同鐵道ニ置クコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ其修繕保管(内部構造ノ外)及列車中ニ在ル前記諸車ノ運轉ハ東清鐵道ニ於テ總テ無代ニテ取計ヒ之ニ關スル費用ヲ自辨スヘシ

以上ノ義務ヲ負擔スルニ由リ前述ノ如ク露國政府ノ擔保ヲ得タルモノニシテ東清鐵道ノ企業ヲ實行シ得ルモ亦此義務アルニ外ナラサルカ故東清鐵道ハ免許期限八十年ヲ經過シ無代價ニテ清國政府ノ所有ニ歸スルトキ(第二十九條)迄此義務ヲ負擔スルモノトス本條例第三十條ニ基キ前記ノ期限前ニ同會社ノ鐵道ヲ買收セラルルコトアルモ前記義務ハ決シテ其效力ヲ減少セラルルコトナク鐵道

ト共ニ其新所有者ニ移ルモノトス之ト均シク清國政府ヨリ同鐵道ニ與ヘタル左記ノ權利ハ免許期限全八十年間其效力ヲ失ハサルモノトス  
イ 露國ノ一停車場ヨリ他ノ停車場へ通過運輸スル乘客ノ荷物及貨物ハ清國關稅及各種内國稅ヲ免除スルモノトス  
ロ 乘客貨物ノ運賃及電報料等ハ總テ清國諸稅ヲ免除スルモノトス

ハ 鐵道ニ由リ露國ヨリ清國へ輸入シ同シク清國ヨリ露國へ輸出スル貨物ハ清國ノ輸入稅ヲ課セラルヘシト雖清國海關ニ於テ徵收スル稅率ニ比シ少キコト三分ノ一ナルヘシ  
ニ 鐵道ニ由リ輸入スル貨物内地ニ差向ケラルルモノナルトキハ既ニ徵收セラレタル輸入稅ノ二分ノ一ヲ通過稅トシ徵收セラルヘシ然ル上ハ其他ノ附加稅ヲ免除セラルヘシ若シ此貨物ニ對シ通過稅ヲ支拂ハサルトキハ内地ニ制定セラレタル諸通關稅及釐金稅ヲ支拂ハサルヘカラス

露國關稅ノ支拂ニ關スル會社ノ免除  
第四條 鐵道ニ必要ナル材料ヲ購入スル場所ニ關シ會社ハ

何等ノ制限ヲ受クルコトナシ若シ露國國境外ニ於テ材料ヲ購入スルトキハ露國領地ヲ經テ輸送ノ際之ニ對スル露國關稅ヲ免除スルモノトス

技術上ノ條件並起工及竣工ノ期限  
第五條 軌道ノ幅員ハ露國鐵道(五呎)ト同一ナラサルヘカラス

會社ハ千八百九十七年八月十六日迄ニ起工シ而シテ線路ノ方向全ク確定シ鐵道ニ必要ナル地面ノ引渡ヲ受ケタルトキヨリ起算シ向六箇年間ニ竣工セサルヘカラス  
鐵道線ノ選定ニ際シ埋葬地及墳墓並市邑村落ハ成ルヘク線路外ニ在ラシメサルヘカラス  
本條例第一條ニ基キ東清鐵道ヲ露國ノ後貝加爾鐵道及南烏蘇里鐵道ト接続セシムルニ際シ會社ハ費用節減ノ爲其境上停車場ヲ築造セシメテ前記露國鐵道ニ屬スル境上停車場ヲ利用スルノ權利ヲ有スヘシ此利用ニ關スル規約ハ會社ト當該鐵道事務所トノ協議ニ由リ之ヲ定ムルモノトス

運賃  
第六條 乘客及貨物ノ運賃並運輸ニ關スル諸徵收金ハ第三條ニ規定シタル範圍内ニ於テ會社自ラ之ヲ定ムルモノトス

裁判事件審判ノ手續及鐵道運輸規則ノ設定  
第七條 東清鐵道ノ借地内ニ於ケル犯罪、訴訟及其他ノ事件ハ現行條約ニ基キ露清兩國ノ地方官之ヲ判決スヘシ  
乘客及貨物ノ運輸、運輸上ノ責任、裁判管轄、訴訟ニ關スル時効、判決ヲ受ケタル貸金ノ徵收手續及鐵道ト公衆トノ關係等ニ付テハ線路開通ノ前ニ會社ハ露國鐵道ノ現行規則ニ從ヒ一定ノ規則ヲ設ケヘシ

鐵道ニ關スル安全秩序ノ保護  
第八條 清國政府ハ總テノ襲撃ニ對シ鐵道及之ニ從事スル役員ノ安全ヲ保護スルノ手段ヲ負擔セリ  
鐵道及其附屬物ノ爲護受ケタル地所内ニ於ケル秩序安寧ノ保護ハ會社ノ任命スル警察掛ニ委任スルモノトス  
此レカ爲會社ハ鐵道ニ於ケル警察規則ヲ制定スヘシ  
會社ノ基本金

第九條 會社資本金ノ總額ハ踏査ニ基キタル費額金査定書ニ由リ算出シタル敷設費用ニ應シ之ヲ定ムルモノトス  
本金ノ勘定ニ立ツヘキモノハ第一鐵道敷設中基本金ニ對スル利子及償却金支拂ノ費用、第二露國技術ノ滿洲線踏査ニ依ル結果ヲ露國政府ヨリ購求スル費用トス而シテ前記踏査ニ對シ支拂フヘキ金額ハ會社ト露國大藏大臣トノ



協議ニ由リ之ヲ定ムヘシ

會社ノ基本金ハ株券及債券ヲ發行シテ之ヲ組成ス

株券ヨリ生スル資本金

第十條 會社ノ株券總高ハ紙幣五百萬留ニシテ之ヲ千株ニ分テ每株ノ券面五千留トス

株券ハ券面額ニ由リ發行ス

露國政府ハ株券ニ對シ擔保ヲ與ヘサルモノトス

債券ヨリ生スル資本金及債券ニ對スル露

國政府ノ擔保

第十一條 會社資本金ノ殘額ハ債券ヲ發行シテ之ヲ組成シ

其債券ハ必要ノ度ニ從ヒ發行スト雖其都度大藏大臣ノ許

可ヲ經ヘキモノトス

債券券面額及其發行額、發行ノ期日及條件並債券ノ形式

ハ總テ露國大藏大臣ノ認可ヲ經サルヘカラス

露國政府ハ債券ニ對シ利子及償却ノ擔保ヲ與フ

此債券ヲ現金ニ變化スルコトニ關シテハ會社ハ露清銀行

ニ依頼スヘシト雖露國政府ハ會社ト銀行トノ協議ニ由ル

價格ニテ債券ヲ其手許ニ控ヘ置キ之ニ對スル金額ヲ現金

ニテ會社ニ交付スルノ權利ヲ有ス

債券ヨリ生スル資本金ノ保護

第十二條 露國政府ノ擔保シタル債券ニ對スル拂込金ヲ納

入スルニ從ヒ會社ハ債券ニ對スル納入金又ハ大藏大臣ノ

許可ヲ經テ此納入金ヲ以テ購求シタル公債證書ハ同大臣

ノ特別監督ノ下ニ置カサルヘカラス

會社ハ前記納入金中ヨリ左ノ支拂ヲ爲スヘキ權利ヲ有ス

第一 工事及供給ノ實行セラルルニ從ヒ又ハ諸雜費ノ支

拂ヲ爲スノ時期到達スルニ從ヒ支拂フ金額但シ費額查

定書ニ示シタル金額ニシテ且其趣旨ニ基クヘキモノト

ス

第二 鐵道敷設中債券發行ノ條件ニ基キ會社發行債券ニ

對スル利子拂渡ノ時期到達スルニ從ヒ各拂渡毎ニ必要

ナル金額但シ債券ヲ現金ニ變化シタルニ由リ收入シタ

ル金額内ニ於テ支拂フヘキモノトス

株券

第十三條 株券ニ對スル第一回拂込ヲ爲ス際創立人ヨリ假

證書ヲ交付シ會社事務所ノ開設後ハ事務所右假證書ニ其

後ノ拂込ヲ了シタルコトヲ記載スルモノトス

株券發行ノ條件ニ從ヒ株券面額ヲ拂込ミタルトキハ創

立人ヨリ交付シタル假證書ト本株券ト引替フルモノト

ス

會社ノ株券ハ公示者ニ事務所役員三名以上記名シタル上

交付シ株券ニハ毎年一回配當金ヲ受取ルヘキ切手ヲ添附

シ其切手交付ノ期限經過シタルトキハ更ニ新切手ヲ株主

ニ交付スルモノトス

純益中ヨリ株券ニ對シ交付スル配當金ハ株主總會ニ於テ

其年度ノ報告ヲ承認シタル後會社事務所若ハ示定シタル

場所ニ於テ交付スルモノトス

配當金ノ金額及其交付期間ニ付テハ會社事務所ヘ之ヲ

「官報」並「大藏省財政通報」、清國新聞中ノ一尙且株主總

會ノ指示ニ從ヒ其他ノ新聞紙ニ廣告スヘシ

準備金

第十四條 準備金ハ左ノ費途ニ充ツルモノトス即チ第一鐵

道及其築造物件並附屬物ノ大修繕、第二鐵道及其附屬物

ノ改造ニ係ル會社臨時費ノ支辨ナリ

會社ノ準備金ハ鐵道營業ヨリ生スル純收入中ヨリ毎年積

立テ露國利附公債證書又ハ露國政府ノ擔保スル鐵道債券

ヲ以テ保管スルモノトス

會社力鐵道ヲ所有スル期限經過後準備金ハ先ツ第一ニ會

社ノ負債償却ニ充テサルヘカラス若シ露國政府ヨリ借入

レタル金額アルトキハ此負債中ニ加フヘキモノトス而シ

テ前記負債ヲ償却シタル後尙準備金ノ剩餘アルトキハ之

ヲ株主ニ配當ス又清國政府力鐵道ヲ買收スルトキハ此準

備金ハ株主ノ所有ニ歸スヘシ

純收入

第十五條 會社ノ純收入ハ總收入高ヨリ營業諸費ヲ控除シ

タル殘高ニシテ此諸費ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一 諸雜費但シ鐵道ニ勤務スル者ノ爲扶助金及年金ヲ

設クル場合ニハ其補助金トシテ差引クヘキ金額モ亦此

科目中ニ包含ス

第二 事務所役員、鐵道事務所及各出張所ノ經費並員外

雇人及工夫ノ給料

第三 鐵道事業ニ使用シタル材料及物品ニ對スル支拂並

此目的ニ要スル諸築造物、車輛及其他ノ物品ノ使用ニ

對スル報酬ニ係ル諸費

第四 線路、諸築造物、諸建物、車輛其他ノ鐵道附屬物

ノ保管、修繕及改造ニ關スル諸費

第五 汽車運轉ノ安全正確ヲ保ツ爲施行スル會社ノ規定

及命令ヲ遵守セシムルニ必要ナル構造ニ關スル諸費

第六 鐵道ノ改良及伸長ニ係ル諸費並其流通資金ノ設備



露國政府ノ補充金及之ニ關スル會社ト露國政府トノ年度計算手續

第十六條 鐵道ノ總收入高カ營業諸費及債券ニ對スル各年度支拂高ヲ償却スルニ不十分ナルトキハ會社事務所ハ其不足額ヲ露國大臣ヲ經テ露國政府ヨリ受取ルコトヲ得ヘシ

此補充金ハ年利六朱ニテ會社ニ前渡ヲ以テ下渡シ而シテ會社ノ請求ニ由リ餘分ニ下渡シタル金額アルトキハ次回下渡ノ時之ヲ控除スルモノトス

會社事務所ハ鐵道營業ニ關スル年度報告ヲ株主總會ニ提出スルト同時ニ會社カ露國政府ニ對スル負債額及其利子ニ關スル明細ナル勘定書ヲ提出シテ總會ノ認可ヲ受クヘシ總會ノ認可ヲ經タル後事務所ハ其確定シタル負債全額ニ對スル證書ヲ露國政府ニ差出シ向後新證書ト引替フル迄ハ此證書ニ對シテ年六朱ヲ加算スルモノトス

會社事務所ヨリ露國政府ニ差出ス前記ノ證書ハ印紙稅並證券稅ヲ賦課セサルモノトス

純收入ノ分配

第十七條 株主總會ノ決議ニ由リ鐵道總收入ノ中ヨリ其金額ノ十分ノ一以內ヲ準備金ニ積立ツルコトヲ得ヘシ之ヲ

事務所ノ組織

第十九條 會社事務所ハ頭取一名、役員九名ヲ以テ組織シ頭取ハ清國政府ヨリ之ヲ任命シ其他ノ役員ハ株主總會ニ於テ之ヲ選舉スルモノトス事務所ハ其役員中ヨリ頭取ヲ互選ス

頭取ノ職務ハ鐵道會社カ清國政府ニ對シ其義務ヲ正當ニ執行スルヤ否ヤヲ監察スルニ在リ而シテ清國政府及清國中央官府並地方官ト會社トノ間ノ通信ハ總テ事務所頭取ヲ經由スヘキモノトス

副頭取ノ職務ハ親シク會社事務ヲ掌理スルニ在リ事務所役員ハ毎年二名宛退職ス而シテ最初ノ五年間ハ抽籤若ハ相互ノ協議ニ由リ其後ハ當選ノ順序ニ從ヒテ退職ス退職者ノ補缺選舉ハ總會ニ於テ之ヲ行フ

頭取及役員ニ與フル報酬金額ハ株主總會ニ於テ定ム株主ノ選舉シタル事務所役員ノ職務ハ總會ニ於テ定メタル期限前之ヲ停止スルコトヲ得

事務所執務順序

第二十條 會社事務所ハ必要ニ應シ頭取若ハ副頭取ノ通告ニ由リ招集セラルルモノトス事務所ノ決議ヲシテ有效ナラシムルカ爲頭取若ハ副頭取ヲ合セ役員五名以上自身若

差引キタル殘額ハ會社債券ニ對スル利子支拂及債券償却ニ充テ尙剩餘アルトキハ其金額中ヨリ株主總會ノ決議ニ由リ其都度定ムル所ノ金額ヲ債券ニ配當スルモノトス若シ如此シテ尙更ニ剩餘アルトキハ露國政府ニ對スル負債ノ償却ニ充ツヘシ但シ會社カ負債ヲ有セサル年度ニ於テハ此殘金ハ債券ニ對スル補充配當金トナスコトヲ得ヘシ

會社事務所

第十八條 會社事務所ハ東清鐵道ノ敷設及營業ニ關スル會社ノ事務並會社ノ帳簿及計算ヲ管理ス

事務所ハ會社ノ代表者ナルカ故清國政府ト取極メタル契約、本條例及總會ノ決議ニ由リ與ヘラレタル權利ノ範圍內ニ屬スル事務所ノ行爲ハ會社ニ於テ之ニ對シ義務ヲ負ハサルヘカラス

事務所ハ會社ノ全權委員トシテ特別ノ委任ヲ受ケスシテ事務ヲ處斷シ自ラ其代理者ヲ選任シ之ニ一般ノ成規ニ基ク合法ノ委任狀ヲ交付スルノ權利ヲ有ス

事務所ノ所在地ハ北京及彼得堡トス

事務所ノ會議ハ北京並彼得堡ニ開クコトヲ得ヘシ事務所ハ印章ヲ有ス

ハ書面(郵便若ハ電信)ニテ會議ニ加ハラサルヘカラス議事ハ普通ノ多數決ニ由リ裁決ス

信用設立及一般會社資本金ノ保管ヲ委託シタル人及場所ニ對スル金額ノ請求書、公債證書ノ讓渡、領收證ノ交付及會社ニ支拂フヘキ金額讓渡ノ裏書ハ當座勘定ニ由ル金圓ノ外總テ事務所役員三名以上ノ記名ヲ以テ證明セサルヘカラス當座勘定ニ對スル金圓ノ拂渡即チ事務所ノ現金中ヨリスル拂渡ハ役員中ノ一名ニシテ其委任ヲ受ケタル者ノ記名シタル仕持命令ニ由リ事務所ノ規定ニ基キ之ヲ執行スルモノトス

株主總會及其所管事項

第二十一條 株主總會ヲ分チテ通常及臨時トス通常總會ハ事務所ヨリ提出シタル報告及計表ニ對スル決議ヲ規定シ且事務所役員ヲ選舉スル爲毎年招集ス

前記條件事項ノ外通常總會ニ於テハ一般株主總會ノ審議ニ附スヘキ他ノ諸問題ヲモ討論スルヲ得ヘシ臨時總會ハ必要ニ由リテ之ヲ招集ス

總會ノ審議ニ附スヘキ事項ハ事務所ヲ經由スアラサレハ之ヲ受理セサルモノトス



前記普通總會ノ爲示定シタル常例議事ノ外一般總會ノ決議ニ附スヘキモノハ(一)鐵道ノ敷設及經營ニ關スル會社ノ行爲及計畫ヲ承認スルコト(二)事務所ノ報告書ヲ審議協賛スルコト(三)準備金使用ニ關スル提議ヲ審查認許スルコト(四)第十七條ニ示定スル範圍内ニ於テ準備金ニ金額ヲ繰入レ且株主ノ配當ニ充ツル金額ノ控除ヲ承認スルコト並年金及扶助金設定ノ場合ニ於テ其項目ニ繰込ム金額ノ控除ヲ承認スルコト(五)事務所役員及審查會議議員ヲ選舉スルコト(六)事務所役員及審查會議議員ノ給料ヲ定ムルコト(七)事務所ニ引渡スヘキ豫算額内ニ於ケル歳費、一時費及臨時費ノ金額ヲ定ムルコト及事務所ニ金員ノ借入ヲ許可スルコト(八)一般事務所ノ權限外ニ涉ル事件並事務所ヨリ總會ノ審議ニ提出シタル諸事項ヲ許可スルコトトス

總會招集ノ手續

第二十二條 總會ハ事務所ノ意見ニ由リ清國及露國新聞ニ掲載スル廣告ニ由リ北京若ハ聖彼得堡ニ招集スルモノトス

總會成立ノ條件

第二十三條 株主總會及其規定ハ會社株券全額二分ノ一以

上ノ代表者出席シタル場合ニ於テ效力ヲ有スルモノト認ムヘシ

總會ニ於ケル株主ノ出席及議事手續

第二十四條 總會ニ於テハ所有株券ノ員數ニ拘ラス一株毎ニ一箇ノ發言權ヲ有スルモノトス  
株券所有者ハ總會ヘ出席ノ爲自身若ハ其正當ノ委任狀ヲ有スル代理者ヲ經テ總會日ニ至ル七日以前ニ其所有ニ保ル會社ノ株券又ハ國立銀行並其支店及出張所若ハ露清銀行及其出張所ニ於テ之ヲ保管シ且總會日ノ翌日ニ至ラサレハ交付セサル旨ヲ同銀行及其支店、出張所ニ於テ證明シタル證明書ヲ事務所ヘ提出スヘシ證明書ニハ株券番號ノ記入シアルコトヲ要ス而シテ提出シタル株券ハ事務所ニ保管シ總會ノ後棄ニ之ニ對シ交付シタル領收書ヲ差出シタルモノニ還付スルモノトス  
議事ハ總會テ普通ノ多數決ニ由リ裁決ス  
前記ノ趣旨ニ基キ且條例ニ於テ總會ニ與ヘタル權限内ニ成立シタル總會ノ規定ハ總會株主ヲシテ出席者タルト缺席者タルトツ間ハス違由ノ義務ヲ負ハシム

地方鐵道築造事務所

第二十五條 鐵道築造工事ノ設計及施行ニ關スル技術部ノ

直接管理ハ會社ノ事務所ニ於テ之ヲ技師總長ニ委託スルモノトス技師總長ハ直接會社及其事務所ニ對シ技術上鐵道築造工事ノ鞏固正確完全ナルコトニ付責任ヲ負フモノトス鐵道築造ニ關スル技師總長及其代理者技師長並検査役頭ハ事務所之ヲ任命ス其他役員ハ事務所若ハ技師總長(之ニ事務所ヨリ附與シタル權限ニ由リ)直接ニ之ヲ任命ス

營業ノ時ニ於ケル地方鐵道事務所

第二十六條 鐵道營業及營業中施行シタル工事ノ直接管理ハ會社ノ事務所ヨリ之ヲ鐵道事務長ニ委託スルモノトス鐵道事務長、各出張所長及検査役頭ハ事務所(會社ノ)ニ於テ之ヲ任命シ其他ノ營業ニ從事スル役員ハ事務所(會社ノ)若ハ鐵道事務長(之ニ會社ノ事務所ヨリ附與シタル權限ニ由リ)直接ニ之ヲ任命ス  
地方事務所所在地ハ會社事務所ニ於テ之ヲ選定スヘシ

露國大藏大臣ノ認可ヲ要スル事項

第二十七條 露國政府ニ於テ負擔シタル東清鐵道會社純收入ノ擔保及此ヨリシテ露國政府ノ爲ニ發生スル鐵道築造及營業ニ係ル事務進行ノ監督權アルカ故ニ左記ノ事項ニ關スル規定ハ露國大藏大臣ノ協賛ニ提出スルコトヲ要ス

東支鐵道會社條例

(一)副頭取ノ選舉(二)鐵道築造技師總長、鐵道營業事務長、各出張所長及技師ノ任免(三)審查會議議員ノ選舉(四)鐵道線ノ方向(五)線路築造ニ係ル技術上ノ條件及設計並技師總長ニ承認ヲ委託セサル鐵道築造ノ豫算、鐵道線路方向ノ全設計、鐵道築造費額金査定書及線路營業ノ豫算、技師總長、鐵道事務長及鐵道築造營業ニ係ル役員頭ノ權利義務ノ範圍及權限並鐵道築造營業ニ係ル事務所各部ノ内部構成ノ秩序(六)第十四條ニ揭示シタルモノヲ除クノ外年金準備及其他ノ資本金納置ノ方法

審查會議

第二十八條 株主總會ハ會社ノ事務ニ關涉セサルモノノ中ヨリ五名ノ審查會議議員ヲ選舉ス  
審查會議ハ其議員中ヨリ議長ヲ選舉ス  
議員ハ毎年一名ツツ最初五箇年間ハ抽籤若ハ相互ノ協議ニ依リ退職シ其後ハ當選ノ順序ニ由リ退職スルモノトス  
退職者補缺ハ總會ニ於テ新ニ之ヲ選舉ス  
審查會議ノ職務ハ左ノ如シ

書ノ審查

(一)線路ノ築造及伸張ニ係ル工事ノ豫算案及費額査定書ノ審查  
(二)竣工報告ノ審查



- (三) 鐵道營業ニ關スル歲出入豫算ノ審査
- (四) 營業上ノ收支ニ關スル事務所報告ノ審査
- (五) 一般ニ線路ノ築造及營業ニ係ル事務所進行一切ノ監督

會社事務所ハ審査會議ニ對シ其請求ニ係ル通報及説明ヲ遲滞ナク送致セサルヘカラス  
線路ノ築造及伸張並營業ニ係ル豫算案ハ審査會議事務所トノ聯合會議ニ於テ之ヲ審査ス

議事ハ出席者發言ノ多數ニ由リ採決ス而シテ後會議ニ於テ協賛シタル豫算案ハ事務所ヲ經テ露國大藏大臣ノ協賛ニ提出スヘシ

線路ノ築造並營業ニ係ル報告ハ唯審査會議議員ノミニテ之ヲ審査シ其意見ヲ發言ノ多數ニテ決定シ之ヲ報告ニ付  
事務所ハ報告ヲ株主總會ノ承認ニ提出シ併セテ總會ニ  
審査會議ノ意見書及其レニ對スル辯明書ヲ提出ス總會ニ  
於テ審査會議ノ決議ヲ審査シ且之ニ係ル決議ヲ總會ニ於  
テ規定シタル上審査會議ハ其審査シタル事務所ノ報告及  
帳簿ニ總會ノ規定ニ相當スル記入ヲナス  
議員ハ報告及豫算ノ審査ニ係ル努力ニ對シ總會ニ於テ定  
ムル報酬ヲ受クルモノナリ

清國政府ノ無代價鐵道所有

第二十九條 清國政府ト締結シタル契約ニ基キ會社ノ鐵道  
所有期限八十年ヲ經過シタル後清國政府ハ無代價ニテ鐵  
道及其附屬物ヲ所有スヘシ

會社ノ固有財產タル準備金並其他ノ資本金ハ純收入ノ擔  
保(第十六條)ニ係ル補充金ニ由リ生シタル露國政府ニ對  
スル負債及其他ノ社債ノ償却ニ充テ其剩餘ヲ株主ニ配當  
スルモノトス

鐵道所有期限經過ノ後前記純收入ノ擔保ニ係ル補充金ニ  
由リ生シタル露國政府ニ對スル社債償還セサル場合ニハ  
之ヲ其勘定ヨリ取除キ露清銀行ハ之ニ對シ何等ノ責任ヲ  
負フコトナシ

三十六年經過ノ後鐵道ヲ買收シ得ヘキ清

國政府ノ權利

第三十條 清國政府ト締結シタル契約ニ基キ全線竣工開通  
ノ日ヨリ三十六年ヲ經過シタル後清國政府ハ會社ニ其清  
費セシ資本金及鐵道ノ需用ニ由リ生シタル負債並其利子  
ノ全額ヲ償還シタル上此線路ヲ買收スルノ權利ヲ有ス  
債券ヨリ生スル資本金ノ内抽該ニ依リ償却セサルヘキ分  
ト擔保ニ由ル負債ノ内純收入中ヨリ露國政府ヘ償還サル

ヘキ分ハ勿論前記買收代金中ニ算入セサルモノトス

清國政府ハ相當ナル買收代價ノ全額ヲ國立銀行ニ拂込マ  
サル以前ニ於テハ如何ナル場合ト雖鐵道ヲ所有スルコト  
ヲ得ス

清國政府ヨリ拂込ミタル買收代金中ヨリ會社ノ債券ニ對  
スル負債及露國政府ニ對スル負債並利子ノ償却ニ充テ其  
殘餘ヲ株主ノ處分ニ委スルモノナリ

遼東半島租借條約

千八百九十八年三月二十七日

北京ニ於テ調印

全露西亞國獨裁皇帝陛下及支那國皇帝陛下ハ兩帝國間ニ存  
在スル友好關係ヲ更ニ鞏固ナラシメ且相互支持ヲ實現スヘ  
キ手段ヲ確保セムト欲シ之カ爲協定ヲ爲サムコトヲ目的ト  
シテ左ノ全權委員ヲ任命セリ

露西亞國皇帝陛下

支那國皇帝陛下駐劄代理公使 「アレキサンダー、  
バヴロウ」

支那國皇帝陛下

遼東半島租借條約

清國政府ノ無代價鐵道所有

第二十九條 清國政府ト締結シタル契約ニ基キ會社ノ鐵道  
所有期限八十年ヲ經過シタル後清國政府ハ無代價ニテ鐵  
道及其附屬物ヲ所有スヘシ

會社ノ固有財產タル準備金並其他ノ資本金ハ純收入ノ擔  
保(第十六條)ニ係ル補充金ニ由リ生シタル露國政府ニ對  
スル負債及其他ノ社債ノ償却ニ充テ其剩餘ヲ株主ニ配當  
スルモノトス

鐵道所有期限經過ノ後前記純收入ノ擔保ニ係ル補充金ニ  
由リ生シタル露國政府ニ對スル社債償還セサル場合ニハ  
之ヲ其勘定ヨリ取除キ露清銀行ハ之ニ對シ何等ノ責任ヲ  
負フコトナシ

三十六年經過ノ後鐵道ヲ買收シ得ヘキ清

國政府ノ權利

第三十條 清國政府ト締結シタル契約ニ基キ全線竣工開通  
ノ日ヨリ三十六年ヲ經過シタル後清國政府ハ會社ニ其清  
費セシ資本金及鐵道ノ需用ニ由リ生シタル負債並其利子  
ノ全額ヲ償還シタル上此線路ヲ買收スルノ權利ヲ有ス  
債券ヨリ生スル資本金ノ内抽該ニ依リ償却セサルヘキ分  
ト擔保ニ由ル負債ノ内純收入中ヨリ露國政府ヘ償還サル

總理各國事務大臣太子太傅 伯李

尙書戶部左侍郎 張

右全權委員ハ正當ナル全權ヲ委任セラレテ左ノ規定ヲ協定  
セリ

第一條 露西亞國海軍カ北部支那ノ海岸ニ安全ナル根據地  
ヲ取得スヘキヲ確保セムカ爲支那國皇帝陛下ハ露西亞國  
カ旅順口及大連灣並右兩港接續ノ兩水面ヲ租借シテ自由  
ニ處分シ得ヘキコトニ同意ス尤モ右租借ハ前記兩城ニ對  
スル支那國皇帝陛下ノ主權ヲ何等侵害セサルモノトス

第二條 前記基本條件ニ依リ租借セラレタル地域ノ境界ハ  
大連灣ヨリ北方ニ向ヒ陸上ニ於テ右地域ノ充分ナル防禦  
ヲ確保スルニ必要ナル地點ニ互ルモノトス正露兩國境界  
確定線及其ノ他本條約ノ規定ニ關スル詳細事項ハ本條約  
調印後直ニ許閣下ト聖彼得斯堡ニ於テ締結セラルヘキ別  
箇ノ議定書ニ依リ之ヲ決定スヘシ境界線確定ノ上露西亞  
國政府ハ租借地域ノ全範圍及其ノ接續領水ニ對シ完全且  
排他的ナル權利ヲ享受スヘシ

第三條 租借期限ハ本條約調印ノ日ヨリ二十五年トシ且有  
期間後更ニ兩國政府ノ互認ニ依リ之ヲ延長スルコトヲ得

第四條 前記期間中露西亞國政府ノ租借地域及其ノ接續領



水ノ上ニ於テハ陸海軍ノ統率並最高行政ハ之ヲ露西亞國  
官憲ニ全然引渡シ且一名ノ官吏ヲシテ專管セシムヘシ尤  
モ右官憲ハ知事若ハ總督ノ官名ヲ有セサルモノトス支那  
國ノ如何ナル陸軍モ右所定地域ニ入ルコトヲ得ス支那人  
タル住民ハ其ノ希望ニ從ヒ露西亞國租借地域ノ境界外ニ  
移轉シ又ハ露西亞國官憲ヨリ拘束ヲ蒙ルコトナク右境界  
内ニ殘留スルノ權利ヲ保留ス支那國臣民カ租借地域内ニ  
於テ何等カノ犯罪ヲ行ヒタル場合ニハ犯人ハ之ヲ最寄ノ  
支那國官憲ニ引渡シ千八百六十年北京條約第八條所定ノ  
通り支那國法律ニ依リ審問處罰スヘシ

第五條 前記租借地域境界ノ北方ニ中立地帯ヲ設置スヘシ  
右中立地帯ノ境界ハ許閣下及露西亞國外務省之ヲ決定ス  
右中立地帯内ニ於テハ行政ハ支那國官憲之ヲ專管スヘシ  
支那國陸軍ハ露西亞國官憲ノ同意ヲ經テ右地帯内ニ入ル  
コトヲ得

第六條 兩國政府ハ專用軍港(海軍港)タル旅順口ハ露西亞  
國及支那國船舶ノミ之ヲ使用シ且他國ノ軍艦及商船ニ對  
シテハ閉鎖港タルコトヲ認ムルモノトス大連灣ニ關シテ  
ハ灣内ノ一港ニシテ旅順口ノ如ク露西亞國及支那國軍艦  
專用ノ爲ニ特設セラルルモノヲ除キ該港ハ外國貿易開港

場トシテ之ヲ認メ且一切ノ國ノ商船ニ對シ入航ノ自由ヲ  
許與スヘシ

第七條 露西亞國政府ハ自己ノ費用及資源ヲ以テ租借地域  
上ニ自國陸海軍ノ爲ニ必要ナル一切ノ建物ヲ建設シ特ニ  
旅順口及大連灣ニ於テ要塞ヲ建設シ右要塞内ノ兵營ヲ維  
持シ且一般的ニ所定地域ヲ敵對行爲ニ對シ適當ニ防禦ス  
ヘキ一切ノ必要ナル措置ヲ執ルコトヲ約諾ス右同様ニ露  
西亞國政府ハ自己ノ費用ヲ以テ燈臺及其ノ他航行ノ完全  
ニ必要ナル警備ヲ建設スルノ義務ヲ負フ

第八條 支那國政府ハ千八百九十六年東支鐵道會社ニ許與  
シタル「コンソセツション」ハ本條約調印ノ日ヨリ本線所屬  
ノ一停車場ヨリ大連灣迄及必要ト認ムル場合ニハ該本線ヨ  
リ遼東半島ノ營口及鴨綠江間沿海ノ更ニ他ノ一層便宜ナ  
ル地點迄敷設セラルヘキ接續支線ニ對シ之ヲ擴張スルコ  
トニ同意ス千八百九十六年八月二十七日(九月八日)支那  
國政府及露支銀行間ニ締結セラレタル契約ノ一切ノ規定  
ハ周到ナル注意ヲ以テ右追加支線ニ對シ之ヲ適用スヘシ  
前記支線カ通過スヘキ方向及地點ハ許閣下及東支鐵道管  
理部之ヲ決定スヘシ所定基本條件ニ從フ鐵道敷設ニ對ス  
ル同意ハ如何ナル形式ニ於テモ支那國領土ノ占領又ハ支

那國主權ノ侵害ヲ目的トスル口實ト爲ラサルヘシ

第九條 本條約ハ兩國全權委員カ本書交換ノ日ヨリ效力ヲ  
發生スルモノトス批准書交換ハ成ルヘク速ニ聖彼得堡ニ  
於テ之ヲ行フ

右證據トシテ兩締約國ノ各全權委員ハ露支兩國語ノ本條約  
二通ノ本書ニ署名調印ス相互對照ノ上一致スルモノト認メ  
ラレタル右二通ノ原文ノ内本條約解釋ノ爲ニハ露西亞語ノ  
原文ヲ正文トス

千八百九十八年三月十五日(三月二十七日)即チ支那曆光緒  
二十四年三月八日北京ニ於テ本書二通ヲ作成ス

エー、バヴロウ (印)  
李 (印)  
張 (印)

### 東支鐵道南滿洲支線建 設及經營ニ關スル契約

千八百九十八年七月六日  
聖彼得堡ニ於テ調印

東支鐵道南滿洲支線建設及經營ニ關スル契約

清國特派大使許露國駐在全權公使楊ハ光緒二十四年五月七  
日即露曆千八百九十八年六月十三日ヲ以テ勅令ヲ奉シ東省  
鐵路公司ト約款締結ノ允可ヲ得タリ但シ該契約ハ清露兩國  
光緒二十四年三月初六日(露曆千八百九十八年三月十五日)  
北京ニ於テ締結ノ條約及同年閏三月十七日(露曆四月二十  
五日)聖彼得堡ニ於テ續訂ノ附屬條約ニ於テ清國政府ハ該  
條約調印後光緒二十二年東省鐵路公司ニ允許セシ鐵道敷設  
條件ニ準シ一支線ヲ增設シ即東清鐵道幹線ニ屬スル一停車  
場ヲ起點トシ遼東半島ノ大連灣及旅順口ニ延長敷設スルコ  
トヲ許ス此支線敷設ニ付テハ光緒二十二年八月初二日(露  
曆千八百九十六年八月二十七日)清國政府露清銀行ト訂結  
セシ契約ノ各章程ニ照シ處辦スヘシト規定セララルニ依リ  
從前締結ノ東清鐵道敷設管理ニ關スル條約ニ按シ支線增設  
ノ契約ヲ議定スル左ノ如シ

第一條 本契約ニ議定セル東清鐵道ノ支線ハ旅順大連灣海  
岸ニ連スヘキモノナルカ故ニ名ヅケテ東清鐵道南滿洲支  
線トス

第二條 光緒二十二年八月初二日(露曆千八百九十六年八  
月二十七日)締結ノ條約第四條ニ鐵道敷設ニ必要ナル材  
料物品ノ水陸運送ニ關シテハ清國政府ニ於テ夫々便宜ノ



方法ヲ設ケ其敏活ヲ計ルヘシトアルニ依リ東省鐵路公司ニ對シ蒸汽船及其他ノ船舶ニ公司旗ヲ掲ケテ遼河及遼河ノ支流、營口並線路關係ノ各海口間ヲ航通スルコトヲ許シ本支線工事ニ對シ必要ナル水路ハ皆往來繫泊シ材料物品ノ運搬上下ヲ爲シ得ヘキモノトス

第三條 東省鐵路公司ニ於テ南滿洲支線敷設ノ爲ニ要スル材料及糧食等ノ運送ヲ敏活ナラシムルカ爲ニ其線路ヨリ更ニ支線ヲ假設シ營口及其他關係地方ノ海岸ニ連絡セシムルコトヲ得但シ本線路竣工シ兩線ヲ通シテ營業開始ノ上ハ該公司ニ於テ清國政府ノ通告ヲ遵守シ該支線ヲ撤去スヘシ如何ナル場合ニ拘ラス線路踏査ヲ經テ敷地ノ引渡ヲ了ヘタル日ヨリ起算シ八箇年以内ニハ必ス之ヲ撤去スヘキモノトス

第四條 光緒二十二年(露曆千八百九十六年)清國政府ヨリ公司ニ對シ木材及石炭ヲ採取シ鐵道ノ需要ニ充ツルコトヲ許シタルニ基キ今回公司ニ對シ官有地ノ山林ニ於テ樹木ヲ伐採スルコトヲ許シ其代價ノ辨償ニ付テハ總監工或ハ其代理人ニ於テ地方官ト協定スヘク其價額ハ該地方ノ時價ニ超過スルコトヲ得サルヘシ但シ盛京省ニ於ケル帝室財產或ハ風水ニ關係アル北京政府直營ノ樹木ハ之ヲ損

害移動スルコトヲ得ヌ又該支線ノ經過スヘキ地方一帯ニ於テ鐵道敷設及營業ニ必要ナル石炭ヲ採掘スルコトヲ許シ其斤數ニ對シ代價ヲ辨償セシメ總監工又ハ其代理人ヨリ地方官ト協議決定スヘク其額ハ他人ノ該地ニ於テ採掘スル石炭ニ對シ納付スル稅額ニ超ユルコトヲ得サルヘシ

第五條 露國ハ遼東半島租借地内ニ於テ自ラ稅則ヲ規定スルヲ得ヘク清國ハ境界線上ニ於テ貨物ノ該租借地ヨリ輸入シ若ハ該租借地ニ輸出スルモノニ對シ稅稅スヘシ此種ニ付清國政府ハ露國政府ト商議ノ上大連灣ニ於テ其開港通商後稅關ヲ設置スルコトヲ允シ其開設及管理ニ關シテハ東省鐵路公司ニ委任シテ清國政府ノ戶部代理者ト爲シ稅務事務ヲ代掌セシムヘシ但シ該稅關ハ北京政府ノ直轄トナシ右代理者ハ期ヲ定メテ其事務ノ情況ヲ報告スヘク清國政府ハ別ニ文官ヲ派遣シ該稅關駐紮ノ委員トナスヘシ凡ソ乘客ノ手荷物及貨物ニシテ露境内ノ停車場ヨリ東清鐵道線路ニ依リ遼東半島ノ露國租借地内ニ輸送シ或ハ該租借地ヨリ露國境内ニ輸送スルモノハ一切其關稅及釐金稅ヲ免除スヘキモノ鐵道ニ依リ清國內地ヨリ租借地内ニ輸入シ若ハ租借地ヨリ内地ニ輸入スル貨物ハ必ズ清國

海關稅則ニ照シ輸出入稅ヲ完納スヘキモノトス

第六條 東省鐵路公司ハ自ラ海運商船ノ設備ヲ擔當シ該公司ノ商船旗ヲ掲ケ各國通商航海條約ニ按照スヘシ本條ノ船舶及其經理ニ關シ損失アル場合ト雖清國政府ニ關係ナク其乘客貨物ノ運賃ハ該公司ノ規定ニ一任ス  
本事業ハ鐵道事業ト關係ヲ有セス其經理期限ニモ制限ナク光緒二十二年清國政府露清銀行ト議定セル契約第十二條ノ買收及還附期限ニ關スル箇條ニ據ルヲ要セサルモノトス

第七條 南滿洲鐵道線路ノ方向及經過ノ地方ニ付テハ監督技師ニ於テ滿洲地方線路踏査ノ情況ヲ公司總局ニ報告シタル後公司ニ於テ直接若ハ在北京ノ代理人ヨリ鐵道局(原文鐵路公司トアレトモ上文ニ公司ヨリトアルニヨリ清國鐵道局ノ誤字ナルヘシト思ハル)ト商議ノ上決定スヘシ  
光緒二十四年五月二十八日  
露曆千八百九十八年六月二十四日

### 東支鐵道會社第一追加條例

東支鐵道會社第一追加條例

千八百九十九年二月十七日

露曆 千八百九十九年二月五日 載可

(英譯 McMurtry, vol. I, p. 157.)

第一條 千八百九十八年六月二十四日清國政府東清鐵道會社間ニ締結シタル條約ニ基キ東清鐵道會社ハ同鐵道本線ノ一點ヨリ遼東半島ニ於ケル大連灣及旅順口ニ至ルマテ鐵道敷設ノ權及該鐵道即チ東清鐵道ノ南滿洲支線ノ營業權ヲ得ルモノトス

第二條 千八百九十八年五月二十九日ノ勅裁ニ由リ東清鐵道會社ニ大連灣ニ商港ヲ築造スルノ權ヲ許セリ  
該商港ノ經營ハ東清鐵道會社ニ許可スヘシ

第三條 千八百九十八年六月十二日ノ勅裁ニ基キ東清鐵道會社ハ太平洋ニ於ケル同會社所屬ノ汽船會社ヲ設立スルヲ得  
同汽船會社ノ目的

- (甲) 東清鐵道敷設ノ際ニカ爲メ必要ナル貨物、材料及勞働者ヲ定期運搬シ以テ鐵道敷設工事ノ進行ニ遲滯ナカラシムルコト

- (乙) 東清鐵道會社營業開始ノ際同鐵道ノ兩端點即チ瀋陽港ト大連灣トヲシテ支那、日本及朝鮮ノ重ナル諸港



ト連絡セシメ以テ露國及西歐洲ヨリ極東ニ來リ又極東ヨリ歐洲ニ向フ旅客及貨物ノ運搬ヲシテ正確迅速ナラシムルコト

右ノ外從來沿海州各港(「ダツタン」海峡線並彼得大帝灣線)及浦潮港ト朝鮮、日本、支那諸開港間トニ定期航海業ヲ營ムヘキ義務ヲ有シタル「シエウエリヨフ」氏其ノ營業ヲ繼續スルヲ許シタルニ由リ千九百年一月一日以降右「シエウエリヨフ」氏力從來負擔セル義務ハ東清鐵道會社ニ於テ負擔スヘキモノトス

右定期航海ノ順序ハ東清鐵道會社ニ於テ其ノ豫定表ヲ作製シ大藏大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ確定スヘキモノトス

第四條 南部滿洲支線敷設ニ必要ナル材料及食料品等ノ運搬ヲ便ナラシムルカ爲メ東清鐵道會社ハ臨時支線ヲ敷設シ營口及其ノ他中立地帯ノ他ノ諸港ト南部滿洲支線トヲ連絡セシムルコトヲ得但シ右南部滿洲支線ノ工事竣功シ定期運轉開始後若シ支那政府ニ於テ右臨時線取拂ヲ申込ムトキハ會社ハ之ヲ取拂フヘキモノトス

第五條 南部滿洲支線並第四條ニ示シタル臨時線ノ敷設工事及之カ開通後ノ營業又ハ大連灣ニ於ケル商港築造及經營、同會社所屬汽船會社ノ組織及營業法等ハ總テ東清鐵

道會社ノ定款並千八百九十八年六月二十四日會社カ支那帝國政府ト締結シタル條約ノ明文ニ基キ之ヲ施行スヘキモノトス然レトモ會社所屬汽船會社ノ營業並大連灣ニ於ケル商港ノ營業ニ至リテハ特ニ期限ヲ定ムルコトナク千八百九十六年八月二十七日露支銀行ト支那政府トノ間ニ締結シタル條約第十二條即チ該鐵道ノ買収又ハ無償ニテ支那政府ノ所有ニ歸スル云々ノ箇條ハ東清鐵道會社所屬汽船並大連灣ニ於ケル商港ニ對シテハ關係ナキモノトス

第六條 露國國境ノ一點ヨリ遼東半島ニ於ケル露國租借地ニ向ケ鐵道支線ニ據リ送達セラレ又ハ其ノ反對ノ方向ヲ以テ送達セラレヘキ旅客ノ手荷物並通過貨物ニ對シテハ海關稅ヲ賦課セサルモノトス但シ右手荷物並貨物ハ一切ノ關稅及内國稅ヲ免除セラレヘキモノトス

露國租借地ヨリ鐵道ニ由リ清國領土内へ輸入セラルル一切ノ貨物又清國領土内ヨリ露國租借地内へ鐵道ニ由リ輸出セラルル一切ノ貨物ニ對シテハ清國海關稅法ノ規定ニ基キ金額ヲ増減スルコトナク輸出入ノ税金ヲ支拂フヘキモノトス

第七條 東清鐵道會社カ大連灣ニ於テ商港營業ノ際敷收シ得ヘキ港稅ノ最高額及同會社所屬汽船會社船舶並貨物ノ

運賃其ノ他附加貨價ノ最高額ハ會社ノ上申ニ基キ大藏大臣之ヲ定ムルモノトス而シテ會社ハ大臣所定ノ範圍内ニ於テ右諸稅ノ取立金額ヲ定ムルモノトス

第八條 南部滿洲支線敷設並大連灣商港ノ建設及太平洋汽船會社設立ノ諸件ニ關スル必要資本補充ノ爲メ東清鐵道會社ハ其ノ必要ノ度ニ應シ千八百九十六年十二月四日裁可ヲ經タル會社定款第十一條及第十二條ノ規定ニ基キ追加社債發行ノ權利アルモノトス但シ此場合ニ於テハ築港及汽船會社開設ニ關スル資本ノ計算及帳簿ハ鐵道敷設ニ關スル資本ノ計算ト區別スヘキモノトス

第九條 大連灣商港營業及太平洋汽船會社營業開始ノ場合ニ於テモ右商港、汽船會社ニ關スル收支ノ計算ハ鐵道ニ關スル收支ノ計算ト區別スヘキモノトス

大連灣ニ於ケル商港並汽船會社總收入額カ若シ其ノ營業ニ關スル支出即チ右商港並汽船會社ノ社債ニ對スル毎年ノ支拂及汽船會社ノ銷却資本積立金等ヲ償ヒ得サル場合ニ於テハ東清鐵道會社ハ其ノ不足金額ヲ大藏大臣經由露國政府ヨリ申受クルコトヲ得但シ社債ノ擔保ニ支拂ヘルヘキ割合ハ年六分トス尤モ會社ニ爲サルヘキ他ノ一切ノ支拂ニ關シテハ其ノ都度大藏大臣ノ定ムル規則ニ基キ之

ヲ爲スヘキモノトス而シテ商港及汽船會社ニ於テ若シ其ノ收入額ヲ以テ必要ナル支出額ヲ支拂ヒ其ノ他豫備積立ヲ爲シタル上尙利益金ヲ生スル場合ニハ先ツ露國政府ニ對スル割賦償却ニ使用シ同負債皆済ノ後初メテ會社ハ株主ニ對シ利益配當ヲ爲シ得ルモノトス

第十條 支那政府若シ露國政府ノ承諾ヲ得遼東半島露國租借地ニ於テ鐵道ニ由リ輸出、輸入セラルル貨物ニ對シ稅金ヲ賦課スル爲メ大連灣ニ清國稅關ヲ設置スルノ必要ヲ認メタルトキハ同稅關ノ組織及監理ハ東清鐵道會社ニ委託セラレヘキモノトス此場合ニ於テ同會社ハ清國政府ノ代理トシテ清國國庫ノ爲メ稅金ヲ徵收スヘシ稅關設置ニ關スル費用ハ毎年清國政府東清鐵道會社相互ノ合意ニ基キ契約ニ由リ稅關ノ收入額ヨリ支拂フヘシ稅關ハ中央北京政府管轄下ニ在ルモノニシテ東清鐵道會社ハ定期ニ稅關ニ關スル報告ヲ北京政府ニ致スヘキモノトス稅關役員トシテ清國政府ハ清國人一名ヲ任命シ得ルモノトス該員ハ稅關ニ於テ清國政府事務員タルヘキ資格ヲ有スヘシ

第十一條 本追加條例ニ於テ規定セサル事件ノ生シタルトキハ東清鐵道會社ハ千八百九十六年十二月四日裁可ニ係ル會社定款、千八百九十六年八月二十七日及千八百九十



八年六月二十四日清國政府カ露清銀行並東清鐵道會社ト  
締結シタル條約ニ基キ之ヲ處理スヘキモノトス

### 東支鐵道附屬地自治行政ニ關スル露支豫備協定

千九百九年五月十日北京ニ於テ調印

露支兩國政府ハ千八百九十六年八月二十七日(光緒二十二年八月二日)締結セラレタル東支鐵道敷設經營協定ノ解釋ニ付意見ノ相違ヲ生シタルニ因リ該鐵道附屬地ノ自治制組織ニ關スル左ノ一般協定ヲ決定セリ

第一條 東支鐵道會社附屬地内ニ於ケル支那國ノ主權ハ根本原則トシテ之ヲ承認ス該主權ハ何等侵害ヲ蒙ルコトナカルヘシ

第二條 支那國ハ鐵道附屬地ニ對シ主權ノ發動ニ基ク一切ノ措置ヲ執ルヘシ鐵道會社又ハ自治團體ハ東支鐵道會社ト締結シタル諸協定ニ違反セサル限り何等ノ名義ヲ以テスルモ右ノ措置ヲ妨クルコトヲ得ス

第三條 東支鐵道ニ關スル現行諸協定ハ引續キ有效ナルモノトス

第四條 支那國主權ノ發動ニ因ル法律、命令及規則ハ支那國官吏ニ於テ告諭ノ形式ヲ以テ之ヲ編輯シ且公布スヘシ

第五條 鐵道附屬地ニ出張スル支那國高等官吏及諸官吏ハ鐵道會社及自治團體ヨリ相當ノ敬意ト儀禮トヲ以テ迎ヘラルヘシ

第六條 自治團體ハ之ヲ鐵道附屬地内ノ重要商業中心地ニ設置スヘシ該商業中心地ノ居住民ハ地方ノ重要程度ト居住民ノ多少トニ從ヒ投票ニ依リ代表者ヲ選舉スヘク該代表者ハ一名ノ執行委員ヲ選擇スヘシ然ラサル場合ニハ居住民自ラ自治團體ノ事務ニ從事スヘク且一名ノ代表者ヲ互選スヘシ該代表者ハ住民總會ノ決議ヲ實行スルノ責任スルモノトス

第七條 鐵道附屬地内ニ於テハ支那國民ト他國民トノ間ニ何等ノ差別ヲ設ケサルヘク同一ノ權利ヲ享有シ同一ノ義務ヲ負擔スルモノトス

第八條 團體員ニシテ一定價格ノ不動產ヲ有シ又ハ毎年一定ノ使用料及課金ヲ納ムルモノハ總テ議員選舉權ヲ有ス

第九條 議長ハ其ノ執レノ國籍ニ屬スルヲ同ハス議員會議

ニ於テ議員ノ互選ニ依リ之ヲ選舉スヘシ

第十條 地方公益ニ關スル一切ノ事項ハ議員會議之ヲ管掌ス教會、商業會議所、學校及慈善團體ノ如キ居住民ノ一部ノ利益ニ關スル施設物ハ私ノ贈金ニ依リ各關係居住民之ヲ維持スヘシ

第十一條 議員會議ハ議員中ヨリ國籍ノ如何ヲ問ハス市政擔任ノ委員ヲ選舉スヘシ市政委員ノ數ハ三名ヲ超過スヘカラス右ノ外交渉局總裁及鐵道長官ハ各一名ノ委員ヲ任命スヘシ

議員會議ヨリ選出シタル委員及任命ニ依ル前記委員ハ議長ト共ニ執行委員會ヲ組織ス

第十二條 執行委員會會長ハ議員會議議長之ヲ兼任ス

第十三條 交涉局總裁及鐵道長官ハ議員會議議長及執行委員會會長以上ノ地位ヲ有シ適當ト認ムル場合ニハ監督ヲ爲シ及自ラ檢閲ヲ爲スノ權利ヲ有ス第十一條ニ掲タル委員ハ當務ニ關スル報告書ヲ右總裁及長官ニ提出スヘク又議員會議ニ於テ議決シタル一切ノ事項ハ右總裁及長官ニ提出シテ其ノ共同承認ヲ經タル後執行委員會ノ名ヲ以テ告示ノ形式ニ依リ之ヲ公布シ國籍ノ如何ヲ問ハス一切ノ居住民ニ對シ之ヲ施行スヘシ

東支鐵道附屬地自治行政ニ關スル露支豫備協定

第十四條 交涉局總裁及鐵道長官ニ於テ議員會議ノ決議ヲ承認セサル場合ニハ該決議ハ議員會議ノ再議ニ付セラルルモノトス該決議カ出席議員四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ採擇セラレタルトキハ拘束力ヲ有スルモノトス

第十五條 鐵道附屬地内ノ商業中心地ニ於ケル自治團體ノ公益上及財政上ノ重要問題ハ之ヲ議員會議ニ於テ審査ノ後東支鐵道會社總裁(千八百九十六年ノ協定第一條ニ基ク支那國大官)及東支鐵道本社ニ移譯シテ其ノ共同審議及認可ヲ求ムヘシ

第十六條 停車場工場等ノ如キ特ニ鐵道ノ使用ニ供セラルル土地ハ東支鐵道會社之ヲ專管ス前記以外ノ一切ノ鐵道會社附屬地中未ダ租與セラレサル土地並鐵道會社ノ專用ニ係ル建物ハ未ダ雙方ノ協定ニ依リ自治團體ニ引渡サレサルトキハ一時從前通鐵道會社ノ管理ニ屬スルモノトス

第十七條 前記ノ諸一般協定ニ基キ自治團體及警察ニ關スル細則並稅率ヲ決定スヘシ本協定調印ノ日ヨリ遲クトモ一月内ニ該細則ヲ討議スヘキコトヲ約定ス

第十八條 市制ニ關シ前記細則決定セラレ且實施セララルニ至ル迄自治團體ハ假ニ現行細則ニ從ヒ且市政ニ關スル



交涉局總裁及鐵道長官ノ監督權ニ關スル本協定第十三條ノ規定ヲ適用スルモノトス交涉局總裁若ハ鐵道長官ニ於テ議員會議ノ議決ヲ承認セサル場合及總裁ト長官トノ間ニ意見互ニ一致セサル場合ニハ支那國及外國居住民ヨリ各一名ノ特別委員ヲ選出スヘシ交涉局總裁及鐵道長官ハ右二名ノ特別委員ト合同シテ支那人又ハ外國人ノ中ヨリ尙一名ノ名望家ヲ選出シタル上和衷協同シテ該事件ヲ審議處理スルモノトス哈爾濱ニ於ケル支那國商業會議所ハ三名ノ委員ヲ任命スルノ權能ヲ有ス該委員ハ該委員會ノ他ノ委員ト同一資格ニテ同市執行委員會ニ出席シ且事務ヲ分掌スルモノトス滿洲里及海拉爾自治市ノ商業會議所ハ該兩市ノ執行委員會ノ委員トシテ各二名ノ委員ヲ選出スルモノトス其ノ他單ニ民會ノミツ有スル商業中心地ニ在リテハ支那國民及露西亞國民ハ同一ノ權能ヲ以テ市政ニ干與スヘシ議員及委員ノ選舉ハ新細則決定後直ニ該新細則ニ依リ之ヲ施行スヘシ

本協定ノ本文ハ露、支、佛三國語ヲ以テ各四通ヲ作り雙方ノ委員正式ニ之ニ記名調印スルモノトス異議ヲ生シタル場合ニハ佛蘭西語ノ本文ニ據ル

舊曆千九百九年四月二十七日(新曆五月十日)即宣統元年三月二十一日北京ニ於テ之ヲ作成ス

イ、コロストヴエツ (印)  
 デ、ホルワット (印)  
 梁 敦 彦 (印)  
 施 肇 基 (印)

附屬交換公文

一、支那國外務部往翰

以書翰致啓上候陳者東支鐵道附屬地ヲ承認スルニ當リ支那國主權ハ毫モ侵害セラレサルノ一般的原則確立セラレ支那國ト諸外國トノ間ニ締結セラレタル諸條約ニ依リ他國民カ享受スル權利及特權ハ完全ニ保持セラレヘキモノニ候將來ノ疑義ヲ避ケンカ爲ニ此段明言ノ必要有之カ爲兩國政府ハ茲ニ公文ヲ交換致候 敬具

二、露西亞國公使復翰

以書翰致啓上候陳者東支鐵道附屬地ハ支那國ノ領土ニシテ同附屬地内ノ支那國主權ハ茲ニ完全ニ承認セラレ候尙市參事會ノ設立ノ爲ノ一般協定ハ今日之ヲ署名調印致候

本使ハ支那國ト他國トノ間ニ締結セラレタル諸條約ニ依リ他國民ノ享受スル權利及特權ヲ自國政府カ附屬地内ニ於テ完全ニ尊重スヘキコトヲ茲ニ聲明致候 敬具

東支鐵道敷設及經營契約ノ追加取極及附屬書翰

(支那國政府及露亞銀行間)

千九百二十年十月二日北京ニ於テ締結

前文

支那國政府ハ

光緒二十二年七月二十五日東支鐵道ノ敷設及經營ニ關シ締結シタル契約ノ實行トシテ庫平銀五百萬兩ヲ合辦ノ名義ニテ華俄道勝銀行(即チ現今ノ露亞銀行)ニ拂込マシタルニ因リ

東支鐵道會社ハ支那國政府ニ對シ五百萬兩ノ元金及其ノ利子並其ノ後該鐵道ノ爲近年爲サレタル支出金ニ基ク債權ノ額ヲ負擔スルニ因リ露國ノ政治組織全然破壞シタル爲生シタル事懇カ該會社ニ對シ該鐵道ノ規則的經營維持ヲ一時不可能ナラシメタルニ因リ

又主權ノ關係上鐵道附屬地ノ安寧保護及世界的交通ノ維持ノ爲ノミナラス尙該鐵道所有財產ノ有效保護ノ爲必要ナル措置ヲ執ルノ實ヲ有スルモノトス

上述ノ責任ニ顧ミ支那國政府ハ暫時該契約及現行章程上ニ依リ右鐵道ニ對シ行使セラルル指揮權ヲ執行スヘク並光緒二十二年締結セラレタル經營契約及右會社原定款ニ依リ付與セラレタル特別ノ利益ヲ回收スルノ決定ヲ千九百二十年十月二日該銀行ニ通告セリ尤モ右指揮權ノ執行ハ支那國政府カ其ノ承認スヘキ露國政府ト右鐵道ニ關シ協定ヲ作ルニ至ル迄ヲ以テ辦法ヲ限トスルモノトス

依テ支那國政府ハ中華民國九年十月二日即チ千九百二十年十月二日支那國政府代表交通部ニ在巴里臨時銀行中央管理局ノ代表者北京道勝銀行(即チ現在ノ露亞銀行及尙後名稱變更ノ同銀行)北京ニ於テ千八百九十六年契約ノ補足トシテ左ノ協定ヲ締結スルコトヲ命ス

第一條 東支鐵道會社(以下會社ト稱ス)ハ本契約署名ノ後直ニ其ノ支那國政府ニ仕拂フヘキ金額ト同額ノ鐵道債券ヲ支那國政府ニ交付スヘキコトヲ承認ス右仕拂ノ條件ニ付テハ別ニ文書ヲ以テ定ム

其ノ詳細左ノ如シ



(イ)舊契約第十二條ニ依リ會社ハ右鐵道ノ經營開始ノ日ヨリ會社カ支那國政府ニ支拂フヘカリシ庫平銀五萬兩ノ金額

(ロ)右鐵道ノ經營開始ノ日ヨリ會社定款第十六條ニ規定スル年六分ノ率ニテ計算シ更ニ千九百二十年ニ至ル迄重利法ニ依リタル前項金額五萬兩ニ對スル利子千九百二十一年以來右(イ)(ロ)ノ金額ニ對スル利子年五分トシ半年毎ニ之ヲ支拂フヘシ右鐵道債券ノ拂戻ハ支那國政府ノ鐵道買戻ノ時ニ於テ且右鐵道買戻ニ要スル額ノ銀ヲ以テ之ヲ行フヘシ

右貸附金ノ支拂ニ對シ發行セラレタル債券ハ該鐵道ノ一切ノ動産及不動産上ノ擔保權ヲ以テ之ヲ保障スヘシ

第二條 支那國政府ハ督辦ノ外ニ鐵道ノ董事會ニ於テ自國籍ノ董事四名ヲ指名スルコトヲ得ルモノトス右董事ハ會社ノ株主タルコトヲ要セス

之ニ對シ株主ハ董事會ノ露國人董事ヲ自由ニ指名スルコトヲ得若シ支那側及露國側ノ表決數同一ナルトキハ督辦ハ其表決權ノ外更ニ一決定表決權ヲ有ス

第三條 董事會ノ定足數ハ七名トス一切ノ議決ハ少クトモ

七名ノ同意ヲ經ルニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス

第四條 支那國政府ハ稽察局ノ委員五名中支那人稽察員二名ヲ指名スルコトヲ得ヘキモノトス其ノ總稽察ハ右五名中ヨリ之ヲ選舉ス但シ支那人ニ限ル

第五條 該鐵道經營ノ進捗ヲ確保スル爲右鐵道ノ職ハ露支兩國人間ニ均シク衡平ニ分配セララルヘキモノトス

第六條 會社ノ權利及義務ハ以後總テ商業上ノ事項ニ限ラルヘク政治上ノ行動及職務ハ全ク之ヲ禁止ス之カ爲支那國政府ハ如何ナル種類ナルカヲ問ハス隨時制限的措置ヲ執ルノ權利ヲ留保ス

第七條 光緒二十二年七月二十五日(千八百九十六年九月二日)締結シタル契約ノ條項及東支鐵道會社ノ定款ノ條項ニシテ本假取極ノ條項ト抵觸セサルモノハ引續キ有效ナリトス

本取極ハ支那文佛蘭西文各二通宛併セテ四通ヲ作成ス但シ佛蘭西文ヲ正文トス

中華民國九年十月二日即チ千九百二十年十月二日北京ニ於テ作ル

中國政府交通部大臣 葉 節 司 基  
露國道勝銀行代表

(即チ現在ノ露亞銀行及  
向後名義變更ノ同銀行)

關

德

附屬書翰第一號

(道勝銀行ヨリ交通部宛千九百二十年十月二日北京ニ於テ)拜啓陳者本日署名セラレタル取極ノ交渉中彼我ノ同意ヲ經タル通東支鐵道會社ノ支那國政府ニ對スル債務額ハ左ノ方法ニ依リ計算セララルヘシ

(イ)舊契約第十二條ニ依リ會社ハ右鐵道經營開始ノ日ヨリ支那國政府ニ支拂フヘカリシ庫平銀五百萬兩ノ金額ノ經營開始ノ日ヨリ會社定款第十六條ニ規定スル年六分ノ率ニテ計算シ更ニ千九百二十年ニ至ル迄重利法ニ依リタル前記金額五百萬兩ニ對スル利子

鐵道經營ノ開始ノ日附ニ付尙異議有——支那國政府ニテハ千九百三年トシ發行ニテハ千九百七年トシ從テ支那國政府ニ支拂フヘキ金額ヲ決定スルコト能ハサル處此ノ問題ハ雙方當事者ニ於テ證據ヲ得解決スル迄之ヲ留保ス別ニ書翰ヲ以テ元利金ヲ含ム債務總額ヲ決定致度此段得貴意候 敬具

東支鐵道敷設及經營契約ノ追加取極及附屬書翰

附屬書翰第二號

(道勝銀行ヨリ總長宛千九百二十年十月二日北京ニ於テ)總長閣下、本日署名セラレタル取極ノ交渉中彼我同意聲明スヘキ事項左ノ如クニ有之候

董事會會辦(副總理)ハ露國人ヲ以テ之ニ充ツ右ノ外幫會辦二人ヲ置キ露支各一人トシ董事中ヨリ選出ス但シ露國會辦副員ノトキハ露國幫會辦ニ於テ之ヲ代理スヘシ鐵道管理局長ハ露國人タルヘク又副局長ハ支那人タルヘシ

總テ工務、機務、事務、會計四課長ハ露國人トシ別ニ支那人副課長各一人ヲ置ク

董事會ニ於テ新ニ副課長ヲ増置セムトスルトキハ支那人ニ留保スヘシ

右得貴意候 敬具

附屬書翰第三號

(交通部ヨリ道勝銀行宛千九百二十年十月二日北京ニ於テ)拜啓陳者貴信ヲ以テ御申込相成候本日署名セラレタル取極ノ交渉中彼我同意聲明スヘキ事項即チ

一 董事會會辦ハ露國人ヲ以テ之ニ充ツ右ノ外幫會辦二



人ヲ置キ露支各一人トシ依然董事中ヨリ選出ス但シ露國會辦員ノトキハ露國幫會辦ニ於テ之ヲ代理スヘシ

一 鐵道管理局長ハ露國人タルヘク又副局長ハ支那人タルヘシ

一 總テ工務、機務、事務、會計四課長ハ露國人トシ別ニ支那人副課長各一人ヲ置ク

董事會ニ於テ新ニ副課長ヲ増置セムトスルトキハ支那人ニ留保スヘシ

以上各項本總長ニ於テモ均シク贊同スル所ニ有之候此段回答申進候 敬具

附屬書翰第四號

〔交通部ヨリ道勝銀行宛千九百二十年十月二日北京ニ於テ〕

拜啓陳者本日署名セラレタル取極ノ交渉中彼我ノ間ニ同意ヲ經タル通即チ交通部ヨリ東支鐵道督辦ニ調合シテ十月内ニ該鐵道株主總會ヲ招集シ以テ正式ニ新董事會ヲ指名シ且商業上ノ基礎ニ於テ鐵道ノ改造ヲ爲スコトニ付討議スヘク尙今後株主總會ハ會社定款ニ依リ毎年一回之ヲ招集スルコト

右貴翰ノ領收ヲ確認スルト共ニ一切ノ點ニ於テ同意ヲ表ス

ルノ光榮ヲ有シ候 敬具

附屬書翰第五號

〔道勝銀行ヨリ交通部宛千九百二十年十月二日北京ニ於テ〕

總長閣下、本日署名セラレタル取極ノ交渉中彼我同意ヲ經聲明スヘキ事項左ノ通ニ有之候

(一)臨時増置坐辦ノ件ハ取消ス

(二)總テ臨時増置セル各職掌ニシテ會社定款中ノ規定ニ依ラサルモノハ全部之ヲ取消ス

右申進候 敬具

附屬書翰第六號

〔交通部ヨリ道勝銀行宛千九百二十年十月二日北京ニ於テ〕

拜啓陳者貴信ヲ以テ御通知相成候本日署名セラレタル取極ノ交渉中彼我ノ間ニ同意ヲ經聲明スヘキ事項即チ

(一)臨時増置ノ坐辦ハ之ヲ取消ス

(二)總テ臨時増置セル各職掌ニシテ會社定款ノ規定ニ依ラサルモノハ之ヲ取消スコト

ノ兩項正ニ了承茲ニ特ニ本總長ニ於テ贊同ノ意ヲ表シ度此段回答得貴意候也

附屬書翰第七號

〔交通部ヨリ道勝銀行宛千九百二十年十月二日北京ニ於テ〕

光緒二十二年締結セラレタル敷設及經營契約第一條ニ於テ會社ノ株券ハ露支兩國人ニ限り之ヲ有スルコトヲ得トノ規定アリ故ニ支那人ニ付株券購買ノ權利ヲ生ス

定款第十條ニ於テ會社資本總額ヲ五百萬留ト定メ之ヲ一千株ニ分チ一株ノ金額五千留ト爲ストアリ依テ支那國政府ハ道勝銀行ニ對シ該鐵道株式ノ半分即チ二百五十萬留ヲ支那人ニ讓與セムコトヲ要求シタリ

雙方各意見ヲ異ニシ尙未タ何等該問題ニ付テハ當時討議セラレサリシニ協定ニ到達スルコト能ハサリシカ支那國政府ハ千九百二十年十月二日締結ノ契約ニ署名スルニ當リ後日本問題ヲ再議スルノ權利ヲ讓步セサルコトヲ茲ニ聲明致候

右御諒承相成度此段得貴意候 敬具

附屬書翰第八號

〔道勝銀行ヨリ交通部ニ宛テタル回答千九百二十年十月二日北京ニ於テ〕

總長閣下、本日附貴翰ヲ以テ支那國政府ハ千九百二十年十月二日ノ追加契約ニ署名スルニ當リ支那國臣民カ東支鐵道遼東半島租借地及中立地帶確定ニ關スル追加協定

會社ノ株式ヲ購買スルコトニ關シ該銀行ト後日再ヒ商議スルノ權利ヲ讓與セサルモノナル旨聲明セラレタル趣意承致候

右回答旁得貴意候 敬具

附屬書翰第九號

〔道勝銀行ヨリ交通部宛千九百二十年十月二日北京ニ於テ〕

總長閣下、閣下ノ請求ニ基キ弊行ハ本書ヲ以テ露支鐵道銀行(即チ前華俄道勝銀行)ハ純商事株式會社ニシテ且如何ナル露國政黨トモ何等關係ナキコトヲ茲ニ證明スルノ光榮ヲ有シ候

露支兩國以外何等第三國ハ東支鐵道ニ何等利害關係ヲ有セサルコトヲ茲ニ聲明致候

右得貴意候 敬具

遼東半島租借地及中立地帶確定ニ關スル追加協定



千八百九十八年五月七日  
聖彼得堡ニ於テ調印

露西亞帝國政府及清國政府ハ千八百九十八年三月十五日(二十七日)北京ニ於テ締結セラレタル條約ニ若干ノ追加ヲ爲スヲ適當ト認メ下ニ署名セル兩國全權委員ハ左ノ條項ヲ協定セリ

第一條 千八百九十八年三月十五日締結條約第二條ニ基キ露國政府ニ租借讓渡シタル遼東半島内ノ旅順口及大連灣兩港ヲ含ム地域ノ北方境界ハ遼東西海岸ノ亞當灣北部ヨリ亞當山(山岳)露國租借區域ニ含ムヲ通過シ遼東東海岸ノ地點皮子窩附近ノ灣ノ北方終點ニ至ルモノトス而シテ租借地域接續ノ一切ノ領水及本土ヲ圍繞スル一切ノ島嶼ハ露國ノ租借地域ニ入ルモノトス兩國政府ハ現地ニ於テ租借地域ノ境界ヲ精細ニ決定スル爲ニ特別委員ヲ任命スルモノトス

第二條 第一條所定ノ露國ノ租借地域ノ北方境界ノ北方ニ於テ千八百九十八年三月十五日締結北京條約第五條ニ從ヒ中立地帯ヲ設定シ右地帯ノ北方境界ハ遼東半島西海岸ノ蓋州河口ヨリ岫巖城ノ北方ヲ通過シテ大洋河ニ至リ該河ノ左岸ニ沿ヒテ其河口ニ至ルモノトス該河口モ亦中立

地帯内ニ含マルモノトス

第三條 露西亞帝國政府ハ西北利亞鐵道ヲ遼東半島ニ接續セシムル鐵道ノ終點ハ之ヲ旅順口及大連灣ノ二港トシ該半島海岸ノ他ノ地點トナササルコトニ同意ス又該計畫鐵道ノ便益ヲ受クル全地域内ニ於テ外國人ニ對シ鐵道敷設ノ特許ヲ與ヘサルコトヲ相互ニ約定ス露西亞帝國政府ノ上ニ示セル新支線ノ最近地點ニ至ル山海關鐵道ノ延長敷設ニ對シテハ若シ清國政府カ該線ヲ自國ノ費用ニテ敷設スルコトヲ欲スルナラハ阻止セサルコトノミニ同意ス

第四條 露西亞帝國政府ハ清帝陛下ノ政府ノ請求ヲ考慮セ露國ノ租借地域内ニアル金州城ニ對シ自治市制ヲ布キ市警察員ノ必要人員ヲ置クコトニ同意ス清國軍隊ハ金州城ヨリ撤退シ露國軍隊之ニ代ルヘシ該都市ノ住民ハ金州城及租借地域北方境界間ノ通路ヲ使用スル權利ヲ有スヘシ此等住民ハ日常ノ必要ノ爲メニ露國ニ讓渡セラレタル該都市近傍ノ領水ヲ使用スルコトヲ得ルモ海岸地帯ニ對シテハ何等ノ權利ヲモ有セサルモノトス

第五條 支那國政府ハ左ノ事項ヲ約諾ス

一、露國ノ同意ヲ得ルニ非レハ中立地帯ノ土地ヲ一切外國人ニ租與讓渡セサルコト

二、中立地帯ノ東部及西部海岸ニアル海港ハ之ヲ外國通商ノ爲メニ開カサルコト

三、露國官憲ノ同意ヲ得ルニ非レハ中立地帯ノ全地域ニ於テ鐵道ノ敷設、鑛山ノ採掘及一切ノ産業及商業上ノ企業ニ對スル如何ナル特許ヲモ許與セサルコト

第六條 右諸條項ヲ協定シ兩國全權委員ハ露語及支那語ノ本條約二通ヲ作成シ之ニ署名調印セリ二通ノ原文中解釋ノ爲メニハ露西亞語ノ原文ヲ以テ正文トス

伯爵 ム ラ キ ヨ フ  
許 景 澄

北京ヨリ北方及北東方

露西亞國境ニ達スル鐵

道敷設ニ關スル支露交

換公文

千八百九十九年六月一日

北京ヨリ露西亞國境ニ達スル鐵道敷設ニ關スル交換公文

一、總理衙門發北京駐露西亞國公使宛ノ公文

以書翰致啓上候陳者本官等ハ數日前閣下ト滿洲鐵道ヲ北京ニ接續セシムル鐵道問題ヲ討議シ且該提議ヲ承認スルハ支那國政府ノ困難トスル所ナルヲ説明致シ候尤モ本官等ハ如何ナル他國政府モ斯ル鐵道ヲ敷設スヘカラサルコトヲ瞭然聲明致シ候茲ニ本官等ハ最簡明ニ支那國ハ鐵道力將來北京ヨリ北方若ハ北東方ニ露西亞國境ニ向ヒ建設セラルル場合ニハ該鐵道ヲ支那國資本ヲ以テ支那國監理ノ下ニ敷設スルノ權利ヲ保留スルモ該鐵道ノ敷設カ何レカ他國ニ依リ企畫セラルル場合ニハ右提議ハ先ツ之ヲ露西亞國政府若ハ露西亞國財團(シンヂケイト)ニ爲シテ該鐵道ヲ敷設セシメ如何ナル場合ニ於テモ一切ノ他國政府若ハ一切ノ他國國籍ヲ有スル財團(シンヂケイト)ニ對シ該鐵道ノ敷設ヲ許可セサルヘキ旨ヲ承認スルモノナルコトヲ反覆聲明セムト欲スルモノニ有之候

本官等ハ閣下カ本通譯ヲ貴國政府ノ外交部ニ傳達セラレムコトヲ願上候

以上 二、露西亞國公使ノ回答書



千八百九十九年六月十七日

以書翰致啓上候陳者支那國政府ハ一切ノ他國政府ニ對シ北京ニ至ル鐵道ノ敷設ヲ許可セサル旨ヲ聲明シ且更ニ將來鐵道カ北京ヨリ北方若ハ北東方ニ其ノ方向ノ如何ヲ問ハス露西亞國境ニ向ヒテ建設セラルル場合ニハ支那國ハ該鐵道ヲ支那國資本ヲ以テ支那國政府ノ監理ノ下ニ敷設スルノ權利ヲ保留スルモ該鐵道ノ敷設カ何レカ他國ニヨリ企畫セラルル場合ニハ右提議ハ先ツ之ヲ露西亞國政府若ハ露西亞國財團(シンヂケイト)ニ爲シテ該鐵道ヲ敷設セシメ如何ナル場合ニ於テモ一切ノ他國政府若ハ一切ノ他國國籍ヲ有スル財團(シンヂケイト)ニ對シ該鐵道ノ敷設ヲ許可セサルヘキ旨ヲ承認スルノ本年四月二十三日(西曆千八百九十九年六月一日)附貴官發公文致領承候

右聲明ハ貴官ノ要請ニ從ヒ之ヲ我國政府ニ傳達致シ本官ハ正ニ左ノ如キ回答ヲ「ムラキョフ」伯ヨリ致受領候

「支那國政府ノ保障ハ充分ナル尊敬ヲ以テ之ヲ致留意候露西亞國政府ハ滿洲鐵道幹線ヲ北京ニ接續セシムル鐵道ノ敷設ヲ即時要求スルモノニ非ルモ該鐵道ヲ敷設スルノ露西亞國ノ要求ハ支那國政府カ昨年六月十三日(西曆千八百九十八年七月三十一日)附公文ニ於テ承認シタル責任ニ其ノ基

礎ヲ置クモノニ有之右責任ハ直接且實正ナルモノニシテ其ノ不履行ハ賠償セラルヘキモノニ候從テ右責任ハ懈怠セラヘカラサルモノニ有之候」以上

### 滿洲ニ關スル支露密約

千九百一一年二月

(本條約ハ不成立ニ終レリ)

第一條 露西亞國皇帝陛下ノ支那國ニ對スル友好ノ感情ヲ表明セムトスルノ希望ニ從ヒ滿洲ニ於ケル敵對行爲ハ之ヲ問責セサルヘク且滿洲カ完全ニ復舊セラレタル場合ニハ支那國ノ行政ハ從前通り施行セラルヘシ

第二條 滿洲鐵道條約(千八百九十六年九月八日ノ東支鐵道敷設及經營ニ關スル露支銀行契約?)ノ第六條(第五條?)ニ依リ設立セラレタル鐵道管理局ハ秩序ヲ恢復シ且支那國カ該條約ノ最後ノ項ノ四條(最後ノ條項ノ四項?)所定ノ條件ヲ履行スル迄維持セラルヘシ

第三條 緊急ノ事變發生シタル場合ニハ(本地方ニ)駐屯セル露西亞國軍隊ハ全力ヲ以テ支那國ヲ援助シ以テ右ノ事

露ヲ防遏スヘシ

第四條 滿洲鐵道カ完成スル迄ハ(滿洲ニ)如何ナル軍隊モ駐屯セシメサルヘク支那國カ將來軍隊ヲ派遣スヘキ場合ニハ露西亞國ト協議シテ之ヲ決定スヘシ又滿洲ヘノ武器彈藥ノ輸入ハ之ヲ禁止ス

第五條 奉天將軍又ハ地方官憲ハ露西亞國ノ要求ニ基キ露支兩國間ノ關係ニ障害ヲ與ヘムトスル一切ノ者ヲ罷免スヘシ支那國カ滿洲ニ巡邏歩兵ヲ派遣スル場合ニハ右人員ハ露西亞國ト協議シテ之ヲ決定スヘシ

第六條 支那國ハ北部支那ノ諸省ニ於ケル陸軍又ハ海軍ノ教官トシテ露西亞人以外ノ外國人ヲ傭務セサルヘシ

第七條 地方ニ安定ヲ確保セムカ爲租借協定(千八百九十六年九月八日ノ契約?)第五條(第六條?)所掲ノ非占有地ノ處分ハ地方官憲ノ定ムル特別協定ニ依リ之ヲ決スヘシ盛京省自治ハ之ヲ廢止ス

第八條 支那國ハ露西亞國ノ承諾ヲ得ルニ非レハ他國又ハ他國民ニ對シ滿洲蒙古又ハ新疆ニ於ケル礦山又ハ其ノ他ノ利權ヲ讓渡セサルヘシ又支那國ハ右地方ニ鐵道ヲ敷設セサルヘシ牛莊ヲ除キ右地方ニ於テハ他國民ニ對シ何等ノ租借又ハ利權許與ヲ爲ササルヘシ

### 滿洲還附條約

第九條 露西亞國ハ諸列國ニ對スル賠償金ト同様ニ成ルヘク速ニ現下ノ事變ニ關スル其ノ軍事費ノ賠償ヲ受クルモノトス右賠償金額ニ對スル擔保ハ支拂期間内ニ之ヲ與フヘク該擔保ハ列國ノ共同監理ノ下ニ之ヲ置クヘシ

第十條 鐵道及鐵道機關手ニ對スル損害賠償ハ支那國及鐵道會社間ノ協議ニ從ヒ之ヲ支拂フヘシ

第十一條 右賠償ハ鐵道會社ト協定スヘク其ノ金額ノ一部ノ代價ハ他ノ特權ノ許與ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第十二條 既ニ協定ヲ經タル鐵道ヨリ北京ニ至ル一條ノ鐵道ヲ敷設シ且該鐵道ヲ長城(?)迄延長スルコトヲ得ヘシ右敷設及延長ハ現行鐵道協定ニ依リ經營セラルヘシ

### 滿洲還附條約

千九百一二年四月八日北京ニ

於テ調印

清國皇帝陛下及露國皇帝陛下ハ千九百年清國ニ於テ發生シ



タル變亂ニ依テ傷ケラレタル隣交ヲ復ヒ敦固ナラシムムコトヲ欲シ滿洲ニ關スル問題ヲ商定セシムル爲メ清國皇帝陛下ハ總理外務部事務和碩慶親王及軍機大臣文瀾大學士外務部會辦大臣王文韶ヲ、露國皇帝陛下ハ清國駐劄特命全權公使「レツサー」ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ依テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ妥當ナルヲ認メ左ノ諸條ヲ議定セリ

第一條 露國皇帝陛下ハ其ノ平和ヲ愛スルノ念及清國皇帝陛下ニ對スル交誼ノ新證據ヲ彰明スルコトヲ願ヒ平和ナル露國臣民ニ對スル攻撃ハ先ツ滿洲交界ノ各地ヨリ起レルノ事實ヲ不問ニ附シ並清國政府ノ權力ヲ依然清帝國ノ一部トシテ存スル所ノ該地方ニ復立スルヲ承諾シ露國軍隊占領以前ノ如ク統治及行政ノ權ヲ清國政府ニ返還ス

第二條 清國政府ハ滿洲ニ於ケル統治及行政權ヲ收復スルニ方リ千八百九十六年八月二十七日露清銀行ト締結セル契約ノ期限並其ノ他條款ノ堅守ヲ確認シ又該契約第五條ニ遵ヒ鐵道及其ノ職員ヲ極力保護スルノ義務ヲ負擔シ又均シク滿洲在留ノ一般露國臣民及其ノ創設ニ係ル事業ノ安固ヲ擁護スルノ義務ヲ承諾ス清國政府ニ於テ上記ノ義務ヲ負擔シタルニ因リ露國政府ハ若シ變亂ノ起ルコトナ

ク且他國ノ行動ニヨリ妨礙セラレサルニ於テハ左ノ方法ヲ以テ滿洲駐屯ノ露國軍隊ヲ漸次撤退スルヲ承諾ス  
イ 本協約調印後六月間ニ盛京省西南部遼河ニ至ル地方ノ露國軍隊ヲ撤退シ且鐵道ヲ清國ニ還附スル事  
ロ 次ノ六月間ニ盛京省殘部及吉林省ニ於ケル露國軍隊ヲ撤退スル事  
ハ 又其ノ次ノ六月間ニ於テ黑龍江省所在ノ露國軍隊ヲ撤退スル事

第三條 清國政府及露國政府ハ露國境界ノ各省駐屯ノ清兵カ與リタル千九百年ノ變亂ノ再發ヲ將來ニ排除スルノ必要ニ鑑ミ各省將軍及露國軍務官ニ命シ露兵未退ノ間ニ於ケル滿洲駐屯清國軍隊ノ員數及駐屯地ヲ協定セシムヘシ又清國政府ハ各省將軍ト露國軍務官トノ間ニ斯ク協定シタル兵數以外ニ他ノ軍隊ヲ組成セサルコトヲ約ス但シ右兵數ハ賊匪ヲ彈壓シ地方ノ平和ヲ維持スルニ足ルコトヲ要ス  
露國軍隊全ク撤退シタル後ハ清國ハ滿洲駐在軍隊ノ員數ヲ查考スルノ權ヲ有スヘシ但シ其ノ増減ハ時ニ違フテ露國政府ニ通告スルヲ要ス蓋シ清國カ上記地方ニ於テ冗多ノ軍隊ヲ維持スルトキハ露國亦境界各所ニ於テ軍隊ヲ添

加セサルヘカラス以テ兩國ニ頗ル不利益ナル軍事費ノ増加ヲ促スコト自ラ明カナレハナリ  
東清鐵道會社ニ給付シタル各地域ヲ除キ上記地方ニ於ケル警察及秩序維持ノ爲メ地方將軍ハ專ラ清國臣民ヨリ成立スル騎歩ノ憲兵隊ヲ組織スヘシ

第四條 露國政府ハ千九百年九月末以來露國軍隊ニ於テ占領保護スルトコロノ山海關、營口、新民廳各鐵道ヲ其ノ本主ニ還附スルコトヲ承諾ス依テ清國政府ハ左ノ各項ヲ約束ス

一 前記鐵道線路ノ安固ヲ確保スルノ必要アル場合ニハ清國ハ自ラ其ノ責任シ他國ニ請フテ該鐵道ノ防守、敷設及經營ヲ受負ハシメ又ハ之ヲ分擔セシムルコトナカルヘク且他國カ露國還附ノ各地域ヲ占領スルヲ許スヘカラス

二 該鐵道ノ完成及經營ニ關スル各節ハ必ス千八百九十九年四月十六日ノ露英協商並千八百九十八年九月二十八日該鐵道敷設費ノ借款ニ關シ一特設會社ト結ビタル契約ノ規定ニ遵據シ尙又該會社負擔義務就中山海關、營口、新民廳ノ鐵道ヲ占有シ又ハ如何ナル方法ニテモ之ヲ處分セサルノ義務ヲ守ラシムヘシ

三 今後滿洲南部ニ於テ該鐵道ヲ延長シ或ハ支線ヲ敷設シ及營口ニ於テ橋梁ヲ架設シ又ハ現ニ同地ニ在ル山海關鐵道ノ終點ヲ遷移スルノ計畫アルトキハ豫メ露清兩國政府間ニ協議ヲ整ヘタル後之ヲ行フヘシ  
四 還附ニ係ル山海關、營口、新民廳各鐵道ノ修繕並經營ノ爲露國カ蒙リタル失費ハ價金總額内ニ包含セテレサルヲ以テ清國政府ヨリ露國ニ償還スヘシ兩國政府ハ右償還ノ金額ヲ協定スヘシ

露清兩國間ノ在來諸條約ノ款項ニシテ本條約ニ依リ變更セラレサルモノハ依然充分ノ效力ヲ有ス  
本條約ハ兩帝國全權委員調印ノ日ヨリ實施スヘシ  
批准書交換ハ條約調印後三月内ニ翌彼得保ニ於テ行フヘシ  
右證據トシテ締約國雙方全權委員ハ露清佛三語ニテ擬リタル本條約各二通ニ署名調印ス  
右三語ノ條約文ハ正ニ對校ヲ經テ相一致スルヲ認メタリ但シ本條約ノ解釋ニハ佛文ヲ用フヘシ  
千九百二年四月八日即光緒二十八年三月初一日北京ニ於テ本書二通ヲ作ル

(兩國全權委員署名調印)



# 露蒙修好協約並附屬議定書

千九百二十二年十一月三日

庫倫ニ於テ調印

## 協約

蒙古人カ一致表明セル蒙古國土ノ民族的及歴史的政體ヲ維持セムトスルノ希望ニ從ヒ支那國軍隊及官憲ハ蒙古領土ヨリ撤退スルノ餘儀ナキニ至リ哲布尊丹巴呼圖克圖ハ蒙古人民ノ君主トシテ宣言セラレタリ

蒙古及支那國間ノ舊關係ハ斯クシテ終結セリ

上記ノ事實並露西亞國國民及蒙古人民間ニ從來存在シタル相互の友誼ヲ考量シ且露西亞國及蒙古間ノ通商ヲ規律スヘキ組織ヲ明確ニ決定スルノ必要アルニ鑑ミ茲ニ

露西亞帝國政府ヨリ之カ爲正當ナル委任ヲ受ケタル「アクチユアル、ステート、カウシラ」イワン、コロストウエツツ」及

蒙古人民ノ君主、蒙古政府及蒙古諸王ヨリ正當ナル委任ヲ受ケタル蒙古總理大臣萬敦護持三番諾顏汗那木囊蘇倫

全權委員內務大臣沁蘇朱克圖親王喇嘛「ツエリン、チメツト」  
全權委員外務大臣額爾德呢「ダイチン」新王抗達多爾濟（汗待遇）  
全權委員陸軍大臣額爾德呢達賴郡王棍布蘇倫  
全權委員大藏大臣土謝圖郡王察克都爾札布及  
全權委員司法大臣額爾德呢郡王那木薩賽ハ左ノ如ク協定セリ

第一條 露西亞帝國政府ハ蒙古ヲシテ其ノ確立シタル自治制度並自國軍隊ヲ有スルノ權利ヲ維持セシメ且其ノ版圖内ニ於ケル支那國軍隊ノ駐屯及支那人ノ植民ヲ認許セザラシムカ爲蒙古ヲ援助スヘシ

第二條 蒙古君主及蒙古政府ハ從來通り露西亞國ノ臣民及通商ニ對シ本協約附屬議定書ニ列記セル權利及特權ノ享有ヲ許與スヘシ露西亞國臣民カ蒙古ニ於テ享有セザル權利ハ同國ニ於テ之ヲ他ノ外國臣民ニ許與セザルモノトス  
第三條 蒙古政府カ支那國又ハ其ノ他ノ外國ト別箇條約締結ノ必要ヲ認ムル場合ト雖モ露西亞帝國政府ノ同意アルニ非レハ如何ナル場合ニ於テモ右新條約ヲ以テ本協約及其ノ附屬議定書ノ條項ヲ侵犯シ又ハ之ヲ改正スルコトヲ得ス

第四條 友誼的ナル本協約ハ署名ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
右證據トシテ各全權委員ハ二通ヲ作成セル本協約ノ露西亞語及蒙古語兩正文ヲ對照シ其ノ相一致セルヲ認メ署名調印ノ上之カ交換ヲ了セリ

千九百二十二年十月二十一日即蒙古曆共載第二二年秋末月二十四日（千九百二十二年十一月三日）庫倫ニ於テ作成ス

## 千九百二十二年十月二十一日（十一月三日）ノ露蒙協約附屬議定書

露西亞帝國政府全權委員「アクチユアル、ステート、カウシラ」イワン、コロストウエツツ」ト蒙古君主、蒙古政府及蒙古諸王ノ全權代表トシテ蒙古總理大臣萬敦護持三番諾顏汗那木囊蘇倫、全權委員內務大臣沁蘇朱克圖親王喇嘛「ツエリン、チメツト」、全權委員外務大臣額爾德呢「ダイチン」親王抗達多爾濟（汗待遇）、全權委員陸軍大臣額爾德呢達賴郡王棍布蘇倫、全權委員大藏大臣土謝圖郡王察克都爾札布及全權委員司法大臣額爾德呢郡王那木薩賽トノ間ニ本日署名セラレタル露蒙協約第二條ノ規定ニ依リ前記全

權委員ハ蒙古ニ於ケル露西亞國臣民ノ權利及特權（其ノ内若干ハ同國臣民既ニ之ヲ享有ス）及露西亞國ニ於ケル蒙古人民ノ權利及特權ヲ示ス左記條項ニ關シテ協定ス  
第一條 露西亞國臣民ハ從來通り蒙古内ニ於テ隨所ニ居住シ及自由ニ移轉シ商業、工業及其ノ他ノ業務ニ從事シ又露西亞國、蒙古、支那國又ハ外國ノ個人、商社又ハ公私施設物ノ何レヲ問ハス之ト各種ノ契約ヲ爲スノ權利ヲ享有スヘシ

第二條 露西亞國臣民ハ從來通り輸出入稅ヲ支拂フコトナク露西亞國、蒙古、支那國及其ノ他ノ諸國ノ各種ノ土地生産品及製造品ヲ何時タリトモ輸出入スルノ權利及蒙古ニ於テ何等ノ輸出入稅、税金又ハ課金ヲ支拂フコトナクシテ自由ニ商業ニ從事スルノ權利ヲ享有スヘシ  
露支共同ノ事業又ハ自己ノ所有ニ非サル商品ニ對シ低リテ其ノ所有者ナリト稱スル露西亞國臣民ニ對シテハ本（第二）條規定ノ效力ヲ及ホスコトナシ

第三條 露西亞國ノ金融施設ハ蒙古ニ其ノ支店ヲ開設シ個人、施設物又ハ會社ノ何レタルヲ問ハス之ト金融上其ノ他ノ取引ヲ爲スノ權利ヲ享有スヘシ

第四條 露西亞國臣民ハ現金又ハ貨物ノ交換（物物交換）ニ



依リ賣買ヲ爲シ且信用取引ヲ爲スコトヲ得各旗及蒙古國庫ハ執レモ私人ノ負債ニ對シ其ノ責ニ任セサルヘシ

第五條 蒙古官憲ハ蒙古人又ハ支那人カ露西亞國臣民ト各種ノ商取引ヲ爲シ、其ノ個人的雇人トナリ又ハ其ノ組織スル商工業ニ加入スルコトニ對シ障害ヲ加フルコトナカルヘシ商工又ハ工業ニ關スル獨占權ハ之ヲ蒙古ニ於ケル公私ノ會社、施設物又ハ個人ニ對シテ許與セサルヘシ本協定締結前既ニ蒙古政府ヨリ右獨占權ヲ得タル會社及個人ハ所定期間ノ滿了迄其ノ權利及特權ハ之ヲ保持スルモノトス

第六條 露西亞國臣民ハ蒙古ノ都市又ハ旗執レタル間ハス隨所ニ商工業上ノ經營所ヲ創設シ並家屋、店舖及倉庫ヲ建設スル爲指定地ヲ賃借シ又ハ自己ノ所有物トシテ之ヲ取得スルノ權利ヲ許與セララルヘシ右ノ外露西亞國臣民ハ耕作ノ目的ヲ以テ空地ヲ賃借スルノ權利ヲ有スヘシ右ノ指定地ハ前記目的ノ爲ニ取得又ハ賃借スヘタ投機ノ目的ヲ以テスヘカラス又該指定地ハ蒙古ノ現行法ニ從ヒ蒙古政府トノ協議ヲ以テ割當テラルヘシ聖地及牧場ハ此ノ限リニ在ラス

第七條 露西亞國臣民ハ礦物及木材ノ採取、漁業及其ノ他

ニ關シテ蒙古政府ト協定ヲ爲スノ權利ヲ有スヘシ

第八條 露西亞國政府ハ蒙古政府ト協議ノ上其ノ必要ト認ムル蒙古各地ニ於テ領事ヲ任命スルノ權利ヲ有スヘシ蒙古政府モ亦協議ノ上露西亞國境上ノ必要ト認ムル各地ニ其ノ代表者ヲ置クコトヲ得

第九條 露西亞國領事館所在地並露西亞國ノ商業上重要ナル其ノ他ノ地方ニ於テハ露西亞國領事ト蒙古政府トノ協議ヲ以テ露西亞國臣民ノ各種工業及住居ニ供スル爲特別商業地域ヲ割當ツヘシ右商業地域ハ其ノ地駐在ノ前記露西亞國領事又ハ該露西亞國領事ナキ場合ハ露西亞國商業組合長專管ノ下ニ置カルヘシ

第十條 露西亞國臣民ハ蒙古政府ト協議ノ上蒙古各地間並特定地方ト露西亞國境上ノ各所トノ間ニ於テ信書ノ發送及貨物ノ輸送ヲ爲サムカ爲自費ヲ以テ郵便事務ヲ開設スルノ權利ヲ保有スヘシ驛舍其ノ他必要ナル建物ヲ建設スル場合ニ於テハ本議定書第六條ニ定ムル規則ヲ遵守スヘシ

第十一條 蒙古ニ於ケル露西亞國領事ハ必要アル場合公用通信ノ發送其ノ他公務上ノ必要ノ爲蒙古政府ノ郵便營造物及傳書使ヲ利用スルコトヲ得但シ右ノ目的ヲ以テスル

無料使用ハ一箇月馬百頭及駱駝三十頭ヲ超エサルモノトス傳書使ノ旅券ハ其ノ都度蒙古政府ヨリ之ヲ受クヘシ露西亞國領事及一經露西亞國官吏ハ旅行中料金を支拂ヒテ右營造物ヲ利用スルコトヲ得蒙古政府ノ驛舍ヲ利用スルノ權利ハ之カ使用ニ對シテ蒙古政府ト協議決定シタル額ヲ支拂フトキハ露西亞國臣民タル個人ニモ之ヲ及ホスヘシ

第十二條 露西亞國臣民ハ蒙古内地ヨリ露西亞國領土ニ流ルル河川及其ノ支流ニ其ノ所有スル商船ヲ浮ヘ且其ノ沿岸住民ト通商スルノ權利ヲ有スヘシ露西亞國政府ハ前記河川ニ於ケル航行ノ改善、必要ナル水路標識ノ設置其ノ他ニ關シ蒙古政府ヲ援助スヘシ蒙古官憲ハ本議定書第六條ノ規定ニ準據シテ船舶ノ繫留、埠頭及倉庫ノ建設、薪炭ノ貯藏其ノ他ノ用ニ供スル爲右河川上ニ於テ場所ヲ割當ツヘシ

第十三條 露西亞國臣民ハ貨物運搬及家畜移行ノ爲陸路及海路ヲ利用スルノ權利ヲ有スヘク且蒙古官憲ト協定ノ上自費ヲ以テ橋梁、渡船其ノ他ヲ設置シ其ノ通行人ヨリ特別料金を徵收スルノ權利ヲ有スヘシ

第十四條 露西亞國臣民ノ所有スル家畜ハ移行ノ途次休養ノ爲停留スルコトヲ得停留ノ必要アル場合地方官憲ハ家

畜移行路ニ沿ヒテ且家畜市場ニ於テ適當ナル地域ノ牧場ヲ割當ツヘシ右地區ノ三箇月以上ノ使用ニ對シテハ使用料ヲ徵收スヘシ

第十五條 蒙古國境ヲ超エテ漁、獵及刈入(牧草ヲ)スル露西亞國境地方ノ住民ノ從來ノ慣習ハ今後其何等變更ナク繼續セララルヘシ

第十六條 一方露西亞國臣民及公益團體ト他方蒙古人及支那人トノ間ノ契約ハ口頭又ハ書面ヲ以テ取結フコトヲ得契約當事者ハ證明ヲ受クル爲右契約ヲ地方官憲ニ呈示スルコトヲ得該官憲ハ右契約ノ證明ニ對シ異議アルトキハ直ニ之ヲ露西亞國領事ニ通告スルコトヲ要シ誤解ハ右領事ト協議ノ上之ヲ解決スヘシ

不動產ニ關スル契約ハ書面ヲ以テ之ヲ爲シ且證明及確認ヲ受クル爲當該蒙古官憲及露西亞國領事ニ呈示スルコトヲ要ス天然資源開發ノ權利ヲ付與スル書類ニハ蒙古政府ノ確認アルコトヲ要ス

口頭又ハ書面ヲ以テ取結ヒタル契約ニ關シ爭議發生セル場合當事者ハ其ノ選定セル仲裁者ノ援助ヲ得テ事件ヲ和解スルコトヲ得此ノ方法ニ依リ解決ヲ見サルトキハ事件ハ混合法律委員會ニ依リ判決セララルヘキモノトス



常設及臨時ノ二混合法律委員會ヲ設ケ常設委員會ハ露西亞國領事ノ駐在スル各地ニ之ヲ置キ領事又ハ其ノ代表者及之ニ相當スル官位ヲ有スル蒙古官憲ノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス臨時委員會ハ事件發生ニ應シテ前記以外ノ各地ニ之ヲ置キ露西亞國領事ノ代表者及被告ノ所屬又ハ居住スル旗ノ首長ノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス混合委員會ハ此ノ種事件ニ關スル議者ヲ專門家トシテ露西亞國臣民、蒙古人及支那人中ヨリ招聘スルコトヲ得混合法律委員會ノ判決ハ露西亞國臣民ノ場合ニ於テハ露西亞國領事ニ依リ又蒙古人及支那人ノ場合ニ於テハ被告ノ所屬又ハ居住スル旗ノ王ニ依リ選擧ナク之ヲ執行スヘシ

外務大臣 額爾德呢「ダイチン」親王抗達多爾濟  
陸軍大臣 額爾德呢達額郡王提布蘇倫  
大藏大臣 土謝圖郡王察克都爾札布  
司法大臣 額爾德呢郡王那木薩賚  
(以上蒙古語ニテ署名)

### 外蒙古ニ關スル支露宣言書並附屬交換公文

千九百十三年十一月五日  
北京ニ於テ調印

第十七條 本議定書ハ署名ノ日ヨリ之ヲ實施ス  
右證據トシテ各全權委員ハ二通ヲ作成セル本議定書ノ露西亞語及蒙古語ノ兩正文ヲ對照シ其ノ相一致セルヲ認メ署名調印ノ上之カ交換ヲ了セリ

千九百十二年十月二十一日即蒙古曆共載第二年秋末月二十四日庫倫ニ於テ作成ス  
エム、コロストグエツツ (署名)  
蒙古總理大臣 三音諾顏汗那木囊蘇倫  
內務大臣 沁蘇朱克圖親王喇嘛「ツエリン、チメット」

露西亞帝國政府ハ外蒙古ニ關シ支那國トノ關係ノ基礎トシテ其探ルヘキ原則ヲ決定シ支那共和國政府ハ右原則ノ承認ヲ表明シタルヲ以テ兩國政府ハ左記ノ通り協定セリ  
一 露西亞國ハ外蒙古カ支那國主權ノ下ニ在ルコトヲ承認ス  
二 支那國ハ外蒙古ノ自治權ヲ承認ス  
三 支那國ハ外蒙古ノ蒙古人カ自ラ自治蒙古ノ內政規定ヲ設ケ且外蒙古ニ關スル商工業上ノ一切ノ問題ヲ解決スルノ專屬的權利ヲ認ムルヲ以テ支那國ハ右ノ事項ニ付干涉セサルコトヲ約ス從ツテ支那國ハ外蒙古ニ軍隊ヲ派遣シ

保 寶 琦 (印)  
バ、クルベンスキー (印)

又ハ同地ニ一切文武官ヲ駐在セシメサルヘク且同地ニ植民スルコトナカルヘシ尤モ支那國政府派遣ノ高官ハ必要ナル屬員及護衛者ヲ伴ヒ庫倫ニ駐在スルコトヲ得ヘシ支那國政府ハ右ノ外必要アル場合本協定第五條ニ規定スル會議ノ際決定セラルヘキ外蒙古ノ一定ノ地ニ自國人民ノ利益保護ノ爲代表者ヲ駐在セシムルコトヲ得ヘシ  
一方露西亞國ハ外蒙古内ニ於テ領事館護衛兵以外ノ軍隊ヲ駐在セシメ同地行政ノ一切ノ部分ニ干涉シ又ハ植民スルコトナカルヘキコトヲ約ス

四 支那國ハ前記原則及千九百十二年十月二十一日(千九百十二年十一月三日)ノ議定書ノ規定ニ準據シ外蒙古ト自國トノ關係確立ノ爲露西亞國ノ斡旋ヲ何時ニテモ承諾スヘキコトヲ聲明ス

五 外蒙古ニ於ケル露支兩國ノ利益ニ關スル諸問題ニ關シテ同國ニ於ケル新事態ニ因リテ發生スルモノハ之ヲ爾後ノ會議ノ主題ト爲スヘシ  
右證據トシテ此カ爲正當ナル委任ヲ受ケタル下名等ハ本宣言書ニ署名調印ス

千九百十三年十月二十三日(十一月五日)即中華民國二年十一月五日北京ニ於テ本書二通ヲ作成ス

北京駐露西亞國公使ヨリ支那外交總長宛公文  
外蒙古ニ關スル本日附宣言書ニ署名セムトスルニ當リ全露皇帝陛下ノ特命全權公使タル下名ハ此カ爲正當ナル任命ヲ受ケ本國政府ノ名ニ於テ左ノ通り中華民國外交總長保寶琦閣下ニ聲明スルノ光榮ヲ有シ候  
一 露西亞國ハ外蒙古ノ地域カ支那國領土ノ一部タルコトヲ承認ス  
二 政治上及領土ノ問題ニ關シテハ支那國政府ハ商議ニ依リ露西亞國政府トノ協定ヲ遂クヘク該商議ニハ外蒙古官憲之ニ參加スヘシ  
三 宣言書第五條ニ規定スル會議ハ右關係三者ノ間ニ開カラルヘク且右三者ハ之カ爲其代表者ノ會合スヘキ地點ヲ指定スヘシ  
四 自治外蒙古ハ庫倫辦事大臣烏里雅蘇臺將軍及科布多參贊大臣ノ管轄ニ屬スル地方ヲ包括ス蒙古ノ精細地圖存在セス且同國行政區劃不確定ナルヲ以テ外蒙古ノ正確ナル境界並科布多地方及阿爾泰地方間ノ境界ハ之ヲ宣言書第五條ニ規定スル爾後ノ會議ノ主題ト爲スヘシ



下名ハ此機會ヲ以テ孫寶琦閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候

敬具  
ハ、クルベンスキー (署名)

### 外蒙古ニ關スル支蒙露 三國協定

千九百十五年六月七日恰克圖  
ニ於テ調印

外蒙古博克多哲布尊丹巴呼圖克圖汗ハ司法次官額爾德呢卓  
囊貝子色楞丹津及大藏大臣土謝圖親王察克都爾札布  
右各委員ハ互ニ其全權委任狀ノ眞正ナルヲ證明シ其良好妥  
當ナルコトヲ認メタル後左ノ如ク協定セリ  
第一條 外蒙古ハ民國二年十一月五日(千九百十三年十月  
二十三日)附露支宣言及同日附支那國及露西亞國ノ交換  
公文ヲ承認ス

第二條 外蒙古ハ支那國ノ宗主權ヲ承認シ支那國及露西亞  
國ハ支那國版圖ノ一部タル外蒙古ノ自治權ヲ承認ス

第三條 自治蒙古ハ政治上及領土上ノ問題ニ關スル外國ト  
ノ國際條約ヲ締結スルノ權ヲ有セス

外蒙古ニ於ケル政治上及領土上ノ問題ニ關シテハ支那國  
政府ハ民國二年十一月五日(千九百十三年十月二十三日)  
附支那國及露西亞國間ノ交換公文第二條ニ準據スヘキコ  
トヲ約ス

第四條 外蒙古博克多哲布尊丹巴呼圖克圖汗ノ稱號ハ支那  
共和國大統領之ヲ付與ス支那曆ハ蒙古干支記年ト共ニ公  
文書ニ使用セラルヘシ

第五條 支那國及露西亞國ハ民國二年十一月五日(千九百  
十三年十月二十三日)ノ露支宣言第二條及第三條ニ準據

支那共和國大統領

大露西亞國皇帝陛下

外蒙古博克多哲布尊丹巴呼圖克圖汗

ハ外蒙古ニ於ケル新事態ニ因リテ發生シタル各種問題ヲ相

互間ノ協議ニ依リ解決セントスルノ眞摯ナル希望ニ促サレ

此目的ヲ達スル爲左ノ如ク全權代表者ヲ任命セリ

支那共和國大統領ハ都督銜畢桂芳及墨西哥國駐劄支那國全

權公使陳露

大露西亞國皇帝陛下ハ蒙古駐劄外交官兼總領事正參議官

「アレクサンドル、ミルレル」

シ外蒙古ノ一切ノ内政ヲ處理シ且自治蒙古ニ關スル商工

業上ノ一切ノ問題ニ關シ外國ト國際條約及協定ヲ締結ス

ルノ權ハ外蒙古自治政府ニ專屬スルモノナルコトヲ承認ス

第六條 支那國及露西亞國ハ該宣言第三條ニ準據シ外蒙古

現在ノ自治内政ニ干渉セサルコトヲ約ス

第七條 前記宣言第三條ニ規定スル庫倫駐在支那國大官ノ

護衛軍隊ハ二百名ヲ超エサルモノトス烏里雅蘇臺、科布

多及蒙古恰克圖ニ駐在スル該大官輔佐員ノ護衛軍隊ハ各

五十名ヲ超エサルモノトス外蒙古自治政府トノ協議ニ依

リ蒙古ノ前記以外ノ地方ニ於テ庫倫駐在支那國大官輔佐

員ノ任命アリタル場合ニ於テハ其護衛軍隊ハ各五十名ヲ

超エサルモノトス

第八條 露西亞帝國政府ハ庫倫駐在同政府代表者ニ對シ領

事護衛兵トシテ百五十名以上ヲ派遣セサルモノトス既ニ

設置セラレタルカ又ハ將來外蒙古自治政府トノ協議ニ依

リ設置セラルヘキ露西亞帝國領事館及副領事館ノ護衛軍

隊ハ各五十名ヲ超エサルモノトス

第九條 儀式又ハ公ノ典禮ノ一切ノ場合ニ於テハ最高名譽

席ハ之ヲ庫倫駐在支那國大官ニ充ツヘシ該大官ハ必要ア

ルトキハ外蒙古博克多哲布尊丹巴呼圖克圖汗ニ私謁スル

外蒙古ニ關スル支蒙露三國協定

ノ權ヲ有スヘシ

露西亞國皇帝代表者ハ右同様ノ私謁權ヲ享有ス

第十條 庫倫駐在支那國大官及本協定第七條ニ規定セル外

蒙古ノ各地方ニ駐在スル該大官輔佐員ハ外蒙古自治政府

及其隸屬官憲ノ行動カ自治蒙古ニ於ケル支那國ノ宗主權

並支那國及同國人民ノ利益ヲ害スルコトナカラシムル爲

一般の取締ヲ行フモノトス

第十一條 民國二年十一月五日(千九百十三年十月二十三

日)附支那國及露西亞國間ノ交換公文第四條ニ準據シ自

治外蒙古ノ版圖ノ包括スルトコロハ庫倫辦事大臣、烏里

雅蘇臺將軍及科布多參贊大臣ノ管轄ノ下ニ在リタル地方

ニシテ東ハ呼倫貝爾(海拉爾)地方、南ハ內蒙古、南西ハ

新疆省及西ハ阿爾泰地方ヲ以テ界トスル喀爾喀四盟ノ諸

蒙旗及科布多地方ノ境界ヲ以テ支那境ト相接ス

支那國及自治蒙古間ノ境界ノ正式劃定ハ支那國、露西亞

國及自治外蒙古ノ各代表者ヨリ成ル特別委員會之ヲ行フ

右委員會ハ本協定署名ノ日ヨリ二年ノ期間内ニ於テ劃定

事業ヲ開始スヘシ

第十二條 支那國商人カ自治外蒙古ニ輸入スル貨物ハ其產

地ノ何處タルヲ問ハス之ニ對シ關稅ヲ設定セサルモノト



ス尤モ支那商人ハ自治外蒙古ニ於テ既ニ設定セラレタルカ又ハ將來同地ニ於テ設定セラレヘキモノニシテ自治外蒙古ノ蒙古人カ支拂フトコロノ内國商業ニ對スル一切ノ税金ヲ支拂フヘシ自治外蒙古商人ハ同様ニ其地方ノ生産貨物ヲ支那國ニ輸入スルニ際シ支那内地ニ於テ既ニ設定セラレタルカ又ハ將來同地ニ於テ設定セラレヘキモノニシテ支那國商人カ支拂フトコロノ商業ニ對スル一切ノ税金ヲ支拂フヘシ自治外蒙古ヨリ支那内地ニ輸入スル外國貨物ニ對シテハ光緒七年(千八百八十一年)ノ陸上貿易規則ニ規定セル關稅ヲ課スヘシ

第十三條 自治外蒙古ニ居住スル支那人民間ノ民事上及刑事上ノ訴訟ハ庫倫駐在支那國大官及自治外蒙古ノ庫倫以外ノ各地ニ駐在スル該大官輔佐員之ヲ審理判決スルモノトス

第十四條 自治外蒙古ノ蒙古人ト自治外蒙古ニ居住スル支那人民トノ間ニ起ル民事上及刑事上ノ訴訟ハ庫倫駐在支那國大官及自治外蒙古ノ右以外ノ各地ニ駐在スル該大官輔佐員又ハ右兩者ノ代表者及蒙古官憲共同シテ之ヲ審理判決スルモノトス被告カ支那國人民ニシテ原告カ自治外蒙古ノ蒙古人ナルトキハ其訴訟事件ノ共同ノ審理及判

決ハ庫倫駐在支那國大官及自治外蒙古ノ右以外ニ各地ニ駐在スル該大官輔佐員ノ事務所ニ於テ行ハルヘシ被告カ自治外蒙古ノ蒙古人ニシテ原告カ支那國人民ナルトキハ其訴訟事件ハ同様ニ蒙古衙門ニ於テ審理判決セラルヘシ有罪者ハ各自ノ法律ニ從ツテ處罰セラルヘシ關係當事者ハ各自ノ選定セル仲裁人ニ依リ其爭議ヲ平和ニ解決スルノ自由ヲ有ス

第十五條 自治外蒙古ノ蒙古人ト自治外蒙古ニ居住スル露西亞國臣民トノ間ニ起ル民事上及刑事上ノ訴訟ハ千九百一十二年十月二十一日附露蒙協約附屬議定書第十六條ノ規定ニ準據シテ審理判決セラルヘキモノトス

第十六條 自治外蒙古ニ於ケル支那國人民ト露西亞國臣民トノ間ニ起ル訴訟ハ左ノ方法ニ依リ審理判決セラルヘシ即原告カ露西亞國臣民ニシテ被告カ支那國人民タル場合ノ訴訟ニ於テハ露西亞國領事ハ庫倫駐在支那國大官若ハ其代理者又ハ自治外蒙古ノ庫倫以外ノ各地ニ駐在スル該大官輔佐員ト同一ナル權利ヲ享有シテ自身若ハ其代表者ヲ以テ其裁判ニ參加スヘシ露西亞國領事若ハ其代表者ハ開廷シテ原告及露西亞國領事ヲ審問シ且庫倫駐在支那國大官若ハ其代表者又ハ自治外蒙古ノ庫倫以外ノ地方ニ駐在

タル電報ノ料金、其收入金ノ配分、其他ノ問題ハ支那國、露西亞國及自治外蒙古ノ技術家代表者ヨリ成ル特別委員會之ヲ審查決定スヘシ

第十八條 庫倫及蒙古恰克圖所在ノ支那郵便機關ハ舊規模ニ依リ存続スヘシ

第十九條 外蒙古自治政府ハ支那共和國政府ノ完全ナル財產タルヘキモノニシテ庫倫駐在支那國大官及烏里雅蘇臺、科布多及恰克圖ニ駐在スル該大官輔佐員並右兩者ノ屬僚ニ必要ナル家屋ヲ之等ノ任意使用ニ供スヘシ同様ニ前記屬僚ノ護衛隊ニ對シ該屬僚ノ住居附近ニ於テ必要ナル土地ヲ供與スヘシ

第二十條 庫倫駐在支那國大官及自治外蒙古ノ庫倫以外ノ地方ニ駐在スル該大官輔佐員並右兩者ノ屬僚ハ千九百一十三年十月二十一日ノ露蒙議定書第十一條ニ準據シ自治蒙古政府ノ驛站ヲ使用スルノ權利ヲ享有スヘシ

第二十一條 民國二年十一月五日(千九百十三年十月二十三日)附露蒙宣言及同日附支那國及露西亞國間ノ交換公文ノ規定並千九百一十二年十月二十一日附露蒙協約附屬議定書ノ規定ハ引續キ完全ニ有效タルヘシ

第二十二條 支那語、露西亞語、蒙古語及佛蘭西語ヲ以テ

スル該大官輔佐員ノ手ヲ經テ被告及支那國證人ヲ訊問ス露西亞國領事若ハ其代表者ハ提出セラレタル證據ノ取調ヲ爲シ、答辯ニ對スル保障ヲ要求シ且當事者其他ノ權利ヲ明ラカナラシムル爲メ專門家ノ意見ヲ必要ナリト認メタルトキハ右專門家ノ意見ヲ徵スルノミナラス判決及判決文ノ起草ニ參加シ尙庫倫駐在支那國大官若ハ其代表者又ハ自治外蒙古ノ庫倫以外ノ各地ニ駐在スル該大官輔佐員ト共ニ右判決文ニ署名スヘシ判決ノ執行ハ支那國官憲ノ職務タルヘシ

庫倫駐在支那國大官及自治外蒙古ノ庫倫以外ノ各地ニ駐在スル該大官輔佐員ハ同様ニ自身若ハ其代表者ヲ以テ露西亞國領事館ニ於テ行ハル被告カ露西亞國臣民ニシテ原告カ支那國人民タル場合ノ訴訟ノ審理ニ出席スルコトヲ得

判決ノ執行ハ露西亞國官憲ノ職務タルヘシ

第十七條 電信線路ノ一部恰克圖—庫倫—張家口間ハ自治外蒙古ノ版圖内ニ在ルヲ以テ該部分ハ外蒙古自治政府ノ完全ナル財產タルコトヲ協定ス電報傳送ノ爲メ支那國使用人及蒙古使用人ニ依リ管理セラルヘキ外蒙古及內蒙古間ノ國境上ニ於ケル電信局設置ニ關スル詳細並傳送セラレ



三通ヲ作成シタル本協定ハ其署名ノ日ヨリ効力ヲ發生ス  
適法ニ對照シ其相一致スルコトヲ認メタル四國語ノ本文  
中佛蘭西語本文ヲ以テ本協定解釋ノ際ノ正文トス  
民國四年六月七日即千九百十五年五月二十五日(六月七  
日)恰克圖ニ於テ作成ス

表證スル爲庫倫ニ巡禮スル蒙古人ニ對シ何等ノ騷擾ヲモ  
加フルコトナカルヘシ  
下名ハ此機會ニ於テ支那共和國全權代表ニ對シ重ネテ敬意  
ヲ表シ候 敬具  
千九百十五年五月二十五日(六月七日)恰克圖ニ於テ

交換公文

恰克圖三國協商露西亞國全權代表タル下名ハ恰克圖三國協  
商支那共和國全權代表畢桂芳閣下及陳露閣下ヨリ本日附左  
記書翰ヲ以テ申越ノ趣敬承致シ候

支那國全權代表  
都督銜 畢桂芳閣下  
陳 露閣下  
ア、ミルレル (署名)

恰克圖三國協商支那共和國全權代表ニシテ之カ爲正式ノ  
委任ヲ受ケタル下名ハ自治外蒙古ニ關スル本日附三國協  
定ニ署名セムトスルニ際シ恰克圖三國協商露西亞帝國全  
權代表タル「ミルレル」閣下ニ向ツテ本國政府ノ名ニ於テ  
左ノ如ク聲明スルノ光榮ヲ有シ候即支那共和國政府ハ本  
露支蒙協定署名ノ日ヨリ外蒙古自治政府ニ歸屬セル蒙古  
人全部ニ對シ完全ナル大赦ヲ行ヒ且外蒙古ノ蒙古人全部  
ニ對シ內蒙古ノ蒙古人ト均シク從來通ノ前記地方ニ於ケ  
ル居住及旅行ノ自由ヲ存置スヘシ支那共和國政府ハ外蒙  
古博克多哲布尊丹巴呼圖克圖汗階下ニ對スル敬虔ノ念ヲ

恰克圖三國協商露西亞帝國全權代表ニシテ之カ爲正式ニ委  
任セラレタル下名ハ自治外蒙古ニ關スル本日附三國協定ニ  
署名スルニ際シ恰克圖三國協商支那共和國全權代表タル畢  
桂芳閣下及陳露閣下ニ對シ本國政府ノ名ニ於テ左ノ如ク聲  
明スルノ光榮ヲ有シ候  
外蒙古内ニ存在シ且恰克圖協定第十七條ニ記載スル張家  
口一庫倫一恰克圖間ノ部分ニ沿ヒテ所在スル一切ノ電信  
局ハ前記恰克圖協定署名後最長六月ノ期間内ニ於テ支那  
國官吏ヨリ蒙古官吏ニ引渡サルヘキコト及支那國電信線  
路及露西亞國電信線路ノ接續點ハ前記第十七條ニ規定セ  
ル技術委員會ニ依リ決定セララルヘキコトヲ協定ス

上記ノ次第ハ同時ニ之ヲ外蒙古自治政府ノ全權代表ニ通  
知シタリ

下名ハ此機會ニ於テ支那共和國全權代表ニ對シ重ネテ敬意  
ヲ表シ候 敬具

千九百十五年五月二十五日(六月七日)恰克圖ニ於テ  
ア、ミルレル (署名)

支那國全權代表

畢 桂 芳閣下  
陳 露閣下

呼倫貝爾(海拉爾)ノ地  
位ニ關スル協定

千九百十五年十一月六日北京  
ニ於テ調印

第一條 海拉爾ハ特殊地域ヲ爲シ支那共和國中央政府ノ直  
轄トス但シ必要ノ場合及通信ヲ急遽ナラシムル爲ニ海拉  
爾官憲ハ其ノ隸屬セル黑龍江省長官ト商議スルコトヲ得  
第二條 海拉爾副都統ハ支那共和國大總統令ニ依リ之ヲ任  
命シ且省長官ノ權力ヲ行使ス

呼倫貝爾(海拉爾)ノ地位ニ關スル協定

海拉爾五旗總管及位三品以上ノ地方官吏ノミ右副都統ニ  
任命セララルモノトス

第三條 副都統衙門ハ左右兩廳ヨリ成ルモノトス其ノ内一  
ノ廳ノ廳長ハ副都統之ヲ任命シ他ノ一廳ノ廳長ハ內務部  
之ヲ任命ス右廳長ハ其ノ職務執行ニ付支那共和國中央政  
府ノ認可ヲ受クルモノトス位四品以上ノ海拉爾官吏ノミ  
右廳長ニ任命セララルモノトス

副都統ハ各廳ノ權限ヲ定ムル權能ヲ有シ各廳長ハ副都統  
ノ監督下ニ在リテ中央官憲及他省ノ官憲ト直接交渉スル  
ノ權利ヲ有セサルモノトス但シ副都統ヨリ任命セラレタ  
ル權限ノ範圍内ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 平時ニ於テハ海拉爾ニ於ケル一切ノ軍事の必要ハ  
專ラ地方民兵之ヲ全ウスルモノトス副都統ハ其ノ執リタ  
ル軍事の性質ヲ有スル一切ノ措置ヲ理由ヲ附シテ中央政  
府ニ報告スルノ義務ヲ負フモノトス

海拉爾ニ於テ地方官憲カ自ラ防遏シ能ハサルモノト認ム  
ヘキ紛擾力惹起シタル場合ニハ中央政府ハ豫メ露西亞國  
ニ通牒ヲ發シタル後其ノ軍隊ノ一部ヲ派遣スルコトヲ得  
秩序恢復ノ後右派遣部隊ハ海拉爾地方ヨリ撤退スヘシ  
第五條 海拉爾ニ於テ徵收セラレタル一切ノ税金收入並該  
地方ノ一切ノ收入ハ地方的經費ニ充當スル爲之ヲ保管ス



ヘシ但シ中央政府ニ歸屬スヘキ海關稅及鹽稅收入ハ此ノ限ニ在ラス毎年ノ終ニ於テ副都統ハ其ノ衙門ニ依リ徵收セラレタル金額ノ計算書及右金額ノ費途ヲ中央政府ニ送付スルノ義務ヲ負フモノトス

第六條 海拉爾及支那内地ノ住民ニシテ農工商ヲ業トスル者ハ支那國及海拉爾ニ於テ巡歴及居住ノ自由ヲ有シ且何等ノ差別待遇ヲ受クルコトナク平等ノ地位ニ立ツモノトス

但シ海拉爾ノ土地ハ其ノ一切ノ住民ノ共有財產ナルカ故ニ支那人ハ單ニ年期租借ニ依リ且地方官憲力土着民ノ飼畜利益ヨリ觀察シテ支那人ノ農業ヲ排斥スヘカラサルモノト認ムル地方ニ於テノ耕地ヲ取得スルコトヲ得

第七條 將來海拉爾ニ於テ鐵道敷設ヲ企畫シ且右敷設ノ爲外國資本ヲ要スル場合ニハ支那共和國政府ハ第一ニ右資本ヲ獲得スル爲露西亞國ニ提議スルモノトス

東支鐵道會社及海拉爾ニ於テ採鑛採木等ノ利權ヲ有スル露西亞人カ其ノ材料及利權事業生産品ノ運輸ノ爲敷設スヘキ鐵道支線ハ支那共和國中央政府ノ許可ヲ得ルニ非レハ之ヲ敷設スルコトヲ得ス右許可ハ特別ノ事由ナキ限り之ヲ與フヘキモノトス

但シ本條ハ露西亞國臣民ノ利權規約ニシテ次條ノ規定通り支那共和國中央政府ノ確認シタルモノニ依リ既ニ敷設ヲ定メラレタル支線ニハ之ヲ適用セサルモノトス

第八條 支那共和國政府ハ露西亞國投資家及海拉爾官憲間ニ既ニ締結セラレ且露西亞國及支那國代表委員會ノ審查シタル契約ヲ茲ニ確認ス

### 支那共和國「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦間ノ諸問題解決ノ爲ノ大綱ニ關スル協定

千九百二十四年五月三十一日  
北京ニ於テ調印

支那共和國及「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ハ相互ニ正當ノ關係ヲ回復セムコトヲ希望シ兩國間ノ諸問題解決ノ爲

ノ大綱ニ關スル協定ヲ締結スルコトニ一致シ之カ爲左ノ如ク其ノ全權委員ヲ任命セリ

支那共和國大統領閣下 顧 維 鈞

「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府 「レフ、ミハイロ

グイチ、カラハン」

右全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メ左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條 本協定署名後直ニ兩締約國間ノ正當ノ外交及領事關係ハ回復セラルヘシ

支那共和國政府ハ先ニ露西亞帝政府ニ屬シタル公使館及領事館ノ建物ヲ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府ニ引渡ス爲必要ナル措置ヲ執ルコトヲ約ス

第二條 兩締約國政府ハ本協定署名後一月内ニ左ノ諸條ニ規定スル原則ニ從ヒ諸問題ニ關スル細目ノ取極ヲ締結シ且之ヲ實施スヘキ會議ヲ開催スルコトヲ約ス

右細目ノ取極ハ成ルヘク速ニ且如何ナル場合ニ於テモ前項ニ規定スル會議ノ開會後六月内ニ完了セラルヘシ

第三條 兩締約國政府ハ前條ニ規定スル會議ニ於テ支那國政府ト露西亞帝政府トノ間ニ締結セラレタル一切ノ協約、條約、協定、議定書、契約等ヲ取消シ而シテ平等、

相互及正義ノ基礎ニ於テ並千九百十九年及千九百二十年ノ「ソヴィエト」政府ノ宣言ノ精神ニ基キ新ナル條約、協定等ヲ以テ之ニ代フルコトヲ約ス

第四條 「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府ハ其ノ政策並千九百十九年及千九百二十年ノ宣言ニ從ヒ前露西亞帝政府ト第三國トノ間ニ締結セラレタル一切ノ條約、協定等ニシテ支那國ノ主權又ハ利益ニ影響スルモノハ無効ナルコトヲ宣言ス

兩締約國政府ハ將來何レノ政府モ他ノ締約國ノ主權又ハ利益ヲ侵害スル條約又ハ協定ヲ締結セサルヘキコトヲ宣言ス

第五條 「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府ハ外蒙古カ支那共和國ノ構成部分タルコトヲ承認シ且外蒙古ニ於ケル支那ノ主權ヲ尊重ス

「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦政府ハ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦軍隊全部ノ外蒙古撤退ニ關スル問題即チ右軍隊撤退ノ期限及國境ノ安全ノ爲ニ執ルヘキ措置ニ關シ本協定第二條ニ規定スル會議ニ於テ協定成立スルトキハ直ニ外蒙古ヨリ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦軍隊全部ノ完全ナル撤退ヲ實行スヘキコトヲ宣言ス



支那國「ソ」聯邦問題解決ノ爲ノ大綱協定

五〇〇

第六條 兩締約國政府ハ何レモ他ノ締約國政府ニ對シ暴力行爲ニ依リ抗爭スルコトヲ目的トスル一切ノ機關又ハ團體ノ存在又ハ——及活動ヲ各其ノ領土内ニ於テ許容セサルコトヲ相互ニ誓約ス兩締約國政府ハ何レモ他ノ締約國ノ政治上及社會上ノ制度ニ反對スル宣傳ヲ行ハサルコトヲ誓約ス

第七條 兩締約國政府ハ尙本協定第二條ニ規定スル會議ニ於テ兩國ノ境界ヲ更ニ劃定スルコト並右劃定ニ至ル迄ハ現在ノ境界ヲ維持スルコトヲ約ス

第八條 兩締約國政府ハ前記會議ニ於テ兩國國境ニ共通ナル河川、湖水及其ノ他ノ水面ノ航行ニ關スル問題ヲ平等及相互ノ基礎ニ於テ規律スルコトヲ約ス

第九條 兩締約國政府ハ前記會議ニ於テ左ニ規定スル原則ニ從ヒ東支鐵道問題ヲ解決スルコトヲ約ス

(一) 兩締約國政府ハ東支鐵道力純然タル商業的企業ナルコトヲ宣言ス兩締約國政府ハ東支鐵道ノ直接ノ管理ノ下ニ在ル營業ニ屬スル事項ヲ除キ支那共和國ノ中央政府及地方政府ノ權利ニ影響スル一切ノ他ノ事項例ヘハ司法事項、民政、軍政、警察、市政、課稅及土地(該鐵道ノ必要トスル土地ヲ除ク)ニ關スル事

項ノ如キハ支那國官憲ニ依リ處理セラルヘキコトヲ相互ニ宣言ス

(二) 「ソウヰエト」社會主義共和國聯邦政府ハ支那共和國政府カ支那ノ資本ヲ以テ東支鐵道及一切ノ附屬財產ヲ回收スルコト並該鐵道ノ一切ノ株券及社債券ヲ支那ニ引渡スコトヲ約ス

(三) 兩締約國政府ハ本協定第二條ニ規定スル會議ニ於テ東支鐵道回收ノ價額及條件並引渡手續ヲ決定スヘシ

(四) 「ソウヰエト」社會主義共和國聯邦政府ハ千九百十七年三月九日ノ革命前ニ生シタル東支鐵道ノ株主、社債權者及債權者ノ請求權ノ全部ニ對シ責任ヲ負フコトヲ約ス

(五) 兩締約國政府ハ東支鐵道ノ將來ハ何レノ第三國ヲモ除外シ支那共和國及「ソウヰエト」社會主義共和國聯邦ニ依リ決定セラルヘキコトヲ相互ニ約ス

(六) 兩締約國政府ハ本條第(三)號ニ規定スル問題ノ決定ニ至ル迄東支鐵道ノ暫行管理ノ爲取極ヲ作成スルコトヲ約ス

(七) 東支鐵道ニ關スル各種問題カ本協定第二條ニ規定

スル會議ニ於テ解決セラルルニ至ル迄東支鐵道ノ建設及經營ニ關スル千八百九十六年九月八日(露曆八月二十七日)ノ契約ヨリ生スル兩國政府ノ權利ニシテ本協定及同鐵道ノ暫行管理協定ニ牴觸セス且支那國ノ主權ヲ侵害セサルモノハ之ヲ維持スヘシ

第十條 「ソウヰエト」社會主義共和國聯邦政府ハ露西亞帝政政府カ各種ノ協約、條約、協定等ニ依リ取得セル支那國內ニ於ケル一切ノ利權ニ關スル特殊權利及特權ヲ拋棄スルコトヲ約ス

第十一條 「ソウヰエト」社會主義共和國聯邦政府ハ團體賠償債金ノ露西亞國ノ取分ヲ拋棄スルコトヲ約ス

第十二條 「ソウヰエト」社會主義共和國聯邦政府ハ治外法權及領事裁判權ヲ拋棄スルコトヲ約ス

第十三條 兩締約國政府ハ本協定第二條ニ規定スル會議ニ於テ通商條約ヲ締結スルト同時ニ平等及相互ノ原則ニ從ヒ兩締約國ノ關稅率ヲ作成スルコトヲ約ス

第十四條 兩締約國政府ハ前記會議ニ於テ損害賠償請求ニ關スル問題ヲ討議スルコトヲ約ス

第十五條 本協定ハ署名ノ日ヨリ效力ヲ生スヘシ右證據トシテ各全權委員ハ英吉利語ニ依ルニ通ノ本協定ニ

東支鐵道暫行管理協定

署名シ及之ニ調印セリ

支那共和國十三年五月三十一日即千九百二十四年五月三十一日北京ニ於テ作成ス

エル、カラハン (印)  
顧維鈞 (印)

東支鐵道暫行管理協定

千九百二十四年五月三十一日北京

ニ於テ調印

支那共和國及「ソウヰエト」社會主義共和國聯邦ハ東支鐵道カ露西亞國政府ニ依リ供給セラレタル資本ヲ以テ建設セラレ且全然支那國ノ版圖内ニ於テ建設セラレタルヲ以テ該鐵道ハ純然タル商業的企業ナルコト及該鐵道自體ノ營業ニ屬スル事項ヲ除キ其ノ他一切ノ事項ニシテ支那國中央及地方政府ノ權利ニ影響スルモノハ支那國官憲ニ依リ處理セラルヘキモノナルコトヲ相互ニ承認シ千九百二十四年五月三十一日附支那共和國及「ソウヰエト」社會主義共和國聯邦間ノ諸問題解決ノ爲ノ大綱ニ關スル協定ノ第二條ニ掲タル會議



ニ於テ最終的ニ解決セラルル迄該鐵道ノ管理ヲ共同ニ實行スルノ目的ヲ以テ該鐵道ノ暫行管理ノ爲協定ヲ締結スルコトニ一致シ之カ爲左ノ如ク其ノ全權委員ヲ任命セリ

支那共和國大統領閣下

顧 維 鈞

「ソウヴェエト」社會主義共和國聯邦政府

「レフ、ミハイロヴィチ、カラハン」

右各全權委員ハ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メ左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條 東支鐵道ハ同鐵道ニ關スル一切ノ事項ノ討議及決定ノ爲ニ十名ヨリ成ル理事會ヲ設クヘク其ノ内五名ハ支那共和國政府ニ依リ他ノ五名ハ「ソウヴェエト」社會主義共和國聯邦政府ニ依リ任命セラルヘシ  
支那共和國政府ハ支那國理事會中ノ一名ヲ理事會會長トシテ任命スヘク右會長ハ同時ニ理事會會長タルヘシ  
「ソウヴェエト」社會主義共和國聯邦政府ハ露西亞國理事會中ノ一名ヲ理事會會長トシテ任命スヘシ  
右副會長ハ同時ニ副理事會會長タルヘシ理事會ハ七名ヲ以テ定足數トス理事會ノ一切ノ決定ハ之カ實行ニ先チ六名以上ノ承諾ヲ經ヘシ

理事會及副理事會ハ理事會ノ事務ヲ共同ニ處理シ且同會ノ一切ノ書類ニ共ニ署名スヘシ

理事會又ハ副理事長在ラサルトキハ各其ノ政府ハ理事會又ハ副理事長トシテ職務ヲ執ルヘキ他ノ一名ノ理事會ヲ任命スルコトヲ得（理事會ノ場合ニ於テハ支那國理事會中ノ一名ヲ以テシ又副理事長ノ場合ニ於テハ露西亞國理事會中ノ一名ヲ以テス）

第二條 東支鐵道ハ支那共和國政府ニ依リ任命セラルヘキ二名ノ支那國監事及「ソウヴェエト」社會主義共和國聯邦政府ニ依リ任命セラルヘキ三名ノ露西亞國監事即チ五名ヨリ成ル監事會ヲ設クヘシ

第三條 東支鐵道ニハ「ソウヴェエト」社會主義共和國聯邦國民タル一名ノ支配人ヲ置ク支那共和國國民及「ソウヴェエト」社會主義共和國聯邦國民タル各一名ノ副支配人ヲ置クヘシ

右役員ハ理事會ニ依リ任命セラルヘク且右任命ハ各其ノ政府ニ依リ確認セラルヘシ  
支配人及副支配人ノ職權及職務ハ理事會ニ依リ定メラルヘシ

第四條 東支鐵道ノ各部ノ部長及副部長ハ理事會ニ依リ任命セラルヘシ

部長カ支那國國民タル場合ニ於テハ副部長ハ「ソウヴェエト」社會主義共和國聯邦國民タルヘク又部長カ「ソウヴェエト」社會主義共和國聯邦國民タル場合ニ於テハ副部長ハ支那共和國國民タルヘシ

第五條 東支鐵道ノ各部ニ於ケル職員ノ任用ハ支那共和國國民及「ソウヴェエト」社會主義共和國聯邦國民ニ於ケル均等代表ノ原則ニ從フヘシ

第六條 本協定第七條ニ定ムル見積及豫算ヲ除キ其ノ他ノ一切ノ事項ニシテ理事會力之ニ關シ一致スルニ至ラサルモノハ解決ノ爲締約國ノ政府ニ附託セラルヘシ

第七條 理事會ハ審議及承認ヲ求ムル爲東支鐵道ノ見積及豫算ヲ理事會及監事會ノ共同會議ニ提出スヘシ

第八條 東支鐵道ノ全利益ハ理事會ニ依リ保管セラレ且本鐵道問題カ最終的ニ解決セラルル迄使用セラレサルヘシ

第九條 理事會ハ千八百九十六年十二月四日露西亞帝政政府ニ依リ承認セラレタル東支鐵道會社ノ定款ヲ本協定及支那共和國及「ソウヴェエト」社會主義共和國聯邦間ノ諸問題解決ノ爲ノ大綱ニ關スル千九百二十四年五月三十一日

ノ協定ニ從ヒ成ルヘク速ニ且如何ナル場合ニ於テモ理事會構成ノ日ヨリ六月内ニ改正スヘシ

前記定款ハ其ノ改正ニ至ル迄ハ支那共和國及「ソウヴェエト」社會主義共和國聯邦間ノ諸問題解決ノ爲ノ大綱ニ關スル協定ニ抵觸セス且支那共和國ノ主權ヲ害セサル限り引續キ遵守セラルヘシ

第十條 本協定ハ東支鐵道問題カ支那共和國及「ソウヴェエト」社會主義共和國聯邦間ノ諸問題解決ノ爲ノ大綱ニ關スル千九百二十四年五月三十一日ノ協定第二條ニ規定スル會議ニ於テ最終的ニ解決セラルルト同時ニ效力ヲ失フヘシ

第十一條 本協定ハ署名ノ日ヨリ效力ニ生スヘシ  
右證據トシテ兩國全權委員ハ英吉利語ニ依ル二通ノ本協定ニ署名シ及之ニ調印セリ  
支那共和國十三年五月三十一日即チ千九百二十四年五月三十一日北京ニ於テ作成ス

顧 維 鈞 (印)

エル、カラハン (印)



附屬諸宣言書

宣言書 (一)

支那共和國政府及「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦政府ハ千九百二十四年五月三十一日附支那共和國及「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦間ノ大綱ニ關スル協定ノ署名ノ後直ニ前露西亞帝政府及支那國ノ所有ニ係ル一切ノ動産及不動産ニシテ各其ノ領土内ニ在ルモノヲ相互ニ夫々引渡スヘキコトヲ宣言ス之カ爲各政府ハ右引渡サルヘキ財産ノ表ヲ他方ニ提出スヘシ

右證據トシテ兩締約國政府ノ右全權委員ハ英吉利語ニ依ルニ通ノ本宣言書ニ署名シ及之ニ調印セリ

支那共和國十三年五月三十一日即チ千九百二十四年五月三十一日北京ニ於テ作成ス

エル、カラハン (印)  
顧維鈞 (印)

宣言書 (二)

支那共和國政府及「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦政府ハ現ニ「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦政府ニ屬スル露西亞

正教教會ノ建物及土地ニ關シ之カ引渡又ハ其ノ他適當ナル處分ニ關スル問題ハ千九百二十四年五月三十一日附支那共和國及「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦間ノ大綱ニ關スル協定第二條ニ規定スル會議ニ於テ内地ニ於ケル財産保有ニ關スル支那國現行ノ國內法令及規則ニ從ヒ共同ニ決定セラレヘシトノ了解ナルコトヲ茲ニ宣言ス現ニ「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦政府ニ屬スル在北京及在八大處露西亞正教教會ノ建物及財産ニ關シテハ支那國政府ハ「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦政府カ支那國ノ箇人又ハ團體ヲ指示スルトキハ直ニ内地ニ於ケル財産保有ニ關スル支那國現行ノ法令及規則ニ從ヒ之カ引渡ノ手段ヲ執ルヘシ  
其ノ間支那共和國政府ハ一切ノ右建物及財産ヲ保護シ且現ニ之ニ居住スル者ヲ總テ退去セシムカ爲ニ直ニ措置ヲ執ルヘシ  
尙右ノ了解ノ表明ハ大綱ニ關スル前記協定中ニ包含セラルル一般の宣言ト同一ノ效力ヲ有スルモノトス  
右證據トシテ兩締約國政府ノ各全權委員ハ英吉利語ニ依ルニ通ノ本宣言書ニ署名シ及之ニ調印セリ  
支那共和國十三年五月三十一日即チ千九百二十四年五月三十一日北京ニ於テ作成ス

支那共和國十三年五月三十一日即チ千九百二十四年五月三十一日北京ニ於テ作成ス

エル、カラハン (印)  
顧維鈞 (印)

宣言書 (三)

支那共和國政府及「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦政府ハ千九百二十四年五月三十一日附支那共和國及「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦間ノ大綱ニ關スル協定第四條ニ關シ支那共和國政府ハ露西亞帝時代以來露西亞國ト第三國トノ間ニ締結セラレタル條約、協定等ニシテ支那共和國ノ主權及利益ニ影響スルモノヲ有效ト認メサルヘク且認メ居ラストノ了解ナルコトヲ共同ニ宣言ス尙右ノ了解ノ表明ハ大綱ニ關スル協定中ニ包含セラルル一般の宣言ト同一ノ效力ヲ有スルモノトス

右證據トシテ兩締約國政府ノ各全權委員ハ英吉利語ニ依ルニ通ノ本宣言書ニ署名シ及之ニ調印セリ

支那共和國十三年五月三十一日即チ千九百二十四年五月三十一日北京ニ於テ作成ス

エル、カラハン (印)  
顧維鈞 (印)

宣言書 (四)

支那共和國政府及「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦政府ハ千九百二十四年五月三十一日附支那共和國及「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦間ノ大綱ニ關スル協定第十條ニ依リ「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦政府ノ拋棄シタル特殊權利及特權ハ其ノ一部又ハ全部ヲ支那共和國政府ニ於テ第三國又ハ外國機關ニ讓渡セラレヘシトノ了解ナルコトヲ共同ニ宣言ス尙右ノ了解ノ表明ハ大綱協定中ニ包含セラルル一般の聲明ト同一ノ效力ヲ有スルモノトス

右證據トシテ兩締約國政府ノ各全權委員ハ英吉利語ニ依ルニ通ノ本宣言書ニ署名シ及之ニ調印セリ

支那共和國十三年五月三十一日即チ千九百二十四年五月三十一日北京ニ於テ作成ス

エル、カラハン (印)  
顧維鈞 (印)

宣言書 (五)

支那共和國政府及「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦政府ハ千九百二十四年五月三十一日附支那共和國及「ソヴェエト」社會主義共和國聯邦間ノ大綱ニ關スル協定第十一條ニ關シ



左ノ通り了解成立セルコトヲ共同ニ宣言ス

一 「ソウヴェイエト」社會主義共和國聯邦政府ノ地棄スル賠償金ノ露西亞國ノ取前ハ之ヲ擔保トスル一切ノ優先債務ヲ償却シタル後全部之ヲ支那國人民ノ教育振興資金ノ創設ニ充當セラルヘシ

二 前記資金ノ管理及割當ノ爲特別委員會設置セラルヘシ右委員會ハ三名ヨリ成リ内二名ハ支那共和國政府之ヲ任命シ一名ハ「ソウヴェイエト」社會主義共和國聯邦政府之ヲ任命ス前記委員會ノ決定ハ全會一致ノ表決ニ依ル

三 前記資金ハ増殖スルニ從ヒ前記該委員會ニ依リ指定セラルヘキ銀行ニ隨時之ヲ預金ス

尙右ノ了解ノ表明ハ大綱ニ關スル協定中ニ包含セラルル一般の宣言書ト同一ノ效力ヲ有スルモノトス

右證據トシテ兩締約國政府ノ各全權委員ハ英吉利語ニ依ル

二通ノ本宣言書ニ署名シ及之ニ調印セリ  
支那共和國十三年五月三十一日即チ千九百二十四年五月三十一日北京ニ於テ作成ス

宣言書 (六)

支那共和國政府及「ソウヴェイエト」社會主義共和國聯邦政府ハ千九百二十四年五月三十一日附支那共和國及「ソウヴェイエト」社會主義共和國聯邦間ノ大綱ニ關スル協定第二條ニ規定スル會議ニ於テ同協定第十二條ニ依ル治外法權及領事裁判權ノ地棄ニ基キ「ソウヴェイエト」社會主義共和國聯邦政府ノ人民ニ對シ新ニ生シタル地位ヲ規律スル爲公平ナル規定ヲ設クヘキコトヲ約ス但シ「ソウヴェイエト」社會主義共和國聯邦政府ノ國民ハ支那國ノ司法權ニ完全ニ從フヘキモノトス  
右證據トシテ兩締約國政府ノ各全權委員ハ英吉利語ニ依ル二通ノ本宣言書ニ署名シ及之ニ調印セリ  
支那共和國十三年五月三十一日即チ千九百二十四年五月三十一日北京ニ於テ作成ス

宣言書 (七)

支那共和國政府及「ソウヴェイエト」社會主義共和國聯邦政府ハ千九百二十四年五月三十一日附支那共和國「ソウヴェイエト」社會主義共和國聯邦間ノ大綱ニ關スル協定ニ署名ヲ了シタル

エル、カラハン (印)  
顧維鈞 (印)

エル、カラハン (印)  
顧維鈞 (印)

ニ付「ソウヴェイエト」社會主義共和國聯邦ノ人民及支那共和國ノ人民ノ就職上ノ均等代表ノ原則ヲ規定スル同日附東支鐵道暫行管理協定第五條ノ説明トシテ右原則ノ適用ハ露西亞國國籍ヲ有スル現在ノ從事員ヲ右原則ヲ履行スル唯一ノ目的ノ爲ニ解職スヘキコトヲ意味スルモノト了解セラレサルヘキコトヲ茲ニ約ス尙一切ノ地位ハ兩締約國ノ人民ニ均等ニ開放セラルヘク何レノ國籍ニ對シテモ特殊ノ優先的取扱ヲ爲ササルヘク且右地位ハ志望者ノ能力並技術上及教育上ノ資格ニ應ジテ充サルヘキモノトス  
右證據トシテ兩締約國政府ノ各全權委員ハ英吉利語ニ依ル二通ノ本宣言書ニ署名シ及之ニ調印セリ  
支那共和國十三年五月三十一日即チ千九百二十四年五月三十一日北京ニ於テ作成ス

エル、カラハン (印)  
顧維鈞 (印)

附屬交換公文

顧外交總長發「カラハン」代表宛往翰

以書翰致啓上候陳者本日貴下トノ間ニ支那共和國及「ソウヴェイエト」社會主義共和國聯邦間ノ諸問題解決ノ爲ノ大綱ニ

東支鐵道暫行管理協定

關スル協定ニ署名ヲ了シタルニ付支那共和國政府ハ支那國ノ軍隊及警察隊ニ現ニ使用セラルル一切ノ前露西亞帝國ノ臣民ハ其ノ存在又ハ活動ニ依リ「ソウヴェイエト」社會主義共和國聯邦ノ安全ニ對スル脅威ト爲ルヲ以テ支那共和國及「ソウヴェイエト」社會主義共和國聯邦間ノ友誼ノ爲ニ之カ使用ヲ繼續セサルヘキコトヲ本官ハ茲ニ本國政府ノ名ニ於テ宣言スルノ光榮ヲ有シ候若シ貴下ニ於テ右人名表ヲ我政府ニ提供セラルルニ於テハ關係官憲ニ對シ必要ナル措置ヲ執ルヘキ旨訓令可致候 敬具

千九百二十四年五月三十一日北京ニ於テ  
支那共和國外交總長 顧維鈞 (印)

在北京支那共和國駐在「ソウヴェイエト」社會主義共和國聯邦特命全權代表「エル、エム、ニラハン」殿  
「カラハン」代表發顧外交總長宛復翰

以書翰致啓上候陳者本代表ハ本日附左記貴翰ヲ受領スルノ光榮ヲ有シ候「本日貴下トノ間ニ支那共和國及「ソウヴェイエト」社會主義共和國聯邦間ノ諸問題解決ノ爲ノ大綱ニ關スル協定ニ署名ヲ了シタルニ付支那共和國政府ハ支那國ノ軍隊及警察隊ニ現ニ使用セラルル一切ノ前露西亞帝國ノ臣民ハ其ノ存在又ハ活動ニ依リ「ソウヴェイエト」社會主義共和國聯邦



邦ノ安全ニ對スル脅威ト爲ルヲ以テ支那共和國及「ソウヴェト」社會主義共和國聯邦間ノ友誼ノ爲ニ之カ使用ヲ繼續セサルヘキコトヲ本官ハ茲ニ本國政府ノ名ニ於テ宣言スルノ光榮ヲ有シ候若シ貴下ニ於テ右人名表ヲ我政府ニ提供セラルルニ於テハ關係官憲ニ對シ必要ナル措置ヲ執ルヘキ旨訓令可致候」

本代表ハ右貴領ヲ領承シ且右ニ記載セラルル提案ニ同意スルコトヲ本國政府ノ名ニ於テ回答致候 敬具

千九百二十四年五月三十一日北京ニ於テ

「ソウヴェト」社會主義共和國聯邦  
特命全權代表

エル、エム、カラハン

支那共和國外交總長 顧 維鈞 殿

### 東支鐵道及其ノ他ニ關スル支那(奉天省)露西亞間ノ協定

千九百二十四年十月八日奉天ニ於テ訓印

「ソウヴェト」社會主義共和國聯邦政府及支那共和國自治東

三省政府ハ友好關係ヲ促進シ且兩國ノ利害ニ關スル問題ヲ整理セムコトヲ欲シ兩國間ニ協定ヲ締結スルコトニ同意シ之カ爲各其ノ全權委員ヲ任命セリ

「ソウヴェト」社會主義共和國聯邦政府  
支那共和國自治東三省政府

右全權委員ハ相互ニ其ノ全權委任狀ノ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

#### 第一條 東支鐵道

兩締約國政府ハ東支鐵道問題ヲ左ノ如ク解決スルコトニ同意ス

(一) 兩締約國ハ東支鐵道會社ハ純然タル商業的企業タルコトヲ聲明ス

締約國政府ハ東支鐵道ノ直接監理下ニアル營業ニ關スル事項ヲ除キ其ノ他一切ノ事項ニシテ司法事項、民政事項、軍政事項、警察、市制、課稅及土地(東支鐵道會社自體ノ所要土地ハ之ヲ除ク)ノ如キ支那共和國ノ中央及地方政府ノ權利ニ影響ヲ與フルモノハ支那國官憲之ヲ處理スルコトヲ聲明ス

(二) 千八百九十六年九月八日ノ東支鐵道建設及經營ニ關スル契約第十二條所定ノ期間八十年ヲ六十年ニ減シ

右期間終了シタルトキハ支那國政府ハ無償ニテ該鐵道及其ノ所屬財產ヲ取得スヘキモノトス

前記期間(即チ六十年)ヲ更ニ減少スルヤ否ヤノ問題ハ兩締約國ノ合意ニ基キ之ヲ商議スルコトヲ得

本協定署名ノ日ヨリ「ソウヴェト」社會主義共和國聯邦ハ支那國カ東支鐵道會社ヲ買戻スノ權利ヲ有スルコトニ同意ス買戻ノ時ニ兩締約國ハ東支鐵道ノ現實資金ヲ決定シ支那國ハ該鐵道ヲ正當ナル價格ヲ以テ支那國資本ニ依リ買戻スヘキモノトス

(三) 「ソウヴェト」社會主義共和國聯邦政府ハ兩締約國ノ組織スル委員會ニ於テ千九百二十四年五月三十一日北京ニ於テ署名セラレタル「ソウヴェト」社會主義共和國聯邦及支那共和國間ノ諸問題解決ノ爲ノ大綱ニ關スル協定第九條第四項ニ從ヒ東支鐵道會社ノ債務問題ヲ解決スルモノトス

(四) 兩締約國政府ハ相互ニ東支鐵道會社ノ將來ハ「ソウヴェト」社會主義共和國聯邦及支那國之ヲ決定シ一切ノ第三者ノ干渉ヲ排除スルコトニ同意ス

(五) 千八百九十六年九月八日(八月二十七日)ノ東支鐵道建設及經營ニ關スル契約ハ本協定所定ノ條件ニ從ヒ

本協定署名ノ日ヨリ四月内ニ兩締約國委員會ニ依リ完全ニ改訂セラレヘキモノトス右改訂ノ決定前ニ於テハ該契約ニ基ク兩締約國ノ權利ニシテ支那國主權ヲ侵略セサルモノハ之ヲ保持スルモノトス

(六) 東支鐵道ハ鐵道ニ關スル一切ノ事項ヲ商議決定スル爲十名ヨリ成ル理事會ヲ組織シ五名宛兩締約國ヨリ任命ス

支那國ハ支那國理事ノ内一名ヲ理事會會長ニ任命ス右理事會會長ハ理事長ノ職權ヲ行フモノトス

「ソウヴェト」社會主義共和國聯邦ハ露西亞國理事ノ内一名ヲ理事會副會長ニ任命ス右理事會副會長ハ副理事長ノ職權ヲ行フ法定數ヲ七名トシ理事會一切ノ決議ハ其ノ實施ニ先チテ六名以上ノ同意ヲ得ヘキモノトス

理事長及副理事長ハ理事會ノ事務ヲ共同シテ處理シ且理事會ノ一切ノ文書ニ共同シテ署名ス

理事長又ハ副理事長ノ何レカ一方カ闕缺セル場合ニハ當該國政府ハ理事長又ハ副理事長ノ職權ヲ行フヘキ他ノ理事(理事長ノ場合ニハ一名ノ支那國理事、副理事長ノ場合ニハ一名ノ露西亞國理事)ヲ任命スルコトヲ得



(七) 東支鐵道ハ五名ヨリ成ル監事會ヲ組織ス即チ三名ハ「ソウヰエト」社會主義共和國聯邦之ヲ任命シ二名ハ支那國之ヲ任命ス

監事會會長ハ支那國監事會中ヨリ之ヲ選任ス

(八) 東支鐵道ハ「ソウヰエト」社會主義共和國聯邦國民タル一名ノ支配人ヲ置キ且二名ノ副支配人ヲ置クヘシ右二名ノ副支配人中一名ハ「ソウヰエト」社會主義共和國聯邦國民タルヘク他ノ一名ハ支那共和國國民タルヘシ

右役員ハ理事會ニ依リ任命セラルヘク且右任命ハ各自國政府ニ依リ確認セラルヘシ

支配人及副支配人ノ職權及職務ハ理事會ニ依リ定メラルヘシ

(九) 東支鐵道ノ各部ノ部長及副部长ハ理事會ニ依リ任命セラルヘシ

部長カ「ソウヰエト」社會主義共和國聯邦國民タル場合ニハ副部长ハ支那共和國國民タルヘク又部長カ支那共和國國民タル場合ニハ副部长ハ「ソウヰエト」社會主義共和國聯邦國民タルヘシ

(十) 東支鐵道各部ニ於ケル職員ノ任用ハ「ソウヰエト」

社會主義共和國聯邦國民及支那共和國國民間ニ於ケル均等代表ノ原則ニ從フヘシ

(注意書) 均等代表ノ原則ヲ實行スルニ付正規的生活及鐵道ノ運輸ヲ如何ナル場合ニ於テモ妨止シ又ハ侵害セサルモノトス即チ兩國國籍ヲ有スル人民ノ任用ハ志願者ノ經驗、情人的條件及能力ニ從フヘキモノトス

(十一) 本協定第一條第十二項所定ノ見積及豫算ヲ除キ其ノ他ノ一切ノ事項ニシテ理事會カ之ニ關シ一致スルニ至ラサルモノハ正當且和平ナル解決ノ爲之ヲ締約國政府ニ付託スヘシ

(十二) 理事會ハ東支鐵道ノ見積及豫算ヲ審議及承認ヲ求ムル爲理事會及監事會ノ共同會議ニ提出スヘシ

(十三) 東支鐵道ノ全純益ハ理事會ニ依リ保管セラレ且兩國國間ニ於テ其ノ分配問題カ共同委員會ニ於テ最終的ニ決定セラルル迄ハ之ヲ使用セサルモノトス

(十四) 理事會ハ千八百九十六年十二月四日露西亞帝政政府ニ依リ承認セラレタル東支鐵道會社ノ定款ヲ本協定ニ從ヒ且理事會構成ノ日ヨリ四月内ニ成ルヘク速カニ改正スヘシ

前記定款ハ其ノ改正ニ至ル迄ハ本協定ニ抵觸セス且支

那共和國ノ主權ヲ侵害セサル限リ引續キ遵守セラルヘシ

(十五) 東支鐵道會社ノ支那國買戻條件カ兩締約國ニ依リ決定セラルル時又ハ該鐵道カ本協定第一條第二項所定ノ期間終了シテ支那國ニ復歸スル時直ニ該鐵道ニ關スル本協定ノ一切ノ部分ハ效力ヲ失フヘシ

第二條 航行

兩締約國ハ平等主義、相互主義及相互主權ノ尊重ニ基キ河川、湖水及其ノ他ノ水域ニシテ兩國國境ニ共通ノ部分ニ於ケル一切ノ種類ノ兩國船舶ノ航行ニ關スル問題ヲ解決スルコトヲ約ス該問題ノ詳細事項ハ本協定ノ署名ノ日ヨリ二月内ニ兩締約國ノ委員會ニ於テ之ヲ決定ス

哈爾濱ニ至ル迄(哈爾濱ヲ包含ス)ノ松花江上ニ於ケル「ソウヰエト」社會主義共和國聯邦ノ貨物及旅客ニ關スル

莫大ナル利益及海洋ニ至ル迄ノ下黑龍江上ニ於ケル支那國ノ貨物ニ關スル莫大ナル利益ニ鑑ミ兩締約國ハ平等主義及相互主義ニ基キ右利益ヲ前記委員會ニ於テ確保スルノ問題ヲ審議スルコトヲ約ス

第三條 境界

兩締約國政府ハ兩國ノ組織スル委員會ニ依リ其ノ境界ヲ

東支鐵道及其ノ他ニ關スル支那(奉天省)露西亞間ノ協定

更メテ劃定スルコトヲ約ス右劃定ニ至ル迄ハ現在ノ境界ヲ維持スルモノトス

第四條 稅率及通商取極

兩締約國政府ハ兩國ノ組織スル委員會ニ於テ平等主義及相互主義ニ基キ關稅率表ヲ作成シ且通商條約ヲ締結スルコトヲ約ス

第五條 宣傳

兩締約國政府ハ各自國領土内ニ於テ暴行ニ依リ何レカ一方ノ締約國政府ニ對シ抗爭スルコトヲ目的トスル一切ノ團體又ハ集團ノ存在及(又ハ)活動ヲ許容セサルヘキヲ相互ニ約諾ス又兩締約國政府ハ何レカ一方ノ締約國ノ政治的及社會的の制度ニ反對スル宣傳ニ關與セサルヘキヲ相互ニ約諾ス

第六條 委員會

本協定諸條項中ニ定ムル委員會ハ本協定署名ノ日ヨリ一月内ニ其ノ行動ヲ開始シ六月内ニ成ルヘク速カニ終了スヘシ右ハ本協定各條項中特ニ期間ヲ定メタル委員會ニハ適用セラレサルモノトス

第七條

本協定ハ署名ノ日ヨリ效力ヲ生スヘシ



右證據トシテ各全權委員ハ露西亞語、支那語及英吉利語ニ依ル本協定ニ通ニ署名調印セリ  
異議ノ生シタル場合ニハ英吉利語ノ本文ニ據ルモノトス  
千九百二十四年即チ支那共和國第十三年本日奉天市ニ於テ作成ス

テ保有スル權利竝ニ利益ハ何等ノ影響ヲ受クルモノニ非ル  
コトヲ明カニ留保スヘキ旨帝國政府ノ訓令ニ接シ候ニ付茲ニ  
貴國政府ニ對シ右留保ヲ聲明致度此段照會得貴意候 敬具

大正十三年六月七日

日本帝國特命全權公使 芳澤 謙吉

支那共和國外交總長 顧 維 鈞 殿

【參考】

東支鐵道ニ關聯シテ日本國政府

及臣民ノ有スル權利竝ニ利益留

保ニ關スル日本國政府ノ對支聲

明

在支公使往翰

(一九二四年(大正十三年)六月七日)

第六三號

以書翰致啓上候陳者過般貴國政府ト「ソウヴェエツト」社會主義聯合國政府トノ間ニ締結セラレタル協約中東支鐵道ニ關スル條項竝ニ右協約ニ基キ同鐵道ニ關シ今後兩政府間ニ行ハルヘキ協定事項ニ依リ帝國政府及臣民カ同鐵道ニ關聯シ

第七七號

以書翰致啓上候陳者本月七日附書函ヲ以テ露支協定ノ成立ニ關聯シ東支鐵道ニ對スル帝國政府及臣民ノ既得權利及利益ニ就キ留保聲明スル所アリタルニ對シ本月十六日附書函ヲ以テ御照覆ノ次第致問悉候然ルニ御來示ニ依レハ今次露支兩國ノ處理セムトスル處ハ只兩國ニ關係ヲ有スル東支鐵道問題ノミニシテ即チ兩國ノ當然有スヘキ權利ナリ從テ日本ノ留保ヲ承認シ難シトコトニ有之候得共元來帝國政府ノ聲明ハ露支兩國間ノ協定事項ニ據リ帝國政府及臣民カ東支鐵道ニ關聯シテ保有スル權利及利益ハ何等ノ影響ヲ受ク

ルモノニ非サルコトヲ留保セルモノニ外ナラス右ハ特ニ聲明ヲ俟ツ迄モ無ク當然且自明ノ事柄ニ有之只偏ニ將來無用ナル國際紛議ノ釀成ヲ防止セムカ爲此ノ際貴國政府ノ注意ヲ邀ヘタル次第ニ外ナラス候ニ付左様御諒承相成度此段重ネテ得貴意候 敬具

大正十三年六月二十一日

日本帝國臨時代理公使 太田 爲吉

支那共和國外交總長 顧 維 鈞 殿

(備考)日本國政府ハ千九百二十四年(大正十三年)六月七日露國政府ニ對シ對支聲明ト同様趣旨ノ聲明ヲ發セルカ本文ト重複ニ付省略ス



### (第四) 佛蘭西國、支那國間ノ條約

## 修好通商航海條約

(黃埔條約)

千八百四十四年十月二十四日

黃埔ニ於テ調印

千八百四十五年八月二十五日

澳門ニ於テ批准書交換

佛國及清國間ニ於ケル通商航海關係ハ久シキ以前ヨリ設立セラレタルニ因リ佛蘭西國皇帝陛下及清國皇帝陛下ハ其存存ヲ確立シ其發展ヲ保護シ且其存續ヲ永久ナラシムルコトヲ適當ト思料シタリ依リテ兩國皇帝陛下ハ兩國共同利益ノ利害ニ基キ修好通商航海條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲左ノ如ク其全權委員ヲ任命セリ

(兩國全權委員氏名省略)

右全權ハ相互ニ全權委任狀ヲ示シ其良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條 佛蘭西國皇帝陛下ヲ一方トシ清國皇帝陛下ヲ他ノ

一方トシ並兩國國民及臣民間ニ人及場所ノ例外ナク恒久ノ平和及永久ノ修好ヲ存スヘシ何人モ兩締約國相互ノ版圖内ニ於テ其身體及財產ニ對シ充分ニシテ完全ナル保護ヲ享有スヘシ

第二條 爾後佛國人及其家族ハ廣東、厦門、福州、寧波及上海ノ港及地點ニ於テ何等ノ障礙及制限ナク完全ナル保障ノ下ニ旅行、居住及商業ノ經營ヲ爲スコトヲ許容セラレヘシ佛國船舶ハ該港ニ於テ自由ニ貿易ヲ爲シ滞在シ且其便宜ニ隨ヒ各港間ヲ來往スルコトヲ得但シ清國內ノ他ノ港ニ入港シ商業取引ヲ營ミ並其海岸ニ於テ隱密ニ賣買ヲ行フコトハ明白ニ禁止セラルモノトス本條約ニ違背スルトキハ第三十條ニ定ムル例外ノ場合ヲ除キ當該船舶ノ載貨ハ清國政府ノ利益ノ爲ニ沒收セラルヘシ但シ清國政府ハ捕獲ヲ行ヒタル直後法律ニ依リ沒收ヲ宣告スル以前ニ於テ最モ近クニ在ル佛國領事館ニ對シ該沒收ニ關スル通告ヲ爲スコトヲ要ス

第三條 前記五港ニ於テ佛國人ニ屬スル一切ノ財產ハ清國

人ニ依リ不可侵ト看做サレ且常ニ尊重セラルヘキモノトス清國官憲ハ如何ナル場合ニ於テモ佛國船舶ヲ扣留シ又公私ノ如何ヲ問ハス徵發スルコトヲ得サルモノトス

第四條 佛國皇帝陛下ハ清國官憲及佛國商人間ニ於ケル媒介ヲ爲サシメ且定メラレタル規則ノ嚴格ナル遵守ヲ監督セシムルカ爲前記各港ニ駐在スル領事若ハ領事代理ヲ任命スルコトヲ得ヘシ之等ノ官吏ハ相當ノ注意及尊敬ヲ以テ待遇セラルヘク其駐在地ノ上級官憲トノ公ノ關係及通信ハ最モ完全ナル平等ノ原則ニ基キテ設立セラルヘキモノトス若シ該官憲ノ手續ニ就キ告訴スルトキハ直接五港ノ長官若ハ之ナキトキハ地方上級官吏ニ之ヲ爲スヘシ之等ノ上級官吏ハ告訴ヲ精密ニ審査シ必要アル場合ニハ裁判ヲ行フヘシ領事若ハ領事代理ナキトキハ佛國人タル船長及商人ハ友邦ノ領事ノ仲介ニ依ルカ其不可能ナルトキハ直接稅關長ニ申告スルノ權能ヲ有ス稅關長ハ該船長若ハ商人ニ對シ本條約ノ一切ノ利益ヲ保障スルノ方法ヲ講スルコトニ注意スヘシ

第五條 商船乘組員間ノ秩序及規律ヲ維持シ且領事ノ權限ノ實施ヲ容易ナラシムルカ爲佛國皇帝陛下ハ該各五港ニ軍艦ヲ碇泊セシムルコトヲ得該軍艦ノ存在カ如何ナル不

修好通商航海條約(黃埔條約)

都合ヲモ惹起セサルカ爲ニ必要ナル處置ヲ執ルヘシ而シテ其指揮官ハ陸地トノ交通及船員警察ニ關スル第二十三條ノ規定ヲ實施セシムル命令ヲ受領スヘシ又佛國軍艦カ如何ナル税金ヲ賦課セラレサルヘキコト勿論ナリトス第六條 五港ニ於テ佛國商業ニ關シ豫收スル輸出入稅ニ付テハ各全權ノ署名調印セル本條約附屬稅率ヲ適用スヘシ佛國人ハ將來稅金ヲ増額スルコトヲ明白ニ禁止セラレ且如何ナル課金若ハ附加稅ヲ増收スルコトヲ得サルモノ右税金ヲ支拂ヒタル上佛國及外國ノ港ヨリ本條約署名ノ日及附屬稅率表分類ノ後明白ナル禁止若ハ特別ノ專賣ノ目的物ヲラサル一切ノ商品ヲ自由ニ清國ニ輸入シ且之ヲ一切ノ仕向地ニ對シテ輸出スルコトヲ得清國政府ハ將來禁制品若ハ專賣品タルヘキ物品ノ種類ヲ增加スル權能ヲ弛業シタルニ因リ今後該稅率表ニ對シテハ豫メ佛國政府ト協議ヲ遂ケ其充分ニシテ完全ナル同意ヲ得ルニテアサレハ如何ナル修正ヲモ加フルコトヲ得サルモノトス稅率表並現行諸條約中ニ挿入セラレ又ハ挿入セラルヘキ一切ノ約定若ハ今後締結セラルヘキ一切ノ約定ニ關シ商人及一般ニ清國ニ在ル凡テノ佛國人ハ時ト所トヲ問ハス最惠國國民ノ待遇ヲ受クル權利ヲ當ニ正當ニ有スヘキモノトス



第七條 凡テノ佛國商品ハ五港ノ一ニ於テ稅率表ニ從ヒ海關稅ヲ支拂ヒタル後將來如何ナル場合ニモ增加セラレザル現行低減稅率ニ依リ通過稅ヲ支拂フノ外如何ナル他ノ附課金ヲ課セラレシテ清國商人ニ依リ國內ニ搬入セラルヘシ若シ清國稅關ノ吏員カ本條及前條ノ規定ニ反シテ不法ノ徵收ヲ爲シ若ハ多額ノ稅金ヲ豫收セルトキハ中國法律ニ依リテ處罰セラルヘキモノトス

第八條 適當ナル正規ノ稅率表ノ公布ニ依リ今後密輸入ニ關スル一切ノ口實ヲ除去セルニ依リ此種ノ如何ナル行爲ト雖モ五港ニ於テ佛國商船カ實行シタルモノト推定スヘキニアラス然ラサル場合ニハ佛國商人ニ依リ前記諸港ノ一ニ密輸入セラレタル一切ノ商品ハ其價格及性質ノ如何ヲ問ハズ不正ニ陸揚セラレタル一切ノ禁制貨物ト同様該地方官憲之ヲ捕獲シ且清國政府ノ利益ノ爲ニ沒收スヘキモノトス又清國政府ニ於テ適宜ナリト思惟セルトキハ違背アリトセラルル船船ノ清國入國ヲ禁止シ且其嫌疑アルトキハ直ニ出航ヲ抑制スルコトヲ得若シ外國船船カ不法ニ佛國國旗ヲ掲揚スルトキハ佛國政府ハ其濫用ヲ禁遏スルカ爲必要ナル措置ヲ執ルコトヲ得ヘシ

第九條 從來廣東ニ於テ「行」商人ノ名ヲ以テ知ラレタル特

權組合ハ法律上解散セラレタルヲ以テ佛國人ハ五港ニ於テ今後階級ノ區別ナク何人ノ干渉ヲ受クルコトナク其欲スルトコロノ清國臣民ト一切ノ輸出入商品ノ賣買ヲ自由ニ營ムコトヲ得ヘシ今後他ノ如何ナル特權組合モ設置セラレサルヘク如何ナル同盟モ商業ニ關シ專賣ノ實施ヲ目的トシテ組織セラルルコトナカルヘシ本條約ニ違背スルモノアルトキハ清國官憲ハ佛國領事若ハ領事代理ノ代表ニ依リ該組合ヲ解散スヘキ方法ヲ考慮シ且自由競争ヲ阻害スヘキ一切ノ事實ヲ除去スルカ爲豫メ禁令ヲ以テ其存在ノ防止ニ努ムヘキモノトス

第十條 若シ將來清國人カ佛國人タル船長若ハ商人ノ債務者トナリ欺妄若ハ其他一切ノ方法ニ依リ損害ヲ加ヘタルトキハ佛國人タル船長若ハ商人ハ事物ノ舊狀ヨリ生スル連帶責任ヲ主張スルコトヲ得唯其領事ヲ介シテ地方官憲ニ訴フルコトヲ得ヘシ地方官憲ハ事件ヲ審理シタル後國法ニ從ヒ被告ヲ強制シテ其契約ヲ履行セシムルコトニ付疎漏ナルカヘシ然レトモ債務者知レサルカ死亡セルカ若ハ破産シテ支拂フヘキモノナキトキハ佛國商人ハ清國官憲ヲシテ保障セシムルコトヲ得サルモノトス佛國商人ノ側ニ於テ欺妄若ハ不拂アルトキハ佛國領事ハ前段同様

ノ方法ニ依リ請求者ニ協力スヘシ但シ佛國領事及佛國政府ハ如何ナル方法ニ於テモ之カ責任ヲ負フコトナシ

第十一條 佛國船船カ五開港場ノ一ノ水域ニ到レルトキハ直ニ港内ニ入ルカ爲其欲スルトコロノ水先案内人ト契約ヲ爲スノ權能ヲ有ス而シテ一切ノ法定課金ヲ支拂ヒタル後出航セムトスルトキ運滯ナク出港スルカ爲同様ニ水先案内人ノ使用ヲ拒否シ得サルモノトス凡テ佛國船船ノ爲ニ水先案内ノ職業ヲ營ムトスルモノハ船長ノ證明書三種ヲ提出シタル上佛國領事ニ依リ他國民ニ對シテ實施スルト同様ノ方法ヲ以テ指定セラルヘキモノトス水先案内人ニ支拂フヘキ報酬ハ公平ノ原則ニ基キ各港各別ニ佛國領事若ハ領事代理ニ於テ航行ノ距離及航行ノ狀態ニ依リ之ヲ適當ニ定ムヘシ

第十二條 水先案内人カ佛國商船ヲ港内ニ導入シタル後稅關長ハ船船ヲ監視シ密輸入ノ實施ヲ防止スルカ爲一名又ハ二名ノ稅關吏員ヲ派遣スヘシ該吏員ハ其便宜ニ依リ各自船船内ニ留ルコトヲ得若ハ佛國船船ニ搭乘スルコトヲ得該吏員ノ給料、食料及手當ハ清國稅關ノ負擔トシ船長若ハ荷受人ニ對シ如何ナル賠償若ハ報酬ヲモ請求スルコトヲ得サルモノトス之等ノ規定ニ對スル一切ノ違背ハ收

得額ニ應シテ處罰セラルヘシ該收得額ハ全部返還セラルヘキモノトス

第十三條 佛國商船カ五港ノ一ニ到着セル後二十四時間内ニ相當ノ陸揚ナキトキハ船長、船長ナキトキハ事務長若ハ荷受人ニ於テ佛國西國領事館ニ赴キ領事ニ對シ船舶書類、船荷證券及積荷表ヲ手交スヘシ更ニ二十四時間内ニ佛國領事ハ稅關長ニ對シ船舶ノ名、乘組員ノ職務、船舶ノ登簿噸數及載貨ノ性質ヲ記載セル細目書ヲ送付スヘシ若シ船長ノ怠慢ニ依リ船舶到着後四十八時間内ニ前記ノ手續ヲ履行セサルトキ船長ハ清國政府ノ利益ノ爲ニ運滯一日ニ付五十「ピアストル」ノ罰金ヲ科セラルヘキモノトス但シ該罰金ハ二百「ピアストル」ヲ越スルコトヲ得ス稅關長ハ領事館ヨリ手交セラルル細目書受領後直ニ船船ヲ開タヘキ許可證ヲ下付スヘシ若シ船長カ前記許可證受領以前ニ其船船ヲ開キ且載貨陸揚ヲ開始シタルトキハ五百「ピアストル」ノ罰金ヲ課セラレ且陸揚セラレタル商品ハ全部清國政府ノ利益ノ爲ニ抑留セラルヘキモノトス

第十四條 清國ノ港ニ入レル凡テノ佛國船船カ第十六條ニ定ムル陸揚許可證ヲ受ケサルトキハ其到着後二日以内ニ噸稅、海關稅ヲ支拂フコトヲ該港ヲ去リ他ノ港ニ赴ク



コトヲ得該諸稅ハ該佛國船舶力爾後其商品ノ賣買ヲ行フ  
ヘキ港ニ於テ之ヲ支拂フヘキモノトス

第十五條 前記二日ノ期間經過セル後載貨陸揚ニ着手スル  
以前各佛國商船ハ次ニ定ムルトコロニ依リ噸稅全部ヲ支  
拂フヘキモノトス百五十噸及其以上ノ法定噸數ヲ有スル  
船舶ハ一噸ニ付五「マリス」(二分ノ一兩)、百五十噸以下  
ノ船舶ハ一噸ニ付一「マリス」(十分ノ一兩)ノ割合ニ依ル  
從來着航發航ノ際賦課セラレタル一切ノ報酬及附加課金  
ハ明白ニ之ヲ廢止シ他ノ如何ナルモノヲ以テシテモ之ニ  
代フルコトヲ許サス

前記税金支拂ニ際シ稅關長ハ船長若ハ荷受人ニ對シ噸稅  
全部ノ支拂ヲ立證スル證明書ノ形式ヲ有スル受領證ヲ下  
付スヘシ爾後佛國船舶ノ寄航スル他ノ五港ノ稅關長ニ對  
シ該證明書ヲ提示スルトキ船長ハ其船舶ニ關シ更ニ噸稅  
ヲ支拂フコトヲ免セラル凡テ佛國船舶ハ外國ヨリ清國ニ  
向フ各航海ニ於テ唯一回課稅セララルモノトス甲板ノ有  
無ヲ問ハス舢舨、二桅船、沿岸航海船及其他佛國船舶ニ  
シテ船客、行李、文書、燃料及一般ニ課稅品ナラサル一  
切ノ物件ノ輸送ニ使用セララルモノハ噸稅ヲ免除セララル  
若シ該船舶力以上ノ物件ノ外商品ヲ輸送スルトキハ百五十

噸以下ノ船舶ノ種別ニ入り一噸十分ノ一兩(一「マリス」)  
ノ割合ニテ税金ヲ支拂フヘキモノトス佛國商人ハ當ニ  
「ジャンク」船及其他ノ清國船舶ヲ賃借スルコトヲ得之等  
船舶ハ噸稅ヲ課セラルルコトナシ

第十六條 佛國商人カ積込又ハ陸揚ヲ爲スヘキ商品ヲ有ス  
ル一切ノ場合ニ於テハ先ツ佛國領事若ハ領事代理ニ對シ  
該商品ニ對スル細目書ヲ手交スヘシ佛國領事若ハ領事代  
理ハ領事館ニ於テ認定セル通事ヲシテ稅關長ニ對シ該商  
品ニ關スル通告ヲ爲サシムヘシ稅關長ハ直ニ積込若ハ陸  
揚ノ許可證ヲ下付スヘシ稅關長ハ締約國ニ損害ヲ發生セ  
サラシムルカ爲適當ナル形態ニ在ル商品ノ檢査ニ着手ス  
ヘシ

佛國商人ハ檢査ノ場所ニ立會スルコトヲ要ス(自ラ立會  
スルコトヲ欲セサルトキハ)税金支拂ノ爲ノ檢査ニ着手  
スル際其利益ヲ監視スルカ爲必要ナル凡テノ資格ヲ有ス  
ルモノヲシテ代理セシムヘシ然ラサルトキハ爾後一切ノ  
請求ハ之ヲ無効トス  
從價課稅商品ニ關シテ當該商人カ其價格決定ニ付清國吏  
員ト協定ヲ遂クルコト能ハサルトキハ雙方ニ於テ該商品  
ノ檢査ヲ爲スヘキ二名又ハ三名ノ商人ヲ指名スヘシ而シ

テ之等商人ノ評價格中最高ノモノヲ以テ當該商品ノ眞實  
ノ價格ヲ構成スルモノトス

租稅ノ賦課ハ正味ニ依ル故ニ包裝及外包ノ重量ハ之ヲ控  
除スヘシ若シ佛國商人カ稅額決定ニ關シ清國吏員ト協定  
ヲ遂クルコト能ハサルトキハ雙方ニ於テ緊争物件タル荷  
物ノ中ヨリ若干ノ箱及捆ヲ選出シ先ツ總重量ヲ量リ次テ  
之ニ課稅シ量計荷捆ノ平均稅額ヲ以テ爾他一切ノ稅額ト  
ナスヘシ若シ檢査中何等カノ困難起リテ解決スルコト能  
ハサルトキ佛國商人ハ領事ノ介入ヲ請求スルコトヲ得領  
事ハ直ニ緊争物件ヲ稅關長ニ了知セシメ兩人ニ於テ之ニ  
關シ協定ヲ遂クルコトニ努ムヘシ但シ該請求ハ二十四時  
間内ニ爲スニアラサレハ爾後之ヲ爲スコトヲ得サルモノ  
トス紛議ノ審判繼續セル間稅關長ハ當該物件ヲ登簿スル  
コトナク以テ紛議ノ審理及解決ニ對スル一切ノ自由ヲ留  
保スヘシ輸入商品ニシテ損害ヲ蒙リタルモノハ其減價ニ  
比例シテ税金ノ減額ヲ受クヘシ損害ニ依ル減價ハ從價稅  
決定ニ付定メタルトコロト等シク公平ニ且必要アルトキ  
ハ辯駁鑒定書ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス

第十七條 凡テ佛國船舶ニシテ五港ノ一ニ入り其商品ノ一  
部ノミヲ陸揚スルモノハ陸揚シタル商品ニ付キテノミ海

關稅ヲ支拂フヘシ其商品殘部ハ之ヲ他港ニ輸送シテ販賣  
スルコトヲ得ルモノトス此場合ニハ關稅ヲ支拂フヘシ佛  
國人カ一港ニ於テ商品ニ關スル關稅ヲ支拂ヒタル後之ヲ  
再輸出シ他港ニ赴キテ販賣セムトスルトキハ佛國領事若  
ハ領事代理ニ之ヲ豫告スヘシ佛國領事若ハ領事代理ハ之  
ヲ稅關長ニ通告シ稅關長ハ商品ノ性質及包裝ノ完備ヲ確  
認シタル上請求者ニ對シ該商品ニ關スル關稅カ現ニ支拂  
ハレタルコトヲ立證スル證明書ヲ下付スヘシ佛國商人カ  
該證明書ヲ携ヘテ他港ニ到レルトキハ佛國領事ノ仲介ヲ  
以テ稅關長ニ之ヲ提示シ稅關長ハ當該載貨ニ關シ遲滞ナ  
ク無價ニテ免稅陸揚許可證ヲ下付スヘシ然レトモ若シ相  
當官憲ニ於テ該再輸出商品ノ中ニ密輸入品若ハ輸入禁制  
品アルコトヲ發見シタルトキハ檢證ノ後清國政府ノ利益  
ノ爲ニ沒收セララルヘキモノトス

第十八條 輸入稅ハ商品陸揚ニ關ヒ且其檢證ノ後佛國船長  
若ハ佛國商人ニ於テ之ヲ支拂フヘキコトヲ協定ス積込ノ  
際ニ於ケル輸出稅ニ關シテ亦同シ佛國船舶ノ負擔スヘキ  
噸稅及海關稅カ全部支拂ハレタルトキハ稅關長ハ受領證  
ヲ下付スヘシ佛國領事ニ於テ該受領證ノ提示ヲ受ケタル  
トキハ船長ニ對シテ船舶書類ヲ交付シ且其出航ヲ許可ス



ヘシ税關長ハ一又ハ數多ノ交換所ヲ指定シ清國政府ノ定ムルトコロニ依リ佛國商人ノ負擔スル金額ヲ受領セシムヘシ而シテ該交換所吏員ノ領收スル一切ノ支拂ハ清國政府之ヲ受領シタルモノト看做ス該支拂ハ地金若ハ外國貨幣ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ヘク其銀價トノ比率ハ時、所及事情ニ從ヒ各港ニ於テ佛國領事若ハ佛國領事代理ト税關長トノ協定ニ依リ決定セラルヘキモノトス

第十九條 各五港ニ於テ税關長ハ自ラ商品及貨幣並廣東税關ニ於テ使用スル度量衡ニ適合シ且其適合ヲ證明スル印章ヲ具有スル度量衡ニ關シ法定比率表ヲ受領シ之ヲ佛國領事館ニ寄託スヘシ該比率表ハ清國政府ニ對シテ爲スヘキ税金課金ノ決濟其他一切ノ支拂ノ基準トナルヘキモノトス度量衡ニ關シテ爭アルトキ亦之ニ依リ其結果ニ從ヒテ決定スヘキモノトス

第二十條 緊急ナル場合ヲ除キ特別許可證ナクシテハ如何ナル商品ノ積換モ之ヲ行フコトヲ得ス積換ヲ爲ササルヘカラサル場合ニハ先ツ之ヲ佛國領事ニ照會シ領事ハ之ニ證明書ヲ下付スヘシ税關長ハ該許可書ヲ閱了シタル上其積換ヲ許可スヘシ税關長ハ何時ニ於テモ積換ニ立會セシムルカ爲税關吏員ヲ派遣スルコトヲ得一切ノ許可セラレ

ヲ食リ若ハ之ヲ強要スルコトヲ防止シ佛國領事ハ佛國人カ所有者ノ同意ヲ強要スルカ爲暴力又ハ強制ヲ用ヒサルヘキコトヲ監視スヘシ五港ニ於テ佛國人ニ許與セラルヘキ家屋ノ數及土地ノ面積ハ制限セラルルコトナク權利者ノ必要及便宜ニ依リテ定メラルヘキコトヲ約定ス清國人カ佛國人ノ教會堂若ハ墓地ヲ破壞シタルトキハ當該犯罪人ハ國法ニ從ヒテ嚴罰ニ處セラルヘキモノトス

第二十三條 五港ニ滞在シ若ハ通過スル佛國人ハ五港附近ノ地方ヲ巡行シ清國國民ト同様自由ニ其職業ヲ營ムコトヲ得ヘシ但シ該佛國人ハ佛國領事及地方官憲ノ協定ニ依リ定メラルヘキ一定ノ範圍ノ地域ヲ出ツルコトヲ得ス且如何ナル口實ヲ以テシテモ其地域範圍外ニ於テ商業ヲ營ムコトヲ得サルモノトス該地域ノ限界ハ各五港ニ投錨スル佛國船舶乘組員亦之ヲ尊重スヘシ水夫カ上陸スルトキハ佛國船舶及地方人民間ニ爭鬭ヲ生スヘキ一切ノ機會ヲ出來得ル限リ防止スルカ爲領事ニ於テ定メタル後地方官憲ニ通知セル特別規律ヲ適用セラルヘシ如何ナル佛國人ト雖モ本條約ノ規定ニ反シテ前記一定ノ地域外ヲ巡行シ若ハ遠ク内地ニ入ル者ハ清國官憲之ヲ逮捕シ近傍ノ港ニ於ケル佛國領事館ニ拘引スヘシ但シ兩締約國間ニ存

サル積換ヲ爲シタルトキハ危險アル場合ヲ除キ違法ニ積換ヘタル商品全部ヲ清國ノ利益ノ爲ニ沒收スヘキモノトス

第二十一條 佛國船長及佛國商人ハ載貨及旅客輸送ノ爲ニ其欲スル船舶及其他ノ船舶ヲ賃借スルコトヲ得該船舶ノ賃借料ハ清國官憲ノ介入ナク隨テ清國官憲ニ於テ該船舶ノ災害偶發若ハ滅失ノ場合何等ノ保障ヲ與フルコトナク當事者ノ意志ニ依リテ之ヲ定ムルモノトス該船舶ノ數ハ之ヲ限ラス且其獨占經營ハ何人ニ對シテモ之ヲ許與セス積込陸揚ノ商品ヲ擔夫ニ依リテ持運フモノニ付亦同シ

第二十二條 凡テ佛國人ニシテ第二條ノ規定ニ依リ五港ノ一ニ到ルモノハ其滞在期間ノ長短ヲ問ハス其商品ヲ置クカ爲家屋及店舗ヲ賃借シ又ハ土地ヲ賃借シテ自ラ家屋及店舗ヲ建設スルコトヲ得佛國人ハ同様ノ方法ニ依リ教會堂、病院、養育院、學校及墓地ヲ設置スルコトヲ得此目的ノ爲地方官憲ハ佛國領事ト協力シテ佛國人ノ在留ニ最モ適スル市街及前記建築物ヲ建設シ得ヘキ地點ヲ指定スヘシ家屋及土地ノ賃借料ハ當事者間ニ於テ自由ニ之ヲ協定スヘシ而シテ出來得ル限リ當該地方時價ノ平均ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス清國官憲ハ其國民カ適當ノ價格

スル良好ナル調和ヲ得スル虞アルヲ以テ何人ニ對シテモ又如何ナル方法ヲ以テシテモ逮捕セラレタル佛國人ヲ毆打シ、傷害シ若ハ虐待スルコトハ明白ニ之ヲ禁止ス

第二十四條 佛國人ハ五港ニ於テ自由ニ且當事者間ノ協定ニ依リ給料ヲ以テ若ハ領事ノ介入ノミニ依リ買辦、通譯、學者、職人、水夫及僕婢ヲ選定スルコトヲ得ヘシ又支那語及其他清帝國內ニ於テ使用セラルル一切ノ言語ヲ話シ若ハ書クコトヲ習得スルカ爲國內ノ支那學者ヲ雇入レ並支那學者ヲシテ其文書若ハ科學的又ハ文學的事業ノ爲助力セシムルコトヲ得佛國人ハ凡テノ清國人ニ對シ自國語若ハ外國語ヲ教授シ障礙ナク佛文ノ書籍ヲ販賣シ又ハ一切ノ支那文ノ書籍ヲ購入スルコトヲ得

第二十五條 佛國人カ清國人ニ對シテ爲スヘキ訴訟事件若ハ請求アルトキハ先ツ其請求ヲ佛國領事ニ提出スヘシ領事ハ事案ヲ審查シタル後示談ニ依リテ之ヲ解決スルニ努ムヘシ同様ニ清國人カ佛國人ニ關シテ訴訟ヲ提起スヘキトキハ佛國領事其請求ヲ聽取シ示談ニ依リテ之ヲ解決スルニ努ムヘシ但シ以上ノ何レノ場合ヲ問ハス解決不可能ナル事發發生セルトキハ佛國領事ハ清國相當官憲ノ協力ヲ要求シ雙方協同ニ事案ヲ審理シタル上衡平ノ原則ニ從



ヒテ之ヲ決裁スヘシ

第二十六條 若シ今後佛國人カ五港ノ一ニ於テ清國臣民ヨリ損害ヲ蒙リ若ハ凌辱又ハ酷遇ヲ受ケタルトキハ該清國臣民ハ地方官憲ノ訴追ヲ受ケ清國地方官憲ハ佛國人ノ防護及保護ノ爲ニ必要ナル處置ヲ執ルヘシ惡漢若ハ浮浪者ノ一隊カ佛國人ノ家屋、店舗若ハ其他佛國人ノ建設セル一切ノ建造物ヲ劫掠、破壞若ハ燒燬セムトセルトキニ於テモ清國地方官憲ハ領事ノ請求若ハ各自ノ行動ニ依リ騷亂ヲ一掃シ犯罪者ヲ逮捕シ且之ヲ嚴罰ニ處スルカ爲至急軍隊ヲ送ルヘシ但シ被害者ノ相當ナル損害賠償請求權ノ行使ヲ妨ケサルモノトス

第二十七條 若シ不幸ニシテ佛國人及清國人間ニ紛議若ハ衝突ノ起レルトキ並其際銃器又ハ其他ノ方法ニ依リ一人若ハ數人ノ死傷者ヲ出シタルトキハ清國人ハ清國官憲ニ逮捕セラレ清國官憲ハ之ヲ審理シ場合ニ依リ國法ヲ以テ之ヲ處罰スヘシ佛國人ニ付テハ領事ノ請求ニ依リテ逮捕セラレ領事ハ當該犯罪者ヲ後日佛國政府ノ決定スヘキ手續及規定ニ從ヒ佛國法律ニ依リテ正規ノ處分ニ付スルカ爲必要ナル一切ノ處置ヲ爲スヘキモノトス本條約ニ定メラレサル類似ノ一切ノ場合ニ於テモ亦同様ニ五港ニ於テ

發生スル重罪及輕罪ノ鎮壓ニ關シテハ佛國人ハ當ニ佛國法律ノ適用ヲ受クヘキモノトス

第二十八條 五港ニ於ケル佛國人間ニ生スル困難若ハ爭訟モ亦佛國裁判管轄ニ屬ス佛國人及外國人間ニ訴訟ヲ生スルトキト雖モ清國官憲カ如何ナル方法ニ依ルモ干與スヘカラサルコトヲ約定ス清國官憲ハ又佛國船舶ニ關シ如何ナル行動ヲモ執ラス佛國官憲及船長之ヲ管轄スヘキモノトス

第二十九條 凡テ佛國商船カ清國沿岸ニ於テ海賊ノ攻撃若ハ劫掠ヲ受ケタルトキハ最近地ニ於ケル文武官憲ハ當該事實ヲ知りタル後直ニ犯罪者ノ搜索ヲ開始シ犯罪者カ逮捕セラレ法律ニ依リテ處罰セララルコトニ對シ怠慢アルヘカラス場所及狀態ノ如何ヲ問ハス掠奪セラレタル商品ヲ發見シタルトキハ之ヲ佛國領事ニ手交スヘク領事ハ之ヲ權利者ニ返還スルノ責ヲ有ス犯罪者ヲ逮捕シ得サルカ盜難物件ノ全部ヲ回復スルコト能ハサルトキハ清國官吏ハ同種ノ場合ニ關シ法律ニ科スル刑罰ヲ受クヘシ但シ清國官吏ハ金銀上ノ責任ヲ負フコトナキモノトス

第三十條 凡テ佛國軍艦ニシテ商業保護ノ爲ニ巡航スルモノハ其寄港スル一切ノ清國ノ港ニ於テ友好ヲ以テ接受持

遇セララルヘキモノトス該佛國軍艦ハ清國ノ港ニ於テ其必要トスル糧備及食糧補給ノ各種物件ヲ獲得スルコトヲ得而シテ該港ニ投錨セルトキハ修理ヲ爲シ且此目的ノ爲ニ必要ナル材料品ヲ購買スルニ些少ノ障礙ヲ受クヘカラサルモノトス

佛國ノ商船カ不可抗力若ハ其他一切ノ事情ニ依リ如何ナル清國ノ港タルヲ問ハス之ニ避難セサルヘカラサル場合ニ付亦同シ

佛國商船カ沿岸ニ於テ沈没セルトキハ最近地ノ清國官憲ハ之ヲ知リタル後直ニ乗組員ヲ救助シ其緊急ナル必要ヲ充シ船舶ノ救済及商品ノ保存ノ爲緊要ナル處置ヲ爲スヘシ次テ清國官憲ハ遭難ノ場所ヨリ最近ノ地ニ在ル佛國領事又ハ領事代理ニ對シ全部ノ事情ヲ通告シ以テ相當官憲トノ協力ニ依リ乗組員ヲ歸國セシメ且船舶及載貨ノ殘留品ヲ保全スルノ手段ヲ講セシムヘシ

第三十一條 船員其他ノモノカ佛國軍艦若ハ商船ヨリ逃走若ハ脫走セルトキハ清國官憲ハ佛國領事ノ請求若ハ之ヲ缺クトキハ船長ノ請求ニ依リ當該逃走者若ハ脫走者ヲ發見シ之ヲ當該軍艦若ハ商船ニ歸還セシムルカ爲一切ノ努力ヲ爲スヘシ

同様ニ若シ清國人タル逃走者若ハ刑事被告カ佛國人ノ家屋內若ハ佛國人ニ屬スル船舶內ニ潛匿スルトキハ清國地方官憲ハ之ヲ佛國領事ニ告知シ領事ハ該被告ノ罪責ヲ實證シタル上直ニ引渡實施ノ爲必要ナル措置ヲ執ルヘシ雙方ニ於テ一切ノ潛匿若ハ隱匿ヲ禁止スルコトニ注意スヘシ

第三十二條 今後清國カ他國ト戰爭ヲ爲スニ至リタル場合ニ於テモ佛國及清國間若ハ佛國及清國ノ敵國間ノ自由ナル通商ハ阻害セラレサルモノトス佛國船舶ハ實效アル封鎖ノ場合ヲ除キ常ニ障礙ナク各港ヲ巡航シ平時ノ如ク取引ヲ爲シ禁制品ヲサル一切ノ商品ヲ輸入シ若ハ輸出スルコトヲ得ヘキモノトス

第三十三條 今後兩締約國ノ官憲及官吏間ノ公信ハ相互ノ階級及地位ニ從ヒ最モ絕對ナル相互主義ニ基キテ行ハルヘキモノトス該交信ハ省城其他ノ地點ニ於ケル佛國上級官吏及清國上級官吏間ニ於テハ照會ニ依リ、佛國屬僚及清國地方上級官憲間ニ於テハ佛國屬僚ハ申陳ニ依リ清國地方上級官憲ハ割行ニ依リ、兩國屬僚間ニ於テハ前記ノ如ク完全ナル平等ノ基準ニ依リテ行ハルヘキモノトス商人及其他一般ニ公ノ性質ヲ有セサル個人ハ相互官憲ニ



對スル照會トシテ申告若ハ通達スル一切ノ文書ニ於テ相  
互ニ稟呈ノ形式ヲ用フヘシ

凡テ佛國人カ清國官憲ニ文書ヲ提出スル場合其稟呈ハ先  
ツ之ヲ佛國領事ニ差出スヘシ領事ハ該稟呈カ理由アリ且  
其形式妥當ナリト認メタルトキハ爾後ノ手續ヲ爲シ然ラ  
サルトキハ内容ヲ訂正セシメ若ハ其送達ヲ拒絶スヘシ一  
方ニ於テ清國人カ領事ニ對シテ文書ヲ提出セムトスルト  
キハ清國官憲ニ對シテ前段同様ノ手續ヲ履行シ清國官憲  
亦前段同様ニ行動スヘシ

第三十四條 若シ今後佛國皇帝陛下ノ政府カ北京朝廷ニ信  
書ヲ送ルヘキ場合ニハ佛國領事館長ニ於テ清國對外關係  
管理ノ責ヲ有スル五港長官、之ヲ缺ク場合ニハ港所在ノ  
海岸ヲ管轄スル地方ノ副主ニ對シテ之ヲ交付シ其仲介ヲ  
經テ北京朝廷ニ送達スヘキモノトス北京朝廷ノ回答送達  
ニ關シテモ同様ノ手續ニ依ルヘキモノトス

第三十五條 佛國皇帝陛下カ本條約ノ規定ニ變更ヲ加フル  
コトヲ妥當ナリト思料シタルトキハ本條約批准交換後滿  
十二年ノ期間ヲ經タル後清國政府ニ對シテ商議ヲ開始ス  
ルコトヲ得又本條約ニ明定セラレタルモノヲ除ク外一  
切ノ義務ヘ之ヲ佛國領事若ハ領事代理並佛國民ニ課スル

コトヲ得ス一方ニ於テ清國政府ヨリ他國ニ對シテ許與セ  
ラルヘキ一切ノ權利、特權、免除及保障ハ約定シタルト  
コロニ依リ佛國人之ヲ享有スヘキモノトス

第三十六條 本修好通商航海條約ノ批准書ハ本條約署名ノ  
後一年ノ期間内若ハ出來得ル限リ速ニ佛國皇帝陛下及清  
國皇帝陛下ニ依リテ交換セララルヘキモノトス  
右證據トシテ兩國全權ハ本條約ニ署名調印ス  
千八百四十四年十一月二十四日即道光二十四年九月十三日  
在黃埔佛國海防艦「アルシメード」號上ニ於テ兩國全權署名  
調印ス

(兩國全權署名調印)

(稅率表省略)

### 修好通商航海條約

(天津條約)

千八百五十八年六月二十七日  
天津ニ於テ調印  
千八百六十年十月二十五日北  
京ニ於テ批准書交換

佛蘭西國皇帝陛下及清國皇帝陛下ハ共ニ兩帝國間ニ起レル  
紛議ヲ終結セムトスル希望ニ勵カサレ日兩國間ニ現在セル  
修好通商航海關係ヲ再設改良シ並其存在ヲ確立シ其發展ヲ  
保護シ且其期間ヲ永續セムト欲シ兩國共通ノ利害ニ基キ新  
條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲左ノ如ク其全權委員ヲ任  
命セリ

(兩國全權委員氏名省略)

右各全權ハ相互ニ全權委任狀ヲ示シ其良好妥當ナルヲ認メ  
タル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條 佛蘭西國皇帝陛下及清國皇帝陛下並兩國國民及臣  
民間ニ人及場所ノ例外ナク恒久ノ平和及永久ノ修好ヲ存  
スヘシ何人モ兩締約國相互ノ版圖内ニ在ルモノハ其身體  
及財產ニ對シ充分ニシテ完全ナル保護ヲ享有スヘシ

第二條 兩帝國間ニ於テ帝ニ回復シタル平和ヲ維持スルカ  
爲西洋諸國ニ於テ實施セル實例ニ倣ヒ兩締約國ハ事務ニ  
シテ重要外交使節ヲ要スルトキ佛蘭西國皇帝陛下ヨリ清  
國皇帝陛下ニ對シテ正當ニ信任派遣セラルル外交使節カ  
一時帝國ノ首都ニ赴クコトヲ得ヘキコトヲ約定セリ  
兩締約國ハ清國ト條約ヲ有スル一國カ其外交使節ヲ北京  
ニ常駐セシムルノ權利ヲ獲得セルトキハ佛國モ亦直ニ同

修好通商航海條約(天津條約)

一ノ權利ヲ享有スヘキコトヲ約定ス

該外交使節ハ其駐在地ニ於テ相互ニ國際法ノ許與スル特  
權及免除ヲ享有ス換言スレハ外交使節ノ一身、其家族、  
其家屋及其通信ハ之ヲ不可侵トシ又外交使節ハ必要ナル  
使用人、使者、通譯、僕婢等ヲ雇入ルルコトヲ得

佛國ヨリ清國ヘ外交使節ヲ派駐スルカ爲ニ生スル一切ノ  
出費ハ佛國政府ノ負擔トス清國皇帝陛下カ佛國皇帝陛下  
ニ對シテ信任派駐セムトスル外交使節ハ佛國ニ於テ他國  
カ佛國皇帝陛下ノ朝廷ニ對シ信任派駐スル外交使節ノ中  
同一階級ニ在ルモノノ享有スヘキ凡テノ名譽及凡テノ特  
權ヲ以テ接受セラルヘキモノトス

第三條 佛國外交使節並領事及清國官憲間ノ公信ハ佛文ヲ  
以テ書カルヘシ但シ通信ヲ便宜ナラシムルカ爲出來得ル  
限リ正確ナル支那語譯文ヲ添附スヘキモノトス清國政  
府カ佛蘭西語ヲ正確ニ書キ且話スカ爲通譯官ヲ有スルニ  
至ル迄外交上ノ公信ハ佛國吏員ニ於テハ佛蘭西語、清國  
官吏ニ於テハ支那語ヲ使用スヘキモノトス且其時ニ至ル  
迄兩國ノ協定ニ依リテ作成セル條約中譯ニ定メタル條款  
ニ付佛蘭西語及支那語ノ條文ニ解釋ノ相異ヲ生スルトキ  
ハ佛蘭西語ヲ以テ正文トスルコトヲ約定セリ該規定ハ之